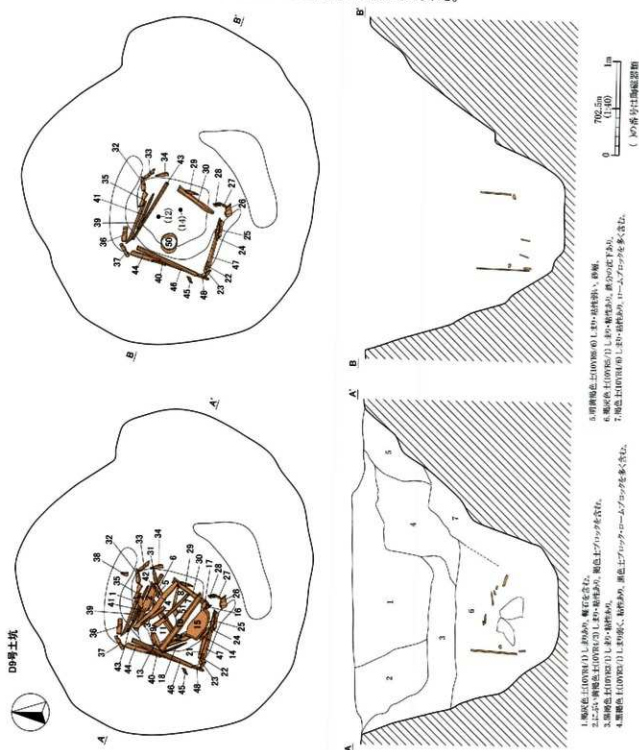
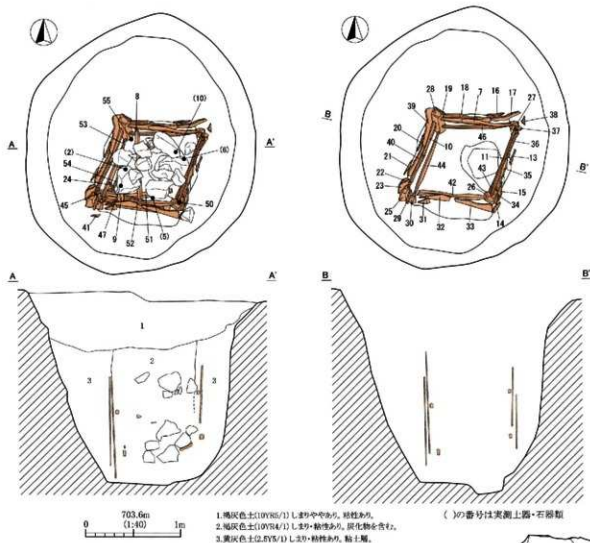


(12) D9号土坑

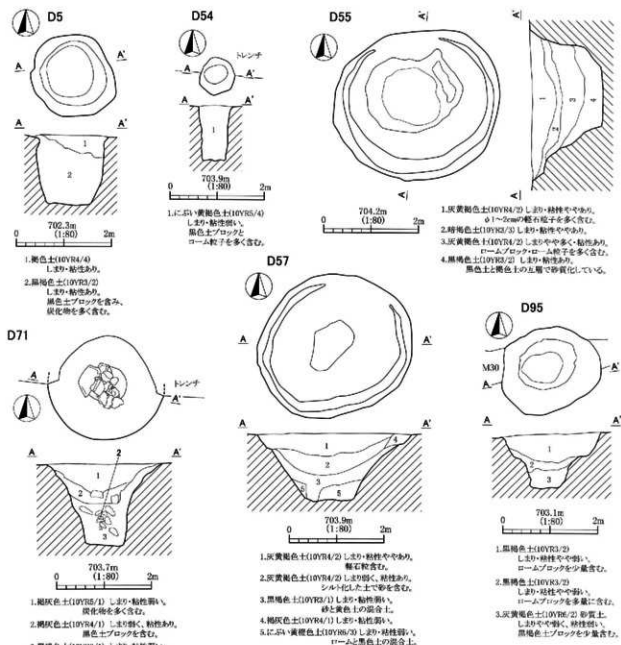
本址は調査区東側のXIX-19・20Grに位置する。形態は不整形で、規模は本遺跡の中では大型で、長軸3.48mで深さ2.18mを測る。底面はローム層まで掘り込んでいた。土坑下部からはやや崩れた状態であったが、木枠が出土し木枠に囲まれた土坑底面より曲げ物が出土した。このほかの出土遺物としては青磁の碗・皿片や東漢系の山茶碗、カワラケ等があった。これらの遺物から本址は13～14世紀代の所産と考えられる。



第92図 D9号土坑実測図



第93図 D63号土坑及び出土遺物実測図



第94図 D5・54・55・57・71・95号土坑実測図

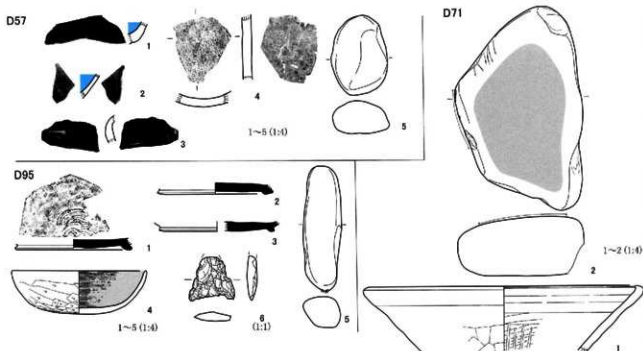
(13) D63号土坑

本址は調査区北側のX-5Grに位置する。残存状況は良好で、形態は円形である。規模は、長軸2.83m・深さ2.12mを測る。本址からは井戸の木枠が組まれた状態で出土した(写真参照)。構造は4本の杭に脚穴で組まれた2段の横木による枠で板を抑える状態で、板は長辺を縦方向に井戸に対して立てる状態で使用している。また、この木枠内からは人頭大の礫が重なるように検出され、底面のみならず中層まで詰まっていた。これらの礫は上層のものに関しては、廃絶時の投げ込みと考えられるが、底面検出の礫も乱雑さがめだつことから廃絶後の投げ込みと考えられる。

本址からの出土遺物は北関東系のすり鉢、中津川系の握ね鉢、カワラケなどがあつた。これらの遺物から本址は13~14世紀代の所産時期が考えられる。

(14) D5・54・55・57・71・95号土坑

本遺跡の井戸址は、掘り込み形態がいずれもすり鉢状の形態が多く、堅坑を深く掘り込むものはなかった。

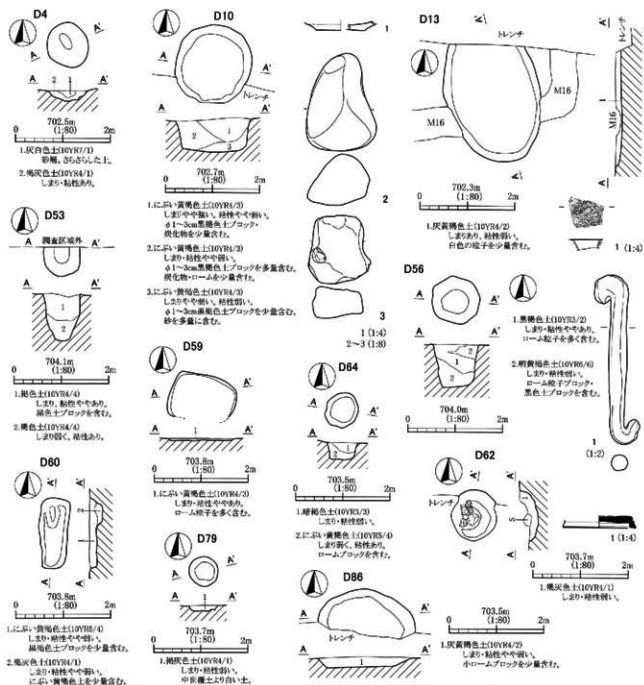


第95図 D57・71・95号土坑出土遺物実測図

第32表 D57・63・71・95号土坑出土遺物観察表

(cm)

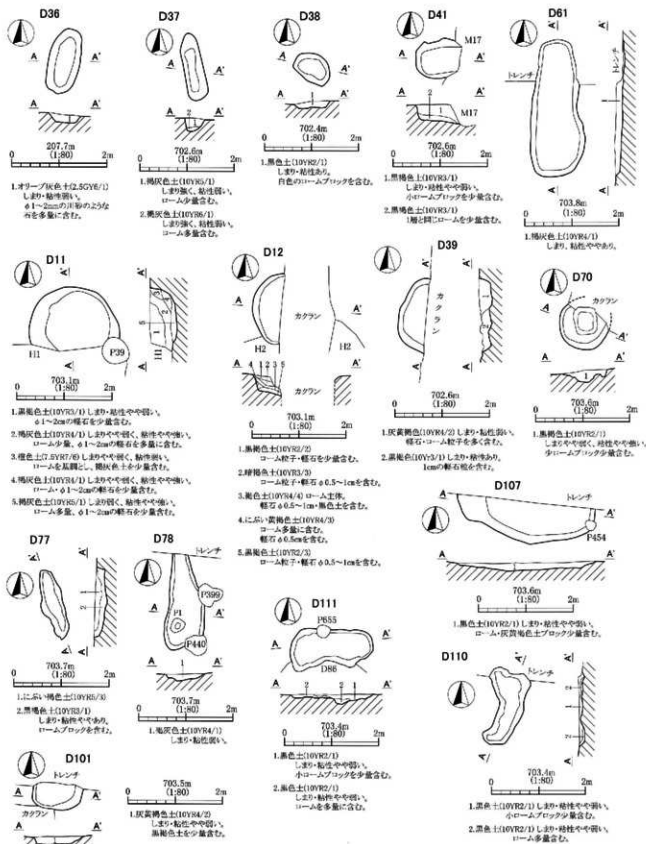
No.	種別	種類	法量			成形・器型・文様		埋定層() 埋存層() 丸磨(●)	調査・出土位置		
			口徑(長)	底径(幅)	軸長(厚)	内面	外面				
D57	1	青磁	碗	-	-	-	筋軸	筋軸	新宮実業 12C~15C平 鎌倉 5区		
	2	青磁	碗	-	-	-	短軸	短軸	新宮実業 12C後平 阿安堂 5区		
	3	陶器	器	-	-	-	ヨコナデ	自然軸付着	熊山光康 中後 実業 5区		
	4	瓦質土器	瓦	(7.0)	(5.0)	(1.7)	軸付直	ナデ	5区		
D63	1	灰黒質	磨り鉢	(28.3)	(14.6)	(12.6)	ヨコナデ→ナデ	磨鉢ヨコナデ→ナデ	完全実業 13C後平 北関東		
	2	灰黒質	磨り鉢	-	(13.6)	(3.6)	コクロナデ	コクロナデ→底筋面軸ヘラケズリ→高台貼付	昭和実業 13C後平 東濃(中津川) 外従底筋自然軸付着		
	3	土師質	ふわりけ	(6.0)	(7.0)	1.8	コクロナデ	コクロナデ→底筋面切り	昭和実業 13C 付内		
D71	1	灰黒質	磨り鉢	(39.6)	-	(7.0)	ナデ→口縁コクロナデ→磨り目 を削む	口縁コクロナデ 作跡ナデ	昭和実業		
D95	1	灰黒器	有台杯	-	(12.2)	(3.2)	コクロナデ→当て具痕あり	コクロナデ→中輪ヘラケズリ降平降ヘラケズリ→高台貼付	昭和実業		
	2	灰黒器	有台杯	-	(12.2)	(3.2)	コクロナデ	コクロナデ→底筋面切り後中輪ヘラケズリ→高台貼付	昭和実業 外面自然軸付着		
	3	灰黒器	有台杯	-	(12.2)	(3.1)	コクロナデ	コクロナデ→底筋面軸ヘラケズリ→高台貼付	昭和実業		
	4	土師器	坪	(14.2)	-	4.7	ミガキ→黒色処理	口縁ヨコナデ→ヘラケズリ	完全実業		
No.	種	質	材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所	見	出土位置	
D63	4	磁石	鹿嶋岩	(3.7)	(0.7)	(7.4)	(1220)	焼熟あり	全体に黒化 上ド→裏欠損 正面に浅い条痕	丹戸村内	
	5	磁石	輝石安山岩	8.7	6.8	3.8	312.18	正面にすり面			
	6	磁石製品	磁石	8.2	7.9	6.0	192.55	全厚にすり			
	7	台石	安山岩	14.9	13.8	5.3	2040.00	焼熟あり	正面以外黒化 正面に條痕		
	8	磁物石?	黒色輝石安山岩	(9.5)	(4.8)	(2.5)	(136.47)	下部欠損		丹戸村内	
	9	磁物石?	硬質砂岩	11.3	4.1	3.3	173.38	右側は狭り込み		丹戸村内	
	10	磁物石?	粒状砂岩	9.1	5.2	3.0	207.00	右側は狭り込み			
	11	原石	チャート	2.4	2.0	0.8	3.48				
	D67	5	?	安山岩	8.6	6.0	3.5	250.67			5区
	D71	2	磨り鉢	輝石安山岩	21.6	13.4	6.4	(2630)	一部欠損	正面にすり面 左側に条痕と磨り痕	
	D95	5	磁石	硬質砂岩	13.4	4.1	3.4	303.17	下部削り	磁打痕	
6		石炭	黒曜石	(1.2)	1.2	0.3	(0.32)		先端部欠損		



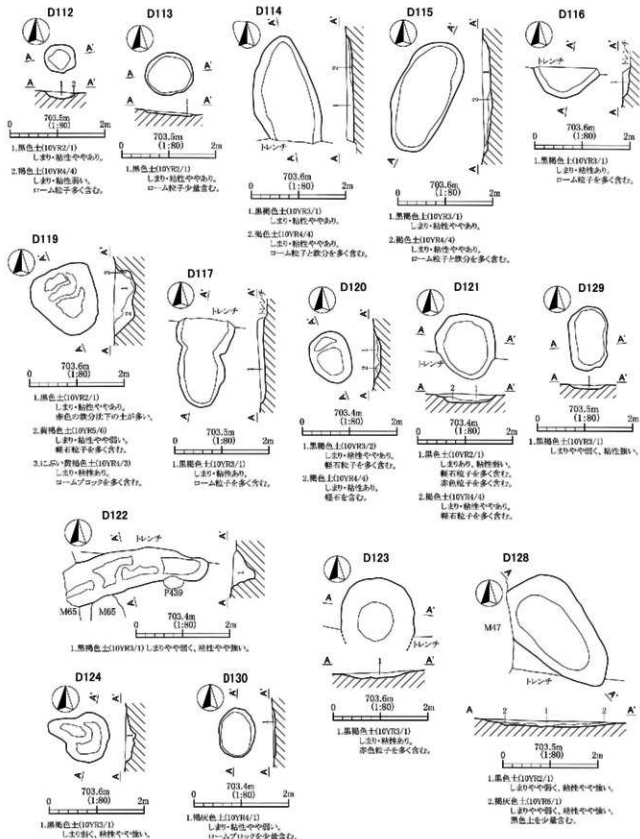
第96図 D4・10・13・53・56・59・60・62・64・79・86号土坑及び出土遺物実測図

第33表 D10・13・56・62号土坑出土遺物観察表

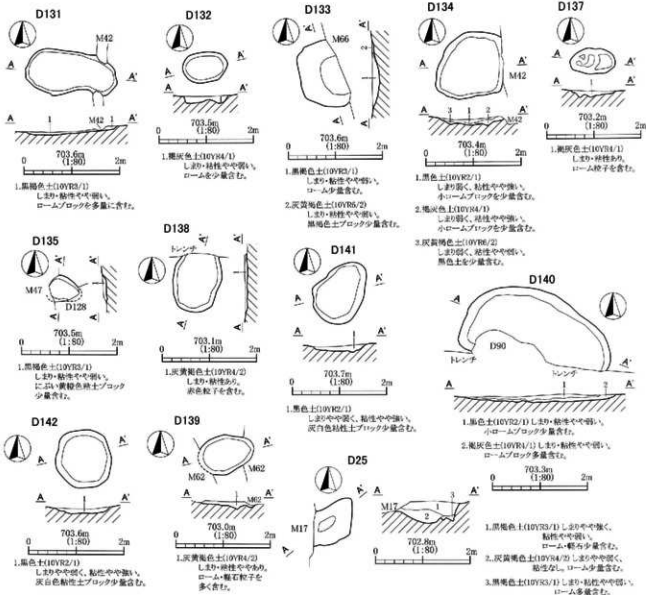
土坑 No.	種類	形状	法		内径	外径	重量	所見	測定者	検出者	出土位置
			口径(長)	底径(幅)							
E10	1	土師器	9	4	5.2	1.0		コトロナダ			山崎実測
E11	1	瓦実土器	7	3	3.5	1.1		有目直			山崎実測
D62	1	灰黄褐色	7	3	7.6	1.2		コトロナダ			山崎実測
E10	2	磁石	20.8	14.8	10.8	3660.00		磁石あり			部分的に酸化
E10	3	磁石	14.5	13.1	6.6	1880.00		磁石あり			右側以外酸化 磁石割れあり
E10	1	不明	9.0	2.1	1.0	1691					



第97図 D36~39・41・11・12・61・70・77・78・101・107・110・111号土坑実測図



第98図 D112~117・119~124・128~130号土坑実測図



第99図 D25・131～135・137～142号土坑実測図



D20号土坑調査風景

第5節 溝状遺構

本遺跡からは76本の溝状遺構が検出された。検出位置は調査区全体に及ぶが、所産時期により溝状遺構の構築方向に違いがみられた。弥生～古代に属する遺構は調査区の北東方向から南西方向に延びる状態で検出された。これに対して、中世の所産と考えられる溝状遺構は南北、東西方向を指向しており、各遺構も直角に交わるものも多かった。本項ではこれら遺構を時期に集成し、特徴ある遺構についてはその都度詳細を記載した。その他のものについては、掲載した溝状遺構計測一覧を参照されたい。

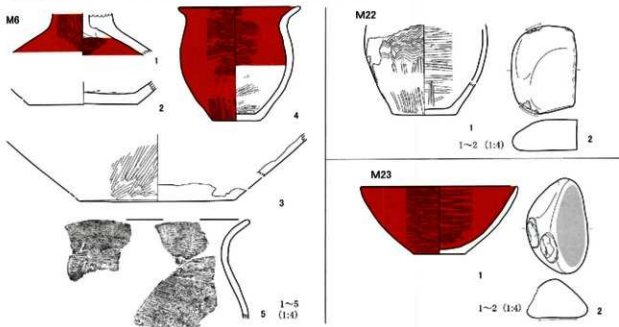
検出された溝状遺構の時期別の内訳は以下の通りである。時期決定に関しては出土遺物や覆土の状況より判断した。なお、遺構番号後ろの()番号は、調査時点で別番号を付与した遺構が後に同一遺構と判断できたものであり、実測図面や出土遺物は旧名称を用いるが同一項で報告する。近世以降の遺構図は全体図を参照されたい。

弥生期	8本	M6.11.22.23.80.87.45.46
古墳期	1本	M7
古代	25本	M8.9.1016.26.24.25.34.35.39(76).40.41.48.42(69).43.47(51).63.65.66.71.73.74.75.77.78
中世	15本	M1.2.15.17(33).18.19.27.28.29.37.91.49(52.64).54.67.72
近世以降	18本	M12(55).13(14).20.21.30(60).31.32.36(58.59).38.44.53.56.57.61.62.68.89.90
不明	9本	M3.4.5.50.70.79.81.86.88

(1) M6号溝状遺構

本址は調査区東側のXX・XXⅠ区に位置する。本址は調査区北東方向から南西方向に伸びる状態で検出され、東西端は調査区域外となる。溝はやや湾曲する部分もあるがほぼ直線に延び、掘り込み形態はU字形を呈する。底面は一人が歩ける幅の状態であった。規模は検出長が97.34m、幅が土手を含めると4.27～4.93m、最小幅で0.87mを測る。溝深さは0.67～0.74mで、東端と西端の標高差は0.74mで、西側の方が低かった。

本址の特徴は、一部西側部分で検出された土手状の高まりである(セクション図B-B'・C-C' 間参照)。この高まりは溝北側で高さ0.14～0.17m、幅0.77～0.97mを測る。上層は砂を含む黒褐色土で、所謂「版築」のような堆積ではないが、写真図版57-⑥で示したように北側から堆積する砂層が盛り上がるのが観察できる。このため、この高まりは、溝掘り直しの排土等の堆積など、人為的なものと判断した。



第100図 M6・22・23号溝状遺構出土遺物実測図

また、セクション図D-D'間は表土からの観察ができたが、表土耕作上下の2~4層の堆積は溝状の堆積を示している。M6号本体との間には6.7層の間層が堆積するが、この上部の掘り込みも溝掘り直しの可能性が指摘でき、溝の中心が南側にずれていく状態を示していることは、住居址の項でも述べた「弥生期の地殻のズレ」に起因するものかもしれない。本址からの出土遺物は少なく、覆土中より図示した遺物等が出土した。出土した遺物は弥生後期の箱清水式がほとんどであり、4の壺は溝中へ転落したような状態で出土した。これらの出土遺物より本址は弥生後期の所産と考えられる。

(2) M22・23号溝状遺構

本址は調査区東側のX X X区を中心に検出され、本址もM6号溝状遺構と同じく調査区東方向から西方向に伸びる状態で検出された。本址は当初の遺構確認面では検出できず、M8・9・10号溝状遺構調査時にその下部に遺構が存在することが確認でき、再度の確認面下げを行い検出した。その結果、古代・中世の確認面である灰白色土層下の黒色土がM22・23号溝状遺構の確認面であることがわかった。

M22号溝状遺構はほぼ同じ幅で伸びており、規模は検出長が56.2m、幅が平均で1.00m、深さが0.16~0.50mを測る。東側で一部に土坑状の大きく掘り込まれた部分が発見された。規模は径2.36m・深さ0.93mを測る。本址は西側と東側でほとんど標高差がなく、標高701.2m前後で掘削されている。溝底面の形状は逆台形を呈する。

M23号溝状遺構はM22号溝状遺構に沿うように南側に検出された。規模は検出長27.99m、幅が0.33~1.44m、深さは0.08~0.55mを測る。溝の西端は自然に消滅していた。底面の形状は逆台形であり、ほぼ平坦であった。溝の比高差は西端で0.19m低くなるが、約28m間の差であり、M22号溝状遺構と同じく、ほぼ地形に沿って掘削されている。

両遺構からは図示した遺物の他にいずれも弥生後期の箱清水式土器片がわずかながら出土した。これらの事からM22・23号溝状遺構は弥生後期の所産と考えられる。

(3) M7号溝状遺構

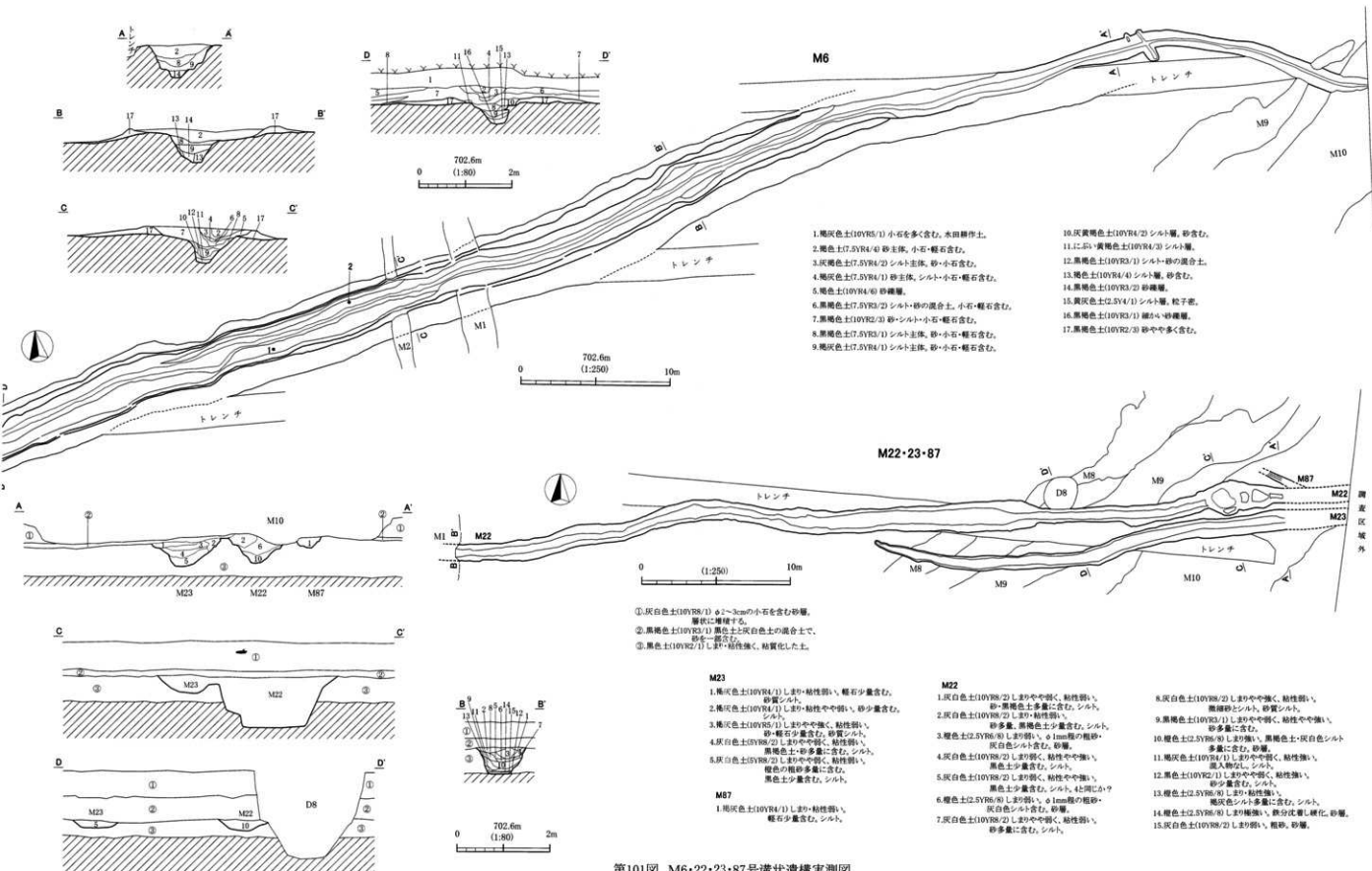
本址は調査区東側のX X I・X X II・X X III区を中心に検出された。検出部北端は南北方向に伸びる形状で、調査区内は北東から南西方向に伸びている。規模は検出長95.73m・幅1.20~2.00m・深さは0.38~0.88mを測る。形状は逆台形である。溝の比高差は0.58mを測る。

本址からの出土遺物は図示したものがあり、1と2は古墳時代中期の特徴的な坏であり、1は復元の結果ほぼ完整となった。このことから本址の所産時期は古墳時代と考えたい。

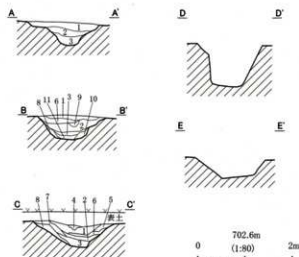
第34表 M6・7・22・23号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

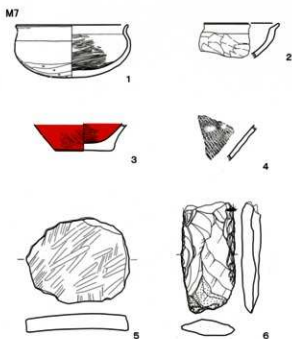
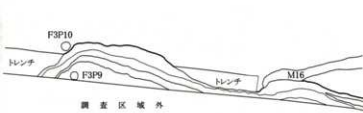
No.	種別	形状	寸法		成形・調整・文様		測定者()	測存者()	丸座		
			口径(縦)	底径(横)	高さ(縦)	内 面				外 面	
M6	1	弥生 釜	-	-	6.4	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	新園実測	IV区		
	2	弥生 釜	-	11.2	0.4	ナデ	ミガキ	完全実測	XXII-16	土手	
	3	弥生 釜	-	16.7	0.1	ミガキ	ミガキ	完全実測	XXII-16	土手	42-308
	4	弥生 壺	(13.0)	5.6	12.2	ミガキ→口縁から胴上半部赤色塗彩	ミガキ→口縁から胴部赤色塗彩	完全実測	No.2		
	5	弥生 甕	-	-	-	ミガキ	新編図文・新編図文	新園実測	IV区	XXI-5	
M7	1	土師器 坏	(11.0)	-	6.6	ミガキ	口縁ヨコナデ 底面ヘラコナデ	完全実測	XXII-7		
	2	土師器 坏	-	-	-	体部ナデ→口縁ヨコナデ	体部ナデ→口縁ヨコナデ	破片実測	XXII-7		
	3	弥生 鉢	-	6.2	0.9	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	XXII-6		
	4	弥生 甕	-	-	-	ナデ	新編図文	新園実測	XXII-13		
M22	1	弥生 甕	-	6.8	0.6	ヘラミガキ	新編図文→ヘラミガキ	完全実測			
	2	弥生 鉢	(16.4)	15.4	7.2	ヘラミガキ→赤色塗彩	体部・底面ヘラミガキ→赤色塗彩	新園実測			
No.	種 別	材 質	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 見		出土位置		
M7	5	円板	土製品	6.6	5.5	0.8	26.67	内面ヘラコナデ 外面ヘラコナデ→ミガキ		M7	
	6	打製石斧	輝石製石	(11.9)	0.80	(1.8)	(194.70)	基部欠損 刃部付近に磨蝕		No.1	
	7	円石	輝石製石	32.3	26.9	高さ16.0	12530.00	中央の縦径10.4×9.3 縦厚1.9 すり面3 正面に凹(正面11× 溝3?)		II区	
M22	2	板石	輝石	8.4	7.9	2.3	357.61	上下両面に磨打痕			
M23	2	磨・麻石	輝石の灰白土	10.2	6.4	4.2	350.37	正面にすり面 左側に磨打痕			



第101図 M6-22-23-87号溝状遺構実測図

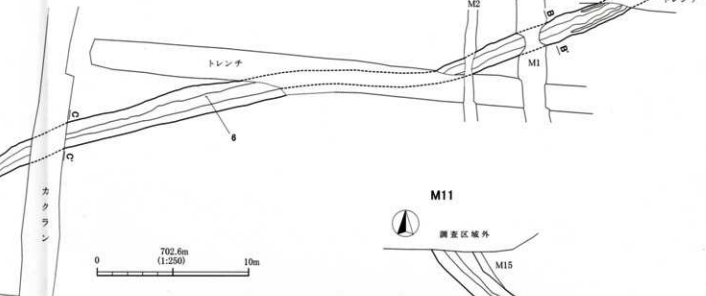


1. 明褐色土(T.SYR7)シルト主体、砂を含む。
2. 黒褐色土(T.SYR4)シルト主体、砂・軽石を含む。
3. 黒褐色土(TOYR2)砂・軽石。
4. 褐色土(T.SYR4)シルト・砂を含む。
5. 黒褐色土(TOYR3)シルト・砂・灰白色シルト。
6. 黒褐色土(T.SYR3)シルト・砂・灰白色シルト。
7. 黒褐色土(T.SYR4)シルト主体、砂を含む。
8. 黒褐色土(T.SYR3)砂・軽石。
9. 黒褐色土(T.SYR3)シルト・砂。
10. 上記⑤・黄褐色土(TOYR4)ローム多量。シルト・砂。
11. 黒褐色土(TOYR2)シルト・砂・軽石。



5 (1:2)
1~4 (1:4)
7 (1:8)

M7

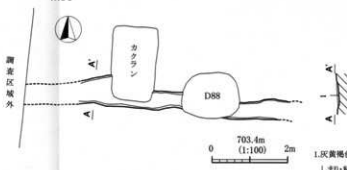


M11

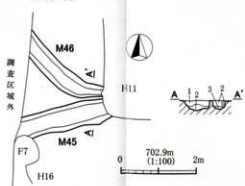


1. 灰黄褐色土(TOYR4)シルト・粘性やや弱い。黒褐色土少量含む。
2. 上記⑤・黄褐色土(TOYR7)シルト・粘性弱い。シルト多量。
3. 黒色土(TOYR2)シルト・粘性やや弱い。ローム粒子を含む。

M80



M45・46

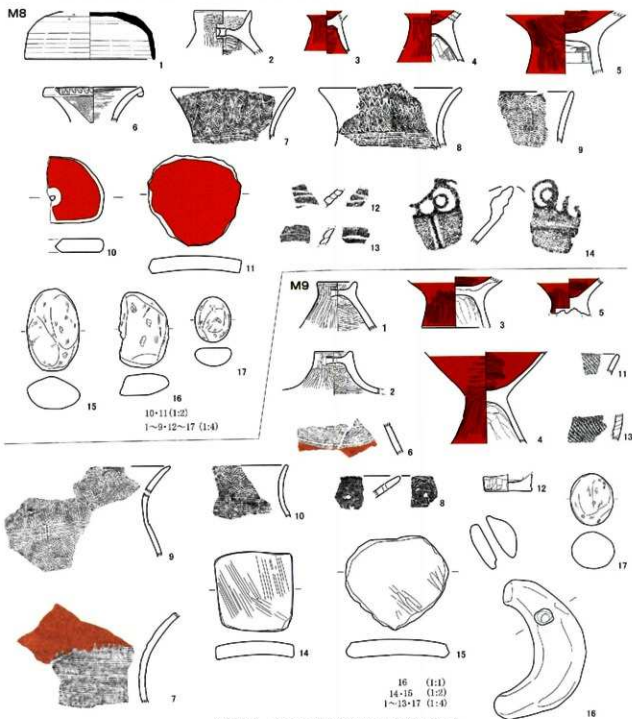


1. 灰黄褐色土(TOYR6)シルト・粘性やや弱い。小黒褐色土ブロックを少量含む。
2. 黒褐色土(TOYR3)シルト・粘性やや弱い。ロームブロック少量含む。
3. 灰黄褐色土(TOYR6)シルト・粘性やや弱い。黒褐色土少量含む。

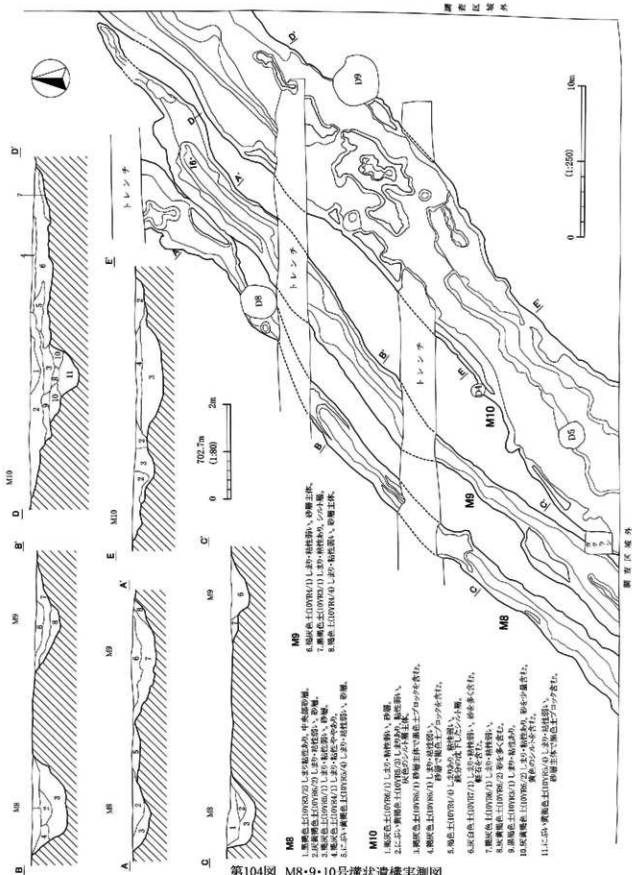
第102図 M7・11・45・46・80号溝状遺構及び出土遺物実測図

(4) M8・9・10号溝状遺構

本址は調査区東側端のXIX・XX区を中心に出検された。北東から南西に伸びる形状で、3本の溝状遺構が並ぶように検出された。規模はM8が検出長46.30m・幅0.68～3.55m・深さは0.38～0.73mを測る。M9は検出長52.85m・幅0.70～3.32m・深さ0.32～0.47mを測る。M10は検出長41.23m・幅5.44～8.52m・深さ0.55～0.60mを測る。いずれの溝も北側より南側が0.52～0.96m低くなっている。溝の形状はM8とM9は逆台形状の掘り込みで、底面は凹凸があった。M10は3本の溝の中で最も幅広であり、形状も複雑で底面も凹凸が激しかった。また、セクション図D-D'・E-E'で示したように、何度かの掘り込みの結果が現状の形を示していると考えられる。



第103図 M8・9号溝状遺構出土遺物実測図



第104図 M8-9-10号溝状遺構実測図

第35表 M8・9号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	材質	品 類			内 面	外 面	備 考	出土位置	
			口縁 (高)	底径 (幅)	残高 (厚)					
1	灰土器	蓋	(13.8)	-	(6.0)	口縁ナデ	口縁ナデ→大井原陶(丸)ヘラケズリ	新田実測	I区	
2	弥生	蓋	-	つまみ 8.1	(4.7)	ミガキ	ミガキ	完全実測	横成前穿孔 II区	
3	弥生	高杯	-	-	(1.5)	杯部ミガキ→赤色塗彩	杯部ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	II区
4	弥生	高杯	-	-	(5.4)	杯部ミガキ→赤色塗彩	杯部ヘケ目の残るナデ	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	IV区
5	弥生	高杯	-	-	(6.7)	杯部ミガキ→赤色塗彩	杯部ヘケ目の残るナデ	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	II区
6	弥生	蓋	(10.6)	-	(3.7)	縦部ヘケ目 口縁ヘケ目の残るナデ	口縁部ヘケ状工具による直底 口縁ヘケ目	新田実測	II区	
7	弥生	甕	(13.2)	-	(5.5)	ハケ目→ミガキ	縦線状文	新田実測	II区	
8	弥生	甕	(15.2)	-	(6.3)	ミガキ	縦線状文 縦線状文 口唇部に刻み	新田実測	II区	
9	弥生	甕	-	-	-	ミガキ	縦線状文	新田実測	I区	
10	弥生	紡錘車	(3.0)	3.5	6.7	ミガキ	ミガキ→赤色塗彩	横成前穿孔	II区	
12	手づくね土器	-	-	-	-	ナデ	ナデ	新田実測	I区	
13	手づくね土器	-	-	-	-	ナデ	ナデ	新田実測	II区	
14	縄文	浅鉢	-	-	-	浅鉢	浅鉢	新田実測	I区	
1	弥生	蓋	-	つまみ 4.3	(5.2)	ミガキ	ミガキ→赤色塗彩	横成前穿孔	完全実測	IV区
2	弥生	蓋	-	つまみ 4.1	(4.5)	ミガキ	ミガキ	横成前穿孔	完全実測	IV区
3	弥生	高杯	-	(7.2)	(5.0)	杯部ミガキ→赤色塗彩	杯部ナデ	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	IV区
4	弥生	高杯	-	-	(9.7)	杯部ミガキ→赤色塗彩	杯部ナデ	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	杯部内面に赤色顔料付着 I区 IV区
5	弥生	高杯	-	-	(3.0)	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	IV区
6	弥生	蓋	-	-	-	ハケ目の残るナデ	ミガキ→赤色塗彩	ヘラ指拭 へら指拭文	新田実測	II区
7	弥生	蓋	-	-	-	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	縦線状文	新田実測	II区
8	弥生	?	-	-	-	縦線状文	口縁ナデ→横成前穿孔	新田実測	II区	
9	弥生	甕	-	-	-	ミガキ	縦線状文(10本 2連止め) 縦線状文	新田実測	II区 XIV-15	
10	弥生	甕	-	-	-	ミガキ	縦線状文(5本 3連止め) 縦線状文	新田実測	I区	
11	弥生	甕	-	-	-	ミガキ	縄文肌	新田実測	II区	
12	弥生	シガラ鉢	-	5.0	(1.8)	ナデ	ナデ	完全実測	IV区	
13	弥生	甕	-	-	-	ミガキ	縄文肌	新田実測	IV区	

No.	種 類	材 質	縦大径	横大径	高 度	重 量	内 面	外 面	備 考	出土位置
11	円板	土製品	4.8	5.0	0.8	20.00	内面ミガキ→赤色塗彩	外面ミガキ→赤色塗彩		II区
15	軽石製品	軽石	8.7	5.6	3.4	61.08	全体にすり			II区
16	軽石製品	軽石	8.0	5.4	2.3	46.95	全体にすり			IV区
17	軽石製品	軽石	4.9	3.8	2.0	14.34	全体にすり			IV区
14	土版	土製品	4.3	4.2	0.7	18.50	内面ハケナデ→ナデ	外面ハケナデ→ミガキ	方形	II区
15	円板	土製品	5.0	5.4	0.9	25.63	内面ハケナデ	外面ミガキ		II区
16	勾玉	土製	2.5	1.4	1.5	9.83	孔径0.3	調整ナデ		No.1
17	軽石製品	軽石	5.5	4.5	4.0	46.05	全体にすり			II区

3本のいずれの覆土も、砂層やシルト層が主体をなしており、堆積状況も水流の影響を受けた様子が観察できた。また、各溝状遺構からの出土遺物は多かったが、そのほとんどは覆土中からのものであり、尚且つ遺物の縁辺部が摩耗した土器片も多く見られた。これらの事から3本の溝状遺構はいずれも水路あるいは自然流路の可能性が指摘でき、現状3本の溝状遺構に分離しているが、本来は一本の溝状遺構が時間経過とともに流れを変えた結果が、現状の姿とも推定できる。

出土遺物はM8号溝状遺構で17点、M9号溝状遺構で同じく17点、M10号溝状遺構で46点を図示した。特徴的な遺物としてはM8の6が弥生時代壺の口縁部破片と考えられるが、在地の箱清水式や栗林式とは形態が異なり、系譜が注目される。また、M9で14の方形の土版や16の土製勾玉は希少な出土例である。M10からは須恵器や土師器の出土が多く、17の須恵器甕はほぼ全容が解る程度に復元された。また、24の弥生箱清水式の蓋は、稲や雑穀等の痕跡が顕著で意図的な混入が考えられる(第V章 科学分析参照)。3遺構の遺物共通点として、いずれの溝からも縄文・弥生・古代までの遺物が出土するのみで、中世以降の出土遺物は含まれていなかった。このことからM8・9・10号溝状遺構は古代まで機能していた溝と考えられる。

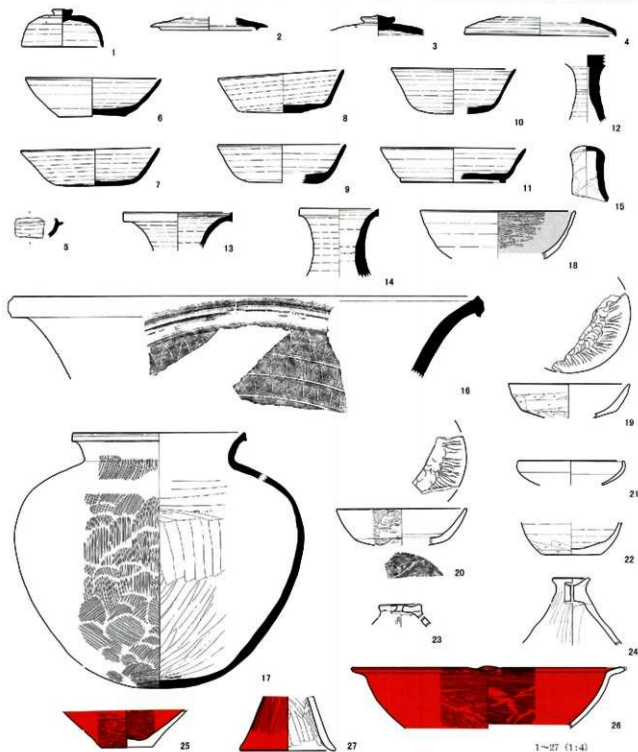
第36表 M10号溝状遺構出土遺物観察表(1)

(cm)

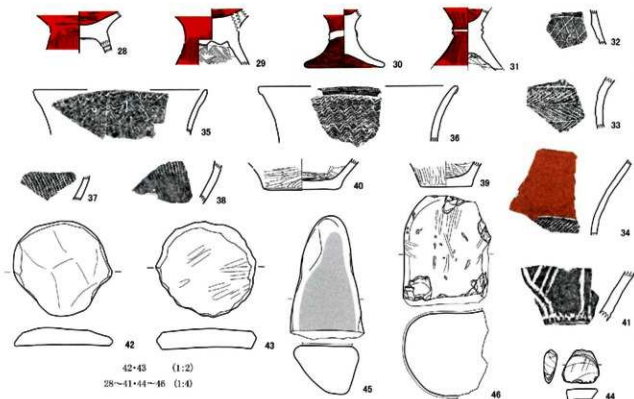
No.	種別	形状	法 量			形状・図面・文様		規定図() 検存番() 内蔵番	備 考	出土位置
			口径 (長)	底径 (短)	高さ (厚)	内 面	外 面			
1	銅蓋部	蓋	8.0	つまみ 2.2	4.0	コクロナデ	コクロナデ→天井部回転ヘラクスリ→つまみ部分	完全実測 外面 自然磨付着	I区	
2	銅蓋部	蓋	(9.8)	-	(1.3)	コクロナデ	コクロナデ→天井部回転ヘラクスリ	銅板実測	II区	
3	銅蓋部	蓋	-	つまみ 3.6	(2.2)	コクロナデ	コクロナデ→天井部回転ヘラクスリ→つまみ部分	完全実測 外面 自然磨付着	I区	
4	銅蓋部	蓋	15.0	-	(2.0)	コクロナデ	コクロナデ	銅板実測 外面 自然磨付着	I区 II区	
5	銅蓋部	杯	-	-	-	コクロナデ	コクロナデ→底面回転ヘラクスリ	鍍片実測	II区	
6	銅蓋部	杯	14.3	7.1	4.2	コクロナデ	コクロナデ→底面回転角切り(右)	完全実測 内外 面火だすき有	II区	
7	銅蓋部	杯	14.8	8.6	4.1	コクロナデ	コクロナデ→底面回転し後ハケ目の残るナデ	完全実測	II区	
8	銅蓋部	杯	13.3	8.9	4.5	コクロナデ	コクロナデ→底面ヘラ切り	完全実測	I区	
9	銅蓋部	杯	13.8	8.8	4.2	コクロナデ	コクロナデ→底面回転ヘラ切り	完全実測 内外 面自然磨付着	I・II区	
10	銅蓋部	杯	(13.1)	(7.3)	4.8	コクロナデ	コクロナデ→底面回転ヘラ切り	銅板実測	II区	
11	銅蓋部	有台杯	(15.3)	(11.1)	3.7	コクロナデ	コクロナデ→底面回転ヘラクスリ→有台部分	銅板実測	I・II区	
12	銅蓋部	高杯	-	-	(7.2)	ヘラナデ	コクロナデ 沈埋あり	完全実測	II区	
13	銅蓋部	蓋	(11.6)	-	(4.1)	コクロナデ	コクロナデ 自然磨付着	銅板実測	II区	
14	銅蓋部	蓋	(8.4)	-	(7.2)	コクロナデ	コクロナデ	銅板実測 内外 面自然磨付着	II区	
15	銅蓋部	高杯	-	-	6.0	ナデ	ナデ	完全実測	II区	
16	銅蓋部	甕	(10.2)	-	(6.8)	コクロナデ	ヘラ磨き並平行線文 磨過成状文	銅板実測	E・II区	
17	銅蓋部	甕	(16.6)	-	27.4	口縁コクロナデ 側から底面ナデ	口縁コクロナデ→側から底面ナデ目	銅板実測	I・II区	
18	土師器	杯	(16.2)	-	(3.1)	ミガキ→赤色染部	コクロナデ→下部回転ヘラクスリ	銅板実測	II区	
19	土師器	杯	(12.7)	(10.0)	(3.7)	コクロナデ→磨文	コクロナデ→ヘラクスリ	銅板実測	II区	
20	土師器	杯	(13.7)	(10.0)	(3.0)	コクロナデ→磨文	ヘラクスリ→ミガキ	銅板実測 底面 にヘラ記号あり	II区	
21	土師器	杯	(11.4)	(10.0)	(2.6)	ナデ→口縁コクロナデ	口縁コクロナデ 係部ナデ	銅板実測	II区	
22	土師器	杯	-	(6.2)	(3.5)	コクロナデ	コクロナデ→底面と底面外側ナデヘラクスリ	銅板実測	II区	
23	弥生	蓋	-	つまみ 4.5	(2.4)	ナデ	ナデ	完全実測	II区	
24	弥生	蓋	-	つまみ 3.9	(7.2)	ナデ 磨文あり	ミガキ 焼成痕穿孔 確実あり	完全実測	II区	
25	弥生	鉢	-	5.1	(4.0)	ミガキ→赤色染部	底面ミガキ 側面ミガキ→赤色染部	完全実測	I区	
26	弥生	高杯	(28.7)	-	(6.6)	ミガキ→赤色染部	ミガキ→赤色染部 磨過成状	銅板実測	I区	
27	弥生	高杯	-	10.1	(5.8)	側面コクロナデ→側面ナデ	ミガキ→赤色染部	完全実測 外面 磨過成状あり	II区	
28	弥生	高杯	-	-	(4.4)	側面ミガキ→赤色染部 磨過ナデ	ミガキ→赤色染部	完全実測	II区	
29	弥生	高杯	-	-	(5.8)	側面ミガキ→赤色染部 磨過ハケ目の残るナデ	ミガキ→赤色染部	完全実測	I区	
30	弥生	高杯	-	8.6	(6.1)	側面ミガキ→赤色染部 磨過ミガキ→赤色染部	ミガキ→赤色染部 磨過部分	完全実測	II区	
31	弥生	高杯	-	-	(6.7)	側面ミガキ→赤色染部 磨過ヘラナデ	ミガキ→赤色染部 沈埋あり	完全実測	II区	
32	弥生	甕	-	-	6.0	磨過成状文	ヘラ磨き並平行線文 へラ磨過成文	銅板実測	I区	
33	弥生	甕	-	-	6.0	磨過成状文	ヘラ磨き並平行線文 へラ磨過成文	銅板実測	II区	
34	弥生	甕	-	-	-	ミガキ→赤色染部	ミガキ→赤色染部 ヘラ磨過成文 沈埋	銅板実測	I区	
35	弥生	甕	(18.2)	-	(4.6)	ミガキ	磨過成状文	銅板実測	II区	
36	弥生	甕	(21.2)	-	(6.0)	ミガキ	磨過成状文	銅板実測	II区	
37	弥生	甕	-	-	-	ミガキ	磨過成状文	銅板実測	I区	
38	弥生	甕	-	-	-	ミガキ	ミガキ 磨過成状文	銅板実測	II区	
39	弥生	甕	-	5.4	(2.6)	ミガキ	ミガキ	完全実測	II区	
40	弥生	甕	-	(8.2)	(3.3)	ハケ目の残るナデ	ミガキ	完全実測	II区	
41	縄文	陶鉢	-	-	-	ナデ	沈埋 竹葉文	銅板実測	II区	

(5) M16・26号溝状遺構

本址は調査区中央部のXXII区を中心に検出された。M16号溝状遺構は南東角をもつ直角に曲がる溝状遺構で、規模は検出長が29.44m、幅が0.46～0.84m、深さが0.14～0.25mを測る。M26号溝状遺構は南北に伸びる溝状遺構で、規模は検出長が24.25m、幅が0.52～0.99m、深さ0.12～0.16mを測る。いずれの遺構も南側で試掘トレンチにより削平され確認を得ないが、溝の規模や形態から同一遺構の可能性はある。出土遺物は図示したM26号溝状遺



第105図 M16号溝状遺構出土遺物実測図(1)



第106図 M10号溝状遺構出土遺物実測図(2)

第37表 M10号溝状遺構出土遺物観察表(2)

(cm)

No.	種 類	材 質	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置
42	円板	土製品	5.1	5.1	0.9	21.23	内部ナデ 外部ヘラケズリ不劣	Ⅱ区
43	円板	土製品	5.0	5.3	1.0	33.69	内部ナデ 外部ヒガキ	Ⅱ区
44	銅片	黒曜石	3.6	3.9	1.2	19.91		Ⅱ区
45	磨石	3877448	133.0	17.80	05.30	0676.00	下部欠損 正面にすり面	Ⅱ区
46	台石	砂岩	11.8	9.3	9.1	1456.93	正面にすり面と溝痕 側面は縦打痕	Ⅱ区

構から出土した須恵器甕の他には、M16号溝状遺構からは弥生高坏片や壺片が出土している。両遺構の所産時期は覆土の状態や須恵器甕から古代と考えたい。

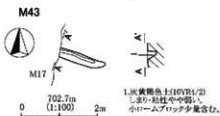
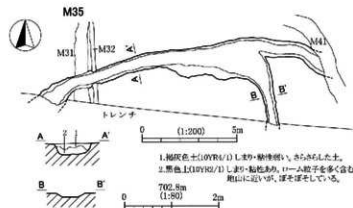
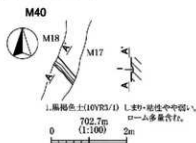
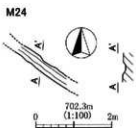
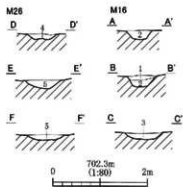
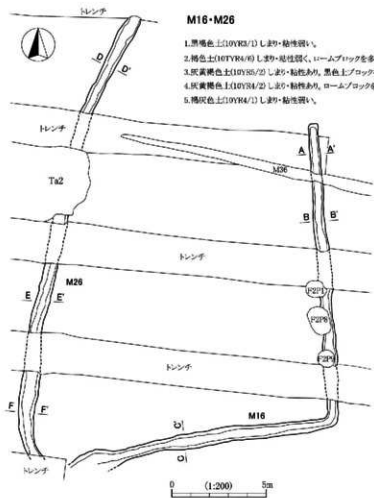
(6) M25号溝状遺構

本址は調査区中央のXVI・XVII・XVIII区を中心に検出された。形態は西側に開く「コ」の字状で、南端はD20号土坑に切られている。規模は検出長が86.95m、幅が0.40～1.71m、深さが0.10～0.46mを測る。北側と南側の溝底面の比高差は0.59mであった。覆土は自然堆積であったが、下層にロームブロックを多く含む部分が多かった。溝底面はやや凹凸があり、水が流れた様子は確認できなかった。本址からの遺物は覆土を中心に多く出土し、14点を図示した。

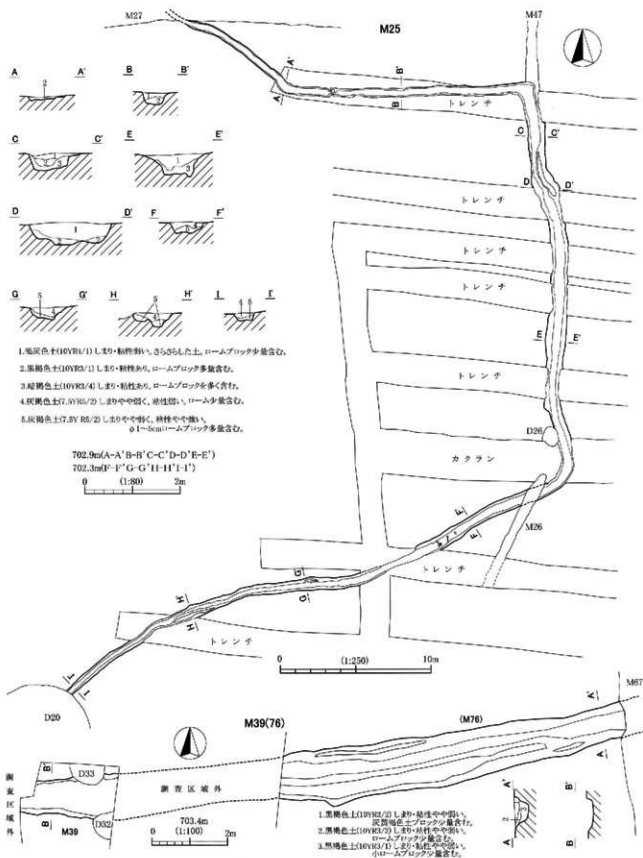
これらの出土遺物から本址の所産時期は古代と考える。

(7) M42(69)・47(51)号溝状遺構

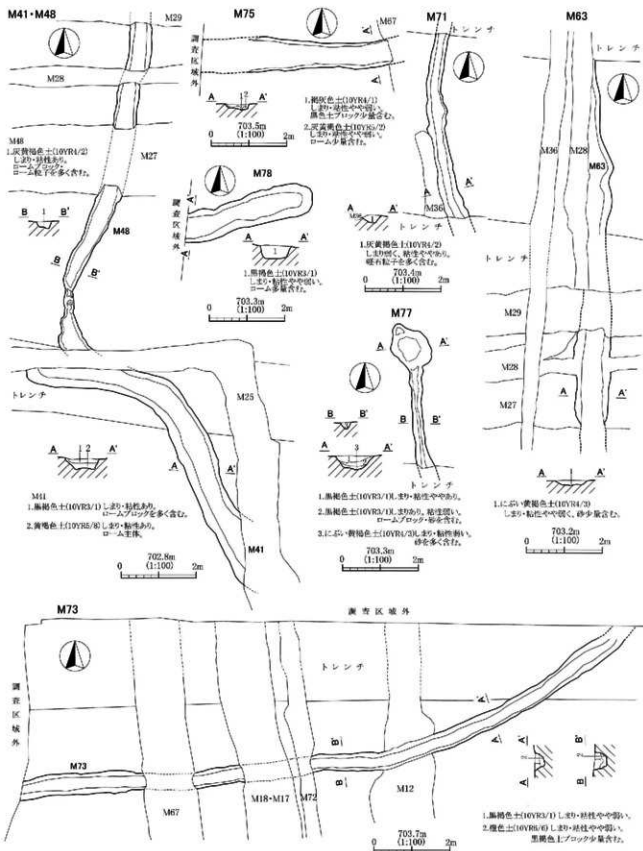
本址は調査区中央のIV・X・XVI区を中心に検出された。M42(69)は南北方向に伸びる形態で、南端でM25と重複するが溝底面の高さは、本址の方が0.23m高い。M47(51)も同じく南北方向に伸びる形態で、南端でM25と重複するが、底面は本址の方が0.18m高い。両遺構ともにM25とは段差が存在する為、別遺構と考え調査を行ったが、覆土は非常によく似ており、出土遺物も須恵器坏や甕片など古代所産のものであった。また、上面からの明瞭な遺構重複ラインは確認できなかった。よってM25.42.47は同時併存の可能性も指摘できる。



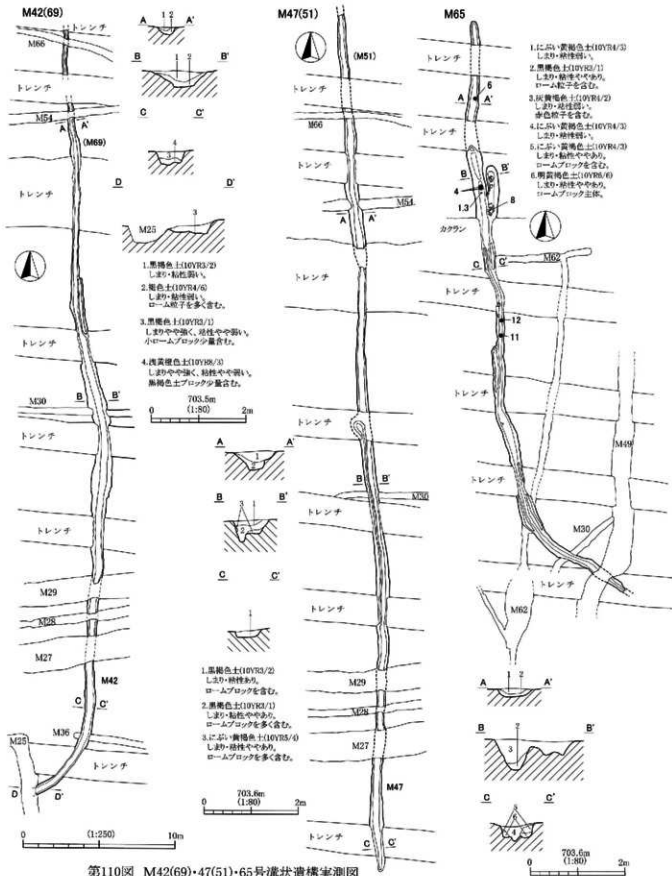
第107図 M16・24・26・34・35・40・43号溝状遺構実測図



第108図 M25-39(76)号溝状遺構実測図



第109図 M41・48・63・71・73・75・77・78号溝状遺構実測図



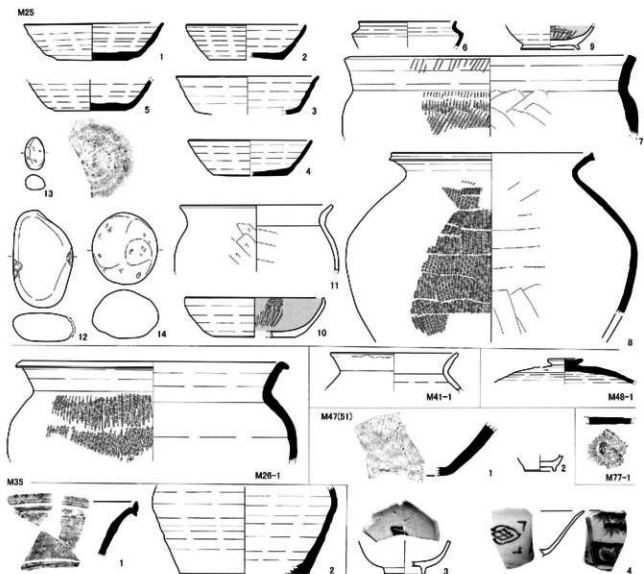
(8) M65号溝状遺構

本址は調査区東側端のV・X・XI区を中心に検出された。南北方向に伸びる形状で、規模は検出長41.4m・幅0.36~1.55m・深さは0.17~0.73mを測る。形態は基本的に逆台形状を呈するが、遺物がまどまって出土したXI-IGr付近では溝が二段に分かれるような形状を示す部分もある。本址からの出土遺物は図示した須恵器杯や壺口縁部などがある。これらの遺物はいずれも溝底面からは浮いた状態(写真図版61③~⑤参照)で出土している。これらの遺物より、本址は古代の所産と考えられる。

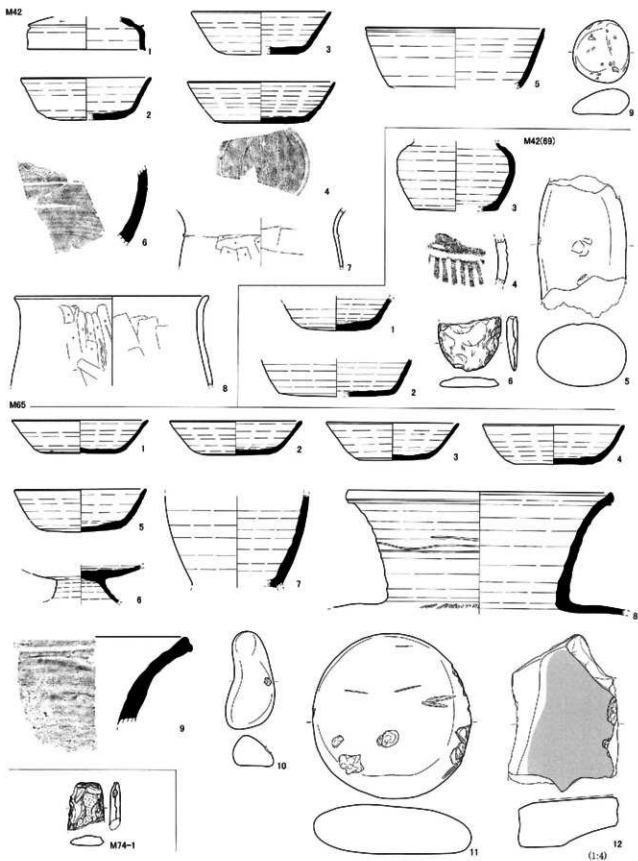
なお、本址は南側でTa1と重複する。本址の方が新しいと判断したが、Ta1の東西ラインのセクションM65が現れない事や、Ta1の南からM65と同規模のM48が伸び、その先でM41と重なり、その南でM25と重複する。これらの事象は先に述べたM42等と共通しており、推定だけこれらの溝はすべてM25に集約される構造とも考えられる。

(9) M66号溝状遺構

本址は調査区中央のIV・V・X区を中心に検出された。掘立柱建物址群を囲むように検出され、検出長62.55m・幅0.33~0.66m・深さは0.06~0.20mを測る。本址からの出土遺物は図示できるものはなかったが、須恵器甕片・坏片等が出土した。本址は出土遺物やその配置から古代の所産と考えられる。



第112図 M25・26・35・41・48・47(51)・77号溝状遺構出土遺物実測図



第113图 M42(69)·65·74号溝状遺構出土遺物実測図

第38表 M25・26・35・41・42・48・51・65・69・77号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	形状	計量			成形・調整・文様		用途() 保存庫() 丸底()				
			口径(縦)	直径(横)	軸長(厚)	内面	外面					
M25	1	須恵器 埴	14.5	7.4	2.9	ロクロナダ	ロクロナダ-巾箱へつ切り	完全実測	XV-14			
	2	須恵器 埴	(12.0)	(7.0)	3.7	ロクロナダ	火だすき有	鉤取実測	XV-19			
	3	須恵器 埴	(16.0)	-	(4.0)	ロクロナダ	ロクロナダ	鉤取実測	XV-9			
	4	須恵器 埴	(13.0)	(7.8)	3.8	ロクロナダ	鉤り難し後手持ちへつケズリ	鉤取実測	XV-19			
	5	須恵器 埴	-	(7.4)	(3.3)	ロクロナダ	ロクロナダ-鉤取へつ切り 底部へつ切り	鉤取実測	XV-9 MIXV-9			
	6	須恵器 壺	(10.2)	-	(2.7)	ロクロナダ	ロクロナダ	鉤取実測	XV-9			
	7	須恵器 壺	(28.4)	-	(8.4)	ロクロナダ	同て具底	ロクロナダ	タタキ目	鉤取実測	XV-19 XV-14	
	8	須恵器 壺	(21.0)	-	(20.0)	ナダ	ロクロナダ	胴部タタキ目		鉤取実測	M25M-9 XV-9 MIXV-9 M25XJ-1 XI-6 MIXV-9 XI-6 XV-15 XV輸出	
	9	土師器 甕	-	(6.0)	(2.5)	ヘウミゴキ-黒色処理	ロクロナダ	知り難し高台貼付		鉤取実測	XV-14	
	10	土師器 埴	(14.6)	(9.0)	4.2	ヘウミゴキ-黒色処理	ロクロナダ	底部手持ちへつケズリ		鉤取実測	XV-9	
	11	土師器 甕	(16.0)	-	(7.0)	ヘウナダ		へつケズリ 磨耗している		鉤取実測	XV-14	
M26	1	須恵器 甕	(28.8)	-	(10.6)	ロクロナダ	ロクロナダ	平行タタキ目		鉤取実測	XV-10	
M35	1	須恵器 甕	-	-	-	ロクロナダ	ロクロナダ			鉤取実測	IV-6 XV-10	
	2	須恵器 甕	-	(13.0)	(9.2)	ロクロナダ	ロクロナダ			鉤取実測	IV-6 XV-10	
M41	1	土師器 甕	(13.0)	-	(4.0)	ロクロナダ	ロクロナダ			鉤取実測	XV-9	
	1	須恵器 蓋	(12.4)	-	(3.5)	ロクロナダ	ロクロナダ	天井部出軸へつケズリ		鉤取実測	XV-4	
M42	2	須恵器 杯	(13.8)	(8.4)	(4.5)	ロクロナダ	底部手持ちへつケズリ			鉤取実測	XV-4 XV-9 S801P711H	
	3	須恵器 杯	(14.8)	(7.6)	(4.8)	ロクロナダ	底部へつケズリ			鉤取実測	XV-2-4	
	4	須恵器 杯	(15.6)	8.9	4.4	ロクロナダ	底部へつケズリ	へつケズリ		完全実測	XV-4	
	5	須恵器 杯	(19.0)	-	(5.4)	ロクロナダ	ロクロナダ			鉤取実測	XV-4	
	6	須恵器 甕	-	-	-	ロクロナダ	縦線状文			鉤取実測	XV-4+15	
	7	土師器 甕	-	-	(6.1)	ヘウナダ	へつケズリ			鉤取実測	XV-4	
	8	土師器 甕	(20.6)	-	(9.5)	ナダ	へつケズリ			鉤取実測	XV-4	
M48	1	須恵器 蓋	-	つまみ 3.7	(2.7)	ロクロナダ	ロクロナダ	天井部出軸へつケズリ	つまみ取付	完全実測		
M51	1	須恵器 甕	-	-	-	ナダ	平行タタキ	へつケズリ		断面実測	X-14	
	2	須恵器 小杯	-	3.2	(1.7)	ロクロナダ→連続	ロクロナダ→連続(編付)			完全実測 18C 東-18C内 伊 万里 V期	X-9	
	3	須恵器 甕	-	(4.2)	(3.6)	ロクロナダ→連続(編付)	ロクロナダ→連続(編付)			鉤取実測 18C 西 瀬戸焼	X-9	
	4	須恵器 鉢	-	-	-	編付(編付)	編付(編付)			断面実測 18C 東-18C内 伊 万里 V期	X-9	
M55	1	須恵器 埴	(14.4)	(7.2)	3.5	ロクロナダ	火だすき有	ロクロナダ	底面出軸へつケズリ	火だすき有	鉤取実測	XI-1 No.3
	2	須恵器 埴	(14.0)	(7.3)	3.6	ロクロナダ	底部へつケズリ	火だすき有			鉤取実測	XI-1
	3	須恵器 埴	(14.0)	7.9	4.0	ロクロナダ	火だすき有	ロクロナダ	底部へつケズリ	火だすき有	完全実測	XI-1 No.3
	4	須恵器 埴	14.9	8.4	4.2	ロクロナダ	底部へつケズリ				完全実測	XI-1 No.2-6-6
	5	須恵器 埴	(13.0)	8.7	4.5	ロクロナダ	底部へつケズリ				完全実測	XI-1
	6	須恵器 高杯	-	-	(4.1)	ロクロナダ	底部へつケズリ				完全実測	XI-6
	7	須恵器 壺	-	-	(9.0)	ロクロナダ	胴部下出軸へつケズリ				完全実測	No.1
	8	須恵器 壺	(27.0)	-	(13.0)	ロクロナダ	重台形付(高台欠損)				鉤取実測	XI-11
	9	須恵器 壺	-	-	-	自然輪行	平行タタキ目	自然輪行			鉤取実測	X-6 No.4
M60	1	須恵器 埴	-	7.4	(3.6)	ロクロナダ	ロクロナダ	底部出軸へつ切り		断面実測	XI-11	
	2	須恵器 埴	-	(12.2)	(4.0)	ロクロナダ	ロクロナダ	底部手持ちへつケズリ		鉤取実測	XI-19	
	3	須恵器 短脚甕	-	(8.6)	(7.3)	ロクロナダ	自然輪行	ロクロナダ-底部手持ちへつケズリ	自然輪行		鉤取実測	X-24
	4	縄文 埴	-	-	-	ナダ	沈線			断面実測	X-19	
M77	1	須恵器 杯	-	-	-	ロクロナダ	底部へつケズリ			断面実測	XI-6	

第39表 M25・42・65・69・74号溝状遺構出土遺物観察表

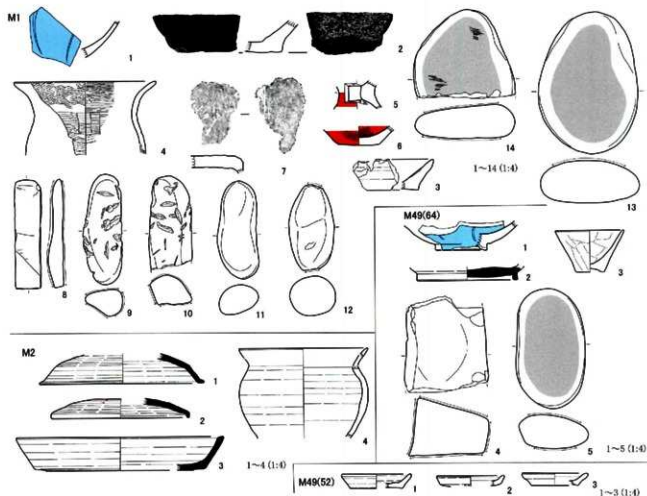
(cm)

No.	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所 属	出土位置	
M25	12	磁石	陳石安山岩	10.3	6.3	3.2	219.83	両側にタタキ	XIV-9
	13	磁石	安山岩	3.5	2.2	1.7	16.15	全体にすり	XIV-9
	14	磁石製品	磁石	7.6	6.8	5.2	111.89	全体にすり	XIV-14
M62	9	磁石製品	磁石	9.7	5.8	2.7	46.43	全体にすり	
	10	磁石	陳石安山岩	10.4	5.2	3.3	262.71	正面に磨打痕	XI-1
M65	11	磁石	安山岩	17.6	16.8	5.4	1779.00	正義と縁辺に磨打痕と金痕	3c-9
	12	台石	安山岩	(16.7)	(11.5)	(5.1)	(1540)	右側一下端欠損 正面に磨打痕	3c-8
	5	支脚石?	板状安山岩	(15.0)	(9.3)	(9.0)	(1283.42)	焼熟あり 上半部磨化 上下欠損	X-4
M69	6	打製石斧	硬質砂岩	(5.8)	(6.6)	(1.2)	(56.85)	上部欠損 刃部磨減	X-14
	74	1打製石鏃	安山岩	(6.1)	(3.9)	(1.1)	(27.35)	下部欠損	X-11

(10) M1・2号溝状遺構

本址は調査区東端のX X I区を中心に検出された。M1とM2はほぼ並行して南北方向に伸びる形状で検出された。規模はM1が検出長46.29m・幅1.48～2.35m・深さ0.61～0.75mを測る。高低差は南の方が0.60m程低かった。M2の規模は検出長46.12m・幅0.41～1.24m・深さ0.33～0.53mを測る。高低差は南の方が0.53m低かった。どちらの溝も底面は平坦であり、水の流れた様子はなかった。

本址から出土遺物は図示したものであるが、覆土の特徴などから、両遺構は中世の所産と考えられる。



第114図 M1・2・49(52・64)号溝状遺構出土遺物実測図

第40表 M1・52・64号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	時期	法 量			成 形 ・ 器 型 ・ 文 様		鑑定種() 検出層() 大層()		
			口径(長)	直径(幅)	高さ(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置	
M1	1	青磁 蓮弁文飾	-	-	-	施群	施群	破片実測 13C後半~14C前半 新泉原	Ⅱ区	
	2	陶器 蓋	-	-	(3.4)	ヨコナダ 自然輪付着	ハナ目状の痕跡の残るナダ	伊東実測 中堂 彦香	Ⅱ区	
	3	土師質 かむらけ	-	-	3.3	ヨコナダ	ヨコナダ 底部ヘラケズリ	破片実測 12C代	Ⅱ区	
	4	弥生 甕	(18.0)	-	(7.7)	ミガキ	横線襷状文(2連) 12本 縹掛袋状文	伊東実測	Ⅱ区	
	5	弥生 器台	-	-	(2.9)	ナダ	ナダ→赤色塗彩	完全実測	Ⅱ区	
	6	弥生 鉢	-	-	4.4 (2.0)	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	完全実測	Ⅱ区	
	7	瓦葺 瓦	9.2	(5.7)	1.9	ナダ	ナダ	伊東実測	Ⅱ区	
M2	1	灰土器 蓋	(17.4)	-	(3.1)	ロクロナダ	ロクロナダ	伊東実測	Ⅱ区	
	2	灰土器 甕	(14.4)	-	(2.1)	ロクロナダ	ロクロナダ→天舟跡跡ヘラケズリ	伊東実測 内面に自然輪付着	Ⅱ区	
	3	灰土器 甕	(22.0)	(17.8)	3.6	ロクロナダ	ロクロナダ→瓦筋跡跡ヘラケズリ	伊東実測 内面と瓦筋跡跡に自然輪付着	Ⅱ区	
	4	土師器 ロタリ罎	(13.6)	-	(9.6)	ロクロナダ	ロクロナダ	伊東実測	Ⅱ区	
M3	1	土師質 かむらけ	(7.4)	(5.6)	1.5	ロクロナダ	ロクロナダ→底部ナダ	伊東実測	X-5	
	2	土師質 かむらけ	(7.2)	-	(1.1)	ロクロナダ	ロクロナダ→底部ナダヘラケズリ	伊東実測	X-5	
	3	土師質 かむらけ	(7.6)	(4.9)	1.3	ロクロナダ	ロクロナダ→底部跡跡未切り	伊東実測	X1-1	
M4	1	青磁 蓮弁文飾	-	(5.4)	(2.9)	施群	施群	伊東実測 しのぎなし 13C後半~14C前半 新泉原	X-10	
	2	灰土器 有台杯	-	(16.8)	(1.4)	ロクロナダ すれている	ロクロナダ 底部跡跡ヘラケズリ→高台貼付	伊東実測	X25	
	3	弥生? ヒメガ土師 (7.2)	(2.0)	4.4	ナダ	ナダ	伊東実測	X30		
No.	種 類	質 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
M1	8	磁石	磁灰質	11.7	2.9	1.0	76.33	磁面数4(正裏 西裏)		Ⅱ区
	9	磁石	磁岩	11.8	4.1	3.0	152.74	磁面数3 南り取ったような使用痕跡		Ⅱ区
	10	磁石	磁岩	(10.6)	(4.6)	(3.2)	(176.41)	平形欠傷 取ら取ったような使用痕跡		Ⅱ区
	11	?	安山岩	19.4	4.4	3.3	207.29			1区
	12	磁石	安山岩	9.2	4.8	4.2	196.95	上下両面に幾打痕		1区
	13	磁石	安山岩	16.1	10.5	4.9	949.21	正面にすり面		1区
	14	磁石	輝石安山岩	(9.5)	(4.7)	(3.7)	(395.99)	下部欠損 正裏にすり面		Ⅱ区
M1	4	磁石	磁礫岩	(16.2)	(9.0)	(6.6)	(395.99)	磁面数4 上下欠損		No.1
	5	磁石	輝石安山岩	12.8	7.4	3.7	506.62	正裏にすり面		M-11

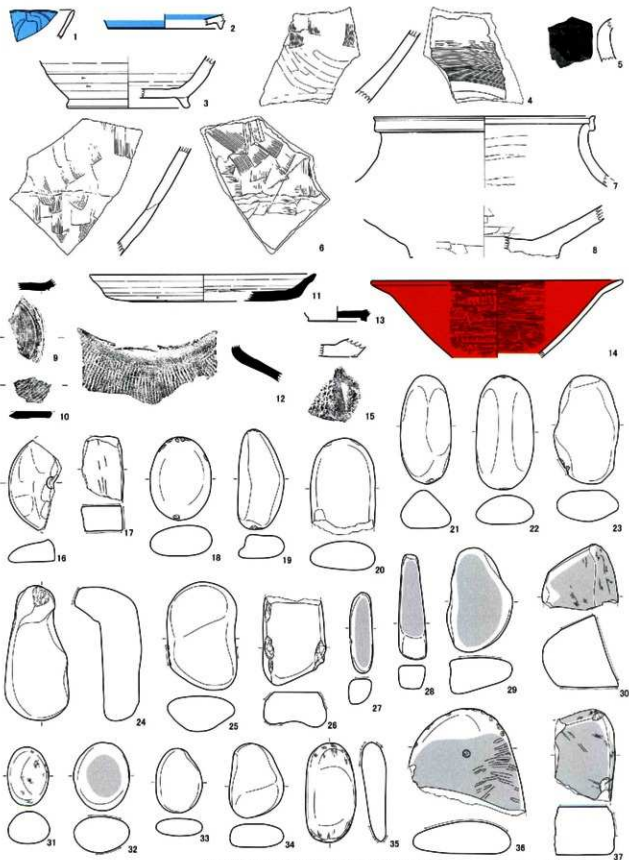
(11) M49(52-64)号溝状遺構

本址は調査区中央のIV・X・X1区を中心に検出された。D63号土坑を中心に北側の南北に伸びる溝をM64、南側に伸びる溝をM49、西側に伸びる部分をM52として調査した。いずれの遺構もD63号土坑よりは古い。規模はM49が検出長33.39m・最大幅1.84m・深さ0.21~0.47mを測る。M52は検出長7.89mで西端は自然に立ち上がる。幅は0.30m内外である。M64は検出長12.12m・幅は0.30m内外で、北端は自然に立ち上がる。溝底面の形状はM52とM64の部分については逆台形状を呈するが、M49の特々南側部分については凹凸が激しく、何本かの溝の集合体のような状況であった。これらの溝状遺構はD63の東側に伸びる検出長18.38mのM54も含め、同一あるいは有機的に結びついた溝状遺構と考えられ、溝の交差する部分に意識的にD63号土坑が築かれたと推定される。

これら遺構の出土遺物はM64より青磁碗、M52よりカワラケ等があり、中世の所産と考えられる。

(12) M27-28-29号溝状遺構

本址は調査区中央のX・X1区を中心に検出された。3本の溝はほぼ並行して東西方向に伸びる形状で検出されたが、M27号溝状遺構は西端で南に向かって曲がり、M28号溝状遺構は東端で二股に分かれ一本は北方向に伸びている。規模はM27が検出長90.52m・幅1.63~2.64m・深さ0.53~0.81mを測る。高低差は西の方が0.72m程低かった。M28の規模は検出長73.47m・幅0.27~0.97m・深さ0.14~0.38mを測る。高低差は南の方が0.57m低かった。M29の規模は検出長87.07m・幅0.26~1.98m・深さ0.12~0.69mを測る。高低差は南の方が0.84m低かった。いずれの溝も西側に比べ東側の方が面高整備などの削平を受けておらず、残存状況は良かった。溝の覆土はいずれも自然堆積



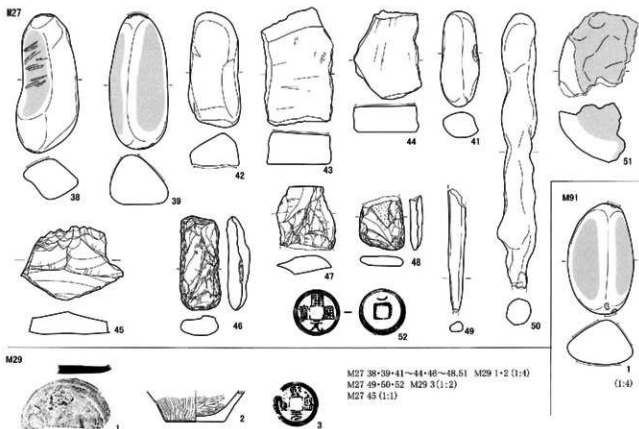
第116图 M27号溝状遺構出土遺物実測図

1~15-17~37 (1:1) 16 (1:2)

第41表 M27・29号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	材料	法 量			成 形 ・ 割 型 ・ 文 様		原産地() 埋 存 組 () 尖 頭 部	備 考	出土位置
			口径(長)	直径(幅)	底径(厚)	内 部	外 部			
M27	1	青磁	漆布文様	-	-	-	短脚	短脚	破片文様 13C	XW-3
	2	青磁	鉢	-	(12.2)	(1.8)	短脚	短脚	回転実割 13C後半 →14C前半 短足型	XW-4
	3	須恵質	瓦鉢鉢	-	(13.0)	(5.5)	ロコロナデ 自然軸付書 磨粒	ロコロナデ→底面外周部へラズリ→高台付書	回転実割 13C後半 底足型	XW-4
	4	須恵質	産?	-	-	-	ナデ→ハケナデ	ナデ ハケナデ	破片実割 13世紀代 北足型	IX-25
	5	須恵質	産?	-	-	-	ヨコナデ	自然軸付書	磨割実割 中世 青濁	XW-2
	6	須恵質	産?	-	-	-	ナデ ハケナデ	ナデ ハケナデ	破片実割 13世紀代 北足型	X-21
	7	海部	産	(23.1)	-	(7.5)	輪縁成形→ヨコナデ 自然軸付書	ヨコナデ 自然軸付書	回転実割 13C後半 北足型	X-21
	8	海部	産	-	-	(6.4)	ヘラナデ 自然軸付書	ナデ	回転実割 中世 青濁	XW-2
	9	須恵質	有台坪	-	-	(1.2)	ロコロナデ	底面外周部へラズリ→高台付書(高台欠損)	磨割実割 ヘラ型あり	X-23
	10	須恵質	不明	-	-	-	-	-	磨割実割 ヘラ型あり	XW-5
	11	須恵質	皿	(23.8)	(20.7)	(2.0)	ロコロナデ→みこみ部ナデ 狂産	ロコロナデ→底面外周部へラズリ	回転実割	X-21
	12	須恵質	異	-	-	-	磨粒ナデ→口縁ロコナデ	口縁ロコナデ 磨粒タタキ目	回転実割 磨粒外周部 口縁内面に自然軸付書	XW-1 M29 X-23 XW →検出
	13	須恵質	有台坪	-	(9.2)	(1.0)	ロコロナデ	ロコロナデ→底面外周部へ高台付書	磨割実割	XW-5
	14	赤土	鉢	(26.6)	-	(8.2)	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	回転実割	XW-3 カク ラン 4 XW-5 カクラン
M29	15	織文	鉢	-	-	-	ナデ	底面に網代あり	磨割実割	X-21
	16	須恵質	坪	-	-	(0.8)	ロコロナデ	ロコロナデ→底面外周部へラズリ	磨割実割 底面外周部 へラ型あり	X-25
	17	赤土	異	-	0.3	(0.3)	ミガキ	磨粒ミガキ 底面ミガキ	完全実割	X-25
M27	No.	種 別	材 質	最大径	最大幅	最大厚	重量	所 見	備 考	出土位置
	16	土製陶器	砂岩	4.5	3.7	1.2	12.69	径(左) 孔径(右) 磨粒ナデ		X-25
	17	磁石	砂岩	6.8	4.0	0.4	121.80	短脚部 左側→下側欠損		X-25
	18	磁石	砂岩	8.9	6.5	3.3	272.37	上端部に敲打痕		XW-3
	19	磁石	花崗岩	10.6	5.0	3.0	205.22	上下端部に敲打痕		XW-4
	20	?	輝石安山岩	(10.0)	(7.0)	(3.0)	(375.14)	下側欠損		
	21	磁石	輝石安山岩	11.6	5.4	4.2	344.06	下端部に敲打痕		X-24
	22	磁石	輝石安山岩	12.1	6.0	3.2	365.81	上下端部に敲打痕		X-22
	23	磁石?	石英安山岩	11.6	5.9	3.6	295.37	左側は敲打?		XW-2
	24	磁石	砂岩	14.3	6.7	6.3	692.39	先端部に敲打痕		X-23
	25	磁石	安山岩	11.6	7.4	3.7	467.67	両側に敲打痕		XW-4
	26	磁石	砂岩	(9.8)	(8.8)	(3.7)	662.34	上部欠損 両側に敲打痕		IX-25
	27	磁石	頁岩	8.6	2.8	2.8	88.74	正面にすり面		XW-3
	28	磁石	輝石安山岩	11.2	3.0	2.6	130.00	正面にすり面		X-23
	29	磁石	安山岩	11.1	8.9	3.8	497.92	正面にすり面		XW-6
	30	磁石	安山岩	(7.6)	(8.1)	(7.7)	(505.13)	下部欠損 正裏・右側にすり面		X-22
	31	磁石	輝石安山岩	6.3	4.4	3.6	123.59	半体にすり面		XW-1
	32	磁石	輝石安山岩	7.4	5.8	4.0	226.07	正裏にすり面		X-23
	33	?	砂岩	2.0	0.0	2.1	85.95			XVI-5
	34	?	花崗岩	8.0	5.8	2.6	156.90			XW-4
	35	磁石	砂岩	16.5	5.3	2.6	190.80	上下端部にすり面		IX-25
	36	磨石	砂岩	(11.3)	(12.3)	(4.0)	(693.84)	下部欠損 正面にすり面 浅い・赤痕あり 縁部に敲打痕		X-25
	37	磨石	安山岩	(9.7)	(8.6)	(5.3)	(644.27)	左側→下側欠損 正面・右側・上部にすり面		XW-2
	38	磨石	輝石砂岩	14.7	6.5	4.7	510.02	正面にすり面 浅い・赤痕あり 上下端部に敲打痕		XW-5
	39	磨石	安山岩	14.3	6.2	5.3	677.94	正面2ヶ所にすり面 上下端部に敲打痕		X-21
	40	磨石	輝石砂岩	16.1	4.1	2.8	163.01	右側は缺角?		XW-4
	42	?	須恵質	(12.2)	(5.0)	(4.0)	(341.41)	裏面欠損		XW-4
	43	台石	輝石安山岩	12.4	7.8	3.4	581.97	正面に使用痕		XW-3
	44	台石	安山岩	9.3	7.2	2.8	329.94	使用あり? 裏面付き磨石 正面に使用痕		XW-2
	45	磨石	輝石砂岩	2.9	2.3	0.6	2.56			XW-1
	46	打製石斧	輝石安山岩	8.9	4.4	2.1	116.98	金棒に磨痕		
	47	打製石斧	輝石砂岩	6.8	(5.2)	(2.0)	(95.72)	下部欠損		XW-1



第118図 M27・29・91号溝状遺構出土遺物実測図

第42表 M27・29・91号溝状遺構出土遺物観察表

No.	品名	材質	長さ	最大径	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
								層	見	
M27	48	打製石片	笠山石	15.7	14.7	1.20	44.55	上部欠損	刃部磨蝕	XV-5
	49	角釘	鉄	56.5	60.90	60.60	7.40	上下欠損		X-22
	50	不明	鉄	114.8	12.1	1.7	30.29	下部欠損	本体は方形か?	X-24
	51	鉄滓	鉄	9.6	8.4	0.20	413.64	約1/4残存?	断面付着 埋蝕形	IX-25
	52	古銭	銅	2.6	-	0.14	2.38	空形	東元通宝 621年(曾上月)	XV-3
M29	3	古銭	銅	2.4	-	0.15	2.42	空形	熊鷹元宝 1068(北宋)	X-23
M01	1	磨・砥石	輝石笠山石	11.7	7.0	4.9	547.14	正面2ヶ所と裏面にすり面	上下端部に磨打痕	XIV-2

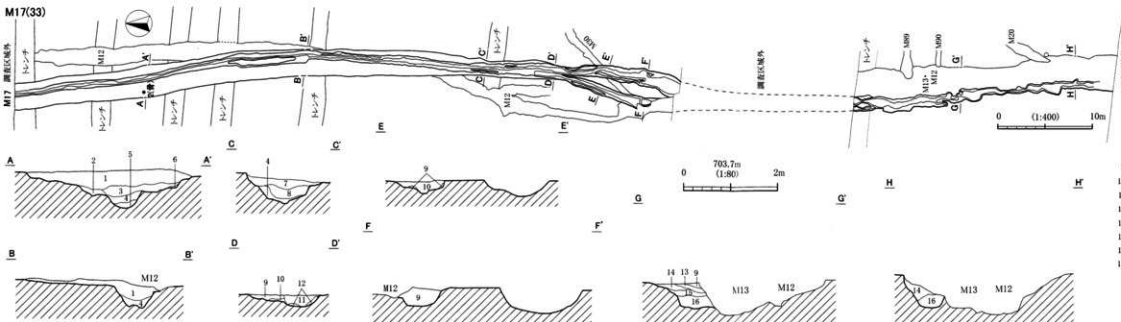
の状態で、底面は平坦であり、水の流れた様子はなかった。なお、M28号溝状遺構は東端の北側に曲がる部分でM29号溝状遺構と新旧関係が確認され、M28の方が古いと判明した。このことからこれら3本の溝は同時に併存したのではなく、M27とM29が同時に併存した可能性がある。このことは、先に述べたM1号溝状遺構とM2号溝状遺構の様子とよく似通っており、幅と深さの異なる大小の溝が間隔を置いて併存することが指摘できる。また、後述するM17・18号溝状遺構も含めて考えると、これらの溝はいずれも直角に交わることが予想される。

3箇所の遺構から出土した遺物は遺構によりその量が非常にばらつきがあった。M28・29号溝状遺構からはほとんど遺物は出土せず、M27号溝状遺構からの出土が非常に多かった。特にM27からは覆土中からの出土であるが、龍泉窯系青磁碗や尾張系の握ね鉢、常滑の甕、北関東系の壺等の破片が出土した。これら遺物はいずれも13世紀代から14世紀前半を示すもので、これらのことからM27・28・29号溝状遺構は中世前半の所産時期が考えられる。

(13) M17(33)・18・19・67・72号溝状遺構

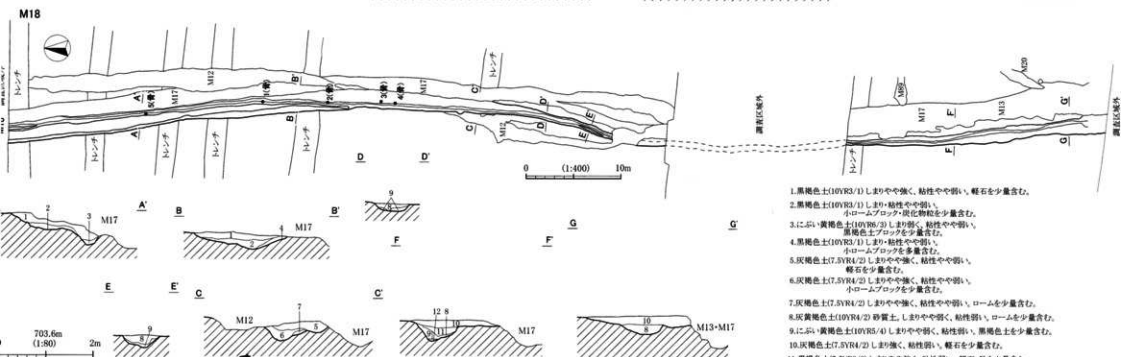
本址は調査区西側のV・VI・X I・X II・X VII・X VIII区を中心に検出された。調査区を南北方向に貫くように伸びており、表記した溝状遺構の新旧関係は、M17が一番新しく、M18・19・72が次で、M67が最も古い。このことから、これら溝状遺構は、調査区の西側から東側に向けて徐々に位置をずらしながら掘り込まれていることが予想される。なお、近世から近代の遺構と考えられるM12・13号溝状遺構もM17の東側に位置をずらして構築されており、時代をまたいでの

M17(33)



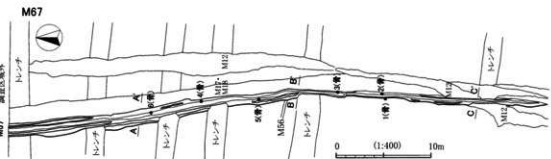
- 1.黒褐色土10V93(2) しまりやや強く、粘性やや強い、軽石を少量含む、
軽石・小ロームブロック・砂質土ブロックを少量含む。
- 2.黒褐色土10V93(1) しまり・粘性やや強い、小ロームブロックを少量含む。
- 3.黒褐色土10V93(1) しまり・粘性やや強い、粘土ブロックを多量含む、
を少量含む。
- 4.黒褐色土10V93(2) しまりやや強い、粘性やや強い、小ロームブロック
を少量含む。
- 5.黒褐色土10V93(1) しまりやや強く、粘性やや強い、小ロームブロックを
少量含む。
- 6.灰黄褐色土10V94(2) しまりやや強い、粘性やや強い、小ロームブロックを
少量含む。
- 7.灰黄褐色土10V94(2) しまりやや強く、粘性やや強い、軽石を少量含む。
- 8.黒褐色土10V93(2) しまり・粘性やや強い、7層の黄褐色土、
小ロームブロックを少量含む。
- 9.黒褐色土10V93(1) しまりやや強く、粘性やや強い、軽石を少量含む。
- 10.灰白色土10V95(1) しまり・粘性やや強い、ローム層がやや含む。
- 11.黒褐色土10V93(2) しまりやや強く、粘性やや強い、ロームを少量含む。
- 12.黒褐色土10V93(2) しまりやや強く、粘性やや強い、ロームを少量含む。
- 13.黒褐色土10V93(1) 砂質土、しまりやや強い、φ1~10mmを少量含む、粗砂、
軽石を少量含む。
- 14.黒褐色土10V93(1) しまりやや強い、φ1~10mmを少量含む。
- 15.黒褐色土10V94(1) しまりやや強い、粗砂。
- 16.黒褐色土10V94(1) 砂質土、しまり・粘性やや強い、φ1~10mmを少量含む。

M18



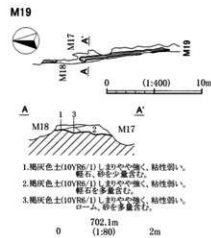
- 1.黒褐色土10V93(1) しまりやや強く、粘性やや強い、軽石を少量含む、
小ロームブロックを少量含む。
- 2.黒褐色土10V93(1) しまり・粘性やや強い、
小ロームブロックを少量含む。
- 3.いり・黄褐色土10V95(2) しまりやや強い、
粘性やや強い、
黒褐色土ブロックを少量含む。
- 4.黒褐色土10V93(1) しまり・粘性やや強い、
小ロームブロックを多量含む。
- 5.灰褐色土10V95(2) しまりやや強く、粘性やや強い、
軽石を少量含む。
- 6.灰褐色土10V95(2) しまりやや強く、粘性やや強い、
小ロームブロックを少量含む。
- 7.灰褐色土10V94(2) しまりやや強く、粘性やや強い、ロームを少量含む。
- 8.灰黄褐色土10V94(2) 砂質土、しまりやや強く、粘性やや強い、ロームを少量含む。
- 9.いり・黄褐色土10V95(4) しまりやや強く、粘性やや強い、黒褐色土を少量含む。
- 10.灰褐色土10V94(2) しまりやや強く、粘性やや強い、軽石を少量含む。
- 11.黒褐色土10V93(2) しまりやや強く、粘性やや強い、軽石・砂を少量含む。
- 12.灰黄褐色土10V95(2) しまりやや強い、粗砂を少量含む。

M67



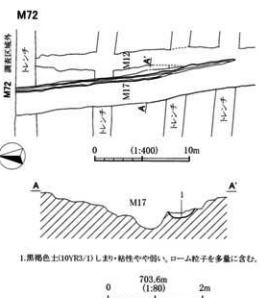
- 1.黒褐色土10V93(1) しまり・粘性やや強い、軽石を少量含む。
- 2.黒褐色土10V93(1) しまり・粘性やや強い、ロームブロックを少量含む。
- 3.黒褐色土10V93(1) 粘質土、しまりやや強く、粘性やや強い、ロームブロックを少量含む。
- 4.黒褐色土10V92(1) しまり・粘性やや強い、腐植物質を少量含む。
- 5.灰褐色土10V95(2) しまりやや強く、粘性やや強い、小ロームブロックを少量含む。

M19



- 1.黒褐色土10V93(1) しまりやや強く、粘性やや強い、
軽石を少量含む。
- 2.黒褐色土10V93(1) しまりやや強く、粘性やや強い、
軽石を少量含む。
- 3.黒褐色土10V93(1) しまりやや強く、粘性やや強い、
軽石を少量含む。

M72



- 1.黒褐色土10V93(1) しまり・粘性やや強い、ローム粒子を多量に含む。

第119図 M17(33)・18・19・67・72号溝状遺構実測図

関連性が指摘できる。

規模はM17が検出長129.59m、幅が0.40～3.45m、深さは0.23～0.90mを測る。溝底部はやや凹凸があり、覆土は自然堆積であった。溝の一部に二段に分かれる部分もあった。M18は検出長116.95m、幅0.56～2.57m、深さ0.15～0.73mを測る。溝底部はM17と同じく凹凸があり、覆土は自然堆積であった。いずれの溝状遺構も覆土中に砂層が確認され、水流の影響を受けていたと推定される。

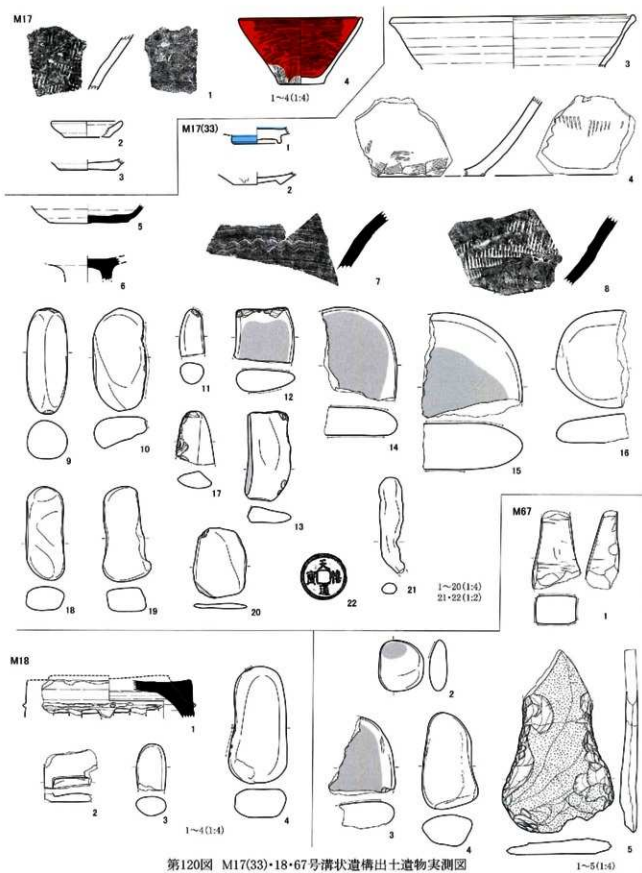
各遺構からは、覆土中を中心に遺物が出土した。M17からは図示した常滑の壺やカワラケ、龍泉窯系の青磁碗とともに、中津川系の握ね鉢片が出土した。また、M18からは硯片とともに古代の円面硯が出土した。欠損しているが形式の透かしを持つタイプの硯である。

これらの遺物から、ここに記載した溝状遺構は中世の所産と考えられる。

第43表 M17・33・18・67号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	形状	寸法(長)			内 径	外 径	備 考	出土位置		
			口徑(奥)	口徑(幅)	口徑(厚)						
M17	1	陶器	-	-	-	ヨコナデ	タタキ目	新製実測 中世 実測	I区		
	2	土師質	かわらけ	(7.4)	(4.7)	1.8	コクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り	新製実測	I区	
	3	土師質	かわらけ	-	(8.3)	(1.1)	コクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り	新製実測	II区	
	4	弥生	鉢	(13.2)	(4.0)	7.1	ミガキ→赤色塗彩	口縁ハケナデ→ミガキ→赤色塗彩 底部ナデ	新製実測	V区	
M33	1	青磁	碗	-	5.3	(1.7)	施釉	施釉	完全実測 13C 龍泉窯	XI-15	
	2	陶器	土瓶?	-	(5.0)	(1.3)	施釉(緑釉)	ロクロナデ→施釉(緑釉)	新製実測 13C 18C末 龍山	XI-15 XI-20 M5	
	3	新製実測	握ね鉢	(26.0)	-	(5.8)	ロクロナデ	自然焼付書	ロクロナデ 自然焼付書	新製実測 13C 藤中 中津川	XI-20
	4	新製実測	握り鉢	-	-	-	握り目を河む 磨石	ナデ	新製実測 13世 紀代 奥野稲産	V-25	
	5	新製実測	杯	-	8.5	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ 底部ヘラケズリ	完全実測		
	6	新製実測	底杯	-	-	(2.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測		
	7	新製実測	壺	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ 帯輪設法文	新製実測	XV-10	
	8	新製実測	甕	-	-	-	ロクロナデ	コクロナデ 平行タタキ	新製実測	M18V-20 M33-18 V-20	
M35	新製実測	円筒硯	-	-	(3.8)	コクロナデ	コクロナデ→透し 施成前穿孔	新製実測			
No.	種 別	資 材	最大径				所 見	出土位置			
			最大長	最大幅	最大厚	重量					
M33	9	磨石	輝石安山岩	11.2	4.3	4.1	281.27	上下両面に磨打痕	M18V-20		
	10	磨石	輝石安山岩	16.9	5.6	3.4	292.85	右側に磨打痕	M18V-15		
	11	磨石	砂岩	(5.0)	(2.7)	(2.2)	(37.3)	下部欠損 上部部に磨打痕	V-25		
	12	磨石	砂岩	(5.0)	(6.5)	(2.4)	(151.30)	下部欠損 上部部に磨打痕 正義にすり面			
	13	磨石	輝石安山岩	9.5	4.9	1.7	198.43	左側にすり面	M18V-16		
	14	磨石	輝石安山岩	(10.0)	(8.0)	(3.1)	(399.40)	被熱あり 裏面黒化	XI-15		
	15	磨石	輝石安山岩	(11.4)	(10.7)	(5.1)	(501.36)	被熱あり? 両面黒化 左側→下部欠損 正義にすり面	XI-15		
	16	?	砂岩	(10.3)	(7.8)	(3.2)	(306.34)	右側欠損	XI-10		
	17	?	理砂頁岩	(3.7)	(4.1)	(1.6)	(50.45)	下部欠損 上部→左側に割開痕	XI-10		
	18	磨物石	砂岩	10.6	4.1	2.6	168.27		XI-15		
	19	磨物石	輝石安山岩	19.2	3.6	2.5	200.87		XI-20		
	20	磨石	手収持	7.5	3.7	0.6	34.87		XI-20		
	21	角釘?	鉄	(5.1)	1.2	1.2	(8.17)	下部欠損			
	22	古鏡		2.81	-	0.11	2.06	地銘 天鏡造堂 1617(北朝)	XI-15		
	M18	2	硯	板板岩	(4.2)	(5.6)	(1.2)	(34.28)	裏面と両面欠損	XIV-21	
		3	?	砂岩	(5.6)	(3.1)	(2.2)	(41.63)	下部欠損	XI-40	
		4	磨石	8007a1	12.4	6.2	3.5	438.64	右側と上部部に磨打痕	XI-5	
	M37	1	磨石	輝石岩	(8.2)	(5.0)	(3.2)	(153.00)	被熱度4 上下欠損 4面とも磨痕と条痕あり	V-21	
		2	磨石	砂岩	3.4	4.8	1.9	79.55	正義にすり面	V-21	
		3	磨石	石英安山岩	(6.4)	(7.0)	(2.9)	(212.41)	右側→下部→裏面欠損 正義にすり面	XI-15	
		4	?	2207a2	19.2	5.9	3.7	318.46		北朝	
		行梨石片	輝石安山岩	(19.5)	11.9	1.8	(386.96)	上部欠損 遺構間接合あり	XI-5 M16		

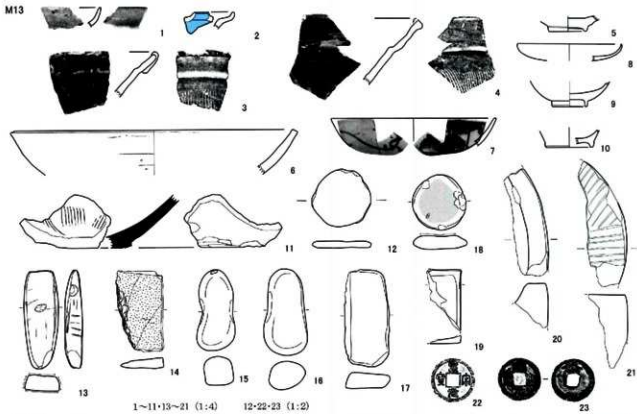


第120图 M17(33)·18·67号溝状遺構出土物実測図

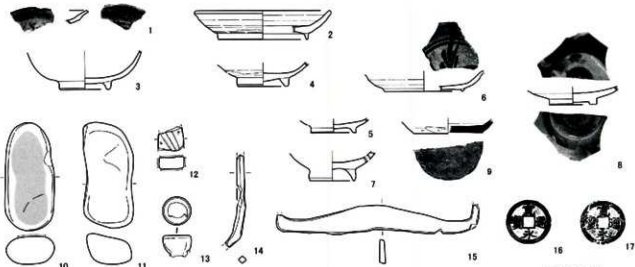
(14) 近世以降の溝状遺構

今回の調査では近世以降の所産と考えられ溝状遺構が前述のように18本検出された。これらの溝のうち調査区を南北方向に貫くように伸びるM12 (55) は圃場整備前に存在した道路の脇にあった水路と重なる。また、M30 (60)・31・32・36 (58・59)・62は圃場整備前の旧水田地割と重なる部分が多く、これらに付随した水路や地割遺構と考えられる。

また、これらの溝から出土した遺物も古代から中世のものも含まれるが、17～18世紀代の伊万里染付や在地の前山窯製品が多く出土した。ただ、M55から出土した(第123図M55-25)瓦は欠損しているものの、八弁複葉の所謂「川原田寺式」軒丸瓦と考えられ、注目される遺物である。



M13(14)

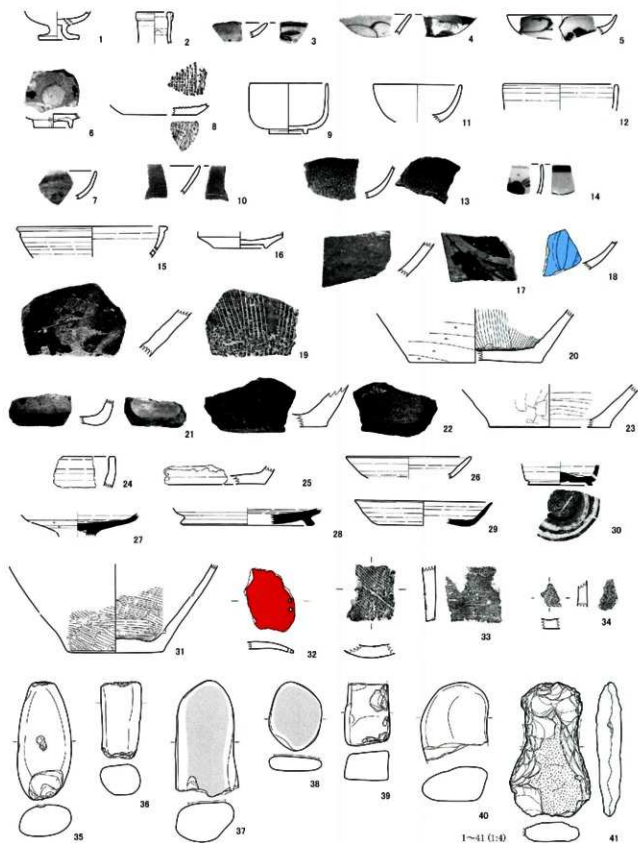


第121図 M13(14)号溝状遺構出土遺物実測図

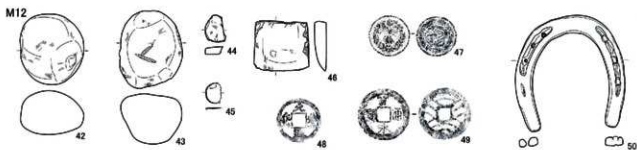
第44表 M13-14号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

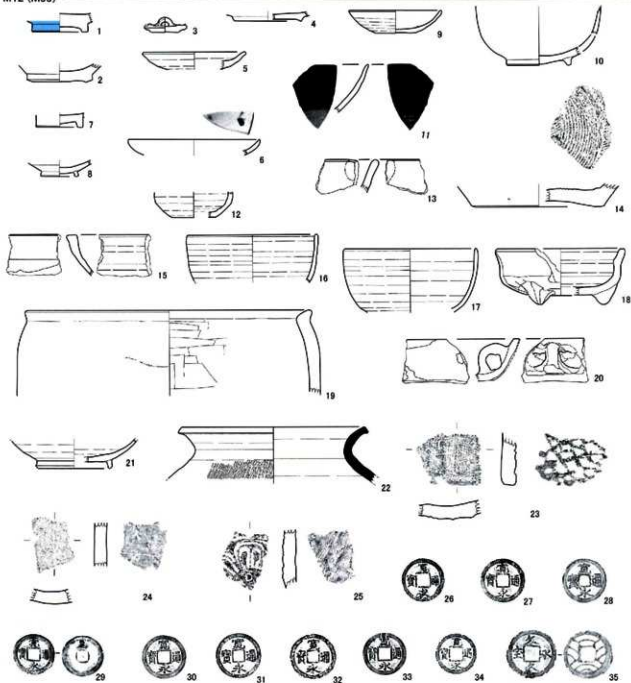
No.	種類	種類	法 量			内 容		形状・数量・文様	埋藏層() 埋存層() 出土位置	
			口径(横)	底径(横)	高さ(深)	内 容	外 容			
M13	1	陶器	志野丸皿	-	-	-	瓦輪(灰緑)	瓦輪(灰緑)	新田実測 17C前半 瀬戸実測	
	2	青磁	鉢	-	-	-	底輪	底輪	破片実測 13C 瀬戸実測 Ⅱ区	
	3	陶器	すり鉢	-	-	-	すり目を刻む→底輪(鉄輪)	コクロナダ→底輪(鉄輪)	新田実測 18C末→19C前 前山Ⅰ区	
	4	陶器	すり鉢	-	-	-	すり目を刻む→底輪(鉄輪)	コクロナダ→底輪(鉄輪)	新田実測 18C末→19C前 前山Ⅱ区	
	5	磁器	皿	-	4.0	(1.0)	コクロナダ→底輪	コクロナダ→底輪	完全実測 17C中層 伊万里 染付Ⅱ区	
	6	陶器	すり鉢	(20.4)	-	(4.7)	コクロナダ	コクロナダ→ヘラケズリ	同船実測 13C後半 常滑 V区	
	7	磁器	皿	(17.4)	-	(3.0)	コクロナダ→底輪(染付)	コクロナダ→底輪(染付)	同船実測 18C末→19C前 伊万里V層 Ⅱ区	
	8	磁器	皿	(11.0)	-	(1.8)	コクロナダ→底輪	コクロナダ→底輪(染付)	同船実測 18C末→19C前 伊万里V層 Ⅱ区	
	9	磁器	碗	-	(3.0)	(2.7)	コクロナダ→底輪	コクロナダ→底輪(染付)	同船実測 18C末→19C前 伊万里V層 V区	
	10	磁器	碗	-	(4.0)	(1.8)	コクロナダ→底輪	コクロナダ→底輪(染付)	同船実測 18C末→19C前 伊万里V層 Ⅱ区	
	11	須恵質土	すり鉢	-	-	-	すり目を刻む 遺残	ナデ	破片実測 13C後半→14C 長野県Ⅱ区	
M14	1	磁器	志野織部丸皿	-	-	(1.4)	底輪(灰緑 筋線あり)	底輪(灰緑 筋線あり)	新田実測 17C 瀬戸実測 Ⅰ区	
	2	磁器	皿	(14.4)	(9.4)	3.1	コクロナダ→底輪 (灰緑ツケがけ)	コクロナダ→高台部分→底輪(灰緑ツケがけ)	同船実測 Ⅰ区 18C末→19C前	
	3	磁器	丸碗	-	(5.4)	(4.1)	底輪(灰輪)	底輪(灰輪)	同船実測 貫入系 18C末→19C前瀬戸実測Ⅱ区必須	
	4	磁器	丸碗	-	5.5	(2.5)	底輪(灰輪)	コクロナダ→底輪(灰緑)	完全実測 18C末→19C前 前山Ⅱ区	
	5	磁器	丸碗	-	(4.0)	(1.5)	底輪	底輪	完全実測 18C末→19C前 前山Ⅱ区必須	
	6	磁器	志野織部丸皿	-	(9.2)	(2.2)	底輪(灰輪 筋線あり)	底輪(灰輪)	同船実測 17C 瀬戸実測 Ⅰ区	
	7	磁器	鉢形手鉢	-	6.0	(3.2)	底輪	底輪	同船実測 17C後半 権津 Ⅰ区	
	8	磁器	輪切手皿	-	(6.0)	(1.3)	筋線(陶輪?)	コクロナダ→高台部分出し→底輪(灰輪・筋線?)	同船実測 18C前半 権津 Ⅰ区	
	9	須恵質土	坪	-	(7.2)	(1.5)	コクロナダ	コクロナダ→底輪と底面外周手持ちヘラケズリ	同船実測 18C 底面外側にヘラ記号あり XXXIV-10	
No.	種 類	用 材	最大径	最大径	最大厚	重 量	所 見	出土位置		
M13	12	内被	土製品	3.1	3.1	0.20	5.00	ヘラケズリ 土師器製の二次利用 遺跡	Ⅱ区	
	13	磁石	緑色凝灰岩	10.4	3.6	1.8	101.92	磁石数4	V区	
	14	打製石斧	輝石安山岩	8.7	(5.0)	(1.1)	(72.18)	左側以外欠損 左側に磨痕あり	Ⅱ区1層	
	15	磨石	輝石安山岩	8.6	4.1	3.1	175.11		Ⅱ区	
	16	磨石	輝石安山岩	9.2	4.6	3.0	201.49		Ⅱ区	
	17	?	輝石安山岩	(10.4)	(4.0)	(1.7)	(146.68)	一筋欠損	V区	
	18	磨石	安山岩	5.9	5.5	1.5	99.88	正面にすり面	V区	
	19	赤巾ら	土製	86.0	(26.0)	(9.0)	(14.20)	1網を復して欠損 縁部分も剥落か	V区	
	20	粉砕き臼 上臼	安山岩	(11.4)	(4.7)	高さ (9.2)	(188.14)	径不明 上縁部分	Ⅱ区	
	21	粉砕き臼 下臼	安山岩	(13.2)	(5.1)	高さ (9.2)	(329.34)	径不明 すり合わせ部分	Ⅱ区	
	22	古銭	銅	2.37	-	0.1	2.37	貨幣 慶永元宝 1161年	Ⅱ区	
	23	古銭	銅	2.32	-	0.12	2.11	貨幣 不明	Ⅱ区	
	M14	10	磨石	輝石安山岩	11.5	5.3	3.2	319.65	正面にすり面	Ⅱ区
		11	磨石	輝石安山岩	11.3	5.3	3.8	353.42		Ⅰ区
		12	磁石	凝灰岩	(2.6)	(2.6)	(1.3)	(14.16)	磁石数4 上下欠損 正面に磨痕の痕あり	Ⅰ区
		13	磨石	銅	1.5	1.5	0.1	(1.52)	下部欠損	Ⅱ区
		14	内釘	鉄	(5.0)	(6.0)	(0.2)	(2.82)	上下欠損	Ⅱ区
15		内釘ち金具	鉄	19.7	1.8	0.3	(13.01)	一筋欠損	Ⅱ区	
16		古銭	銅	2.4	-	0.12	2.50	貨幣 寛永通宝(古)	Ⅱ区1層	
17	古銭	銅	2.4	-	0.17	2.69	貨幣 寛永通宝(古)	Ⅱ区1層		



第122图 M12号沟状遗物出土遗物实测图

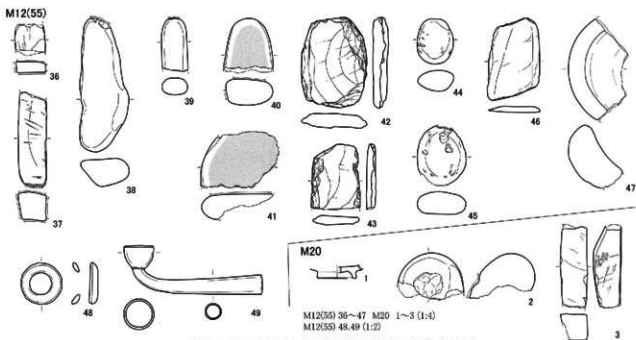


M12 (M55)



第123图 M12(55)号溝状遺構出土遺物実測図

M12 47~49 M12(M55) 26~35 (1:2)
M12 42~46.50 M12(M55) 1~25 (1:1)

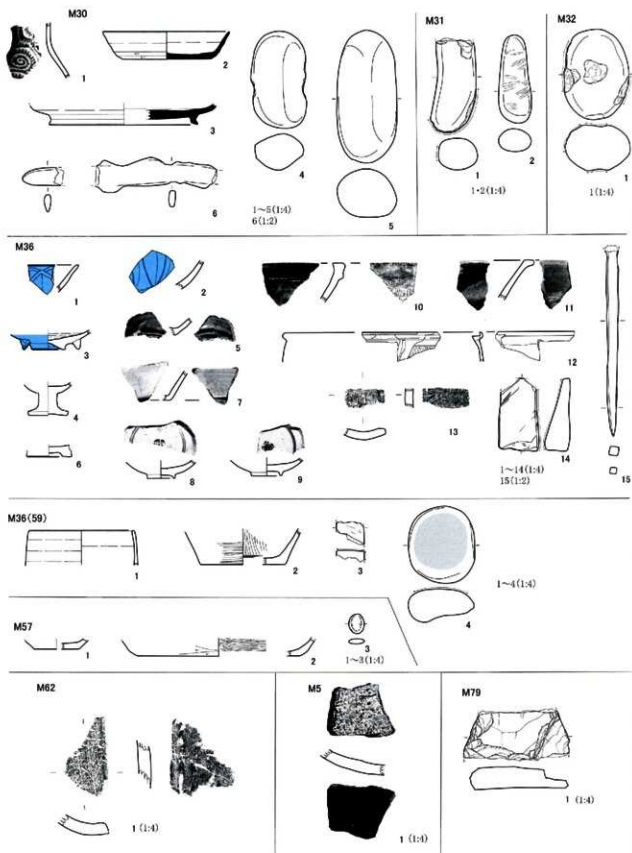


第124図 M12(55)・20号溝状遺構出土遺物実測図

第45表 M12号溝状遺構出土遺物観表

(cm)

No.	種別	種類	数量			成形・磨削・文様		発定地(＜) 保存地(＞) 出土位置	
			口径(長)	直径(幅)	厚高(厚)	内面	外面		
1	陶器	仏眼	-	(4.3)	(3.0)	施釉(灰釉)	施釉(灰釉)	完全未発掘 前山 18C末~19C初	I区
2	陶器	佛利	(4.0)	-	(3.0)	口縁に施釉(灰釉)	施釉(灰釉)	同前実測 前山 18C末~19C初	II区
3	陶器	滑石製佛眼	-	-	-	施釉(灰釉)→鉄粉	施釉(灰釉)	前山実測 前山 17C前半 瀬戸実測	XXIII-10
4	陶器	皿	-	-	-	コクロナダー→施釉(灰付)	コクロナダー→施釉(灰付)	前山実測 前山 18C末~19C初 伊万型 V期	II区
5	陶器	皿	(11.0)	-	(2.1)	コクロナダー→施釉(灰付)	コクロナダー→施釉(灰付)	同前実測 前山 18C末~19C初 伊万型 V期	I区
6	陶器	皿	-	-	(1.5)	コクロナダー→施釉(灰釉)	コクロナダー→施釉(灰釉)	同前実測 前山 17C後 伊万型 V期	I区
7	陶器	小瓶	-	-	-	コクロナダー→施釉(緑釉?)	コクロナダー→施釉(緑釉)	前山実測 前山 18C末~19C初	II区
8	陶器	おろし皿	-	-	-	おろし目 施釉(灰釉)	コクロナダー→底面内切り	同前実測 前山 18C末 宮崎 伊万型 V期	II区
9	陶器	虎耳瓶	(13.4)	(4.0)	5.4	施釉(鉄釉)	縦文様を作る一ロ辺のみ施釉(鉄釉)	同前実測 前山 18C末 瀬戸実測	II区
10	陶器	虎耳手瓶	-	-	-	施釉	施釉	前山実測 前山 17C後 伊万型 V期	XXIII-10
11	陶器	碗	(9.4)	-	(4.0)	コクロナダー→施釉	コクロナダー→施釉(灰付)	前山実測 前山 18C末~19C初 伊万型 V期	II区
12	陶器	碗	(12.2)	-	(2.8)	コクロナダー→施釉(灰釉)	コクロナダー→施釉(灰釉)	前山実測 前山 18C後 瀬戸実測	II区
13	陶器	兵器手瓶	-	-	-	施釉	施釉	前山実測 前山 17C 伊万型 V期	II区
14	陶器	碗	-	-	-	コクロナダー→施釉(灰付)	コクロナダー→施釉(灰付)	前山実測 前山 18C末~19C初 伊万型 V期	II区
15	陶器	片口鉢	(16.0)	-	(3.2)	コクロナダー→施釉(灰釉)	コクロナダー→施釉(灰釉)	同前実測 前山 18C末~19C初 瀬戸実測	XXIII-25 M14 I区
16	陶器	鉢	-	(8.8)	(1.7)	コクロナダー→施釉(鉄釉)	底面と底面外周部へクワズリ→施釉(鉄釉)	同前実測 前山 18C末~19C初 瀬戸実測	XXIII-10
17	陶器	鉢	-	-	-	施釉(鉄釉-鉄釉)	施釉(鉄釉)	前山実測 前山 瀬戸実測	II区
18	青磁	連弁文瓶	-	-	-	施釉	施釉	前山実測 前山 13C 瀬戸実測	XXIII-25
19	陶器	覆り鉢	-	-	-	覆り目を突く→施釉(緑釉)	ヘクワズリ→施釉(緑釉)	前山実測 前山 18C末~19C初 瀬戸実測	XXIII-25
20	陶器	覆り鉢	-	(12.0)	(3.8)	覆り目を突く→施釉(緑釉)	覆り目を突く→施釉(緑釉) 底面外周部へクワズリ→施釉(緑釉)	同前実測 前山	



第125图 M30·31·32·36(59)·57·62·5·79号沟状遗構出土遺物実測図

第46表 M12・55号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	種類	法 量			成 形 ・ 器 型 ・ 文 様		想定層() 埋存層() 丸高●	備 考	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	筒高(厚)	内 面	外 面			
M12	21	陶器	意	-	-	-	ロクロナデ→瓦輪(灰輪)	ロクロナデ→瓦輪(灰輪)	弥生前期 18C末~19C初 甬山	Ⅱ区
	22	陶器	意	-	-	(4.5)	ロクロナデ 自然輪付着	タタキ目 瓦部外周ヘラケズリ	弥生前期 中世 常滑	XXⅡ-10
	23	陶器	意	-	(12.8)	(4.8)	ロクロナデ 滑り 自然輪付着	ナデ	弥生前期 中世 常滑	上層カクラン
	24	土師瓦	土編	-	-	(3.4)	ロクロナデ	板片瓦割		I区
	25	土師瓦	土編	-	-	(1.8)	ロクロナデ	ロクロナデ ナデ	板片瓦割 13C 鹿島堂	I区
	26	土師瓦	かわらけ	(13.2)	-	(2.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	弥生前期	XXⅡ-10
	27	原器器	開弁	-	-	(2.6)	ロクロナデ→みこみ形覆輪付工具によるナデ	コクロナデ→中輪ヘラケズリ	完全実美	Ⅱ区
	28	原器器	看台坪	-	(14.2)	(1.8)	ロクロナデ	コクロナデ→瓦部外周ヘラケズリ→高台付付	弥生前期	I区
	29	原器器	坪	(14.4)	(9.8)	2.6	ロクロナデ	コクロナデ 自然輪付着	弥生前期	I区
	30	原器器	壺	-	(8.8)	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ→瓦部外周ヘラケズリ→高台付付	弥生前期 みこみ部に自然輪付着	I区
	31	弥生	壺	-	19.2	(9.4)	ハケ目	胴部ミガキ 底部ミガキ	完全実美	Ⅱ区 XXⅡ-10 3Ⅱ区
	32	弥生	壺	-	-	-	ミガキ	ミガキ→赤色地帯 施成有穿孔	鏡片実美	I区
	33	瓦質	平瓦	(8.6)	(8.4)	(1.4)	ナデ	菅目板		
	34	瓦質	平瓦	(2.8)	(2.0)	(1.1)	ナデ	菅目板		上層カクラン
M12	No.	種 別	種 類	材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置
	35	礎石	輝石安山岩	12.7	5.7	3.5	361.97		上下階部に敲打痕	I区
	36	礎石	砂岩	8.2	4.3	3.5	200.54		上下階部に敲打痕	IV区
	37	礎石	板硝子安山岩	(12.4)	(6.7)	(4.3)	925.10		下部欠損 正面にすり面	I区
	38	礎石	硬質砂岩	7.3	3.6	1.8	106.57		正面にすり面	XXⅡ-10
	39	礎石	頁岩	(6.7)	(4.8)	(3.2)	(190.97)		上部欠損 枕形による剥離が不明	IV区
	40	?	輝石安山岩	(8.4)	(7.1)	(3.8)	(223.51)		下部欠損	
	41	打製石斧	輝石安山岩	14.4	8.5	2.2	324.65		両面につぶれ状の痕	Ⅱ区
	42	磨石製品	輝石	7.5	6.7	4.7	143.72		全体にすり	XXⅡ-10
	43	磨石製品	輝石	8.3	6.7	5.4	223.26		全体にすり 条痕あり	XXⅡ-10
	44	磨石製品	輝石	(2.9)	(2.2)	(0.8)	(3.23)		右側欠損 全体にすり	上層カクラン
	45	磨石	硬質砂岩	(2.2)	(1.6)	(0.15)	(9.71)		右側一側面欠損	XXⅡ-10
	46	刀鋸	石英閃緑岩	5.4	5.9	1.3	81.38		片刃の刀鋸 敲打状の痕跡あり	Ⅱ区
	47	古銭	銅	2.2	-	0.1	2.85		銭 完全	Ⅲ区
	48	古銭	銅	2.37	-	0.08	2.08		完全 宗豊通宝 1979年	
	49	古銭	銅	2.81	-	0.12	3.93		完全 寛永通宝 同文銭 1769年	
	50	銅貨	銅	12.4	11.7	1.9	182.42		孔と裏が残る	
M55	No.	種 別	種 類	法 量	成 形 ・ 器 型 ・ 文 様		想定層() 埋存層() 丸高●		備 考	出土位置
				口径(長)	底径(幅)	筒高(厚)	内 面	外 面		
	1	青磁	碗	-	(5.8)	(2.0)	瓦輪	瓦輪	弥生前期 13C~14C 鹿島堂	XI-5
	2	白磁	碗	-	-	-	瓦輪		弥生前期 11C~12C 中世 IV区	
	3	陶器	蓋	-	-	(1.6)	ロクロナデ→中輪糸切り	つまみ足付→瓦輪(灰輪)	完全実美 18C末~19C初 甬山	
	4	陶器	志野瓦皿	-	(7.2)	(1.6)	瓦輪	瓦輪	弥生前期 17C後半 藤戸実美	XXⅡ-21
	5	陶器	皿	(11.6)	-	(1.8)	瓦輪(灰輪)	瓦輪(灰輪)	弥生前期 18C末~19C初 甬山	XI-5
	6	磁器	皿	(14.0)	-	(1.7)	ロクロナデ→瓦輪(灰付)	ロクロナデ→瓦輪	弥生前期 17C後半 妙方里 豆焼	Ⅱ区
7	陶器	丸碗	-	4.9	(1.3)	瓦輪(鉄輪ツケガキ)	遠形中輪ヘタ切り→瓦輪(鉄輪ハケムリ)	完全実美 藤戸実美 18C末~19C初		
8	陶器	小碗	-	(4.6)	(1.7)	瓦輪	瓦輪	弥生前期 18C末~19C初 甬山	XXⅡ-21	

第47表 M56号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	造 量			成形・調整・文様		埋藏地() 埋存層() 発掘層	調査	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	胴径(厚)	内 径	外 径			
9	陶器	灯明皿	9.8	4.2	2.4	ロコロナデ→施釉(漆喰ツケ)	ロコロナデ→底径同径赤切り→施釉(上部ツケ 下部ヘケム?)	完全実測 内面底面に トナシ痕残る 18C末 →19C初 西山?		
10	陶器	丸瓶	-	(6.8)	(6.3)	施釉(灰釉)	施釉(灰釉)	部分実測 18C末→19C 初 瀬戸実造		
11	陶器	大目茶碗	-	-	(5.1)	施釉(漆釉)	ロコロナデ→施釉(漆釉)	断面実測 15C後半 吉備戸 後葬IV層		
12	陶器	壺類	-	(4.6)	(2.7)	ロコロナデ→施釉(漆釉)	ロコロナデ→施釉(漆釉)	部分実測 18C末→19C初 前山	XI-5	
13	陶器	親ね鉢	-	-	-	ロコロナデ	ロコロナデ	破片実測 窪き口あり 15C後半 尾張	XI-5	
14	陶器	罎り鉢	-	(14.6)	(2.4)	罎り目を刻む→施釉(漆釉)	底径外周同径ヘケム付 底面赤切り→施釉 (漆釉)	部分実測 18C末→19C初 前山		
15	瓦質土器	壺	-	-	-	ロコロナデ	ロコロナデ	破片実測 近次	XI-5	
16	陶器	丸瓶 (14.0)	-	-	(5.1)	施釉(灰釉)	施釉(灰釉)	部分実測 18C末→19C初 前山		
17	陶器	丸瓶	-	-	(6.8)	施釉(灰釉)	施釉(灰釉)	部分実測 18C末→19C初 前山	V-20 XX I-樽塚	
18	瓦質土器	香炉 (12.8)	(12.8)	6.0	ロコロナデ	ロコロナデ→腰貼付	部分実測 15C→16C	V-20		
19	土師質	土碗 (30.2)	-	-	(9.1)	ロコロナデ	ナデ	部分実測 近世		
20	土師質	内耳	-	-	-	耳貼付	ナデ	破片実測 赤褐色い じぎ		
21	陶器	灰釉碗	-	(7.4)	(2.1)	ロコロナデ 施釉(ツケガケ)	ロコロナデ 底径同径ヘケム付後周貼付 施釉(ツケガケ)	部分実測		
22	須志器	壺 (18.4)	-	-	(6.0)	ロコロナデ	ロコロナデ 平行タタキ	部分実測		
23	瓦質	平瓦 (5.4)	(5.4)	(1.5)	タタキ	ナデ	表面積			
24	瓦質	平瓦 (4.6)	(4.6)	(1.6)	ナデ	表面積				
25	瓦質	軒瓦正	-	-	(1.5)	ナデ	型押し(川原寺式)	表面積	XI-5	
No.	種 別	質 材	最大径	最大幅	最大厚	重 量	所 見			出土位置
26	古銭	銅	2.5	-	0.1	2.12	完全 寛永通宝(新)			
27	古銭	銅	2.53	-	0.1	2.51	完全 寛永通宝(新)			
28	古銭	銅	2.57	-	0.12	2.94	完全 寛永通宝(古)			
29	古銭	銅	2.2	-	0.1	1.94	完全 寛永通宝(新)			
30	古銭	銅	2.4	-	0.15	3.53	完全 寛永通宝(古)			XI-10
31	古銭	銅	2.34	-	0.14	3.08	完全 寛永通宝(新)			XII-21
32	古銭	銅	2.43	-	0.16	3.52	完全 寛永通宝(古)			
33	古銭	銅	2.3	-	0.13	2.90	完全 寛永通宝(新)			XI-5
34	古銭	銅	2.19	-	0.09	1.51	完全 寛永通宝(新)			
35	古銭	銅	2.66	-	0.12	2.88	完全 文久永楽(御室) 1863年			
36	磁石	磁鉄石	(3.4)	(3.2)	(1.2)	(20.88)	磁面数4 上下欠損			
37	磁石	磁鉄石	(10.0)	(3.1)	(2.1)	(161.60)	磁面数4 上部欠損			
38	磁石	輝石安山岩	14.2	6.2	2.0	289.85	上層部に欠損			
39	磁石	砂岩	(5.8)	(2.8)	(1.8)	(45.01)	下部欠損 上層部に欠損			
40	磁石	流紋岩安山岩	(5.9)	(5.2)	(2.8)	(158.61)	下部欠損 正面と左面にすり面			
41	磁石	輝石安山岩	(6.0)	(5.3)	(2.9)	(148.64)	左側以外欠損 正面にすり面			
42	打撃石斧	輝石安山岩	9.6	7.0	1.5	144.13				
43	打撃石斧	輝石安山岩	(6.9)	(5.2)	(1.0)	(37.81)	下部欠損 全体に磨耗			
44	?	安山岩	4.9	3.8	2.2	38.95	金欠にすり			XI-5
45	軽石製品	軽石	(6.3)	(5.2)	(2.3)	(98.22)	一線欠損			XI-5
46	原石	千枚岩	8.6	5.8	0.7	49.95				
47	原石	安山岩	(10.7)	(6.3)	高さ (6.7)	(291.89)	最大径(12.4) 約1/4欠損			
48	銅製品 小刀	銅	最大径 2.2	最大径 1.1	高さ 0.5	4.66	磨耗 0.25			
49	銅製品 淨管	銅	7.4	2.5	-	9.23	先端径1.5 厚さ0.1 管径1.9 厚さ0.05			

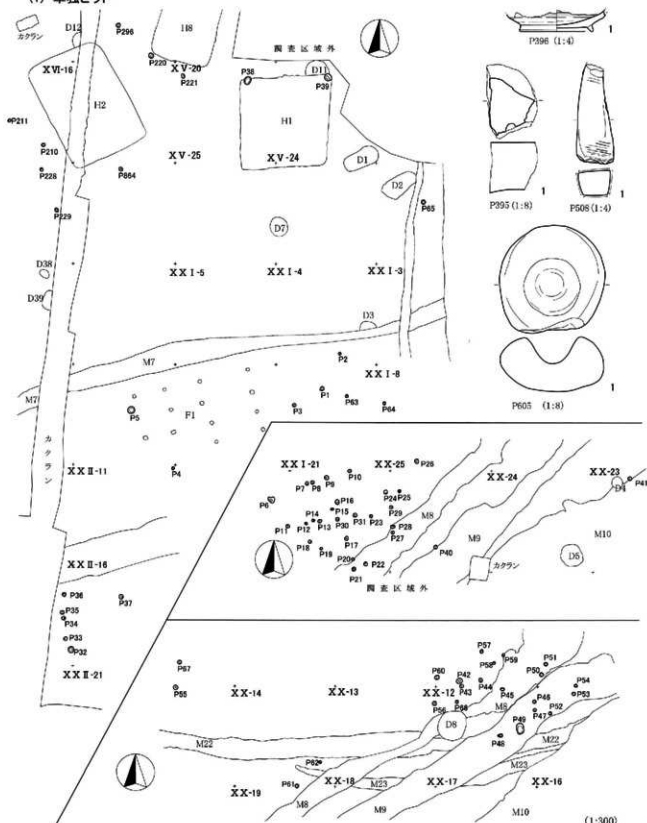
第48表 M20・30～32・36・57・59・62・5・79号溝状遺構出土遺物観察表

(cm)

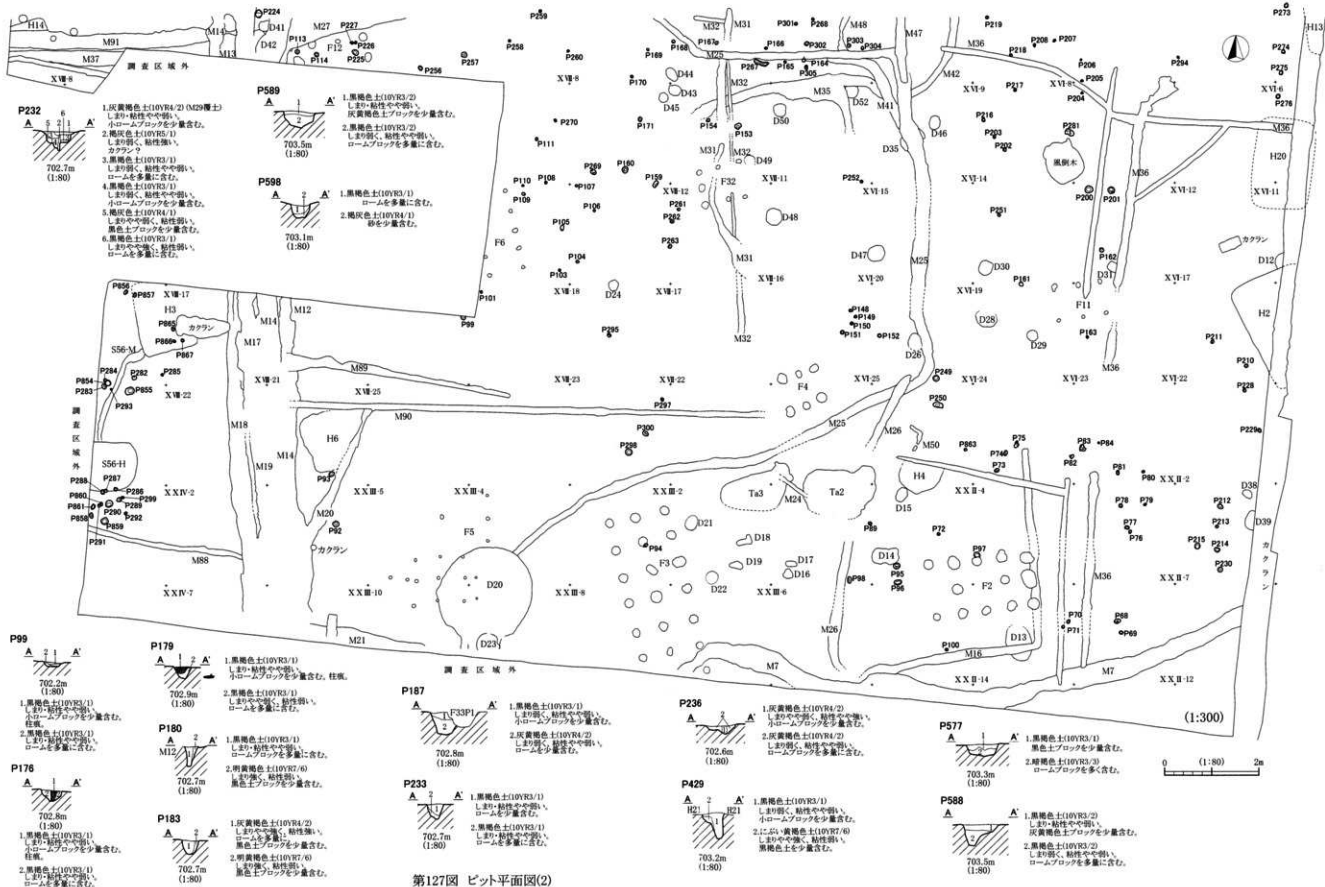
No.	種別	形状	寸法			内容	形状・調整・文様	所見	出土位置
			口径(長)	底径(幅)	高さ(厚)				
M20	1	陶器	餅分けの皿	-	(4.2)	(1.4)	施釉(灰緑 鉄軸)	施釉(灰緑 鉄軸)	昭和実測 18C後半 瀬戸実測
M30	1	磁器	皿	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ→施釉(染付)	昭和実測 18C末～19C 前 伊万里 V期
	2	須恵器	坪	(33.4)	(9.4)	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ 灰釉及び体部下縁に施へウケズリ	昭和実測
	3	須恵器	坪	-	(15.6)	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ 灰釉に施へウケズリ→高台足付	昭和実測 X-20
M60	1	青磁	蓮弁文瓶	-	-	-	施釉	施釉	昭和実測 13C 観音堂 瀬戸実測 XV-7
	2	青磁	蓮弁文瓶	-	-	-	施釉	施釉	昭和実測 13C 観音堂 瀬戸実測 XV-7
	3	青磁	香炉	-	3.6	(2.6)	施釉	施釉	完全実測 13C代 瀬戸実測 XV-7
	4	磁器	仏瓶	-	(4.6)	(3.5)	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→施釉(染付)	完全実測 18C末～19C 前 伊万里 V期 瀬戸実測 XV-7
	5	陶器	内瓦皿	-	-	-	施釉(灰釉)	ロクロナデ→高台足付→施釉(灰釉)	昭和実測 18C末 瀬戸 実測 大塚IV-V 瀬戸実測 XV-7
	6	陶器	瓶	-	4.8	(1.3)	施釉(鉄軸)	施釉(鉄軸)	完全実測 18C末～19C 前 瀬戸 実測 XV-7
	7	磁器	瓶	-	-	-	施釉	施釉	昭和実測 18C末～19C 前 瀬戸 実測 XV-7
	8	磁器	瓶	-	(3.0)	(1.9)	ロクロナデ→施釉(染付)	ロクロナデ→施釉(染付)	昭和実測 18C末～19C 前 伊万里 V期 瀬戸実測 XV-22
	9	磁器	瓶	-	(3.2)	(1.9)	ロクロナデ→施釉(染付)	ロクロナデ→施釉(染付)	昭和実測 18C末～19C 前 伊万里 V期 瀬戸実測 XV-7
	10	陶器	盛り鉢	-	-	-	盛り目を付いた施釉(鉄軸)	ロクロナデ→施釉(鉄軸)	昭和実測 19C 瀬戸 実測 XV-7
	11	陶器	鉢	-	-	-	施釉	施釉	昭和実測 18C末～19C 前 瀬戸 実測 XV-7
	12	磁器	行平鉢	(21.2)	-	(3.1)	ロクロナデ→施釉(鉄軸)	ロクロナデ→模成磨穿孔→注ぎ口貼付(注ぎ口 欠損)→施釉(鉄軸)	昭和実測 18C末～19C 前 瀬戸 実測 XV-7
	13	瓦葺	平瓦	(2.9)	(4.5)	(1.2)	ナデ	有目直	昭和実測 18C末～19C 前 瀬戸 実測 XV-7
M57	1	土師質	かわもけ	-	(4.8)	(1.1)	ナデ	ナデ 灰釉に施点切り	昭和実測
	2	土師質	ほうろく	-	(17.6)	(1.9)	ヘラミガキ	ヘラケズリ	昭和実測
M59	1	陶器	瓶	(11.4)	-	(3.7)	施釉(灰緑)	施釉(灰緑)	昭和実測 18C末～19C 前 瀬戸 実測 XV-7
	2	陶器	盛り鉢	-	(9.0)	(3.8)	盛り目を付いた施釉(鉄軸)	ヘケ目の残るナデ・底部糸切り→施釉(鉄軸)	昭和実測 18C末～19C 前 瀬戸 実測 XV-7
M52	1	瓦葺	平瓦	(5.6)	(5.3)	(2.1)	ナデ	有目直	XI-21
M5	1	陶器	壺	-	-	-	自然釉付着	施釉 成形→ナデ	昭和実測 中世 常滑
No.	種別	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置	
M20	2	灰石	輝石安山岩	(5.9)	(6.9)	(5.8)	(232.99)	下部欠損 正面に施打痕	
	3	凝石	凝灰岩	(9.9)	(2.8)	(2.8)	(99.44)	縦面数4 上下欠損 右側と裏面に糸痕	
	4	凝物石	砂岩	10.4	4.0	3.8	330.19	両側に狭り	
M20	5	凝物石	輝石安山岩	14.1	6.4	5.2	690.38		
	6	万子	鉄	(2.2) (6.4)	(9.9) (1.2)	(6.6) (0.7)	(1.38) (9.72)	先鋒部 両端欠損 同一個体か 基部	X-20
M51	1	凝石	安山岩	(18.2)	(4.9)	(3.4)	(226.72)	上部欠損 左側にすり面 右側下部に施打痕	XIV-11
	2	凝石	輝石砂岩	9.4	3.5	2.5	105.35	全体にすりか 正裏に残り糸痕	XIV-11
M52	1	凝石	輝石安山岩	9.5	6.9	5.2	461.19	正裏と両面に施打痕	XIV-6
M56	14	凝石	砂岩	(7.8)	(4.3)	(2.6)	(194.43)	縦面数2(正裏・右側) 上部欠損	XIV-7
	15	角釘	鉄	(16.1)	(6.7)	(6.5)	(99.97)	縦面欠損	XIV-7
M57	3	凝石	凝灰砂岩	3.1	1.7	6.5	2.82	全体にすり	
M59	3	凝石	凝灰砂岩	(2.6)	(3.0)	(1.3)	(10.22)	縦面数2 上下→裏面欠損	
	4	凝石	砂岩	8.2	7.0	3.5	318.78	正面にすり面	
M59	1	打製石片	安山岩	(5.3)	(11.2)	(2.3)	(284.11)	上下欠損	

第6節 ピット・杭列状遺構

(1) 単独ピット



第126図 ピット平面図(1)及び出土遺物実測図



第127図 ピット平面図(2)



第128図 ビット平面図(3)

(1:300)

第49表 ビット計測表(1)

測番号	出土前期	供出	期	深	形	出土遺物	備考	測番号	出土前期	期	深	形	出土遺物	備考
P1	XX-1-8	26.0	26.9	14.5	円形	雑色土(1093/2) 黒色土ブロック		P63	XX-1-8	23.8	23.5	23.8	円形	1. 深い黄褐色土(1094/2)砂・ローム 2. 緑褐色土(1093/2)砂・ローム
P2	XX-1-3	21.3	20.3	13.5	円形	赤土層		P64	XX-1-7	24.9	23.0	11.3	円形	深い黄褐色土(1094/3)砂・ローム
P3	XX-1-8	26.2	27.2	19.5	円形	緑褐色土(1093/2) 黒色土ブロック		P65	XX-22	24.0	22.7	6.9	円形	深い黄褐色土(1094/2)砂を多く含む
P4	XX-1-15	24.2	20.4	8.2	円形	緑褐色土(1093/2) 黒色土ブロック		P66	XX-11	24.8	23.6	32.6	円形	黄褐色土(1093/1)しまり、粘りあり
P5	XX-1-16	28.7	25.2	15.7	円形	緑褐色土(1093/2) 黒色土ブロック		P67	XX-9	33.4	29.3	18.7	円形	中軟
P6	XX-1-21	56.7	47.1	16.6	不整形	灰黄色土(1094/2)しまりあり、赤色粘土を含む		P68	XX-II-7	02.0	02.0	04.0	楕円形	赤土層
P7	XX-20	28.2	24.2	17.8	円形	灰黄色土(1094/2)		P69	XX-7	02.0	02.0	03.0	不整形	黄褐色土(1093/1)しまり、粘りあり、ロームが多いため、層ごとくはなれている
P8	XX-20	30.6	27.4	25.6	円形	灰黄色土(1094/2)		P70	XX-II-8	02.0	02.0	01.0	方形	黄褐色土(1093/1)
P9	XX-20	35.6	31.7	21.2	円形	灰黄色土(1094/2)		P71	XX-II-8	02.0	02.0	02.0	方形	黄褐色土(1093/1)
P10	XX-20-2	29.6	24.6	14.1	円形	灰黄色土(1094/2)		P72	XX-II-4	23.6	21.1	9.0	円形	黄褐色土(1093/1)ロームを多く含む
P11	XX-21	29.1	26.3	19.2	円形	黄褐色土(1094/1)炭化物を含む		P73	XX-21	08.8	08.1	08.6	楕円形	黄褐色土(1093/1)砂を含む
P12	XX-21	22.5	19.5	12.1	楕円形	黄褐色土(1094/1)		P74	XX-21	08.8	02.6	80.2	楕円形	黄褐色土(1093/1)
P13	XX-20	32.0	25.8	18.7	円形	黄褐色土(1094/1)		P75	XX-21	06.9	20.9	22.1	不整形	黄褐色土(1093/1)
P14	XX-20	25.1	19.9	13.2	円形	黄褐色土(1094/1)		P76	XX-21	08.7	17.8	38.8	不整形	黄褐色土(1093/1)
P15	XX-20	25.6	17.2	8.0	楕円形	黄褐色土(1094/1)		P77	XX-21	03.7	26.8	11.2	円形	黄褐色土(1093/1)
P16	XX-20	38.8	33	20.2	円形	黄褐色土(1094/1)		P78	XX-II-2	28.0	28.4	13.1	円形	黄褐色土(1093/1)
P17	XX-20	34.3	27.6	22.6	楕円形	黄褐色土(1094/1)炭化物を含む		P79	XX-II-2	23.6	17.5	4.0	円形	黄褐色土(1093/1)
P18	XX-20	38.8	26.7	25.4	円形	黄褐色土(1094/1)		P80	XX-22	22.6	19.2	1.4	円形	黄褐色土(1093/1)
P19	XX-20	21.5	19.2	20.6	円形	黄褐色土(1094/1)		P81	XX-22	28.0	23.4	10.9	不整形	黄褐色土(1093/1)
P20	XX-20	24.3	21.9	20.2	円形	黄褐色土(1094/1)		P82	XX-21	35.1	27.9	36.2	不整形	黄褐色土(1093/1)
P21	XX-20	31.2	29.9	37.1	円形	黄褐色土(1094/1)		P83	XX-21	07.2	48.7	64.6	不整形	黄褐色土(1093/1)
P22	XX-25	30.5	28	30.5	円形	黄褐色土(1094/1)		P84	XX-9	13.0	12.8	8.9	円形	黄褐色土(1093/1)
P23	XX-25	24.8	23.8	25.9	円形	黄褐色土(1094/1)		P85	XX-II-6	29.3	23.9	11.8	円形	黄褐色土(1093/1)
P24	XX-25	31.8	29.1	29.0	円形	黄褐色土(1094/1)		P86	XX-II-6	51.7	31.6	21.7	楕円形	黄褐色土(1094/1)
P25	XX-24	23.9	25.1	18.2	円形	黄褐色土(1094/1)		P87	XX-19	08.0	03.0	11.8	楕円形	セリフ状(深部)に層説明あり
P26	XX-19	36.4	28.2	24.3	方形	黄褐色土(1094/1)		P88	XX-II-9	24.8	19.6	26.0	楕円形	黄褐色土(1093/1)
P27	XX-21	25.7	24.8	31.0	円形	黄褐色土(1094/1)		P89	XX-II-9	23.4	18	34.0	楕円形	黄褐色土(1093/1)しまり、粘性強い、(深部)は土質
P28	XX-24	32.2	23.5	26.6	楕円形	黄褐色土(1094/1)		P90	XX-13	19.7	17.8	9.5	円形	黄褐色土(1093/1)
P29	XX-24	26.8	26.1	22.7	円形	黄褐色土(1094/1)		P91	XX-12	20.1	21.7	10.1	円形	黄褐色土(1093/1)砂
P30	XX-25	29.5	27.8	18.1	円形	黄褐色土(1094/1)砂・砂を多く含む		P92	XX-12	18.9	17.6	7.0	円形	灰黄色土(1094/2)しまり強い
P31	XX-25	32.4	30	21.6	円形	黄褐色土(1094/1)砂・砂を多く含む		P93	XX-12	19.3	17.7	10.7	円形	黄褐色土(1093/1)
P32	XX-II-6	49.5	44.8	13.6	円形	黄褐色土(1094/1)砂・砂を多く含む		P94	XX-II-4	58.5	56.9	31.8	方形	赤土層
P33	XX-II-6	31.8	27.1	66.6	円形	黄褐色土(1094/1)砂・砂を多く含む		P95	XX-II-4	49.8	43.7	25.8	円形	黄褐色土(1094/1)しまり粘性強い
P34	XX-II-16	30.8	30.3	72.6	円形	赤土層		P96	XX-II-4	58.5	56.9	31.8	方形	赤土層
P35	XX-II-16	33.7	28.7	9.8	円形	黄褐色土(1094/1)砂・砂を多く含む		P97	XX-II-0	61.7	43.1	38.8	円形	灰黄色土(1094/1)
P36	XX-II-16	30.8	30.5	40.0	円形	黄褐色土(1094/1)砂・砂を多く含む		P98	XX-II-0	51.7	31.6	21.7	楕円形	赤土層
P37	XX-1-20	35.8	32.5	78.3	円形	黄褐色土(1094/1)砂・砂を多く含む		P99	XX-19	08.0	03.0	11.8	楕円形	セリフ状(深部)に層説明あり
P38	XX-V-19	65.9	49.9	126	楕円形	黄褐色土(1093/2)		P100	XX-II-9	23.4	18	34.0	楕円形	黄褐色土(1093/1)しまり、粘性強い、(深部)は土質
P39	XX-V-18	56.0	53.1	40.3	円形	黄褐色土(1093/2)		P101	XX-13	19.7	17.8	9.5	円形	黄褐色土(1093/1)
P40	XX-24	30.6	27.4	20.8	円形	黄褐色土(1094/1)砂		P102	XX-12	20.1	21.7	10.1	円形	黄褐色土(1093/1)砂
P41	XX-20	31.3	29.8	13.7	円形	黄褐色土(1094/1)砂・砂を多く含む		P103	XX-13	44.8	28.7	50.7	楕円形	黄褐色土(1093/1)砂
P42	XX-6	49.4	41.1	20.7	円形	黄褐色土(1094/1)		P104	XX-12	18.9	17.6	7.0	円形	灰黄色土(1094/2)しまり強い
P43	XX-6	32.2	25.5	32.7	円形	黄褐色土(1094/1)		P105	XX-12	19.3	17.7	10.7	円形	黄褐色土(1093/1)
P44	XX-6	34.5	28.6	21.0	円形	黄褐色土(1094/1)		P106	XX-13	24.8	22.5	9.2	円形	黄褐色土(1093/1)
P45	XX-11	30.9	25.6	12.9	円形	赤土層		P107	XX-13	17.4	15.9	9.2	円形	黄褐色土(1093/1)
P46	XX-11	27.4	25.7	25.3	円形	灰黄色土(1094/2)		P108	XX-9	24.1	17.8	8.9	円形	黄褐色土(1093/1)
P47	XX-11	26.5	24.8	18.0	円形	黄褐色土(1094/2)		P109	XX-13	28.5	22.7	36.8	楕円形	黄褐色土(1093/1)
P48	XX-11	29.2	24.3	16.2	楕円形	灰黄色土(1094/2)炭化物を含む		P110	XX-13	17.4	15.9	9.2	円形	黄褐色土(1093/1)
P49	XX-11	83.9	67.3	33.9	方形	赤土層		P111	XX-9	25.4	23.0	29.7	円形	黄褐色土(1093/1)
P50	XX-10	32.4	27.8	26.9	円形	灰黄色土(1094/2)炭化物を含む		P112	XX-18	21.8	16.5	13.1	不整形	黄褐色土(1093/1)
P51	XX-10	29.3	27.4	17.8	円形	灰黄色土(1094/2)		P113	XX-18	33.6	29.4	21.4	円形	黄褐色土(1093/1)
P52	XX-16	26.0	25.6	12.7	円形	灰黄色土(1094/2)		P114	XX-17	24.8	29.2	12.5	円形	黄褐色土(1093/1)
P53	XX-16	29.4	24.4	17.4	円形	灰黄色土(1094/2)		P115	XX-21	02.0	04.2	24.1	円形	黄褐色土(1094/1)炭化物を含む
P54	XX-10	29.3	23.0	16.3	円形	灰黄色土(1094/2)		P116	XX-12	60.6	05.9	23.8	円形	赤土層
P55	XX-14	35.5	34.5	19.9	円形	灰黄色土(1094/2)		P117	XX-12	60.6	05.9	23.8	円形	赤土層
P56	XX-12	35.9	32.9	21.3	円形	灰黄色土(1094/2)炭化物を含む		P118	XX-12	06.0	06.0	04.0	楕円形	黄褐色土(1093/1)
P57	XX-4	29.8	22.0	11.2	円形	灰黄色土(1094/2)炭化物を多く含む		P119	XX-12	06.0	06.0	04.0	楕円形	黄褐色土(1093/1)
P58	XX-4	24.0	19.9	21.0	円形	灰黄色土(1094/2)炭化物を多く含む		P120	XX-12	25.3	22.5	14.3	円形	黄褐色土(1093/1)
P59	XX-6	25.2	20.6	6.3	円形	灰黄色土(1094/2)炭化物を多く含む		P121	XX-17	02.0	02.0	02.0	楕円形	黄褐色土(1093/1)
P60	XX-6	38.9	32.6	13.6	円形	灰黄色土(1094/2)		P122	XX-18	21.8	16.5	13.1	不整形	黄褐色土(1093/1)
P61	XX-13-18	2.0	27.0	11.9	円形	灰黄色土(1094/2)炭化物を含む		P123	XX-18	33.6	29.4	21.4	円形	黄褐色土(1093/1)
P62	XX-13	22.3	21.2	8.9	円形	深い黄褐色土(1094/3)炭化物を含む		P124	XX-17	24.8	29.2	12.5	円形	黄褐色土(1093/1)
								P125	XX-20	102.1	54.9	16.0	方形	赤土層
								P126	XX-6	37.6	32.8	16.4	円形	黄褐色土(1094/1)ローム粘土を含む
								P127	XX-13	28.8	34	13.8	円形	黄褐色土(1094/1)
								P128	XX-13	24.1	17.7	13.6	方形	黄褐色土(1094/1)
								P129	XX-18	35.9	23.5	23.5	楕円形	黄褐色土(1093/1)
								P130	XX-12	23.2	19.4	23.5	方形	黄褐色土(1093/1)
								P131	XX-8	25.1	18.8	18.2	円形	黄褐色土(1094/1)

第50表 ビット計測表(2)

調査 番号	出土層 名	長さ	短径	深さ	形 態	出土遺物 層位関係	備 考	調査 番号	出土層 名	長さ	短径	深さ	形 態	出土遺物 層位関係	備 考		
P133	XII-8	20.4	18.3	11.2	円形		焼灰土(10794/1)	P207	XV-9	26.5	17.2	15.2	楕円形		焼灰土(10794/1)		
P134	XII-8	23.8	17.6	9.1	方形		焼灰土(10794/1)	P208	XV-9	28.2	17.9	9.4	楕円形		焼灰土(10794/1)		
P135	XII-7	54.2	16.5	6.5	円形		黒褐色土(10793/1)	P209	XV-10	30.4	26.2	24.0	円形		焼灰土(10794/1)		
P136	XII-7	28.9	28.3	33.6	円形		黒褐色土(10793/1)	P210	XV-10	27.3	28.6	25.3	円形		焼灰土(10794/1)		
P137	XII-8	18.9	13.9	7.3	円形		焼灰土(10794/1)	P211	XV-10	27.3	28.6	25.3	円形		焼灰土(10794/1)		
P138	XII-2	20.0	17.7	17.7	円形		焼灰土(10794/1)	P212	XX-II	47.4	34.6	38.5	楕円形	縄文(加 蓋あり)	黒褐色土(10933/1)		
P139	XII-2	25.9	22.0	14.5	円形		黒褐色土(10933/1)	P213	XX-II	1	25.3	22.2	12.8	円形		黒褐色土(10933/1)ローム粒子多い。	
P143	XII-21	45.2	41.0	51.7	楕円形	赤生土 F33より古	黒褐色土(10933/1)しまり・ 粘性やや強い ロームブロックを多数含む。	P214	XX-II	1	44.9	35.6	9.1	円形		黒褐色土(10933/1)	
P144	XII-21	53.9	48.0	6.8	円形		黒褐色土(10933/1)しまり・ 粘性やや強い。ロームを少量含む。	P215	XX-II	1	48.9	41.7	25.2	円形		黒褐色土(10933/1)ローム粒子多い。	
P149	XV-20	59.7	20.1	21.4	円形		焼灰土(10794/1)しまり強い。	P216	XV-9	28.4	23.9	15.2	円形			黒褐色土(10933/1)	
P149	XV-20	25.6	21.9	17.0	円形	赤生土	焼灰土(10794/1)	P217	XV-9	22.8	21.5	18.7	不整形			焼灰土(10934/1)	
P150	XV-20	25.7	22.9	24.0	円形		焼灰土(1094/1)	P218	XV-3	24.0	20.1	31.2	円形			焼灰土(1094/1)	
P151	XV-20	30.6	29.3	20.9	円形	赤生土	焼灰土(1094/1)	P219	XV-3	22.4	22.4	23.2	円形			焼灰土(1094/1)	
P152	XV-19	30.2	28.1	23.1	円形		焼灰土(1094/1)	P220	XV-15	40.7	37.1	33.8	円形			焼灰土(10794/1)	
P153	XV-6	51.9	43.2	20.3	不整形	赤生土	焼灰土(1094/1)	P221	XV-19	37.0	25.9	23.4	楕円形			焼灰土(1094/1)	
P154	XV-6	29.9	23.1	25.7	円形	赤生土	焼灰土(1094/1)	P222	XI-25 XII-21	37.5	31.9	9.5	-	M09より古		粘性やや強い。 ロームブロックを少量含む。底の下。	
P157	XV-7-12	58.1	32.5	30.9	楕円形		黒褐色土(10927/1)しまり強く、 粘性あり。	P223	XV-6	38.3	33.1	12.4	円形	赤生土 高環		黒褐色土(10933/1)しまり・粘性 やや強い。少ローム ブロック・炭化物を少量含む。	
P160	XV-7	53.6	45.4	51.3	円形		黒褐色土(10927/1)	P224	XV-1	62.7	53.1	34.4	楕円形	土曜跡 環状溝		緑灰色土(065/1)しまり強く、粘性 強い。粗砂を多数含む。	
P161	XV-18	35.7	31.7	37.6	円形		焼灰土(10933/1)	P225	XV-6	52.8	42.2	18.0	円形			黒褐色土(10933/1)しまり弱く、 粘性やや弱い。	
P162	XV-12	31.4	29.7	28.1	円形		焼灰土(10933/1)	P226	XV-6	37.7	19.5	7.1	不整形	土曜跡		黒褐色土(10933/1)を少量含む。	
P163	XV-17	21.4	18.1	11.3	円形		焼灰土(10934/1)ロームブロック を含む。	P227	XV-6	23.6	18.3	6.9	不整形	土曜跡		黒褐色土(10933/1)しまり弱く、 粘性やや強い。 小ロームブロックを少量含む。	
P164	XV-5	28.9	25.3	37.4	円形	赤生土 M2より古	灰黄褐色土(10905/2)しまり・ 粘性あり。	P228	XV-21	26.1	24.9	21.2	円形	赤生土		焼灰土(10934/1)	
P165	XV-5	25.2	18.0	19.0	円形		灰黄褐色土(10905/2)	P229	XV-21	26.0	26.2	19.1	円形			黒褐色土(10932/1)を少量含む。	
P166	XV-1	25.1	18.3	18.4	円形		黒褐色土(10933/1)	P230	XX-II	1	41.1	38.6	11.4	円形			黒褐色土(10933/1)しまり・粘性や や強い。ロームを少量含む。
P167	XV-1	28.9	24.6	29.7	円形	赤生土	黒褐色土(10933/1)	P231	XV-6	17.0	16.5	21.9	円形			小ロームブロックを少量含む。	
P168	XV-1	26.1	25.5	22.0	円形		黒褐色土(10933/1)	P232	XI-23	111.0	72.3	45.6	不整形	伊より古 F26より新		セクション中・土曜跡あり。	
P169	XV-2	20.3	20.5	15.4	円形		黒褐色土(10933/1)	P233	XI-23	41.8	35.4	31.0	円形	F28より新		セクション中・土曜跡あり。	
P170	XV-2	23.2	23.3	17.7	円形		黒褐色土(10933/1)	P234	XI-23	49.7	35.4	34.2	不整形			黒褐色土(10933/1)しまり強く、粘性 やや強い。ロームを少量含む。	
P171	XV-7	37.6	29.7	14.7	不整形		黒褐色土(10933/1)しまり・ 粘性やや強い。 小ロームブロックを少量含む。	P235	XI-23	56.1	51.9	26.4	楕円形			黒褐色土(10933/1)しまり弱く、 粘性やや強い。 ロームブロックを多数含む。	
P172	XII-21	41.6	29.8	51.7	楕円形		黒褐色土(10933/1)しまり強く、 粘性やや強い。 小ロームブロックを少量含む。	P236	XI-22-23	117.4	85.6	42.0	不整形	赤生土 M2より古		セクション中・土曜跡あり。	
P173	XII-21	23.9	18.7	10.4	楕円形	M12より古	焼灰土(10934/1)しまり強く、 粘性やや強い。 小ロームブロックを少量含む。	P140	XI-24	23.5	22.8	11.6	円形			黒褐色土(10933/1)しまり・ 粘性やや強い。 小ロームブロックを少量含む。	
P174	XV-2	30.2	23.3	10.7	円形		焼灰土(10934/1)しまり・ 粘性やや強い。粗砂を少量含む。	P141	XI-23	32.6	24.0	12.5	楕円形			黒褐色土(10933/1)しまり・粘性 やや強い。 ロームを多数含む。	
P175	XV-2	45.8	38.1	28.4	円形	赤生土 M19より新	黒褐色土(10933/1)	P142	XI-23	36.9	49.8	18.1	円形			明焼灰土(10192/2)しまり弱く、粘性 やや強い。 黒褐色土(10933/1)を少量含む。	
P176	XV-2	47.9	44.3	24.6	円形	D34より新	セクション中・土曜跡あり。	P143	XV-4	23.0	19.5	13.5	不整形			明焼灰土(10192/2)しまり弱く、粘性 やや強い。 小ロームブロックを少量含む。	
P177	XII-2	22.6	22.1	16.7	円形		焼灰土(10934/1)	P240	XI-23	33.9	26.3	11.9	楕円形	F23・ F25 より古		黒褐色土(10933/1)しまり やや弱く、粘性やや強い。 小ロームブロックを少量含む。	
P178	XII-2	21.2	20.2	8.2	円形		焼灰土(10934/1)	P241	XV-19	30.2	47.1	25.9	円形	赤生土		黒褐色土(10933/1)しまり・粘性 やや強い。 黒褐色土(10932/1)を少量含む。	
P180	XII-21	34.3	31.3	43.0	円形	M12より古	セクション中・土曜跡あり。	P242	XV-19	26.2	20.0	7.6	円形	赤生土		焼灰土(10934/1)	
P181	XII-21	29.0	18.2	35.7	円形	M18より古	灰黄褐色土(10904/2)しまり やや強く、粘性やや強い。 ロームブロックを多数含む。	P243	XI-23	32.9	32.0	9.3	不整形			黒褐色土(10933/1)しまり・粘性 やや強い。 ロームを多数含む。	
P182	XII-21	32.7	18.7	8.6	-	環状跡 M12より古	黒褐色土(10933/1)しまり強く、粘性 やや強い。ロームを少量含む。	P244	XV-4	23.0	19.5	13.5	不整形			明焼灰土(10192/2)しまり弱く、粘性 やや強い。 黒褐色土(10933/1)を少量含む。	
P183	XII-21	37.7	33.9	27.3	円形		セクション中・土曜跡あり。	P245	XI-23	33.9	26.3	11.9	楕円形	F23・ F25 より古		黒褐色土(10933/1)しまり やや弱く、粘性やや強い。 小ロームブロックを少量含む。	
P185	XI-25	31.0	30.3	41.4	不整形	F33・M3 より古	灰黄褐色土(10905/2)しまり・ 粘性やや強い。 ロームを多数含む。粗砂を少量含む。	P246	XV-19	30.2	47.1	25.9	円形	赤生土		黒褐色土(10933/1)しまり・粘性 やや強い。 黒褐色土(10932/1)を少量含む。	
P187	XI-25	35.8	28.7	46.1	楕円形	赤生土 F33より古	セクション中・土曜跡あり。	P247	XV-21	26.0	26.2	19.1	円形			黒褐色土(10933/1)しまり・粘性 やや強い。 ロームを多数含む。	
P188	XII-21	33.4	29.6	37.0	円形		にぶ・褐色土(10925/2)しまり やや強く、粘性やや強い。 黒色土ブロックを少量含む。	P248	XV-19	26.2	20.0	7.6	円形	赤生土		焼灰土(10934/1)	
P189	XI-25	38.9	38.6	3.8	不整形	赤生土 F23 より古	黒褐色土(10933/1)しまり・ 粘性やや強い。 少ロームブロックを少量含む。	P249	XI-17	28.0	32.9	9.3	円形	M10・M18 より古		黒褐色土(10933/2)	
P190	XV-12	62.2	56.8	28.2	円形	F39より古	黒褐色土(10933/1)	P250	XI-17	28.0	32.9	9.3	円形	M10・M18 より古		黒褐色土(10933/2)	
P191	XV-12	51.5	51.2	29.4	円形		黄褐色土(10935/6)	P251	XV-19	26.2	20.0	7.6	円形			焼灰土(10934/1)	
P202	XV-6	27.3	23.8	29.6	円形		黒褐色土(10933/1)	P252	XV-4	46.5	44.5	15.2	方形			灰黄褐色土(10906/2)しまりやや 強く、粘性強い。ロームを少量含む。	
P203	XV-8	24.9	20.6	12.6	円形		黒褐色土(10935/1)	P253	XV-4	46.5	44.5	15.2	方形			灰黄褐色土(10906/2)しまりやや 強く、粘性強い。ロームを少量含む。	
P204	XV-7	15.8	15.8	6.8	不整形		焼灰土(10934/1)	P254	XV-3	20.6	19.4	7.7	円形			黒褐色土(10933/1)しまり弱く、 粘性やや強い。 小ロームブロックを少量含む。	
P205	XV-2	21.6	18.3	12.9	円形		焼灰土(10934/1)										
P206	XV-2	15.2	13	8.7	円形		焼灰土(10934/1)										

第51表 ビット計測表(3)

通称	出土施設	長径	短径	深さ	形	出土遺物 種類	備	通称	出土施設	長径	短径	深さ	形	出土遺物 種類	備	
P209	XIV-3	24.6	21.5	7.8	円形			P224	V-12	21.1	18.1	5.6	円形	焼灰土(10984/1)		
								P225	V-12	15.9	14.9	9.7	方形	焼灰土(10984/1)		
								P226	V-12	22.7	17.7	13.3	方形	焼灰土(10984/1)		
P290	XIV-3	20.7	17.1	24.8	楕円形			P227	V-12	21.8	15.9	9.0	円形	焼灰土(10984/1)		
								P228	V-12	23.8	20.4	9.5	円形	焼灰土(10984/1)		
								P229	V-16	27.3	21.5	23.9	円形	焼灰土(10984/1)		
P291	XIII-11	23.2	20.0	24.3	方形			P230	V-17	27.3	18.2	29.1	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P292	XIII-11	31.0	24.3	6.0	円形			P231	V-17	26.1	21.6	25.6	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P293	XIII-11	32.4	28.6	12.7	円形			P232	V-17	21.6	19.2	23.3	楕円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
								P233	V-17	31.4	28.1	14.3	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
								P234	V-11	36.4	36.0	36.0	正方形	焼灰土(10984/1)		
P297	XV-1	39.8	35.0	48.0	正方形	弥生遺物	黒褐色土(10983/1)しまり・粘りあり。	P335	V-18	25.6	23.3	24.7	円形	焼灰土(10984/1)		
P298	XV-5	20.7	18.8	7.2	円形		焼灰土(10984/1)しまり・粘性強い。	P336	V-18	21.1	17.7	11.3	円形	焼灰土(10984/1)		
P299	XIV-7	48.1	36.9	13.3	楕円形		弥生遺物	P337	V-18	25.6	22	26.0	円形	焼灰土(10984/1)		
								P338	V-17	26.3	24.2	36.7	円形	焼灰土(10984/1)		
								P339	V-17	33.7	29.8	19.0	円形	焼灰土(10984/1)		
P270	XIV-8	25.3	17.8	9.1	楕円形			P340	V-17	27.2	23.4	10.6	円形	焼灰土(10984/1)		
P271	XI-22	31.8	28.1	4.0	円形			P421	V-17	30.9	23.6	29.4	楕円形	焼灰土(10984/1)		
P272	X-25	20.2	17.1	7.1	円形			P422	V-17	39.6	36.9	27.8	円形	焼灰土(10984/1)		
								P423	V-17	25.6	22.6	14.8	円形	焼灰土(10984/1)		
								P424	XV-6	30.2	25.2	19.1	方形	カラタン	焼灰土(10984/1)	
P275	XV-6	33.5	28.7	22.4	方形	カラタン	焼灰土(10984/1)									
P276	XV-10	38.3	31.8	22.4	方形	カラタン	焼灰土(10984/1)									
P278	XV-8	72.4	42.2	38.6	正方形	焼灰土(10984/1)		P425	V-17	36.3	31.6	32.5	円形	焼灰土(10984/1)		
P282	XVII-17	27.4	22.8	11.5	円形	S56調査	黒褐色土(10983/1)	P426	V-16	16.4	15.1	9.2	円形	黒褐色土(10984/1)		
P283	XVIII-17	43.1	35.0	20.4	円形	P852より近	S56調査	P427	V-17	44.7	36.9	22.1	楕円形	焼灰土(10984/1)		
								P428	XVIII-17	26.3	22.4	11.3	円形	P852より近	焼灰土(10984/1)	
								P429	XVIII-17	20.2	18.2	8.6	円形	黒褐色土(10983/1)しまり・粘性やや弱い。	P480	V-17
P295	XIV-2	29.1	26.5	11.1	円形	S56調査	S56調査	P481	V-22	38.1	29.2	32.3	楕円形	焼灰土(10984/1)		
P296	XIV-2	25.0	22.4	38.9	円形	S56調査	S56調査	P482	V-22	38.1	35.2	39.2	方形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P298	XIV-2	26.5	26.6	17.3	正方形	S56調査	S56調査	P483	V-21-22	26.7	22.2	32.9	楕円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P299	XIV-2	37.4	33.6	17.4	円形			P484	V-22	36.3	32.2	26.2	方形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
								P485	V-18	34.9	28.5	32.1	楕円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
								P486	V-18	32.5	29.3	16.8	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P300	XIV-2	39.8	31.9	20.9	円形	黒褐色土(10983/1)		P487	V-21	26.4	19.8	23.8	円形	にぶい黄褐色土(10985/4) 粘性を含む。		
P301	XIV-2	25.1	20.9	22.9	円形	黒褐色土(10983/1)		P488	V-21	23.5	20.4	24.0	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P302	XIV-2	25.3	19.2	17.3	円形	黒褐色土(10983/1)		P489	V-21	27.4	26.6	29.7	円形	P804より近 にぶい黄褐色土(10985/4) 白化している。		
P303	XVIII-22	14.5	13.2	3.9	円形	S56調査	黒褐色土(10983/1)	P490	V-21	28.8	25.7	24.5	円形			
P304	XVI-1	22.6	15.7	7.0	楕円形		黒褐色土(10983/1)	P491	V-21	28.7	28.1	20.2	方形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P305	XVI-17	32.7	27.2	15.6	円形		しまり・粘性やや弱い。	P492	V-16-21	41.9	40.0	23.2	方形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P306	XV-15	35.9	34.3	16.7	不整形			P493	V-16	32.8	30.0	11.1	円形	弥生遺物	にぶい黄褐色土(10985/4)	
								P494	V-16	27.1	24.3	13.9	円形	焼灰土(10984/1)		
								P495	V-21	40.3	33.0	14.2	方形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P307	XVI-22	28.8	24.1	37.1	不整形	黒褐色土(10983/1)しまりや中強、粘性やや弱い。ロームを少量含む。	P496	V-21	30.9	26.4	28.9	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)			
P308	XVII-22	54.8	51.9	12.8	円形			P497	V-21	31.6	29.5	29.6	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
								P498	V-21	47.7	39.9	34.9	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
								P499	V-21	37.3	29.3	27.0	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P309	XVI-5	26.2	23.2	16.0	円形	弥生遺物	黒褐色土(10983/1)しまりあり。	P500	IV-25	24.6	18.2	26.8	楕円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P310	XVI-5	26.0	31.1	27.8	円形		弥生遺物	P501	IV-25	24.7	23.3	19.2	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
								P502	IV-29	31.7	29.2	24.0	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
								P503	IV-29	34.9	31.8	25.7	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P311	XVI-6	29.8	29.4	26.5	円形	弥生遺物	ローム底子多量を含む。	P504	V-11	32.7	30.5	32.0	方形	焼灰土(10984/1)		
P312	XVI-6	29.2	29.2	37.9	楕円形			P505	IV-26	36.7	26.6	32.0	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
								P506	IV-26	32.0	32.0	18.6	円形	P804より近	にぶい黄褐色土(10985/4)	
								P507	IV-25	35.9	32.7	22.7	楕円形	弥生遺物	にぶい黄褐色土(10985/4)	
P313	IV-13	19.1	13.1	8.0	楕円形			P508	IV-25	38.1	33.1	23.4	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P314	IV-13	29.8	22.4	12.0	円形		弥生遺物	P509	IV-24	49.0	28.8	18.2	楕円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
								P510	IV-24	36.5	30.4	22.8	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
								P511	IV-21	19.1	14.9	22.4	不整形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P315	IV-13	31.7	32.4	18.6	円形			P512	V-21	32.8	30.3	27.0	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P316	IV-14	30.9	29.7	17.2	楕円形			P513	V-21	9.5	24.5	28.4	楕円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P317	IV-18	38.8	36.9	8.5	円形			P514	V-17	38.6	28.0	30.2	方形	P804より近	炭質褐色土(10984/2)しまり・粘性やや弱い。黒褐色土を少量含む。	
								P515	X-2	27.7	21.6	21.7	楕円形	P804より近	黒褐色土(10983/1)	
								P516	X-2	26.1	22.3	19.8	円形	P804より近	黒褐色土(10983/1)	
P318	IV-19	20.6	19.9	13.9	円形			P517	IV-23	35.6	33.6	22.4	円形	にぶい黄褐色土(10985/4)		
P319	IV-19	20.6	23.4	13.1	円形			P518	V-16	27.2	19.0	26.0	不整形	黒褐色土(10983/1)		
P320	IV-19	45.4	37.4	22.0	円形			P519	X-5	28.1	24	24.3	円形	灰田より近 焼灰土(10984/1)しまり・粘性弱い。		
P321	IV-19	51.0	19.8	12.6	楕円形			P520	X-5	27.4	25.3	23.4	円形	焼灰土(10984/1)		
P322	IV-19	38.7	34.3	13.1	円形			P521	IV-25	34.2	32.7	34.7	円形	灰田より近	焼灰土(10984/1)	
P323	IV-20	22.6	21.2	8.1	円形			P522	V-20	36.7	36.4	24.9	円形	弥生遺物	焼灰土(10984/1)	
P324	V-11	27.7	20.2	13.7	楕円形			P523	V-21	33.1	30.4	31.0	円形	弥生遺物	焼灰土(10984/1)	
P325	V-11	34.1	23.6	17.2	円形			P524	V-21	40.8	39.1	19.3	楕円形	P804より近	焼灰土(10984/1)	
P326	V-11	18.1	16.6	3.6	円形			P525	IV-26	36.2	31.3	27.8	円形	炭質褐色土(10984/1)		
P327	V-11	47.8	46.9	26.3	円形			P526	V-21	41.2	33.6	16.8	円形	焼灰土(10984/1)		

第52表 ビット計測表(4)

品名	出工時期	原価	増価	減価	形	出工場所	備	備	品名	出工時期	原価	増価	減価	形	出工場所	備	備	
P208	V-21	31.6	22.9	23.2	角形		黒色土(10934/1)		P453	X-1-3	22.4	19.4	23.8	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		
P209	V-22	54.8	64.1	24.3	不整形	上野原 352より新	黒褐色土(10934/1)									黒褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		
P400	V-22	70.3	64.8	38.1	不整形	7220より新	暗褐色土(10935/6) しまり強く、砂質化している。		P454	X-1-3	23.9	23.8	30.6	円形	3072より新	灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P401	V-22	77.4	54.3	29.2	不整形		暗褐色土(10935/6)									灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P402	X-1	18.2	16.3	11.6	円形		暗褐色土(10934/1)		P455	X-1-3	38.1	25.8	30.6	方形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P403	X-1	23.7	21.0	24.8	円形		暗褐色土(10934/1)									灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P404	X-1	34.8	26.8	22.8	円形	80より新	暗褐色土(10934/1)		P456	X-1-3	36.0	34.1	32.3	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P405	V-21	41.8	31.5	40.1	円形		暗褐色土(10934/1)									灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P406	V-21	92.4	34.5	22.0	楕円形	809-7995より新	暗褐色土(10934/1)		P457	X-1-3	55.0	43	59.6	楕円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P407	IV-24	59.4	59.4	48.9	円形		黒褐色土(10932/1)									灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P408	V-21	58.6	59.4	13.0	円形	802より古	黒褐色土(10932/1)		P458	X-1-4	30.3	28.4	41.9	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P409	V-22	55.4	59.0	13.0	円形		黒褐色土(10932/1)									灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P410	V-22	56.4	59.1	59.6	円形		黒褐色土(10932/1) しまり・粘性強い。									灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P411	V-23	52.5	52.4	51.1	円形		黒褐色土(10932/1)		P459	X-1-4	24.5	16.9	27.1	楕円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P412	V-23	58.1	52.1	24.2	楕円形		黒褐色土(10932/1)									灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P413	V-22	57.6	51.4	12.0	円形		黒褐色土(10932/1)									灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P414	IV-25	36.5	24.8	33.0	円形	802より新	黒褐色土(10934/1) 細砂と細工礫土。		P460	X-1-4	30.1	26.1	44.4	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P415	X-5	27.1	25.4	24.2	円形	8012より新	黒褐色土(10934/1) 細砂と細工礫土。									灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P416	V-25	28.0	23	12.5	円形		黒褐色土(10934/1)									灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P417	V-21	29.8	28.2	12.5	円形		黒褐色土(10934/1)		P461	X-1-1	27.5	25.3	30.7	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P418	V-18	25.9	19.6	12.8	楕円形		炭化物・粘土粒子を含む。									灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P419	V-21	32.7	32.7	23.4	方形		黒褐色土(10934/1)									灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P420	V-22	26.4	21.8	17.3	円形		黒褐色土(10934/1)		P462	X-1-4	34.2	27.4	27.5	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P421	X-1 -13-18	21.7	20.7	4.5	円形	802より新	黒色土(10932/1) ローム少量含む。									灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P422	X-1-18	55.4	50.0	18.5	円形	802より新	灰黄褐色土(10934/2)		P463	X-1-3	54.8	53.5	53.0	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P423	X-1-18	65.6	45.2	10.6	円形	802より新	灰黄褐色土(10934/2) 小ロームブロックを含む。									灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P425	X-1-19	24.5	22.8	13.1	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性強い。ロームを少量含む。		P464	V-22	51.6	51.0	51.0	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P426	X-1-19	26.3	26.3	28.9	円形	802より新	灰黄褐色土(10934/2)		P465	X-1-4	27.3	24.2	31.4	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P427	X-1-19	23.1	22.2	31.1	円形	802より新	灰黄褐色土(10934/2)		P466	X-1-4	24.4	21.9	33.7	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P428	X-1-18	49.2	26.9	63.4	楕円形	802より新	モリシロイ(園中に土留設あり)。		P467	X-1-4	20.3	20.3	37.7	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P430	X-5	52.8	18.2	53.0	円形		にひい・黄褐色土(10934/3) ローム粒子を含む。		P468	X-1-4	23.6	23.9	14.6	円形	808より古	灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P431	X-5	57.8	23.7	17.5	円形		にひい・黄褐色土(10934/3)		P470	X-1-4	27.2	24.1	20.4	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P432	X-5	33.7	28.8	24.6	円形		にひい・黄褐色土(10934/3)		P471	IV-25	27.2	23.5	22.0	楕円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P433	X-5	36.8	27.6	26.3	円形		にひい・黄褐色土(10934/3)		P472	X-1-13	146.8	84.7	27.2	円形	825より新	灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P434	X-5	29.7	24.2	23.2	円形	808より新	にひい・黄褐色土(10934/3)									灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P435	X-5	34.1	33.0	15.7	円形	F17より新	にひい・黄褐色土(10934/3)		P473	V-22	72.8	68.0	33.9	不整形	F13より古	にひい・黄褐色土(10934/3) しまり・粘性強い。		
P436	X-1-1	45.3	27.8	44.4	円形	8022より新	にひい・黄褐色土(10934/3)		P474	X-1-3	25.3	22.5	27.6	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P437	X-1-1	45.3	27.8	44.4	円形	8022より新	にひい・黄褐色土(10934/3)		P475	X-1-3	38.7	38.0	36.2	円形	802より古	灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P438	V-22	49.5	43.2	17.4	円形	808より新	にひい・黄褐色土(10934/3) しまりや強く、粘性や強い。		P476	X-1-3	44.2	34.9	34.1	円形	養生費	灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P439	V-22	51.3	49.3	54.0	円形	土留設あり	にひい・黄褐色土(10934/3) しまり・粘性や強い。ロームを少量含む。		P477	X-1-3	29.6	24.4	30.6	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P440	V-22	38.4	35.2	22.6	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P478	X-1-3	28.3	22.5	27.6	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P441	V-22	51.3	49.3	54.0	円形	土留設あり	にひい・黄褐色土(10934/3) しまり・粘性や強い。ロームを少量含む。		P479	X-1-1	22.5	18.8	27.7	方形	F17より新	黒褐色土(10934/1)		
P442	V-22	38.4	35.2	22.6	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P480	X-1-1	24.3	23	28.6	円形	825より新	灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P443	V-22	78.7	54.8	49.7	楕円形	8012より新	灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P481	X-1-1	21.3	20.3	25.4	円形		灰黄褐色土(10934/1)		
P444	V-23	25.8	21.8	26.4	円形	養生費	灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P482	X-1-1	27.4	24.7	23.3	円形	808より新	灰黄褐色土(10934/1) 炭化物を含む。		
P445	V-24	33.6	29.7	27.0	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P483	X-1-1	24.0	20.4	21.2	円形	808より新	灰黄褐色土(10934/1)		
P446	X-5	27.3	25.3	30.0	円形		黒褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P484	X-1-1	28.0	24.7	13.7	円形	808より新	灰黄褐色土(10934/1)		
P447	X-5	45.9	34.1	29.0	円形		黒褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P485	X-1-1	28.1	26.2	19.9	方形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P448	X-5	35.6	31.2	45.6	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P486	X-1-1	31.6	29.5	23.3	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P449	X-5	37.3	32.1	23.3	方形	養生費	灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P487	X-1-2	35.7	30.5	23.4	円形		灰黄褐色土(10934/1)		
P450	X-1-5	50.3	38.3	36.7	楕円形	F742より新	灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P488	V-22	38.5	36.5	42.4	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
P451	X-1-3	22.1	39	41.8	円形		灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P489	V-21	26.1	22.5	24.0	円形		灰黄褐色土(10934/1)		
P452	X-1-3	28.2	24.5	37.9	円形	F478より新	灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P490	V-23	22.8	19.3	30.6	円形		灰黄褐色土(10934/1)		
							黒褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P491	V-23	28.2	25.2	25.5	円形		灰黄褐色土(10934/1)		
							黒褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P492	V-21	23.3	17.8	25.8	円形		灰黄褐色土(10934/1)		
							黒褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P493	V-21	24.1	21.9	25.0	方形	養生費	灰黄褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。	黒褐色土(10934/1) しまり・粘性や強い。	
							黒褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P494	V-21	22.6	26.1	14.1	楕円形		灰黄褐色土(10934/1)		
							黒褐色土(10934/2) しまり・粘性や強い。		P495	V-18	21.6	21.1	24.8	円形		灰黄褐色土(10934/1)		

第53表 ビット計測表(5)

調査号	出土位置	経緯	埋深	深さ	形	出土地物 属性	備考	調査号	出土位置	経緯	埋深	深さ	形	出土地物 属性	備考
P008	V-21	38.1	29.7	26.3	円形	磁灰土(10184/1)		P058	X-II-6	23.9	21.9	7.5	円形	黒褐色土(10182/1)粘土を少量含む	
P007	V-21	17.7	19.7	36.4	方形	磁灰土(10184/1)		P056	X-II-6	22.3	20.2	4.2	円形	黒褐色土(10182/1)粘土を少量含む	
P006	V-21	23.8	21.0	22.8	小方形	磁灰土(10184/1)		P057	X-II-6	25.9	21.1	11.7	円形	黒褐色土(10182/1)粘土を少量含む	
P005	V-25	26.4	25.5	12.9	円形	磁灰土(10184/1)		P056	X-II-6	25.5	26.2	8.3	円形	黒褐色土(10182/1)粘土を少量含む	
P004	V-25	22.9	13.6	11.2	円形	磁灰土(10184/1)		P056	X-II-6	25.3	23.9	12.4	円形	黒褐色土(10182/1)粘土を少量含む	
P011	V-25	21.1	17.8	15.1	小方形	磁灰土(10184/1)		P056	X-II-6	26.8	25.8	16.7	円形	黒褐色土(10182/1)粘土を少量含む	
P012	V-17	35.1	15.7	17.9		磁灰土(10184/1)		P060	X-II-12	36.8	35.8	16.7	円形	黒褐色土(10182/1)粘土を少量含む	
P013	X-I-1	26.7	26.3	26.5	小方形	磁灰土(10184/1)炭化物を含む		P061	X-II-12	31.2	38.9	21.8	-	F16より古	黒褐色土(10182/1)粘土を少量含む
P014	V-25	22.3	26.3	18.6	方形	磁灰土(10184/1)		P062	X-II-12	19.4	17.2	22.4	円形	黒褐色土(10184/2)ロームブロックを少量含む	
P015	V-25	22.5	20.2	21.6	円形	磁灰土(10184/1)		P063	X-II-11	26.6	24.7	10.3	円形	黒褐色土(10182/1)ロームを少量含む	
P016	V-25	26.0	25.0	17.0	円形	磁灰土(10184/1)		P064	X-II-11	29.0	28.4	8.9	円形	黒褐色土(10184/1)ロームブロックを少量含む	
P017	X-I-1	21.0	20.5	17.5	円形	磁灰土(10184/1)炭化物		P063	X-II-11	26.6	24.7	10.3	円形	黒褐色土(10182/1)ロームを少量含む	
P018	X-I-1	24.5	21.7	13.3	円形	磁灰土(10184/1)炭化物		P064	X-II-11	29.0	28.4	8.9	円形	黒褐色土(10184/1)ロームブロックを少量含む	
P019	X-I-10	37.1	36.9	26.0	円形	中粒土 黒褐色土(10183/1)		P065	X-II-6	20.6	19.0	4.6	円形	黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む	
P020	X-I-1	29.4	19.8	24.3	円形	磁灰土(10184/1)		P066	X-II-6	33.4	25.4	18.1	円形	黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む	
P021	X-5	14.1	14.0	14.0	楕円形	磁灰土(10184/1)		P067	X-II-11	28.7	25.5	22.2	円形	黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む	
P022	X-3-8	34.0	32.9	32.3	小方形	黒褐色土(10183/1)しまり・粘りあり		P068	X-II-11	28.7	25.5	22.2	円形	黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む	
P023	X-3	36.9	29.8	16.2	円形	黒褐色土(10183/1)しまり・粘りあり		P069	X-II-11	26.7	25.7	9.2	円形	黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む	
P024	X-4	36.7	31.4	19.2	円形	中粒土 黒褐色土(10183/1)		P070	X-II-11	46.8	45.9	44.3	円形	黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む	
P025	X-19	27.6	21.2	11.9	円形	粘土質 黒褐色土(10183/1)		P071	X-II-28	27.9	23.1	18.0	円形	黒褐色土(10184/1)粘土を少量含む	
P026	X-14	31.3	28.2	23.2	円形	黒褐色土(10184/1)		P072	X-II-16	23.6	22.5	25.9	円形	黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む	
P027	X-16	22.0	20.0	12.4	円形	F30より新 黒褐色土(10183/1)		P073	X-II-18	41.2	31.4	35.3	円形	黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む	
P028	X-15	48.3	38.5	31.7	円形	黒褐色土(10183/1)しまりあり。炭化物を含む		P074	X-II-18	59.4	52.5	24.7	円形	黒褐色土(10184/2)ロームを少量含む	
P029	X-I-6	38.9	38.3	39.0	円形	黒褐色土(10183/1)		P075	X-II-11	36.2	31.9	43.9	円形	黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む	
P030	X-I-11	32.9	32.5	17.1	-	F20より古 黒褐色土(10183/1)		P076	X-II-12	18.8	18.0	14.6	円形	黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む	
P031	X-I-21	43.5	42.8	21.3	円形	黒褐色土(10184/1)しまり・粘りあり		P077	X-II-6	23.6	26.1	26.2	円形	セクション図中に土層説明あり	
P032	X-20	39.8	37.6	33.3	小方形	粘土質 黒褐色土(10183/2)しまり・粘りあり		P078	X-II-6	62.4	71.3	50.3	円形	黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む	
P033	X-25	55.8	45.6	44.1	楕円形	土層断面 黒褐色土(10183/2)		P079	X-17	39.7	27.3	9.7	円形	黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む	
P034	X-I-21	21.4	23.3	9.9	方形	黒褐色土(10183/1)しまり・粘りあり。ローム粒子を含む		P080	X-15	24.0	22.8	12.7	円形	黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む	
P035	X-I-21	20.9	22.7	26.6	方形	黒褐色土(10183/1)しまり・粘りあり。ローム粒子を含む		P081	X-16	50.3	30.9	9.7	方形	F17より古 黒褐色土(10184/2)しまり・粘りあり	
P036	X-I-4	24.8	21.7	8.2	円形	黒褐色土(10183/1)		P082	X-21	33.4	32.6	26.9	円形	F17より古 黒褐色土(10183/1)しまり・粘りあり	
P037	X-I-8	18.4	14.3	8.9	円形	黒褐色土(10183/1)しまり・粘りあり		P083	X-16	25.2	18.3	16.8	円形	黒褐色土(10183/1)ローム粒子を多く含む	
P038	X-I-4	20.4	18.4	9.7	円形	黒褐色土(10183/1)しまり・粘りあり		P084	X-16	22.7	17.2	7.8	不整形	黒褐色土(10183/1)ローム粒子を多く含む	
P040	X-I-4	32.4	21	25.1	円形	黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む		P085	X-16	23.1	26.6	13.1	円形	黒褐色土(10183/1)ローム粒子を多く含む	
P041	X-I-4	20.9	20.2	15.9	円形	黒褐色土(10184/2)しまり・粘りあり		P086	X-16	48.0	41.2	25.1	楕円形	黒褐色土(10183/1)ローム粒子を多く含む	
P042	X-I-4	35.8	20.3	52.2	方形	炭化物 黒褐色土(10183/1)		P087	X-II-7	24.9	23.7	10.6	円形	黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む	
P043	X-I-9	37.9	35.6	15.3	円形	土層断面 黒褐色土(10184/2)ロームブロックを少量含む		P088	X-II-9	84.9	74.8	44.6	円形	F0より新 セクション図中に土層説明あり	
P044	X-I-9	39.7	37.6	18.2	円形	黒褐色土(10183/2)しまり・粘りあり		P089	X-I-15	78.3	67.6	53.4	円形	F0より新 セクション図中に土層説明あり	
P045	X-I-10	33.1	31.6	18.8	円形	黒褐色土(10183/2)しまり・粘りあり		P090	X-II-7	22.3	18.0	5.5	円形	F25より古 黒褐色土(10183/1)ロームブロックを少量含む	
P046	X-I-9-10	31.6	23.5	23.3	円形	黒褐色土(10183/2)ロームブロックを少量含む		P091	X-II-18	38.2	33.0	8.2	-	F0より古	黒褐色土(10184/1)ロームを少量含む
P047	X-I-9	33.5	31.3	63.5	-	F22より古		P092	X-I-10	47.8	46.8	39.0	-	F0より古	炭褐色土(10184/2)粘土を少量含む
P048	X-I-10	36.3	37.4	12.7	不整形	炭褐色土(10183/2)しまりや粘り。粘り強い。黒褐色土(10183/1)ロームを少量含む		P093	X-I-10	47.8	47.1	33.1	円形	F0より古 炭褐色土(10184/2)粘土を少量含む	
P049	X-I-10	60.1	56.5	25.9	円形	黒褐色土(10183/1)しまりや粘り。粘性や粘り。炭褐色土(10183/1)ロームを少量含む		P094	X-I-10	45.0	37.2	18.3	円形	F0より古 黒褐色土(10184/2)粘土を少量含む	
P050	X-I-10	32.7	29.2	7.0	円形	黒褐色土(10183/1)しまりや粘り。粘性や粘り。炭褐色土(10183/1)ロームを少量含む		P095	X-I-12	27.0	21.5	12.3	円形	黒褐色土(10183/1)ロームを少量含む	
P051	X-I-10	37.5	40.9	15.1	不整形	黒褐色土(10183/1)しまりや粘り。粘性や粘り。炭褐色土(10183/1)ロームを少量含む		P096	X-I-14	45.1	41.9	32.9	円形	セクション図中に土層説明あり	
P052	X-18	22.0	16.2	6.1	円形	黒褐色土(10183/1)ローム粒子を多く含む		P097	X-I-15	36.8	30.2	12.3	円形	F0より古 黒褐色土(10184/1)粘土を少量含む	
P053	X-18	20.1	19.0	17.0	方形	粘土質 黒褐色土(10183/1)ローム粒子を多く含む		P098	X-I-19	49.3	34.7	32.9	円形	F0より古 黒褐色土(10184/1)ロームを少量含む	
P054	X-23	19.4	18.3	7.6	円形	黒褐色土(10183/1)ローム粒子を多く含む		P099	X-I-19	33.8	33.6	18.9	楕円形	炭褐色土(10184/1)ロームブロックを少量含む	

第54表 ビット計測表(6)

調査 番号	出土位置	長さ	短径	口径	形 状	出土層位 相対深度	備 考	調査 番号	出土位置	長さ	短径	口径	形 状	出土層位 相対深度	備 考
P004	X-I-19	38.8	33.4	16.6	円形	P003より新	黒褐色土(10932/2) 小ロームブロックを少量含む。	P005	W-II	34.3	29.4	12.6	円形	P011より新	灰褐色土(10934/2)しまり・粘状 弱い。ロームブロックを少量含む。 黒色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームを少量含む。
P005	X-16	54.8	51.9	38.5	円形		黒褐色土(10932/1) しまり・粘状あり。	P006	W-II	52.1	28.4	9.9	円形		灰褐色土(10934/2)しまり・粘状や中 強い。ロームを少量含む。
P006	IX-20	62.5	58.6	57.4	円形		黒褐色土(10932/1) しまり・粘状あり。	P007	W-16	46.0	44.1	45.0	円形		灰褐色土(10934/2)しまり・粘状や中 強い。ロームを少量含む。
P007	IX-20	25.0	21.8	10.3	円形		灰褐色土(10934/2) しまり・粘状あり。	P008	W-16	53.0	51.3	27.2	円形	P01より古	黒褐色土(10933/1)しまり・粘状や中 強い。小ロームブロックを少量含む。
P008	IX-20	24.2	21.3	12.1	円形		灰褐色土(10934/2) しまり・粘状あり。	P009	X-I-18	68.0	59.1	22.7	円形	共生発 見 H21 より古	黒褐色土(10933/1) ロームブロックを含む。
P009	IX-20	71.5	41.5	12.5	不整形		黒褐色土(10933/1) ローム粒子を含む。	P010	X-II-1	28.3	26.3	8.6	円形	P09より古	黒褐色土(10933/1) 小ロームブロックを少量含む。
P010	IX-19	35.8	30.9	8.8	円形		黒褐色土(10933/1)	P011	IX-19	54.8	48.8	13.6	円形		黒褐色土(10933/1)
P011	IX-19	66.7	66.6	21.5	円形		黒褐色土(10933/1)	P012	IX-20	27.9	27.5	24.4	円形		黒褐色土(10933/1)
P012	IX-20	27.9	27.5	24.4	円形		黒褐色土(10933/1)	P013	IX-20	23.2	21.0	58.3	円形		黒褐色土(10933/1)
P013	IX-20	66.7	66.6	21.5	円形	P003より新	黒褐色土(10933/1) しまり・粘状あり。	P014	IX-25	66.5	59.7	17.7	円形	共生発 見	黒褐色土(10934/2) しまり・粘状あり。
P014	IX-25	66.5	59.7	17.7	円形	共生発 見	黒褐色土(10934/2) しまり・粘状あり。	P015	X-II-1	36.7	21.6	29.3	円形	P09より古	黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。
P015	X-II-1	36.7	21.6	29.3	円形	P09より古	黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。	P016	X-19	45.0	26.0	60.1	不整形	M03より古	黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。
P016	X-19	45.0	26.0	60.1	不整形	M03より古	黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。	P017	X-17	60.8	27.8	18.8	円形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。小ロームブロックを少量含む。
P017	X-17	60.8	27.8	18.8	円形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。小ロームブロックを少量含む。	P018	X-17	27.1	21.3	19.8	円形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。小ロームブロックを少量含む。
P018	X-17	27.1	21.3	19.8	円形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。小ロームブロックを少量含む。	P019	X-24	27.1	24.5	17.8	円形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。小ロームブロックを少量含む。
P019	X-17	27.1	21.3	19.8	円形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。小ロームブロックを少量含む。	P020	X-24	27.1	24.5	17.8	円形	P09より古	黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。小ロームブロックを少量含む。
P020	X-24	27.1	24.5	17.8	円形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。小ロームブロックを少量含む。	P021	X-II-11	19.1	18.0	27.3	楕円形	P02より古	黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。
P021	X-II-11	19.1	18.0	27.3	楕円形	P02より古	黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。	P022	X-II-11	22.0	16.2	12.8	-	P02より古	黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。
P022	X-II-11	22.0	16.2	12.8	-	P02より古	黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。	P023	X-II-11	27.5	18.7	18.2	円形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。
P023	X-II-11	27.5	18.7	18.2	円形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。	P024	X-19	28.5	17.7	22.8	不整形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。
P024	X-19	28.5	17.7	22.8	不整形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。	P025	X-19	19.5	12.5	16.2	円形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。
P025	X-19	19.5	12.5	16.2	円形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。	P026	X-19	18.2	16.5	16.5	円形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。
P026	X-19	18.2	16.5	16.5	円形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。	P027	IX-20	39.6	39.1	17.8	不整形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。
P027	IX-20	39.6	39.1	17.8	不整形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。	P028	IX-20	44.7	46.9	16.3	-	F31-P012 より古	黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。
P028	IX-20	44.7	46.9	16.3	-	F31-P012 より古	黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。	P029	IX-20	47.5	39.0	30.2	楕円形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。
P029	IX-20	47.5	39.0	30.2	楕円形		黒褐色土(10932/1)しまり・粘状や中 強い。ロームブロックを少量含む。	P030	X-17	33.7	28.1	23.1	円形	P06より古	黒褐色土(10931/1)しまり・粘状あり 粘状が非常に多い。
P030	X-17	33.7	28.1	23.1	円形	P06より古	黒褐色土(10931/1)しまり・粘状あり 粘状が非常に多い。	P031	X-24	29.5	27.4	38.9	円形		黒褐色土(10931/1) 粘状が非常に多い。
P031	X-24	29.5	27.4	38.9	円形		黒褐色土(10931/1) 粘状が非常に多い。	P032	X-24	24.2	21.0	15.7	円形		黒褐色土(10931/1) 粘状が非常に多い。
P032	X-24	24.2	21.0	15.7	円形		黒褐色土(10931/1) 粘状が非常に多い。	P033	X-I-4	57.8	50.7	17.0	円形		黒褐色土(10931/1)しまり・粘状 弱い。粘状や中強い。黒色土・ ロームブロックを少量含む。
P033	X-I-4	57.8	50.7	17.0	円形		黒褐色土(10931/1)しまり・粘状 弱い。粘状や中強い。黒色土・ ロームブロックを少量含む。	P034	X-I-18	27.4	23.1	21.4	円形		黒褐色土(10931/1)しまり・粘状 弱い。
P034	X-I-18	27.4	23.1	21.4	円形		黒褐色土(10931/1)しまり・粘状 弱い。	P035	X-I-18	26.7	16.8	19.4	不整形		黒褐色土(10931/1)しまり・粘状 弱い。
P035	X-I-18	26.7	16.8	19.4	不整形		黒褐色土(10931/1)しまり・粘状 弱い。	P036	X-I-17	27.2	25.1	19.8	円形		黒褐色土(10931/1)しまり・粘状 弱い。
P036	X-I-17	27.2	25.1	19.8	円形		黒褐色土(10931/1)しまり・粘状 弱い。	P037	X-I-18	19.9	17.8	8.1	円形		黒褐色土(10931/2)
P037	X-I-18	19.9	17.8	8.1	円形		黒褐色土(10931/2)	P038	X-I-17	20.7	20.0	13.2	円形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状あり。
P038	X-I-17	20.7	20.0	13.2	円形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状あり。	P039	X-I-17	25.8	27.3	12.6	不整形	P06より古	黒褐色土(10931/2)しまり・粘状 弱い。
P039	X-I-17	25.8	27.3	12.6	不整形	P06より古	黒褐色土(10931/2)しまり・粘状 弱い。	P040	X-I-17	26.6	18.0	6.1	円形	P09より古	黒褐色土(10931/2)
P040	X-I-17	26.6	18.0	6.1	円形	P09より古	黒褐色土(10931/2)	P041	X-I-17	21.8	20.1	14.8	円形		黒褐色土(10931/2)
P041	X-I-17	21.8	20.1	14.8	円形		黒褐色土(10931/2)	P042	X-I-17	15.8	14.6	19.7	円形		黒褐色土(10931/1)
P042	X-I-17	15.8	14.6	19.7	円形		黒褐色土(10931/1)	P043	X-I-17	29.0	27.2	8.2	円形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状あり 強い。
P043	X-I-17	29.0	27.2	8.2	円形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状あり 強い。	P044	X-I-17	30.1	29.0	25.9	円形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状 弱い。
P044	X-I-17	30.1	29.0	25.9	円形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状 弱い。	P045	X-I-16	42.1	26.9	34.2	不整形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状 弱い。
P045	X-I-16	42.1	26.9	34.2	不整形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状 弱い。	P046	X-I-16	39.2	24.0	13.5	円形		黒褐色土(10931/2)
P046	X-I-16	39.2	24.0	13.5	円形		黒褐色土(10931/2)	P047	X-I-16	29.3	27.2	14.1	円形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状 弱い。
P047	X-I-16	29.3	27.2	14.1	円形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状 弱い。	P048	V-21	60.0	43.7	11.0	円形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状 弱い。
P048	V-21	60.0	43.7	11.0	円形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状 弱い。	P049	X-I-16	33.7	30.2	20.5	円形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状 弱い。
P049	X-I-16	33.7	30.2	20.5	円形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状 弱い。	P050	X-I-16	43.8	30.4	18.1	円形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状 弱い。
P050	X-I-16	43.8	30.4	18.1	円形		黒褐色土(10931/2)しまり・粘状 弱い。	P051	VI-16	52.6	44.7	53.4	円形	M05より古	黒褐色土(10931/1)しまり・粘状 や中強い。ロームを少量含む。
P051	VI-16	52.6	44.7	53.4	円形	M05より古	黒褐色土(10931/1)しまり・粘状 や中強い。ロームを少量含む。	P052	VI-22	82.0	61.0	16.9	円形		黒褐色土(10931/1)しまり・粘状や中 強い。小ロームブロックを少量含む。
P052	VI-22	82.0	61.0	16.9	円形		黒褐色土(10931/1)しまり・粘状や中 強い。小ロームブロックを少量含む。	P053	VI-22	82.0	61.0	16.9	円形		黒褐色土(10931/1)しまり・粘状や中 強い。小ロームブロックを少量含む。
P053	VI-22	82.0	61.0	16.9	円形		黒褐色土(10931/1)しまり・粘状や中 強い。小ロームブロックを少量含む。	P054	VI-21	23.1	20.1	19.9	円形		灰褐色土(10934/2)しまり・粘状 強い。黒色土・ロームブロックを少量 含む。
P054	VI-21	23.1	20.1	19.9	円形		灰褐色土(10934/2)しまり・粘状 強い。黒色土・ロームブロックを少量 含む。	P055	W-II	28.3	19.3	14.1	円形	P06より古	黒褐色土(10932/1)しまり・粘状 弱い。小ロームブロックを少量 含む。
P055	W-II	28.3	19.3	14.1	円形	P06より古	黒褐色土(10932/1)しまり・粘状 弱い。小ロームブロックを少量 含む。								

第55表 ビット計測表(7)

品名	出仕位置	長さ	直径	深さ	形状	出仕量	備考	品名	出仕位置	長さ	直径	深さ	形状	出仕量	備考
P091	X-II-11	329	24.5	127	円筒形	黒色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。		P759	X-4	353	26.9	24.6	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。ロームブロックを少量含む。	
P092	X-II-7	194	27.6	336	-	黒色土(1093Z/1)しまりや中強い。粘性やや強い。		P760	X-4	224	15.5	6.0	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。	
P093	X-I-2	260.2	26.7	61.6	不整形	黒色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。砂を含む。		P761	X-3	26.3	16.8	2.7	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。ロームを少量含む。	
P094	X-II-16	19.0	17.1	9.2	方形	灰黄褐色土(1093A/2)しまり・粘性やや強い。		P762	IV-23	25.6	21.5	20.1	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)しまりや中強い。粘性やや強い。ロームを少量含む。	
P095	X-II-12	28.5	20.2	13.2	楕円形	灰黄褐色土(1093A/2)しまり・粘性やや強い。		P763	X-3-4	72.6	11.89	14.6	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。	
P097	IX-20	11.1	9.75	8.9	-	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性強い。		P764	IV-23	28.7	28.2	24.7	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。ロームを少量含む。	
P099	IV-13	33.8	28.8	45.8	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)粘性を含む。		P765	IV-23	24.2	22.3	15.7	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。ロームを少量含む。	
P100	V-16	20.9	19.0	11.5	円筒形	灰黄褐色土(1093A/2)しまり・粘性強い。		P766	X-4	23.0	22.7	23.6	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。ロームを少量含む。	
P101	V-11	25.8	21.9	19.3	不整形	黒色土(1093Z/1)粘性あり。		P767	IV-13	23.5	22.4	20.1	円筒形	黒色土(1093Z/1)しまり弱く、粘性強い。	
P102	V-16	37.7	30.6	42.6	不整形	灰黄褐色土(1093A/2)しまり・粘性強い。		P768	IV-13	23.4	19.1	15.3	円筒形	黒色土(1093Z/1)しまり弱く、粘性強い。	
P104	V-11	27.2	24.2	13.2	円筒形	灰黄褐色土(1093A/2)しまり・粘性強い。		P769	IV-13	25.9	15.3	44.4	楕円形	黒色土(1093Z/1)しまり弱く、粘性強い。	
P105	V-16	21.1	19.2	12.3	円筒形	灰黄褐色土(1093A/2)しまり・粘性強い。		P770	IV-13	26.6	20.0	13.4	楕円形	黒色土(1093Z/1)しまり弱く、粘性強い。	
P106	V-17	63.1	22.1	15.1	楕円形	灰黄褐色土(1093A/2)しまり・粘性強い。		P771	IV-12	20.4	12.9	27.0	楕円形	黒色土(1093Z/1)しまり弱く、粘性強い。	
P108	V-17	31.4	23.6	42.7	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)粘性あり。		P772	IV-13-15	38.5	22.4	30.1	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)しまり弱く、粘性強い。ロームを少量含む。	
P109	V-17	51.5	25.4	16.1	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)		P773	IV-18	20.5	17.2	30.9	方形	黒色土(1093Z/1)しまり弱く、粘性強い。	
P130	X-12	33.0	31.9	40.9	円筒形	灰黄褐色土(1093A/2)		P774	X-14	16.7	13.5	2.8	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)ローム粒子を含む。	
P070	V-12	21.2	19.2	12.9	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性あり。		P775	X-14	13.1	12.3	8.8	方形	黒褐色土(1093Z/1)ローム粒子を含む。	
P071	V-21	24.7	22.2	16.9	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性あり。		P776	X-14	29.8	17.2	7.3	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)ローム粒子を含む。	
P072	V-16	34.6	28.6	11.3	円筒形	灰黄褐色土(1093A/2)しまり・粘性強い。		P777	X-9	21.3	10.3	13.0	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)ローム粒子を含む。	
P073	V-22	22.7	20.6	8.4	円筒形	灰黄褐色土(1093A/2)		P778	X-14	29.1	20.8	9.8	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)ローム粒子を含む。	
P074	V-29	23.9	20.2	33.9	円筒形	灰黄褐色土(1093A/2)		P779	X-14	28.9	17.1	11.5	楕円形	灰黄褐色土(1093A/2)しまり・粘性強い。	
P075	V-17	19.9	15.8	12.7	円筒形	灰黄褐色土(1093A/2)		P780	X-19	17.5	15.3	18.3	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性あり。ローム粒子を少量含む。	
P076	X-I-2	33.2	32.3	12.4	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性強い。ローム粒子を少量含む。		P781	X-24	13.5	14.8	14.3	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)	
P077	V-22	30.9	28.6	9.2	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性強い。		P782	X-24	24.4	22.4	7.5	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)	
P078	X-I-1	23.8	21.4	17.1	円筒形	灰黄褐色土(1093A/2)しまり・粘性やや強い。ローム粒子を少量含む。		P783	X-29	35.9	38.3	28.3	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)ローム粒子を多く含む。	
P079	V-22	36.3	34.9	26.1	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。ローム粒子を少量含む。		P784	X-20	21.8	16.6	28.0	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)ローム粒子を多く含む。	
P080	V-22	36.3	34.9	26.1	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。ローム粒子を少量含む。		P785	X-11	34.4	21.5	10.1	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)ローム粒子を多く含む。	
P081	V-22	36.3	34.9	26.1	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。ローム粒子を少量含む。		P786	X-I-6	26.5	20.8	12.4	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)	
P082	V-22	36.3	34.9	26.1	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。ローム粒子を少量含む。		P787	X-I-16	64.5	42.4	13.4	不整形	黒褐色土(1093Z/1)	
P083	IV-25	23.2	18.5	24.5	不整形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性強い。		P788	X-20	20.1	13.3	13.1	方形	黒褐色土(1093Z/1)	
P084	IV-25	38.4	26.1	29.3	不整形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性強い。ロームブロックを多く含む。		P789	X-15	29.7	15.6	14.5	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)	
P085	IV-20-25	25.9	20	16.3	円筒形	灰黄褐色土(1093A/2)		P790	X-10	29.6	27.7	23.6	円筒形	灰黄褐色土(1093A/2)しまり・粘性あり。	
P086	IV-25	24.7	24.6	17.6	円筒形	ローム粒子を含む(物理含有)		P791	X-10-20	24.6	25.9	14.2	円筒形	灰黄褐色土(1093A/2)	
P087	IV-25	60.9	49.9	20.8	-	黒褐色土(1093Z/1)		P792	X-20	20.8	19.8	7.6	円筒形	灰黄褐色土(1093A/2)	
P088	IV-25	13.1	15.9	12.2	-	黒褐色土(1093Z/1)		P793	X-25	36.0	44.3	15.6	楕円形	灰黄褐色土(1093A/2)	
P089	IV-25	83.8	39.1	29.4	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)		P794	X-15	26.6	23.6	7.6	楕円形	灰黄褐色土(1093A/2)	
P090	IV-25	54.0	50.8	6.8	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)しまりあり。粘性やや強い。ローム粒子を多く含む。		P795	X-20	25.5	24.4	9.8	円筒形	灰黄褐色土(1093A/2)	
P091	X-5	33.8	18.8	12.6	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。		P796	IV-18	10.73	43.0	25.5	楕円形	灰黄褐色土(1093A/1)しまり弱く、粘性強い。	
P092	IV-20	46.5	43.6	34.6	不整形	黒褐色土(1093Z/1)しまり弱く、粘性やや強い。		P797	IV-22	33.8	49.3	16.9	円筒形	灰黄褐色土(1093A/1)弱下。	
P093	IV-20	25.8	24.7	12.4	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)		P798	X-I-7	43.8	36.4	12.8	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。ロームブロックを含む。	
P094	IV-15	28.6	28.4	32.1	不整形	黒褐色土(1093Z/1)		P800	X-17	30.2	29.2	18.1	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり弱く、粘性やや強い。	
P095	IV-15	28.6	28.4	32.1	不整形	黒褐色土(1093Z/1)		P801	X-17	24.8	19.9	12.7	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。	
P096	IV-24	31.3	19.6	61.2	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)		P802	X-17	28.4	24.9	14.3	不整形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。ロームを少量含む。	
P097	IV-24	36.8	31.6	14.8	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)		P803	X-17	25.1	18.7	19.1	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。	
P098	IV-24	30.8	27.4	35.0	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)		P804	X-17	25.4	18.7	19.1	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。	
P099	IV-14	28.9	19.9	20.2	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)しまり弱く、粘性やや強い。		P805	X-19	30.7	36.0	9.4	不整形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。ロームを少量含む。	
P100	IV-19	26.8	20.4	24.3	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)しまり弱く、粘性やや強い。		P806	X-17	21.8	20.6	21.1	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。ロームを少量含む。	
P101	X-4	23.0	19.8	9.5	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり弱く、粘性やや強い。		P814	X-10	32.0	14.1	6.9	楕円形	黒褐色土(1093Z/1)しまり・粘性やや強い。ロームを少量含む。	
P102	X-4	37.0	33.9	64.2	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり弱く、粘性やや強い。ロームを少量含む。		P815	X-10	16.3	12.9	19.4	円筒形	黒褐色土(1093Z/1)しまり弱く、粘性やや強い。ロームを少量含む。	

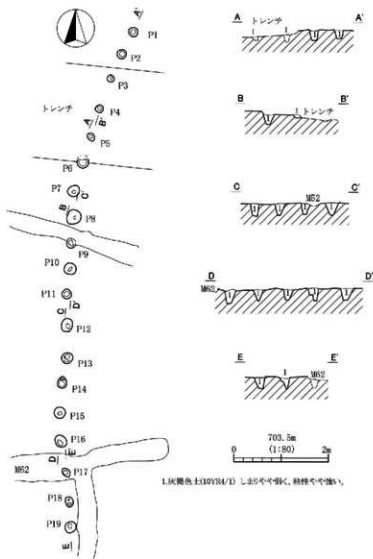
第56表 ビット計測表(8)

遺物名	出土位置	長さ	幅	厚さ	形	出土遺物 観察場所	備	書	遺物名	出土位置	長さ	幅	厚さ	形	出土遺物 観察場所	備	書
P618	X-10	18.8	17.7	7.1	円形		黒褐色土(10193/1) しまり・粘性やや強い。 小ロームブロックを少量含む。		P618	V-15	28.7	25.9	18.9	円形		黒褐色土(10193/1)粒直あり。	
									P620	V-12	27.1	26.1	10.4	円形		黒褐色土(10193/1)赤色粒子を含む。	
P617	X-10	16.4	14.8	19.4	円形		黒褐色土(10193/1) しまり・粘性やや強い。 小ロームブロックを少量含む。		P617	V-04	23.5	18.3	17.9	方形		黒褐色土(10193/1) ロームブロックを多く含む。	
									P641	XII-2	21.1	18.7	9.9	円形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性強い。	
P616	X-13	27.5	26.5	17.7	円形		黒褐色土(10193/1) しまり・粘性やや強い。 ロームブロックを少量含む。		P642	IV-21	72.3	47.6	16.8	楕円形	289より古	黒褐色土(10193/1)	
									P643	IV-21	72.3	47.6	16.8	楕円形		黒褐色土(10193/1)	
P615	X-13	27.5	26.5	17.7	円形		黒褐色土(10193/1) しまり・粘性やや強い。 ロームブロックを少量含む。		P644	VI-21	15.9	12.8	16.0	円形		黒褐色土(10193/1)	
									P645	VI-21	29.3	19.4	21.1	楕円形	286より古	黒褐色土(10193/1)	
P619	X1-4	24.9	20.3	25.7	円形		灰褐色土(10194/2) しまり・粘性やや強い。		P646	XII-1	24.6	20.7	26.1	楕円形		黒褐色土(10193/1)	
									P647	XII-1	39.5	26.5	16.0	円形		黒褐色土(10193/1)	
P620	V-20	23.2	18.2	20.5	円形		灰褐色土(10194/2) しまり・粘性やや強い。		P648	X1-10	(18.0)	(14.0)	(16.8)	楕円形	157-165より古	黒褐色土(10193/1)	
									P649	V-29	29.9	23.7	16.9	円形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性ややあり。ロームブロックを含む。	
P622	X1-3	29.7	28.4	22.3	円形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。小ロームブロックを少量含む。		P650	X-10	54.3	42.3	12.9	円形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性ややあり。ローム粒子を多く含む。F2に属する。	
									P651	X-19	30.0	(23.0)	12.8	円形	147より新	灰褐色土(10194/1)	
P623	X1-4	23.6	18.6	9.1	円形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。小ロームブロックを少量含む。		P652	XII-7	35.8	(48.0)	14.6	楕円形	F25より古	黒褐色土(10193/2)しまり・粘性強い。	
									P653	XII-6/7	96.1	80.0	16.2	4角形		黒褐色土(10193/2)しまり・粘性強い。	
P624	X1-3	31.8	30.3	20.7	円形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。小ロームブロックを少量含む。		P654	XII-17	47.0	45.6	4.1	円形	F289・F284より新	556調査	
									P655	XII-22	73.3	39.3	25.3	方形		556調査	
P625	X1-5	21.1	17.1	10.3	円形		黒褐色土(10194/1) しまり・粘性やや強い。 小ロームブロックを少量含む。		P656	XII-17	37.5	25.6	19.4	楕円形		556調査	
									P657	XII-17	35.9	21.4	14.8	楕円形	103より新	556調査	
P626	V-24	62.3	24.1	19.1	楕円形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。ロームを多量に含む。		P658	XXIV-2	42.4	28.4	33.0	楕円形		556調査	
									P659	XXIV-2	55.8	32.3	17.4	方形	灰褐色土(10194/1)しまり・粘性やや強い。ロームを少量含む。		
P627	V-18	23.4	22.1	17.1	円形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。ロームを少量含む。		P660	XXIV-2	29.2	18.5	30.8	楕円形		556調査	
									P661	XXIV-2	41.2	29.5	33.1	楕円形		556調査	
P628	X1-3	32.0	(18.3)	21.5	不整形	107より古	黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。小ロームブロックを少量含む。		P662	X1-4	18.4	17.0	14.5	円形	372より古		
									P663	XV-21	23.3	21.2	28.2	円形			
P629	V-20	34.2	16.8	19.0	不整形		黒褐色土(10193/1) ローム粒子を含む。		P664	XV-25	23.0	29.3	29.2	円形		黒褐色土(10192/2) ローム・軽石を含む。	
									P665	XV-16	25.3	25.4	7.4	方形	103より新		
P630	V-19	30.2	28.7	18.0	円形		黒褐色土(10193/1) ロームブロックを多く含む。		P666	XII-16	26.2	19.1	11.1	方形	103より新		
									P667	XII-16	25.5	23.0	10.1	円形	103より新		
P631	V-14	34.8	34.1	16.2	方形		黒褐色土(10193/1) ロームブロックを多く含む。		P668	XII-13	16.0	00.0	13.9	-	102より新		
									P669	XII-13	16.0	00.0	13.9	-	102より新		
P632	VI-16	(18.1)	(16.3)	13.5	円形	M75より古	褐色土(10194/1)しまり・粘性強い。		P670	X1-8	48.5	43.6	13.1	不整形	学生鉢	黒褐色土(10193/1) しまり・粘性やや強い。 小ロームブロックを少量含む。	
									P671	X1-3	65.1	53.9	15.1	不整形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。ロームブロックを少量含む。	
P633	X1-6	29.5	21.1	13.0	不整形		褐色土(10194/1) 赤色の粒子を含む。		P672	X1-3	65.1	53.9	15.1	不整形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。ロームブロックを少量含む。	
									P673	X1-3	65.1	53.9	15.1	不整形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。ロームブロックを少量含む。	
P634	X1-6	(21.5)	(18.2)	13.8	-		褐色土(10194/1) ロームブロックを含む。		P674	X1-3	65.1	53.9	15.1	不整形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。ロームブロックを少量含む。	
									P675	X1-1	20.7	16.9	5.7	円形		黒褐色土(10194/1)	
P635	X1-1	20.7	16.9	5.7	円形		褐色土(10194/1) しまり・粘性やや強い。ローム粒子を多く含む。		P676	X1-3	65.1	53.9	15.1	不整形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。ロームブロックを少量含む。	
									P677	X1-3	65.1	53.9	15.1	不整形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。ロームブロックを少量含む。	
P636	V-19	30.6	27.8	17.5	円形		褐色土(10193/1) しまり・粘性やや強い。ローム粒子を多く含む。		P678	X1-3	65.1	53.9	15.1	不整形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。ロームブロックを少量含む。	
									P679	X1-3	65.1	53.9	15.1	不整形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。ロームブロックを少量含む。	
P637	V-14	21.3	14.3	8.4	円形		黒褐色土(10193/1)		P680	X1-3	65.1	53.9	15.1	不整形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。ロームブロックを少量含む。	
									P681	X1-3	65.1	53.9	15.1	不整形		黒褐色土(10193/1)しまり・粘性やや強い。ロームブロックを少量含む。	

第57表 単独ビット出土遺物観察表

No.	種類	原種	法		成形・調整・文様		測定値(×)推定値(○)丸径				
			口径(高)	底径(底)	柄(高)	底径(底)	口径(高)	底径(底)			
F296	灰褐色土	前	-	(7.6)	(3.3)	ロームナガ	電輪	ロームナガ-鉋形-糸引-高台付付	鉄輪	正転:右引	出土位置
F295	白石	袋山巻	15.7	10.5	11.70	2420.00	正面が使用面	欠損状態:ほぼ不明		No.1	
F508	磁石	黒灰巻	(10.6)	(4.6)	(2.6)	(142.21)	磁石軸	上端部欠損	磨痕あり		
P605	磁石	黒石灰山巻	22.8	22.2	高さ11.7	7720.00	円径	11.5×12.2	円厚	0.7	

(2) 1号杭列状遺構



第129図 1号杭列状遺構実測図

本址は調査区中央のX-5・10Grから検出された。本遺構は標準土層で述べたⅧ・Ⅸ層を除去した後、Ⅹ層の所謂浅間P10ーム層上面で遺構が確認された。ピットは19か所、南北方向にやや弧を描くように一直線上に検出された。ピットの形態は円形を基調とする。ピット列の規模は検出距離で10.93m、ピット間隔が約0.53～0.68m、径が0.15～0.29m、深さが0.04～0.28mを測る。

ピットからの出土物は無く、所産時期については不明である。しかし、類例遺構として長野市松原遺跡の杭列状遺構が挙げられる。松原遺跡の例は縄文中期末葉～後期前葉の集落に付属する遺構と考えられ、本址と同じく径15cmほどの小さな穴が列となって何重にも検出されている。本遺跡からは縄文期の集落は発見されていないが、調査区西側で落とし穴と考えられる土坑が2基発見されている。また、溝状遺構等から出土している縄文土器も加曾利式や堀之内式といった縄文中期後半から後期の土器片が出土している。これらのことから本遺跡の杭列状遺構もこの松原遺跡と同じような性格で、所産時期もこれらの遺物に対応すると推定できる。

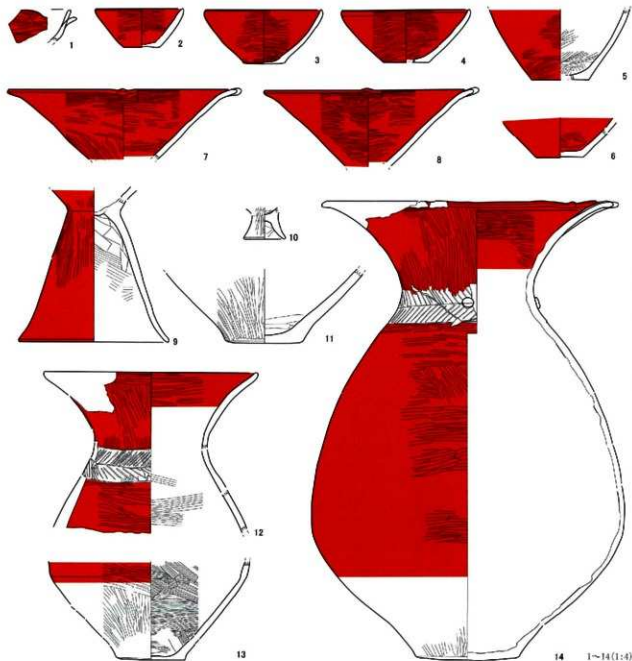
第7節 遺物集中区

本遺跡からは弥生後期の土器が集中して検出される場所が10か所確認された。調査段階ではU1からU11の番号を付したが、整理段階で土器の出土状態よりU1・2・3・8、U4・5、U6、U7・9、U11の5グループのまとまりとして報告する。

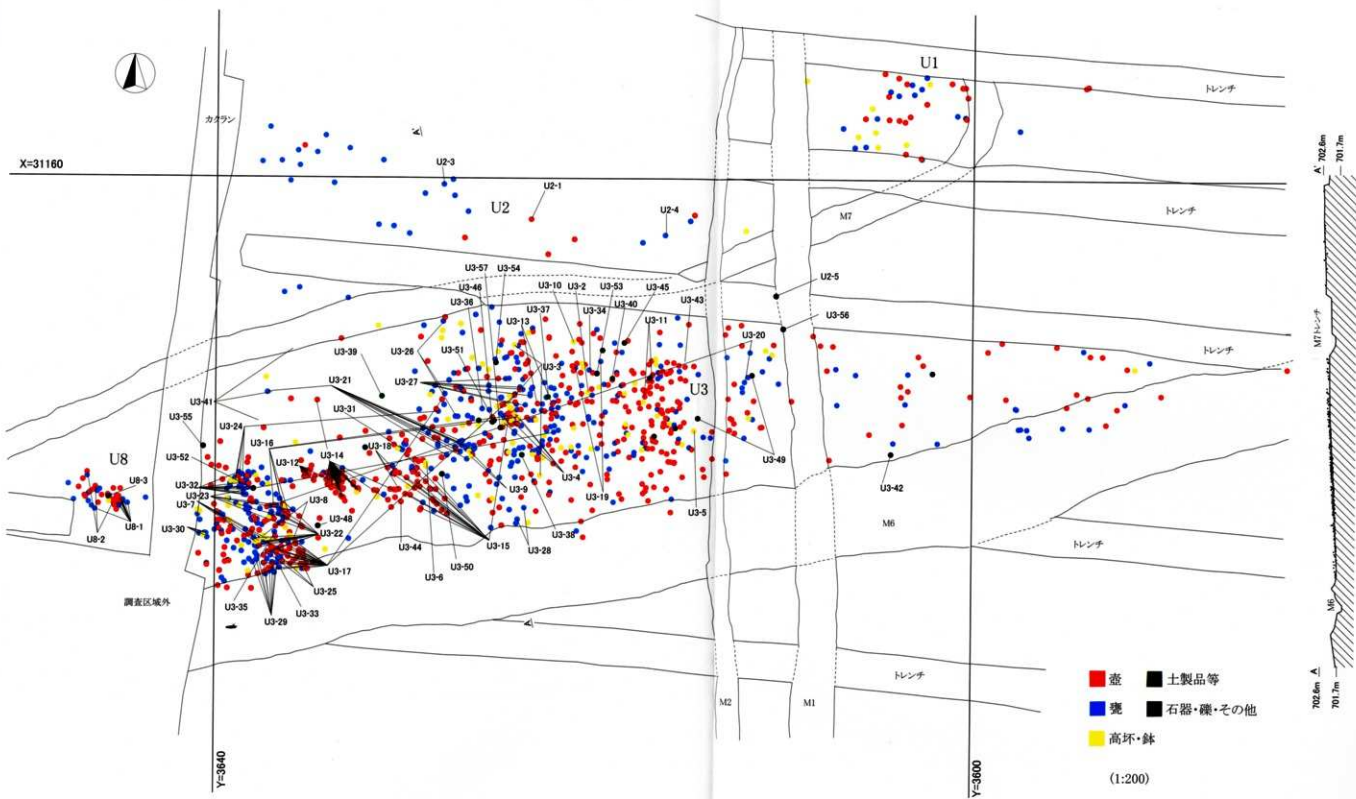
この遺物集中区は弥生後期箱清水期の集落の南側、集落域と低地部の境界線あたりに展開するように検出された。U6を除いてはいずれの遺物集中区も小片の土器がおびただしい数出土し、U11は20×20mの範囲で点数にして4700点以上の遺物が出土した。以下、各遺物集中区の特徴を述べる。

(1) U1・2・3・8遺物集中区

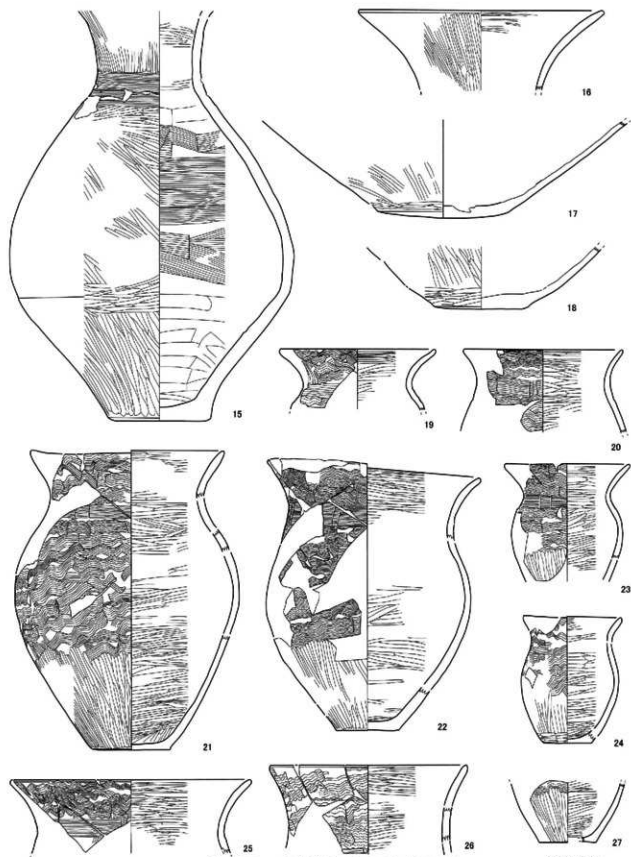
本址は調査区東側のXX・XXI区を中心に検出された。U3を中心に北と西側に広がるような形でU1・2・8が展開



第130図 U3遺物集中区出土遺物実測図(1)

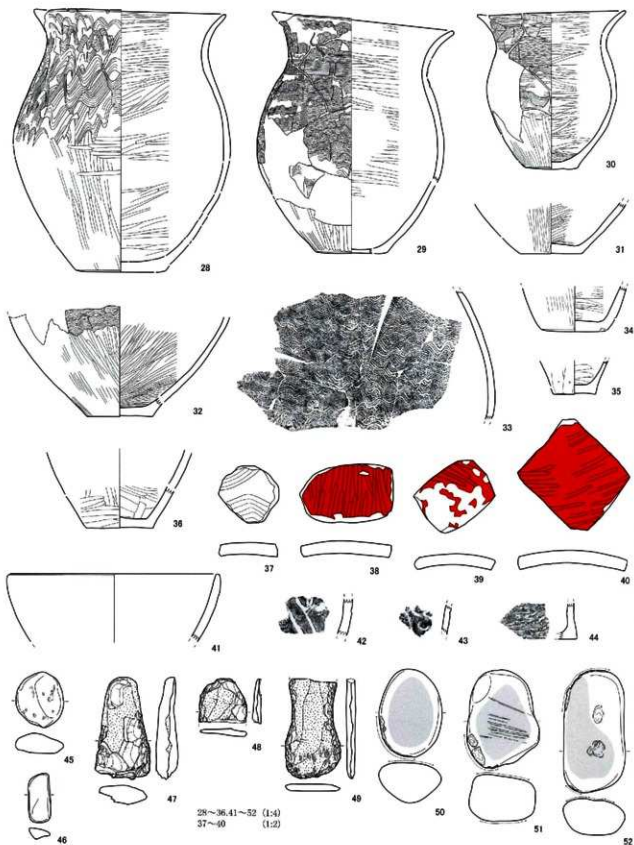


第131図 U1・2・3・8遺物集中区接合関係図及び種別図

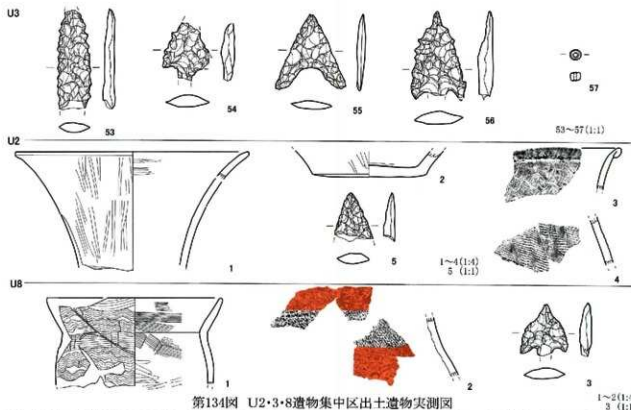


第132图 U3遗物集中区出土遗物实测图(2)

15~27 (1:4)



第133图 U3遗址集中区出土器物平面图(3)



第134図 U2・3・8遺物集中区出土遺物実測図

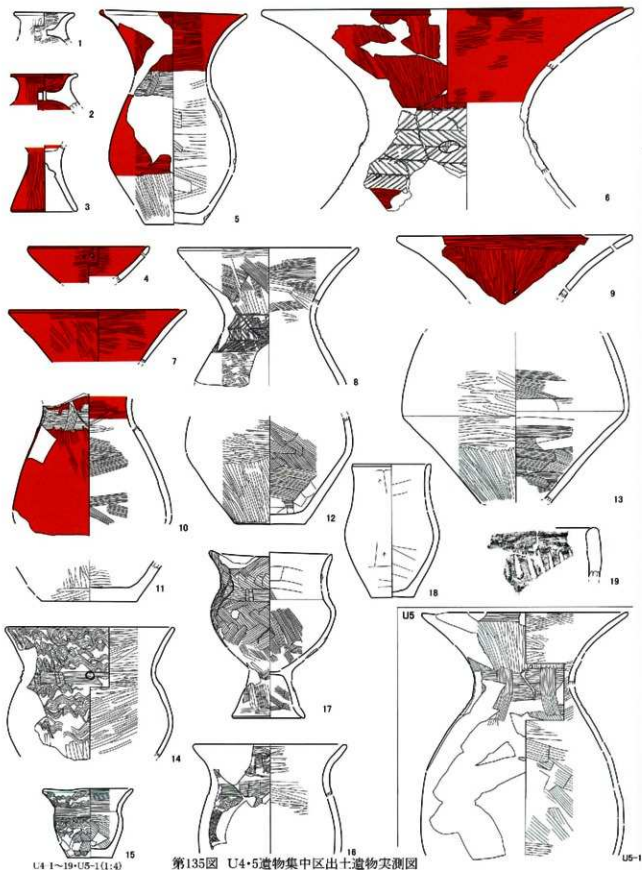
する。遺物の総数はU1が41点、U2が31点、U3が1081点、U8が56点である。遺物の平面的な広がりは東西60m、南北20mの範囲で、最大の特徴はM6号溝状遺構の北側に沿うように遺物が検出され、溝の南側には広がっていないことである。この事は、M6号溝状遺構が機能している段階で、これら遺物群はこの場所に遺棄されたことを示していると考えられこれらの遺構が有機的に関連があるとも推定できる。遺物の垂直的な広がりは第130図に示したように、南傾斜の地形に沿うように厚み20cm前後の範囲で出土している。遺物の出土位置下からは顕著な掘り込み等は確認されなかった。遺物の種類ごとの出土状況は範囲全体に広がり意図的な状況は確認できなかったが、接合後に完形に近くなり、図示した遺物は、範囲の西寄りに多く出土していることが解る。

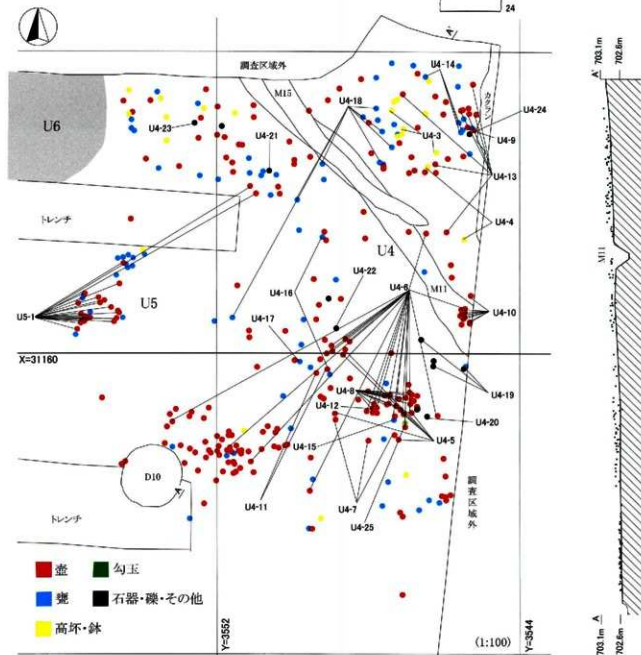
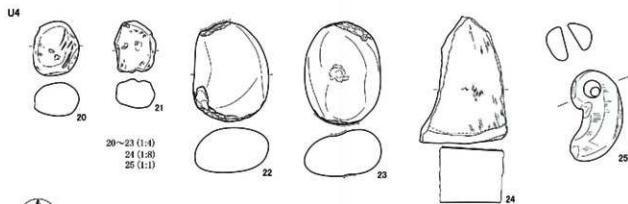
また、本遺物集中区の土器はH2号住居址とH8号住居址出土の土器と接合関係にあることが解った。H2号住居址と接合関係にあった土器はいずれも甕、H8号住居址と接合したものは壺である。いずれの破片も胴部や底部の破片であり、住居址内出土の口縁部等と接合し器形全容が把握できたものもある。これらの事実は居住内で使用し、欠損した土器の破棄方法を具体的に示す好資料であり、土器のすべてをを一か所に破棄しない意味等を考えることが今後の課題である。なお、土器片群に混ざってガラス小玉1点が出土した。

(2) U4・5遺物集中区

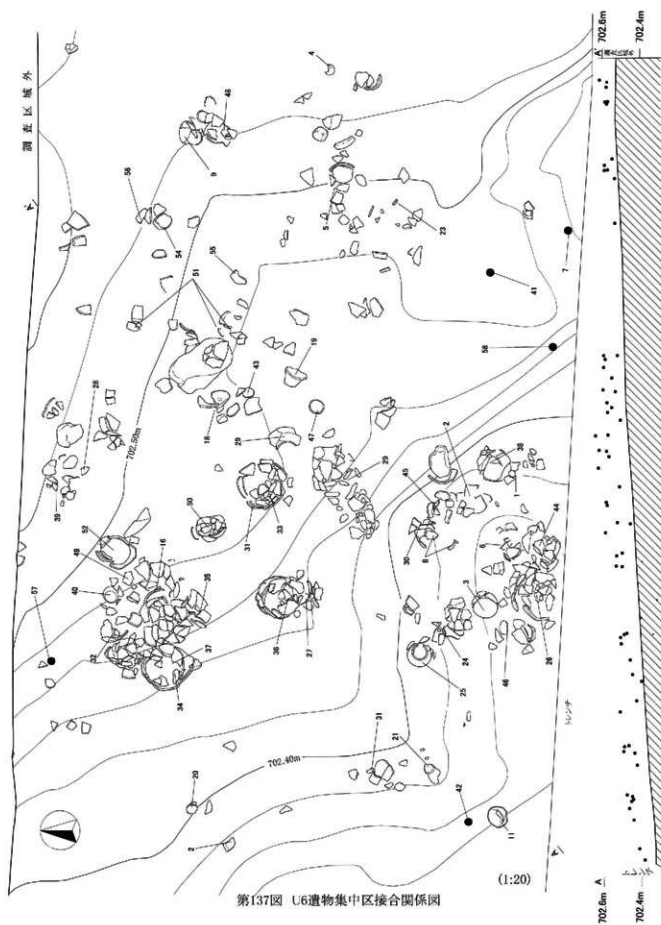
本址は調査区東端のXIII・XIX区に位置する。北側と東側が調査区外となるが遺物の出土状態から、遺構は大きく北東側に広がると考えられる。遺物の総数はU4が326点、U5が32点であり、調査時は別遺構名を付したが、遺物の広がりから同一の遺構と判断できる。遺物の片面的な広がりは調査区で制約されているが、南北は15m程の範囲である。遺物の垂直的な広がりはU3のグループに比べると遺物間の比高差があり翡翠勾玉は15の土器下20cmで出土した。また、第135図で示したように遺物の種類としては壺破片が全体の中で多い傾向にあり、他の遺物集中区と異なる点である。なお、本址からは先に触れた完形の翡翠製勾玉が1点出土した。また、図示した15の小型の甕は、施文がしっかりと施された甕で完形品である。U3においてもガラス小玉1点、U11においては管玉1点が出土している。

このように土器片がまとまって一か所に出土すると一概に土器廃棄的な性格付けで結論づけられるが、少量ではあるが玉類の出土や、種別の偏りなどはこのような遺構の性格付けに一石を投じるものであり、調査時の検出状況での早急な判断に警鐘を鳴らすものと考ええる。





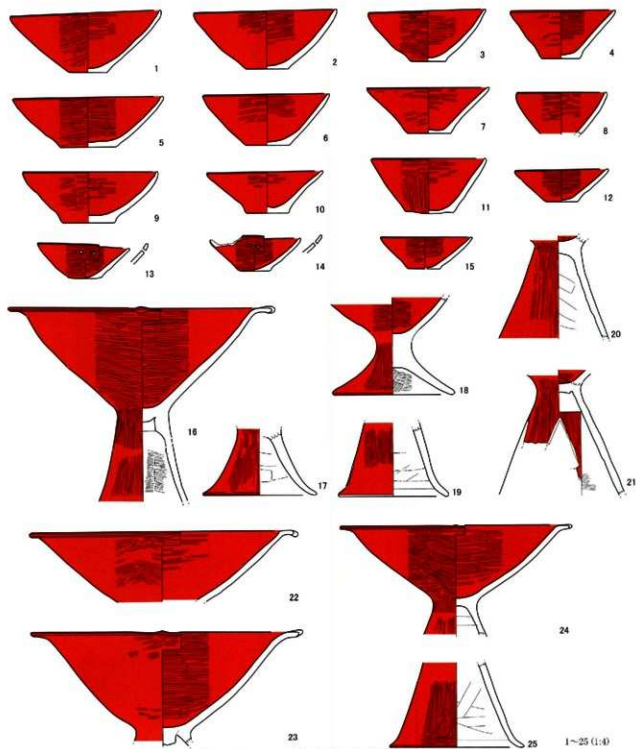
第136図 U4・5遺物集中区接合関係図・種別図及び出土遺物実測図



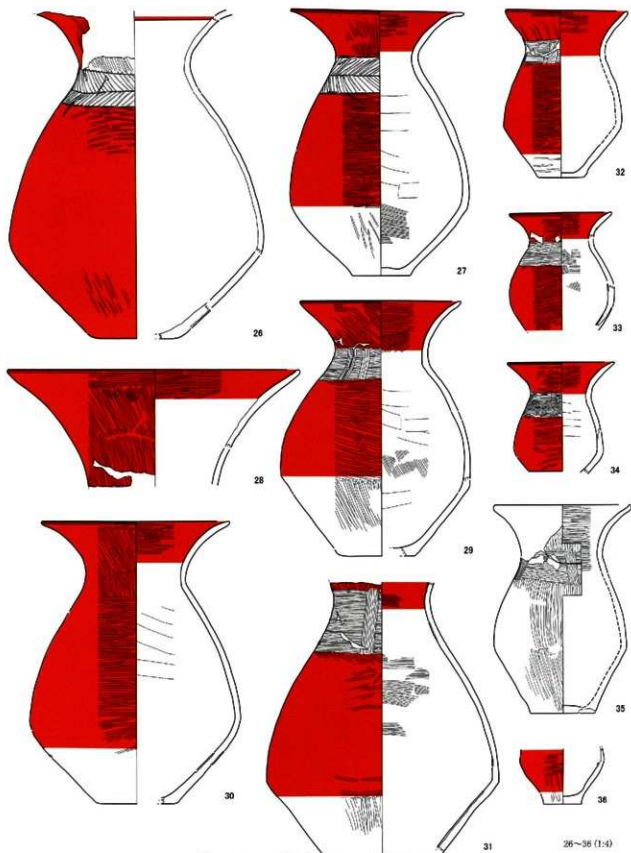
第137図 U6遺物集中区接合関係図

(3) U6遺物集中区

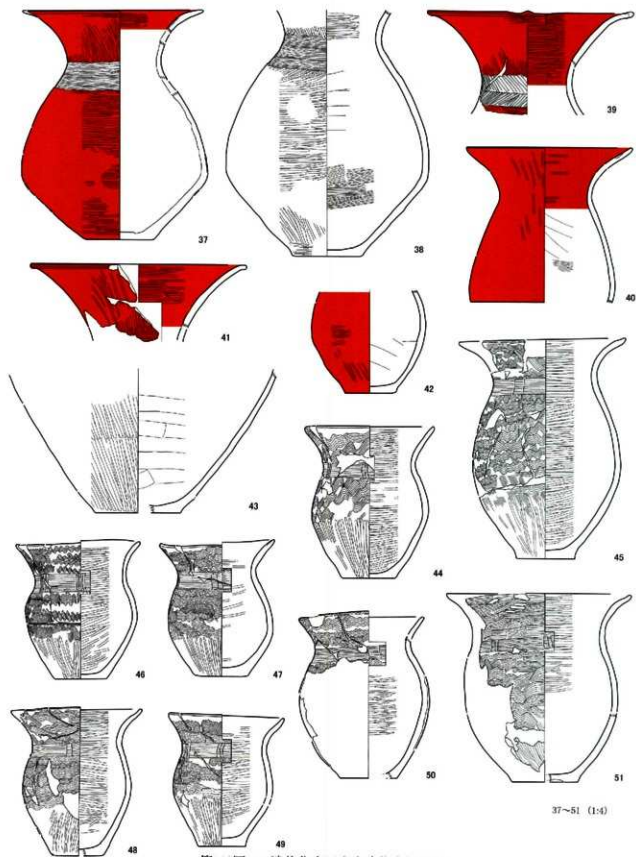
本址は調査区東端のXⅢ区に位置する。北側が調査区外となるが遺物の出土状態から、遺構は北側に広がると思われる。遺物の平面的な広がりは緩やかな南傾斜の5×3mの範囲に鉢、壺、高坏を中心に置かれた様な状態で検出された。種別ごとの配置に意図的なものは確認できなかったが、壺を中心に甕・高坏・鉢がセットになって置かれているように見える。また、加工痕等は確認されなかったが、大型の甕が3点置かれたような状態で検出された。



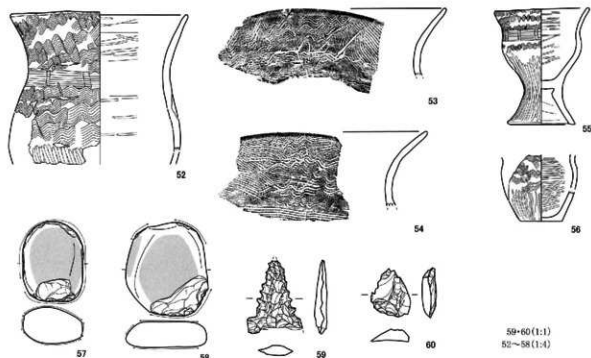
第138図 U6遺物集中区出土遺物実測図(1)



第139图 U6遗物集中区出土遗物实测图(2)



第140图 U6遗物集中区出土遗物实测图(3)



第141図 U6遺物集中区出土遺物実測図(4)

また、本址から出土した土器の中には意図的に土器内部より胴部を壊したと考えられるものがあつた。それらはいずれも壺であり、顕著なものとして27・29・38があり、不確実ではあるが可能性のあるものが33・34である。これらの破砕は焼成後の行為であり、破砕した破片等が周辺より出土していないことから、他の場所で胴部に穴を開けたものを、この場所に据え置いたと考えられる。壺以外の土器についても、U6については接合作業を経て土器の完形率は高くなるものが多かったが、高坏については脚部と坏部が接合できず完形になるものが無かつた。これとは対照的に鉢は、法量も大・中・小とあり、いずれも完形のものも多く、その場所に据え置かれた様な状態であつた。

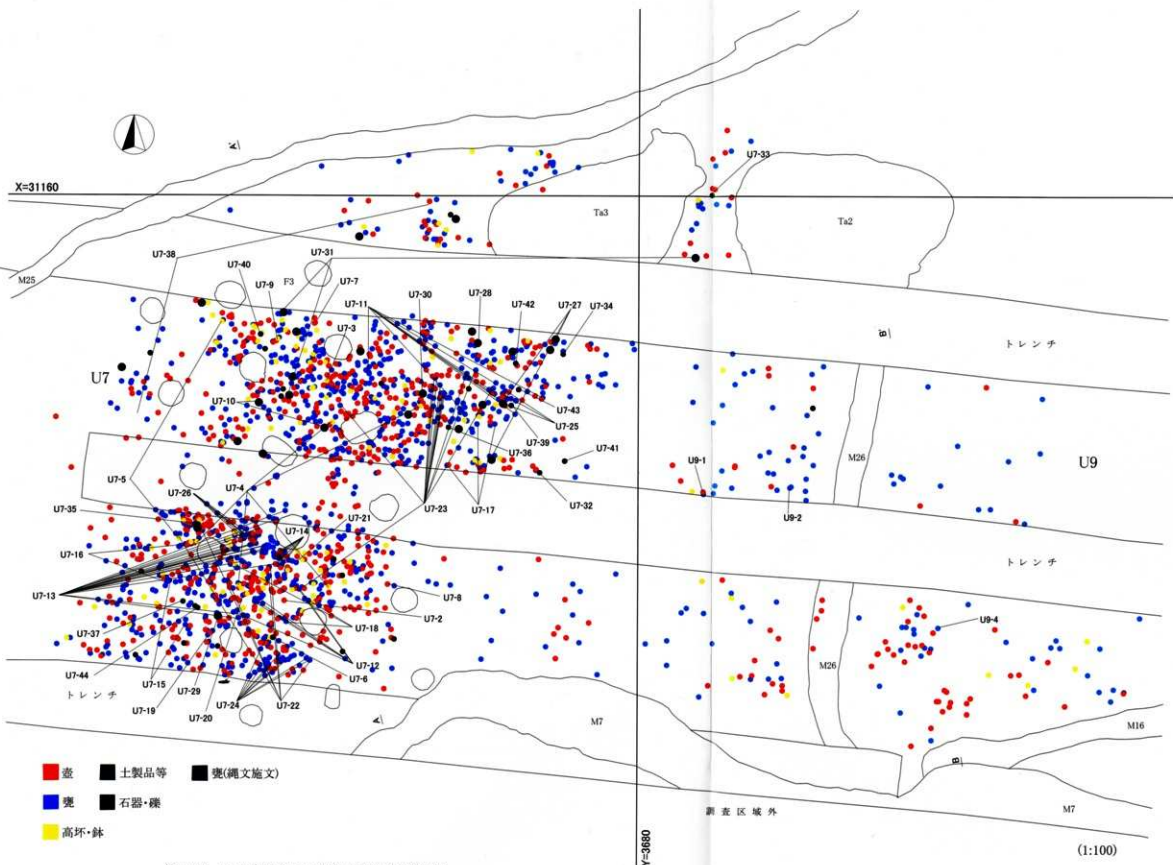
このように、本址は他の遺物集中区に比べ遺物の出土状況も明らかに異なり、未調査部分もあるため不確実ではあるが、祭祀的な位置づけがなされると考える。ただ、他の遺物集中区で出土している玉類がU6は全く無く、祭祀と玉類の関係が注目される。

(4) U7・9遺物集中区

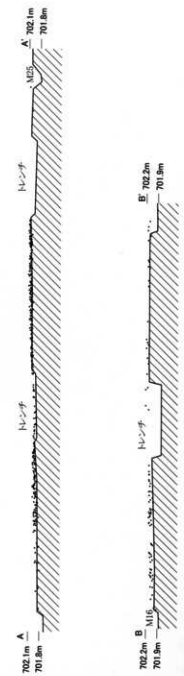
本址は調査区南端のXXII・XXIII区を中心に検出された。遺物の平面的な広がり東西30m、南北15mの範囲であるが、遺物の出土状態から遺構は南へ広がると考えられる。また、調査当初は遺物の広がりで西側をU7、東側をU9として調査したが、遺物の粗密だけで一連の広がりと判断して同一グループとして報告する。遺物の総量はU7が1812点、U9が206点であつた。U7・9はU3のグループに比べ土器総量も多い割には接合率が低く、土器復元を経ても完形となるものが非常に少ないのが特徴である。また、西側に多く出土する傾向にあつた。これらの様相から本址は西側に広がる集落からの遺物廃棄場と考えられる。

(5) U11遺物集中区

本址は調査区中央のXVI・XVII区で検出された。約20×20mの範囲で遺物が検出されたが、南側は圓場整備の削平の影響を受けており、あるいはU7・9と本来は繋がっていたとも考えられる。遺物の平面的な広がり西側に多い。傾向はU7・9同じで、特に北端部分に非常に多くの遺物が集中して出土した。遺物の総量は4735点であつた。しかし、接合率は低く、復元後の完形率も非常に低かつた。ただ、1点であるがH26号住居址の竈と接合関係が確認され、U7・9とU11は調査区西側や昭和56年調査の周防畑B遺跡で検出された集落域から廃棄された土器の可能性が指摘できる。なお、U11からは外来からの影響と考えられる縄文施文の土器が多く出土し注目される。

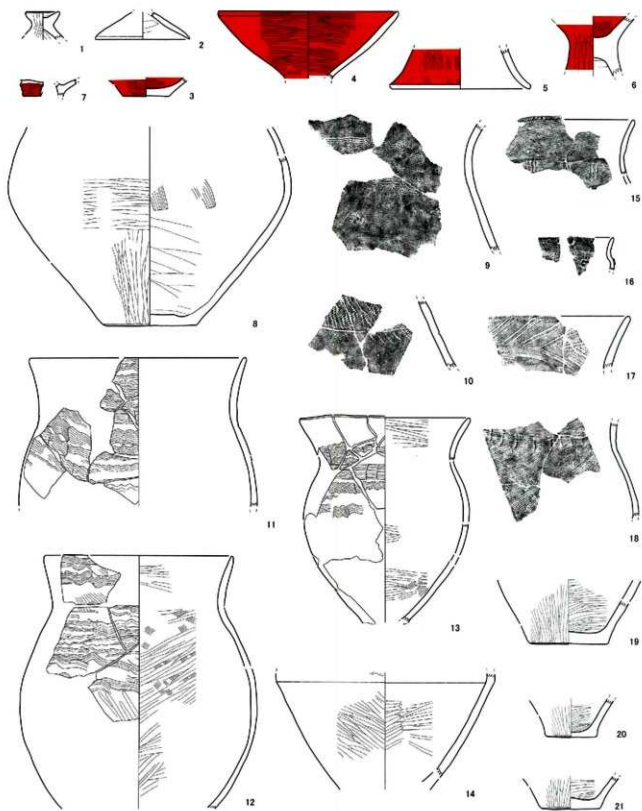


第142図 U7・9遺物集中区接合関係図及び種別図



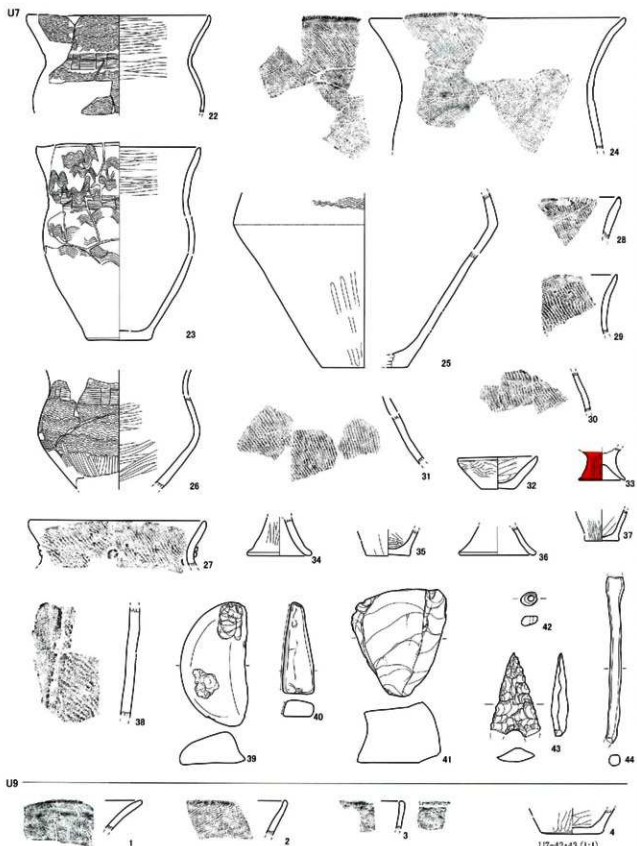
Y=38880

(1:100)

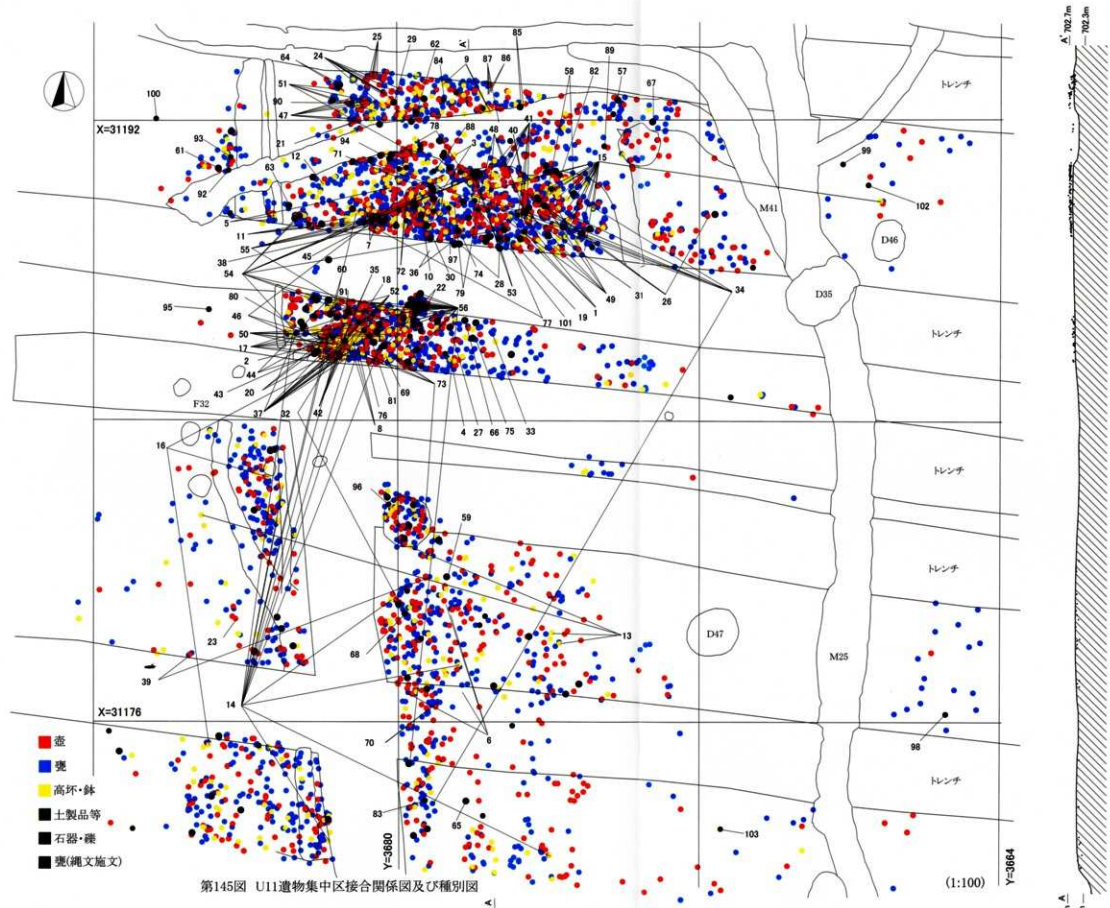


第143图 U7遗物集中区出土遗物实测图

1~21 (1:3)

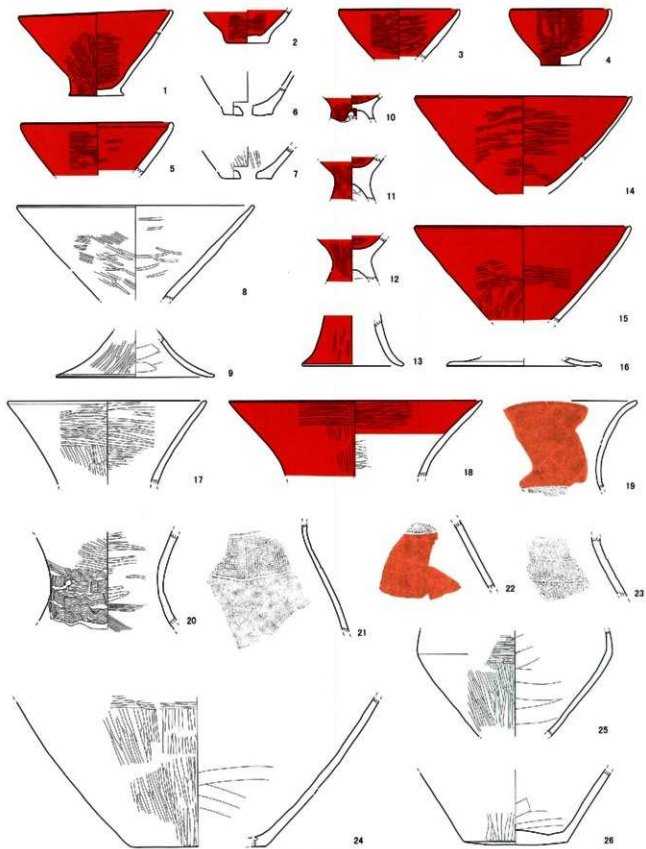


第144图 U7·9 遗物集中区出土遗物实测图



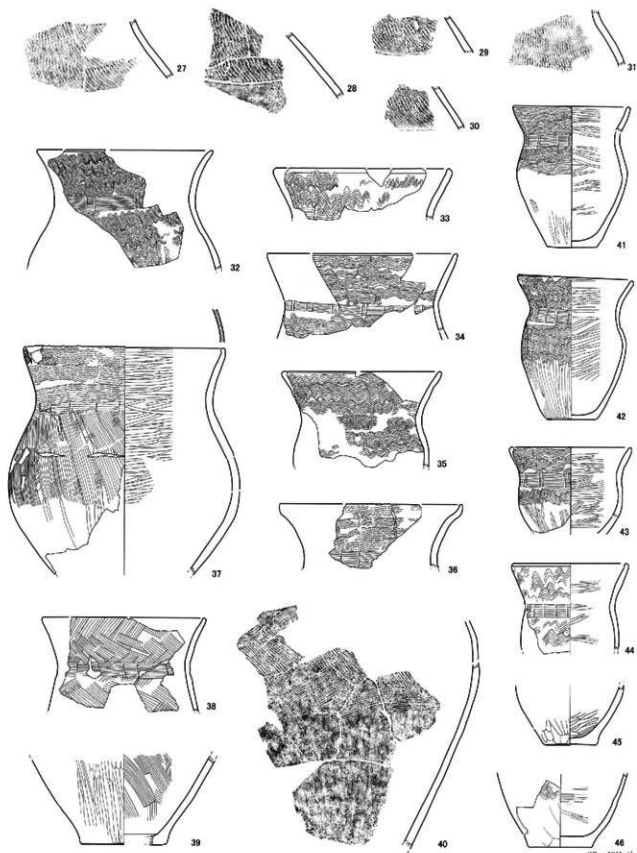
第145図 U11遺物集中区接合関係図及び種別図

702.7m
 702.5m
 702.3m



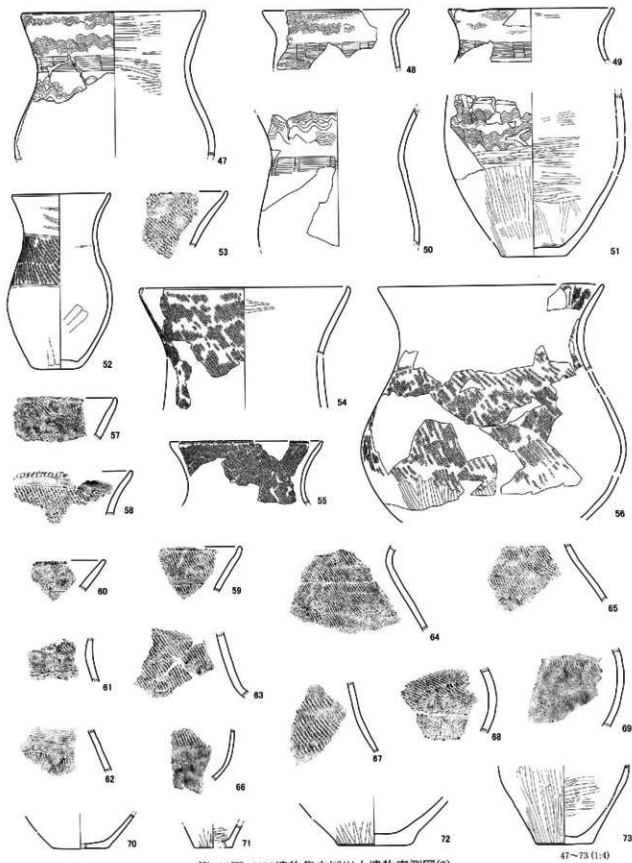
第146图 U11遗物集中区出土遗物实测图(1)

1~26 (1:4)

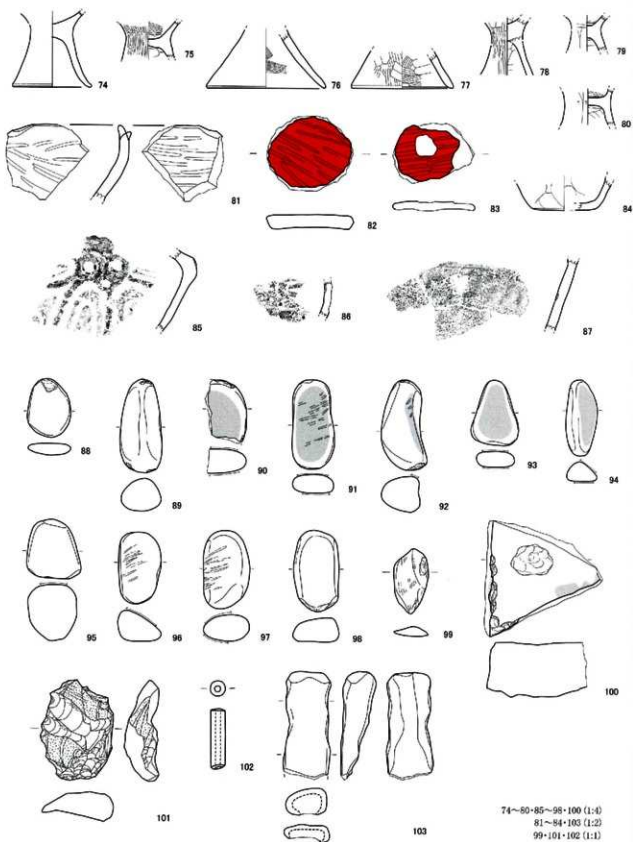


27~46(1:3)

第147图 U11 遗物集中区出土遗物实测图(2)



第148图 U11遗物集中区出土遗物实测图(3)



第149图 U11遗物集中区出土遗物实测图(4)

第58表 U2・3遺物集中区出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様		規定値() 残存値() 凡感●	
			口徑(㎝)	底径(㎝)	器高(㎝)	内 面	外 面		
1	弥生	鉢	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	福岡実業	XX1-15 クロ
2	弥生	鉢	9.4	3.7	4.2	ヘラミガキ→赤色塗彩 割離	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	
3	弥生	鉢	(12.6)	(4.6)	5.8	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	福岡実業	XX1-9(ク)
4	弥生	鉢	(13.8)	(4.6)	5.6	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	福岡実業	
5	弥生	鉢	-	(6.0)	(7.2)	ヘラミガキ	ヘラミガキ→赤色塗彩	福岡実業	XX1-9
6	弥生	鉢	-	4.9	(4.2)	ヘラミガキ→赤色塗彩 割離	赤色塗彩 割離	完全実測	XX1-9 12
7	弥生	高坏	(24.2)	-	(7.3)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	福岡実業	
8	弥生	高坏	(22.2)	-	(8.2)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	福岡実業	
9	弥生	高坏	-	(15.8)	(16.8)	手摺 割離(赤色塗彩) 胴部ハケ目→ヘラミガキ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	H2IV区
10	弥生	高坏	-	4.3	3.3	胴部ヘラミガキ 胴部ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	
11	弥生	甕	-	(8.2)	(7.8)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	福岡実業	
12	弥生	甕	(22.0)	-	(17.1)	ハケ目→ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	H2Ⅱ区
13	弥生	甕	-	7.2	(10.8)	ハケ目	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	01-2 XX1-9
14	弥生	甕	(30.8)	(11.0)	(9.0)	ヘラミガキ→赤色塗彩 割離	ヘラミガキ→赤色塗彩	福岡実業	XX1-9
15	弥生	甕	-	10.9	(43.5)	ハケ目→ヘラミガキ→ヘラミガキ	新造模範文→ヘラミガキ	完全実測	
16	弥生	甕	(25.9)	-	(8.4)	ヘラミガキ 磨耗	ヘラミガキ	福岡実業	01
17	弥生	甕	-	13.8	(16.3)	割離	ヘラミガキ	完全実測	
18	弥生	甕	-	9.8	(6.7)	割離	ヘラミガキ	完全実測	
19	弥生	甕	(16.0)	-	(6.4)	ヘラミガキ	新造模範文→新造模範文→ヘラミガキ	福岡実業	12 XX1-9
20	弥生	甕	(16.8)	-	(8.8)	ヘラミガキ	新造模範文(2連止め)11本→新造模範文	福岡実業	07
21	弥生	甕	(26.5)	8.4	21.7	ヘラミガキ	新造模範文→新造模範文(2連止め)9本→ヘラミガキ	完全実測	12 XX1-9
22	弥生	甕	22.5	6.8	28.8	ヘラミガキ	新造模範文(2連止め)18本→ヘラミガキ	完全実測	
23	弥生	甕	(15.2)	-	(12.8)	ヘラミガキ	新造模範文(2連止め)10本→新造模範文→ヘラミガキ	福岡実業	
24	弥生	甕	(10.2)	3.0	(12.2)	ヘラミガキ	新造模範文→ヘラミガキ	完全実測	
25	弥生	甕	(23.6)	-	(7.8)	ヘラミガキ	新造模範文(2連止め)2本→新造模範文	福岡実業	XX1-9
26	弥生	甕	(20.8)	-	(9.0)	ヘラミガキ	新造模範文→新造模範文→ヘラミガキ	完全実測	XX1-7 XX1-9 07
27	弥生	甕	-	(6.0)	(6.4)	ヘラミガキ	新造模範文→ヘラミガキ	福岡実業	
28	弥生	甕	(20.1)	(7.4)	28.9	ヘラミガキ	新造模範文→ヘラミガキ	完全実測	
29	弥生	甕	(19.4)	7.6	28.0	ヘラミガキ	新造模範文→新造模範文(2連止め)14本→ヘラミガキ	完全実測	XX1-15 XX2-11
30	弥生	甕	(18.6)	8.6	16.8	ヘラミガキ	新造模範文(2連止め)13本→新造模範文→ヘラミガキ	福岡実業	XX1-15(ク)
31	弥生	甕	-	6.6	(5.4)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	12
32	弥生	甕	-	6.8	(11.5)	ヘラミガキ	新造模範文→ヘラミガキ	完全実測	
33	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	新造模範文	福岡実業	
34	弥生	甕	-	(7.0)	(4.8)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	福岡実業	H2Ⅰ区 Ⅱ区 Ⅳ区
35	弥生	甕	-	4.4	(3.8)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	
36	弥生	甕	-	7.0	(9.2)	ヘラミガキ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	XX1-9
41	縄文?	鉢	(22.4)	-	(7.2)			福岡実業 坂 野?	
42	縄文?	酒鉢	-	-	-		沈瀬 縄文	福岡実業 縄文 坂野?	
43	縄文?	酒鉢	-	-	-		沈瀬	福岡実業 縄文 坂野	
44	縄文?	酒鉢	-	-	-	ヘラミガキ	縄文(無形)	福岡実業 福岡 実	
1	弥生	甕	(24.8)	-	(12.4)	ヘラミガキ 磨耗	新造模範文 ヘラミガキ	完全実測	
2	弥生	甕	-	(12.0)	02.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	福岡実業	XX1-9
3	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	新造模範文	完全実測	
4	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	縄文	福岡実業	03

第59表 U2~5・8遺物集中区出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	種類	法 量			成形・調整・文様		規定値()/保存値()/丸磨	
			口径(長)	径径(幅)	断面(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
09	1	弥生 土製 壺	(18.9)	-	(9.3)	ハケ目→ハケミガキ	縦溝状文→帯結縷文	昭和実測	XXE-11段内面
	2	弥生 土製 壺	-	-	-	赤色塗彩 鈿眼	縄文 赤色塗彩	断面実測	XXE-11段上面
102	8	石鏡	黒曜石	(1.3)	(1.0)	(0.2)	(0.20)	基部欠損	
09	3	石鏡	黒曜石	(1.4)	1.3	0.2	(0.40)	基部欠損	
	27	円板	土製品	3.1	2.8	0.65	7.67	内面ヘラナゲ 外面縦溝状文	
	28	円板	土製品	5.0	3.1	0.7	15.73	内面ヘラナゲ 外面ヘラミガキ→赤色塗彩	
	39	円板	土製品	3.9	3.0	0.6	10.19	内面ヘラミガキ→赤色塗彩 外面ヘラミガキ→赤色塗彩	
	40	円板	土製品	4.8	4.2	0.7	23.12	内面ヘラナゲ 外面ヘラミガキ→赤色塗彩	
	45	軽石製品	軽石	5.9	5.0	2.2	41.93	全体にすり	
	46	磨石?	3477.9A	5.4	2.3	1.2	18.99		
	47	打製石斧	硬質砂岩	19.8	5.8	2.2	179.81	自然磨損	
	48	打製石斧	輝石安山岩	(4.7)	(5.1)	(0.9)	(26.67)	下部欠損 正裏とも磨理面	
	49	打製石斧	輝石安山岩	(10.6)	(5.0)	(1.0)	(96.70)	上部欠損 正裏とも磨理面 刃縁磨滅	
	50	磨石	輝石安山岩	9.3	8.6	4.4	400.73	正面にすり面 左側→下腹部に磨打痕	
	51	磨石	輝石安山岩	10.6	7.6	5.2	630.37	正面にすり面 正面に浅い染痕 左側に磨打痕	
	52	磨石	輝石安山岩	13.0	8.5	4.9	878.68	磨滅あり全体に磨化 正面にすり面と凹み 上下腹部に磨打痕	
	53	尖頭器	黒曜石	(2.6)	(0.9)	(0.2)	(0.77)	上下欠損	
	54	石鏡	黒曜石	(1.5)	(1.2)	(0.3)	(0.81)	先端・基部欠損	
55	石鏡	赤褐色珩土	2.0	1.8	0.2	0.50			
56	石鏡	黒曜石	(2.3)	1.5	(0.35)	(0.92)	基部欠損		
57	ガラス小玉		0.25	0.25	0.25	0.04	口径 0.1		
No.	種別	種類	法 量			成形・調整・文様		規定値()/保存値()/丸磨	
			口径(長)	径径(幅)	断面(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
14	1	弥生 土製 壺	-	つづみ 6.4	(3.3)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測 磨成	
	2	弥生 土製 壺	-	つづみ 7.1	(3.8)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測 磨成	
	3	弥生 高坪 壺	-	6.8	(7.1)	打製ヘラミガキ→赤色塗彩 鈿眼ナゲ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	
	4	弥生 土製 鉢	(12.8)	-	(3.9)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	昭和実測 磨成	
	5	弥生 土製 壺	15.6	6.2	22.8	ハケ目→ヘラミガキ→赤色塗彩	縦溝縷文→帯結縷文→ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	
	6	弥生 土製 壺	(38.5)	-	(21.3)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラ縷縷文→ヘラ縷縷文→軟質のある陶片の貼付文→ヘラミガキ→赤色塗彩	昭和実測	XIX-4段内面
	7	弥生 土製 壺	18.8	-	(5.7)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	
	8	弥生 土製 壺	19.3	-	(14.7)	ハケ目→ヘラミガキ	ヘラ縷縷文→ヘラ縷縷文→ヘラミガキ	完全実測	XIX-4段内面
	9	弥生 土製 壺	(25.0)	-	(8.7)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	昭和実測 磨成	
	10	弥生 土製 壺	-	-	(14.9)	ハケ目→ヘラミガキ→赤色塗彩	縦溝縷文→帯結縷文→ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	XII-24
	11	弥生 土製 壺	-	(10.0)	(4.3)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	XII-24
	12	弥生 土製 壺	-	7.6	(11.4)	ハケ目→ヘラナゲ	ヘラミガキ	完全実測	
	13	弥生 土製 壺	-	-	(18.0)	ハケ目→ヘラナゲ	ヘラミガキ→赤色塗彩	昭和実測	XE-21
	14	弥生 土製 壺	17.8	-	(14.2)	ヘラミガキ	縦溝状文→帯結縷文→丸型貼付文→ヘラミガキ	昭和実測	
15	弥生 土製 壺	9.4	4.8	7.5	ハケ目	ハケ目→縦溝状文→縦溝縷文	完全実測		
16	弥生 土製 壺	(16.3)	-	(11.7)	ヘラミガキ	縦溝状文→帯結縷文	昭和実測	XE-25様内面	
17	弥生 土製 壺	13.0	(7.6)	17.9	磨化ハケ目→ヘラナゲ 台形ハケ目	縦溝状文→帯結縷文→ハケ目→ヘラミガキ	完全実測		
18	弥生 土製 壺	(6.4)	(4.6)	(14.2)	ヘラナゲ	ヘラナゲ→ヘラナゲ	昭和実測	XE-24 1E 11	
19	弥生 土製 壺	-	-	-	-	-	昭和実測		
20	弥生 土製 壺	21.8	-	(36.0)	ハケ目→ヘラミガキ	縦溝縷文→帯結縷文→ヘラミガキ	完全実測	143日-25 XIX-5 S0011E119	
No.	種別	種類	断面(厚)	断面(厚)	断面(厚)	備 考	備 考	出土位置	
E4	21	軽石製品	軽石	5.8	(4.8)	3.6	(54.91)	一部欠損 全体にすり	
	22	軽石製品	軽石	5.5	4.4	3.0	21.25	全体にすり	
	23	磨石	輝石安山岩	10.6	8.0	4.8	627.38	上下腹部に磨打痕	

第60表 U4・6遺物集中区出土遺物観察表

(cm)

No.	種 類	材 質	最大径	最大幅	最大厚	重 量	所 属		出土位置	
							正	背		
23	磨石	輝石安山岩	10.9	8.9	4.7	61.90	正裏中央と上ノ端部に磨付			
24	打石	安山岩	(27.1)	(18.4)	(11.7)	(80.50)	下腹以外欠損 正面が使用面 磨滅あり			
25	勾玉	U・Y1-御石	2.6	1.3	0.9	5.67	孔径 0.5-0.2			
No.	種別	器種	口 径		底 径		形 状・装 飾・文 様		埋没状況(検出層)・丸底	出土位置
			(縦)	(横)	(縦)	(横)	内 面	外 面		
1	弥生	鉢	15.8	3.9	6.2		ヘラミダキ→赤色塗彩	ヘラミダキ→赤色塗彩	底部ヘラミダキ	完全実態
2	弥生	鉢	15.6	4.8	6.2		ヘラミダキ→赤色塗彩	ヘラミダキ→赤色塗彩	底部ヘラミダキ	完全実態
3	弥生	鉢	12.2	3.6	5.4		ヘラミダキ→赤色塗彩	ヘラミダキ→赤色塗彩	底部ヘラミダキ	完全実態
4	弥生	鉢	19.8	3.9	5.2		ヘラミダキ→赤色塗彩	ヘラミダキ→赤色塗彩	底部ヘラミダキ	完全実態
5	弥生	鉢	15.8	5.8	5.3		ヘラミダキ→赤色塗彩	ヘラミダキ→赤色塗彩	底部ヘラミダキ	完全実態
6	弥生	鉢	13.2	4.4	5.4		ヘラミダキ→赤色塗彩	ヘラミダキ→赤色塗彩	底部ヘラミダキ	完全実態
7	弥生	鉢 (11.7)	4.6	4.9			ヘラミダキ→赤色塗彩	ヘラミダキ→赤色塗彩	底部ヘラミダキ	完全実態
8	弥生	鉢	9.2	-	4.8		ヘラミダキ→赤色塗彩	ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態
9	弥生	鉢	14.1	3.4	5.8		ヘラミダキ→赤色塗彩	ヘラミダキ→赤色塗彩	底部ヘラミダキ	完全実態
10	弥生	鉢	12.1	4.4	4.4		ヘラミダキ→赤色塗彩	磨耗		完全実態
11	弥生	鉢	11.8	3.1	5.9		ヘラミダキ→赤色塗彩	ヘラミダキ→赤色塗彩	底部ヘラミダキ	完全実態
12	弥生	鉢 (9.7)	3.2	3.5			ヘラミダキ→赤色塗彩	作部・底部ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態
13	弥生	鉢	9.7	3.4	3.8		ヘラミダキ→赤色塗彩	作部・底部ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態 後成層穿孔2ヶ
14	弥生	鉢	9.4	3.4	3.8		ヘラミダキ→赤色塗彩	作部・底部ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態 後成層穿孔2ヶ
15	弥生	鉢 (9.5)	3.4	3.4			ヘラミダキ→赤色塗彩	作部・底部ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態
16	弥生	高杯	27.2	-	(20.7)		杯部ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部ハケ目	ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態 底あり
17	弥生	高杯	-	(11.8)	(7.6)		ナデ	ヘラミダキ→赤色塗彩		同転実態
18	弥生	高杯	-	12.4	(10.3)		杯部ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部ハケ目	ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態
19	弥生	高杯	-	(11.4)	(7.8)		ナデ	ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態
20	弥生	高杯	-	-	(11.0)		杯部ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部ナデ	ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態
21	弥生	高杯	-	-	(13.4)		杯部ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部ハケ目→ナデ	ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態 通しあり
22	弥生	高杯 (7.4)	-	(7.3)			ヘラミダキ→赤色塗彩	ヘラミダキ→赤色塗彩		同転実態 底あり
23	弥生	高杯 (28.1)	-	(12.4)			杯部ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部ナデ	ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態 底あり
24	弥生	高杯	24.3	-	(11.30)		杯部ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部ナデ	ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態 底あり
25	弥生	高杯	-	13.9	9.1		ナデ	ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態
26	弥生	甕	-	(9.4)	(35.0)		口縁部ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部 胴部ナデ	胴部ヘラミダキ→赤色塗彩 ヘラミダキ→赤色塗彩	口縁・胴部	完全実態
27	弥生	甕	18.1	(6.0)	28.3		口縁部ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部ナデ	胴部ヘラミダキ→赤色塗彩 ヘラミダキ→赤色塗彩	口縁・胴部	完全実態
28	弥生	甕	30.7	-	(12.8)		ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部	胴部ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態
29	弥生	甕	16.8	(8.2)	27.3		口縁部ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部ヘラミダキ→ナデ	胴部縁部横線文3段・胴部横線文2単位 胴部ヘラミダキ→赤色塗彩	口縁・胴部 胴部ナデ	完全実態 胴部うちかき
30	弥生	甕	19.5	8.5	30.2		口縁部ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部ナデ	ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態
31	弥生	甕	-	-	(28.9)		胴部縁部横線文(1ヶ所) 胴部ヘラミダキ→赤色塗彩	胴部縁部横線文 胴部ヘラミダキ→赤色塗彩	口縁・胴部	同転実態
32	弥生	甕	12.7	5.0	17.8		ヘラミダキ→赤色塗彩	胴部縁部横線文・管線横線文(2単位) 口縁・胴部ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態
33	弥生	甕	10.7	-	(12.5)		口縁部ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部ハケ目	胴部縁部横線文 口縁・胴部ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態
34	弥生	甕	11.1	-	(11.30)		口縁部ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部ナデ	胴部縁部横線文・管線横線文(2単位) 口縁・胴部ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態
35	弥生	甕 (14.3)	(6.6)	22.2			ヘラミダキ	胴部縁部横線文・管線横線文(4単位) 胴部ヘラミダキ	口縁・胴部	完全実態
36	弥生	甕	-	3.9	(6.8)		ナデ	ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態
37	弥生	甕 (18.9)	7.4	24.5			口縁部ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部	胴部縁部横線文 口縁・胴部ヘラミダキ→赤色塗彩		完全実態
38	弥生	甕	-	7.4	(26.3)		口縁部ヘラミダキ 胴部ヘラミダキハケ目	胴部縁部横線文 口縁・胴部ヘラミダキ		完全実態
39	弥生	甕	21.0	-	(10.8)		ヘラミダキ→赤色塗彩	胴部ヘラミダキ→赤色塗彩	口縁・胴部	同転実態

第61表 U6・7遺物集中区出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量		成形・装飾・文様		測定値() 制作層() 丸部	備考	出土位置	
			口径(長)	器底(幅)	内 面	外 面				
40	弥生	壺	(17.4)	-	(16.0)	口縁部ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部ナデ	下部ヘラミダキ	ヘラミダキ→赤色塗彩 胴部が直しい	完全実測	
41	弥生	壺	(22.6)	-	(8.2)	ヘラミダキ→赤色塗彩	胴部縮れ横線文 口縁部ヘラミダキ→赤色塗彩	胴部縮れ横線文	回転実測	下層47
42	弥生	壺	-	8.3	(19.9)	ナデ	ヘラミダキ→赤色塗彩	ヘラミダキ→赤色塗彩	完全実測	
43	弥生	壺	-	(9.0)	(15.2)	ヘラナデ	ヘラミダキ	ヘラミダキ	回転実測	下層50 Ⅰ区下層
44	弥生	甕	13.5	5.5	18.2	ヘラミダキ	口縁・胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)9本→下部ヘラミダキ	口縁・胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)10本→下部ヘラミダキ	完全実測	
45	弥生	壺	(17.4)	6.1	23.3	ヘラミダキ	口縁・胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)10本→下部ヘラミダキ	口縁・胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)12本→下部ヘラミダキ	完全実測	
46	弥生	壺	12.9	5.4	14.7	ヘラミダキ	口縁・胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)10本→下部ヘラミダキ	口縁・胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)12本→下部ヘラミダキ	完全実測	
47	弥生	壺	12.9	5.7	14.3	ヘラミダキ 磨耗	口縁・胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)10本→下部ヘラミダキ	口縁・胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)10本→下部ヘラミダキ	完全実測	
48	弥生	甕	(13.7)	(5.8)	15.9	ヘラミダキ	口縁・胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)8本→下部ヘラミダキ	口縁・胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)9本→下部ヘラミダキ	完全実測	
49	弥生	甕	12.1	4.9	14.1	ヘラミダキ	口縁・胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)9本→下部ヘラミダキ	口縁・胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)9本→下部ヘラミダキ	完全実測	
50	弥生	壺	12.1	6.0	17.8	ヘラミダキ	口縁部縮れ横線文 口縁・胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)10本	口縁部縮れ横線文 口縁・胴部縮れ横線文(口縁止めの)10本	完全実測	下層38
51	弥生	甕	(19.2)	6.9	20.1	ヘラミダキ	口縁部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)9本→下部ヘラミダキ	口縁部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)9本→下部ヘラミダキ	完全実測	下層30
52	弥生	甕	18.5	-	(16.2)	ヘラナデ→ヘラミダキ	胴部縮れ横線文(口縁止めの)8本→口縁・胴部縮れ横線文(口縁止めの)8本	胴部縮れ横線文(口縁止めの)8本→口縁・胴部縮れ横線文(口縁止めの)8本	完全実測	
53	弥生	甕	-	-	-	ヘラミダキ	胴部縮れ横線文	胴部縮れ横線文	断面実測	
54	弥生	甕	-	-	-	ヘラミダキ	口縁部縮れ横線文 胴部縮れ横線文	口縁部縮れ横線文 胴部縮れ横線文	断面実測	
55	弥生	付付甕	9.8	7.9	12.2	ヘラミダキ 胴部ヘラナデ	口縁・胴部縮れ横線文(口縁止めの)8本 胴部ヘラミダキ	口縁・胴部縮れ横線文(口縁止めの)8本 胴部ヘラミダキ	完全実測	
56	弥生	壺	-	4.4	(7.0)	ヘラミダキ	胴部縮れ横線文→ヘラミダキ	胴部縮れ横線文→ヘラミダキ	完全実測	
No.	器 種	測 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見		出土位置	
57	磨・麻石	砂岩	8.5	6.4	3.8	31.01	正裏にすり面 周囲に取打痕			
58	磨・麻石	輝石安山岩	10.0	8.8	2.7	40.89	正裏・左側にすり面 縁面に取打痕			
59	石 鏝	黒灰色ナド	(1.0)	(1.5)	(0.3)	(6.87)	先端・基部欠損			
60	石鏝 尖底足	黒曜石	1.3	1.0	0.35	0.10			下層	
No.	種別	器種	法 量		成形・装飾・文様		測定値() 制作層() 丸部	備考	出土位置	
			口径(長)	器底(幅)	内 面	外 面				
1	弥生	壺	-	つまみ 3.5	(3.0)	ヘラナデ	ヘラミダキ	完全実測	XXE-2 検出層	
2	弥生	壺	(19.0)	-	(2.0)	ヘラナデ	磨耗	回転実測		
3	弥生	鉢	-	5.9	(2.0)	ヘラミダキ→赤色塗彩	ヘラミダキ→赤色塗彩	完全実測		
4	弥生	高杯	(19.0)	-	(7.3)	ヘラミダキ→赤色塗彩	ヘラミダキ→赤色塗彩	回転実測	XXE-1クワ XXE-6	
5	弥生	高杯	-	(14.0)	(4.0)	ヨコナデ	ヘラミダキ→赤色塗彩	回転実測		
6	弥生	高杯	-	-	(8.4)	折部ヘラミダキ→赤色塗彩 磨耗ヘラナデ	ヘラミダキ→赤色塗彩	完全実測		
7	弥生	壺	-	-	-	ヘラミダキ→赤色塗彩	ヘラミダキ→赤色塗彩	破片実測		
8	弥生	壺	-	10.0	(21.1)	ナド目 ヘラナデ	ヘラミダキ	完全実測	XXE-1検出層 XXE-4 PSP17	
9	弥生	壺	-	-	-	ハケ目→ヘラミダキ	ハケ目→胴部縮れ横線文→ヘラミダキ	断面実測	PFP-4 SS011P17	
10	弥生	壺	-	-	-	ヘラミダキ	横文→ヘラミダキ	断面実測	XXE-2	
11	弥生	甕	(23.0)	-	(15.8)	磨耗	胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)9本	断面実測		
12	弥生	甕	(20.0)	-	(27.0)	ナド目→ヘラミダキ	胴部縮れ横線文→ヘラミダキ	回転実測	PFP6	
13	弥生	甕	18.0	-	(20.3)	ヘラミダキ	胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)10本	完全実測	XXE-2検出層	
14	弥生	壺	-	-	(12.4)	ヘラミダキ	胴部縮れ横線文→ヘラミダキ	回転実測		
15	弥生	壺	-	-	-	ヘラミダキ	胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)12本 口縁部ミダキ	断面実測	検出層	
16	弥生	壺	-	-	-	ヘラミダキ	胴部縮れ横線文→胴部縮れ横線文(口縁止めの)6本→丸部貼付文	断面実測		
17	弥生	壺	-	-	-	ヘラミダキ	胴部縮れ横線文	断面実測		
18	弥生	壺	-	-	-	ヘラミダキ	胴部縮れ横線文(口縁止めの)10本→胴部縮れ横線文	断面実測		
19	弥生	壺	-	8.2	(8.8)	ヘラミダキ	ヘラミダキ	完全実測		
20	弥生	壺	-	12.2	(4.0)	ヘラミダキ	ヘラミダキ	完全実測		

第62表 U7・9・11遺物集中区出土遺物観察表

(cm)

No.	類別	素材	量			成形・調整・文様		測定値()/検出層()丸底	
			口径(長)	底径(幅)	筒高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
21	弥生	土	-	0.2	0.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	XXIII-7 XXIII-2検出面
22	弥生	土	(19.0)	-	(10.0)	ヘラミガキ	磨製波状文→磨製波状文(2連止め)10本	図録実測	XXIII-7 65ホリ方 411
23	弥生	土	(17.2)	(7.0)	21.0	ヘラミガキ	磨製波状文(1連止め)9本→磨製波状文	完全実測	検出面
24	弥生	土	(28.5)	-	(14.0)	ヘラミガキ	磨製波状文(2連止め)10本→磨製斜線文に縁部をゼミ	図録実測	XXIII-7検出面 XXIII-7検出面
25	弥生	土	-	(9.0)	(18.5)	磨耗	磨製波状文 ヘラミガキ	図録実測	XXIII-1
26	弥生	土	-	-	(12.0)	ヘラミガキ	磨製波状文 磨製波状文(2連止め)9本→ヘラミガキ	図録実測	
27	弥生	土	-	-	-	ヘラミガキ	縄文→丸型刻付文	断面実測	
28	弥生	土	-	-	-	ヘラミガキ	口縁部・体部刻文	断面実測	検出面
29	弥生	土	-	-	-	ヘラミガキ	縄文	断面実測	
30	弥生	土	-	-	-	ヘラミガキ	縄文	断面実測	XXIII-1 1a検出面
31	弥生	土	-	-	-	ヘラミガキ	縄文	断面実測	1a3IV区
32	弥生	土	8.4	3.5	3.5	ヘラミガキ	磨製波状文	完全実測	
33	弥生	土	-	(4.0)	0.5	環状刻線 磨部ナブ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	
34	弥生	土	-	(6.0)	(4.0)	ナブ	ヘラミガキ	断面実測	
35	弥生	土	-	4.5	0.8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	
36	弥生	土	-	(7.0)	0.5	磨耗	磨耗	断面実測	
37	弥生	土	-	2.4	0.2	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	
38	縄文	土	-	-	-	-	-	断面実測	
No.	種 別	素 材	最大径	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出 土 位 置	
39	磨石	砂岩	13.2	7.2	4.2	446.67	上端部と中央と磨打痕		
40	磨石	硬質砂岩	9.8	3.4	1.9	88.57	上端部に磨打痕 左側・下側にすり面		
41	石楯?	雲山岩	11.5	10.1	7.7	863.89			
42	小玉	ガラス	0.4	0.45	0.25	0.64	孔径 0.1		
43	石楯	黒曜石	(2.2)	(1.3)	(0.35)	(9.76)	内側欠損		
44	骨釘	鹿	(0.30)	(1.0)	(1.0)	(9.76)			
No.	類別	素材	量			成形・調整・文様		測定値()/検出層()丸底	
			口径(長)	底径(幅)	筒高(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	弥生	土	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	断面実測	XXIII-6検出面
2	弥生	土	-	-	-	ヘラミガキ	磨製斜線文	断面実測	XXIII-6検出面
3	縄文	土	-	-	-	-	-	断面実測	
4	弥生	土	-	6.4	0.30	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	XXIII-5検出面
1	弥生	土	(16.0)	5.7	8.8	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩 底部ヘラミガキ	完全実測	S8011W12
2	弥生	土	-	4.4	0.30	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	
3	弥生	土	(12.0)	-	0.30	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	断面実測	XIV-5
4	弥生	土	(16.2)	(4.2)	6.0	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩 底部ヘラミガキ	断面実測	XIV-11 S8011W12
5	弥生	土	(15.5)	-	(3.0)	ヘラミガキ→赤色塗彩 磨耗	ヘラミガキ→赤色塗彩 磨耗	図録実測	XIV-6
6	弥生	土	-	3.1	(4.7)	磨耗	磨耗	完全実測	
7	弥生	土	-	(5.4)	(3.4)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	XIV-7
8	弥生	土	(23.0)	-	(10.1)	ヘラミガキ 磨耗	ヘラミガキ 磨耗	断面実測	XIV-11
9	弥生	土	-	(10.0)	(4.0)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	断面実測	
10	弥生	土	-	-	(2.0)	環状ヘラミガキ→赤色塗彩 磨部ナブ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	地底後穿孔2ヶ
11	弥生	土	-	-	(4.0)	環状ヘラミガキ→赤色塗彩 磨部ナブ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	MJXIV-6
12	弥生	土	-	-	(4.0)	環状ヘラミガキ→赤色塗彩 磨部ナブ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	S8011W12
13	弥生	土	-	(10.0)	0.5	磨耗	ヘラミガキ→赤色塗彩 磨耗	断面実測	
14	弥生	土	(22.0)	-	(10.3)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測	XIV-11-15 S8011W12-15

第63表 U11遺物集中区出土遺物観察表

(cm)

No.	類別	器種	容量			成形・調整・文様			指定欄()・保存欄()・丸底欄	
			口径(長)	底径(短)	高さ(深)	内面	外面	備考	出土位置	
15	弥生	高杯	(3.6)	-	(19.3)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実測		
16	弥生	高杯	-	(16.2)	(9.0)	ナブ	ナブ	図転実測		
17	弥生	壺	(21.6)	-	(8.7)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	図転実測	XVI-6 SB011PT12	
18	弥生	壺	(26.8)	-	(8.6)	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	図転実測	XVI-11	
19	弥生	壺	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラ模様文?→ヘラ模様文→ヘラミガキ→赤色塗彩	断面実測	SB011PT12	
20	弥生	壺	-	-	(19.3)	ハケ目→ヘラミガキ	帯結縷文?→帯縷文→ヘラミガキ	図転実測		
21	弥生	壺	-	-	-	縷文	帯結縷文→帯縷文下→ヘラ縷文→ヘラミガキ	断面実測		
22	弥生	壺	-	-	-	ハケ目	帯結縷文?→ヘラ縷文→ヘラミガキ→赤色塗彩	断面実測	XVI-10	
23	弥生	壺	-	-	-	ハケ目	帯結縷文→帯縷文	断面実測		
24	弥生	壺	-	(14.2)	(16.0)	ヘラナブ	ヘラミガキ	図転実測	XVI-5 XVI-6	
25	弥生	壺	-	-	(11.3)	ヘラナブ	ヘラミガキ	図転実測	XVI-5	
26	弥生	壺	-	(11.6)	(8.1)	ヘラナブ	ヘラミガキ	図転実測	XVI-10	
27	弥生	壺	-	-	-	ハケ目	縄文風 沈線	断面実測	XVI-10 401	
28	弥生	壺	-	-	-	ナブ	縄文風 沈線	断面実測		
29	弥生	壺	-	-	-	ナブ	縄文風 沈線	断面実測	XVI-10	
30	弥生	壺	-	-	-	ナブ	縄文風 沈線	断面実測		
31	弥生	壺	-	-	-	ヘラミガキ	縄文風	断面実測		
32	弥生	壺	(18.6)	-	(12.6)	ヘラミガキ	帯結縷文(2連止め)14本 帯縷文	図転実測	XVI-15 XVI-11 SB011PT13	
33	弥生	壺	(19.0)	-	(5.3)	ハケ目→ヘラミガキ	帯結縷文(2連止め) 帯縷文	図転実測	XVI-6 XVI-10	
34	弥生	壺	(21.2)	-	(8.0)	ヘラミガキ	帯結縷文(2連止め)6本 帯縷文	図転実測	XVI-10	
35	弥生	壺	(17.0)	-	(6.1)	ヘラミガキ	帯結縷文	図転実測		
36	弥生	壺	(19.2)	-	(6.6)	ヘラミガキ 縷文	帯結縷文(1連止め)→帯縷文	図転実測		
37	弥生	壺	26.3	-	(24.2)	ヘラミガキ	厚部帯結縷文(1連止め)→白線帯縷文→縷文(下がらの斜止文を右下がりの斜止文で覆む書体) 口縁部別目 下部ヘラミガキ	完全実測	XVI-6	
38	弥生	壺	(17.0)	-	(9.9)	ヘラミガキ	帯結縷文→帯結縷文(2連止め)8本	図転実測	XVI-10 XVI-8	
39	弥生	壺	-	(9.0)	(9.5)	ハケ目	ヘラミガキ	図転実測		
40	弥生	壺	-	-	-	ハケ目	帯結縷文→ヘラミガキ	断面実測	XVI-11	
41	弥生	壺	12.5	5.3	14.9	ヘラミガキ	帯結縷文(2連止め)8本 帯縷文	完全実測		
42	弥生	壺	12.3	5.6	15.2	ヘラミガキ	帯結縷文(1連止め)9本→帯縷文→ヘラミガキ	完全実測		
43	弥生	壺	(13.0)	-	(9.1)	ハケ目→ヘラミガキ	帯結縷文(2連止め)10本 帯縷文	図転実測		
44	弥生	壺	(12.4)	-	(9.6)	ヘラミガキ	帯結縷文 帯結縷文(1連止め)6本	図転実測	XVI-6 SB011PT12	
45	弥生	壺	-	5.6	(5.2)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	XVI-6	
46	弥生	壺	-	6.8	(7.9)	ハケ目→ヘラミガキ	帯結縷文 へらナブ→ヘラミガキ	完全実測		
47	弥生	壺	(19.2)	-	(15.4)	ヘラミガキ	帯結縷文(1連止め)7本 帯結縷文	図転実測	XVI-9	
48	弥生	壺	(15.6)	-	(5.2)	ヘラミガキ	帯結縷文 帯結縷文(1連止め)1本	図転実測		
49	弥生	壺	(17.0)	-	(5.6)	ヘラミガキ 縷文	帯結縷文(2連止め)11本 帯結縷文	図転実測		
50	弥生	壺	-	-	(14.5)	縷文	帯結縷文 帯結縷文	図転実測	XVI-9	
51	弥生	壺	-	7.0	(17.2)	ヘラミガキ	帯結縷文→帯結縷文→ヘラミガキ	完全実測	XVI-3 MSXVI-10	
52	弥生	壺	19.4	5.0	18.6	ヘラナブ	縄文風 ヘラ縷文	完全実測	XVI-6	
53	弥生	壺	-	-	-	ヘラミガキ	縄文風	断面実測		
54	弥生	壺	(22.4)	-	(12.8)	ヘラミガキ	縄文風	図転実測	MSXVI-19 XVI-10 XVI-6 SB011PT13	
55	弥生	壺	(16.2)	-	(6.6)	ヘラミガキ	縄文風 口唇部にのみあり	図転実測		
56	弥生	壺	(23.6)	-	(20.0)	ヘラミガキ	縄文風(口)→ヘラミガキ	図転実測	XVI-10 SB011PT12	
57	弥生	壺	-	-	-	縷文	縄文風	断面実測		
58	弥生	壺	-	-	-	ヘラミガキ	縄文風 口唇部のみ	断面実測	SB011PT12	

第64表 U11遺物集中区出土遺物観察表

(cm)

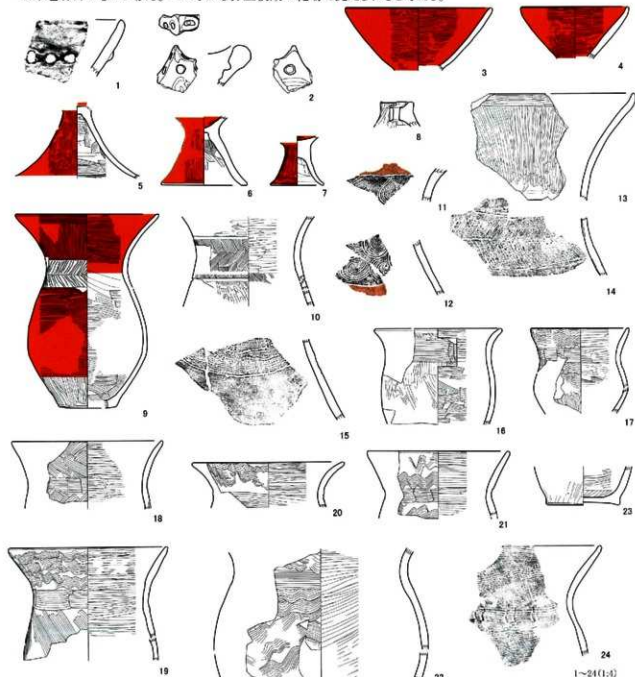
No.	類別	種類	法 量			成 形 ・ 測 量 ・ 文 様		規定値()/保存値()/丸径(φ)	備 考	出土位置
			口径(深)	底径(底)	高さ(厚)	内 面	外 面			
59	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文瓦、口部刻み		弥生実測	
60	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文瓦、網目模文		弥生実測	
61	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文瓦、網目模文		弥生実測	
62	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文瓦、網目模文		弥生実測	
63	弥生	甕	-	-	-	ナデ	縄文瓦		弥生実測	XVI-6
64	弥生	甕	-	-	-	ナデ	縄文瓦		弥生実測	
65	弥生	甕	-	-	-	ナデ	縄文瓦		弥生実測	
66	弥生	甕	-	-	-	ヘラナデ	縄文瓦		弥生実測	
67	弥生	甕	-	-	-	ヘラミガキ	縄文瓦		弥生実測	
68	弥生	甕	-	-	-	ヘラナデ	縄文瓦		弥生実測	
69	弥生	甕	-	-	-	ヘラナデ	縄文瓦、ヘラナデ		弥生実測	
70	弥生	甕	-	5.8	(3.7)	磨耗	磨耗		完全実測	
71	弥生	甕	-	(4.0)	(2.3)	ヘラミガキ	ヘラミガキ		追加実測	
72	弥生	甕	-	7.7	(5.2)	磨耗	ヘラミガキ		完全実測	
73	弥生	甕	-	(6.0)	(3.4)	ミガキ	磨部ミガキ 底部ミガキ		追加実測	
74	弥生	台付甕	-	8.1	(8.1)	磨耗	磨耗		完全実測	
75	弥生	台付甕	-	-	(4.1)	杯部ヘラミガキ 脚部ヘラミガキ	ヘラミガキ		完全実測	
76	弥生	台付甕	-	(12.4)	(6.2)	ハケ目	磨耗		追加実測	M31
77	弥生	台付甕	-	(16.6)	(4.0)	ハケ目→ヘラナデ	ハケ目→ヘラナデ		追加実測	M35
78	弥生	台付甕	-	-	(6.1)	磨部ヘラナデ 脚部ヘラナデ	ハケ目→ヘラナデ		完全実測	
79	弥生	台付甕	-	-	(3.7)	磨部ヘラナデ 脚部ヘラナデ	ヘラナデ		完全実測	
80	弥生	台付甕	-	-	(3.8)	磨部ヘラミガキ 脚部ヘラナデ	ヘラナデ		追加実測	
81	土製品	甕	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ		追加実測	
84	弥生	土器 土甕	-	(3.4)	(1.8)	ナデ	ナデ		追加実測	
85	縄文	洗鉢	-	-	-				追加実測	
86	縄文	洗鉢	-	-	-				追加実測	
87	縄文	洗鉢	-	-	-				追加実測	
No.	種 類	材 質	最大径	最小径	最大厚	重量	所 見		出土位置	
82	丹波	土製品	4.9	4.5	0.7	19.43	ヘラミガキ 赤色塗彩			
83	丹波	土製品	3.1	4.3	0.5	8.44	内面磨蝕 外面ヘラミガキ→赤色塗彩			
88	磨石7	花崗岩	6.2	4.9	1.4	55.48				
89	磨石	花崗岩	10.0	4.5	2.6	293.74	上下端部に磨打痕			
90	磨石	砂岩	56.9	(4.4)	(2.6)	(116.87)	左→側欠損 縁部に磨打痕 正面にすり面			
91	磨石	硬質砂岩	9.5	4.9	2.4	146.96	上下端部に磨打痕 正面にすり面			
92	磨石	硬質砂岩	9.6	4.9	3.5	258.71	上下端部に磨打痕 正面にすり面 洗い糸痕あり			
93	磨石	砂岩	7.6	5.0	1.7	83.79	正面にすり面			
94	磨石	砂岩	8.0	3.4	2.4	89.49	正面にすり面			
95	磨石	輝石安山岩	6.3	5.7	6.0	285.65	正面にすり面			
96	磨石	右美安山岩	7.7	4.6	3.3	173.65	正面にすり面 洗い糸痕あり			
97	磨石	砂岩	8.4	4.9	3.1	299.90	正面にすり面 正面に洗い糸痕			
98	磨石7	輝石安山岩	8.7	4.8	2.7	195.62				
99	磨石7	灰色チャーク	1.3	0.9	0.25	0.42	全体に磨れている			
100	台石	安山岩	(12.4)	(12.5)	(6.3)	(132.0)	正面が使用面 正面と横上に磨打痕 正面と左側にすり面			
101	石俵	閃輝石	2.7	1.9	0.8	3.96	裏はボロシ			
102	碧玉	碧玉	0.4	0.4	1.5	0.50	孔径 0.15			
103	袋状鉄斧	金属製品	(3.7)	(2.5)	1.8 素材厚不明	(33.85)	刃部先端欠損			

また、遺物下からは顕著な掘り込みは確認されなかったが、U11の範囲内に弥生後期の所産と考えられる円形土坑が検出されている。D47～52号土坑がそれにあたり、いずれも同規模・同形態である。これらの土坑とUの関係は、D48とD50の覆土中に炭化物や骨粉が含まれていたことから、土坑掘り込みについても廃棄行為の一つとも考えられ、両者の間には何らかの関係があると考えられる。

第8節 遺構外出土遺物

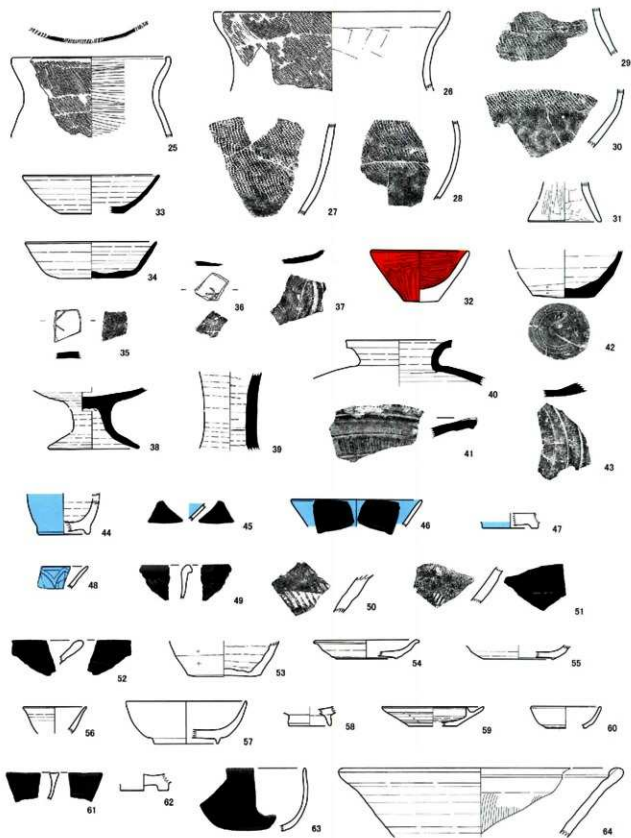
本遺跡の遺構外出土遺物として116点を図示した。遺物の所産時期は縄文、弥生後期、古代、中世、近世の多時期に及ぶが、当遺跡で検出された遺構の所産時期とほぼ対応する。

中でも注目される遺物として116の人面土器が挙げられる。試掘調査時に検出された遺物で、出土位置はⅧ・Ⅸ区の埋土保存区に当たる。人面土器は欠損しているものの頬より上の顔左半分が残存している。口の形状は穴で表現されていると思われるが詳細は不明。顔面を赤彩するが、額から鼻筋部分のみ無彩としているのが特徴である。本品の所産時期は、今回の調査区内には弥生中期の遺構が発見されておらず、顔に赤彩を施し、鼻の特徴も西一里塚遺跡群のものに似る。この事から弥生後期の範疇で捉えられると考える。



第150図 遺構外出土遺物実測図(1)

1~24(1:1)



第151图 遣唐外出土遺物実測図(2)

25~31·33~64 (1:0) 32 (1:2)

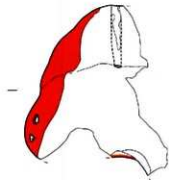
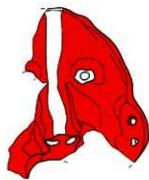


65~69 (1:1)
 70~71 (1:2)
 72~96 (1:4)

第152図 遺構外出土遺物実測図(3)



97~107 (1:1)
108~120 (1:2)



120

第153图 遗構外出土遺物実測図(4)

第65表 遺構外出土遺物観察表(1)

(cm)

No.	種別	種類	造 形			形 式 ・ 構 造 ・ 文 様		規定図()残存()丸底	出 土 位 置
			口徑(長)	底径(幅)	高さ(厚)	内 面	外 面		
1	縄文	浮鉢	-	-	-	ナブ	ナブ→浮蓋付付	新宮実業	X1-2
2	縄文	浮鉢	-	-	-	ナブ 沈函	ナブ	破片実業	V-18
3	弥生	鉢	(15.5)	-	(8.7)	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	昭和実業	X1-25
4	弥生	鉢	(11.3)	-	(5.6)	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	昭和実業	M33XV-10
5	弥生	高坪	-	-	(7.7)	杯部ミガキ→赤色塗彩 胴部ナブ	ミガキ→赤色塗彩	完全実業	V-5タコ
6	弥生	高坪	-	(3.1)	(6.1)	杯部ミガキ→赤色塗彩 胴部ココナブ→ヘラナブ	ミガキ→赤色塗彩	完全実業	XI-21
7	弥生	高坪	-	5.8	(5.2)	杯部ミガキ→赤色塗彩 胴部ヘラナブ→塚部ココナブ	ミガキ→赤色塗彩	完全実業	X-25
8	弥生	蓋		つまみ (3.3)	(2.7)	ナブ	ヘラケズリ ミガキ	完全実業	XXII-5
9	弥生	蓋	(15.1)	(6.0)	20.6	胴から底部ハケ目の残るナブ→塚部ナブ→口縁部ミガキ赤色塗彩	口縁と胴部ミガキ→赤色塗彩 胴下平と底部ミガキ 塚部ヘラ塚横走平行線文→ヘラ横線文	昭和実業	50011 B712
10	弥生	蓋	-	-	(9.6)	ハケ目の残るナブ→口縁から頂部ミガキ	ミガキ 縦線斜走文 ヘラ塚横走平行線文	昭和実業	XXVII出函 Ta3 B区 B区
11	弥生	蓋	-	-	-	ナブ→口縁ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩 縦線渦巻文 沈函	新宮実業	12と同一個体
12	弥生	蓋	-	-	-	ハケ目の残るナブ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩 縦線渦巻文 沈函	新宮実業	11と同一個体
13	弥生	蓋	-	-	-	ミガキ	ミガキ 沈函	破片実業	14と同一個体小
14	弥生	蓋	-	-	-	ハケ目の残るナブ→ミガキ	ミガキ 沈函 ヘラ横線斜走文	新宮実業	13と同一個体小
15	弥生	蓋	-	-	-	ハケ目の残るナブ	ミガキ 縦線斜走文 縦線直状文 ヘラ横線沈函	新宮実業	425XVI-5
16	弥生	蓋	(13.5)	-	(13.2)	ハケ目の残るナブ→口縁ミガキ	ハケ目の残るナブ→ミガキ 縦線直状文(2連止め)	昭和実業	XXII-7 97XIII-13
17	弥生	蓋	10.6	-	(9.1)	ミガキ	ミガキ 縦線直状文(2連止め) 縦線直状文	完全実業	XVI-6
18	弥生	蓋	(14.8)	-	(7.2)	ミガキ	ハケ目の残るナブ 縦線直状文(1連止め) 縦線斜走文	昭和実業	X-20
19	弥生	蓋	16.8	-	(12.2)	ミガキ	縦線直状文 縦線直状文(1連止め)10本 縦線斜走文	完全実業	XII-12
20	弥生	蓋	(16.2)	-	(4.6)	ミガキ	縦線直状文 縦線直状文	昭和実業	XXI-16
21	弥生	蓋	(15.1)	-	(7.2)	ミガキ	縦線直状文(1連止め)9本 縦線直状文	昭和実業	50011W712
22	弥生	蓋	-	-	(14.3)	ミガキ	縦線直状文10本 縦線直状文	昭和実業	X-19
23	弥生	蓋	-	(7.8)	(4.1)	ミガキ	胴部ヘラケズリ→ミガキ 底部ミガキ 磨耗	昭和実業	XII-12
24	弥生	蓋	-	-	-	ミガキ	縦線直状文(2連止め)7本 縦線直状文	新宮実業	426 XVI-10
25	弥生	蓋	(17.0)	-	(8.7)	ミガキ	口唇部に彫み 瓦縄文	昭和実業	X1-3
26	弥生	蓋	(15.0)	-	(8.4)	ナブ→口縁上部ココナブ	瓦縄文	昭和実業	XW-14
27	弥生	蓋	-	-	-	ナブ	ミガキ 瓦縄文	新宮実業	XVI-14・15 425XVI-4
28	弥生	蓋	-	-	-	ミガキ	ミガキ 瓦縄文	新宮実業	XVI-6 3XII-1-6
29	弥生	蓋	-	-	-	ナブ	瓦縄文	新宮実業	X-25
30	弥生	蓋	-	-	-	ミガキ	ミガキ 瓦縄文	新宮実業	XXI-1
31	弥生	台付蓋 (銅製)	-	(7.7)	(4.2)	ナブ	ヘラケズリ→ミガキ	完全実業	遺跡 X19
32	弥生	ミナハ鉢	5.2	1.8	2.7	ミガキ→赤色塗彩	ミガキ→赤色塗彩	完全実業	X1-3
33	弥生	杯	(14.5)	(6.8)	4.1	コクロナブ	コクロナブ→造形糸切り	昭和実業	内外面にハビツキ有
34	弥生	杯	(14.0)	(6.8)	3.9	コクロナブ	コクロナブ→表面面削ヘラ切り後ナブ	昭和実業	X-20
35	弥生	杯	-	-	-	ナブ	ナブ	破片実業	ヘラ記号あり
36	弥生	杯	-	-	-	ナブ	昭和ヘラケズリ	破片実業	ヘラ記号あり
37	弥生	杯	-	-	-	コクロナブ	コクロナブ→表面面削ヘラ切り後手持ちヘラケズリ	新宮実業	ヘラ記号あり
38	弥生	高坪	-	(9.0)	(6.0)	コクロナブ 塚部スペースなし	コクロナブ	完全実業	X1-14
39	弥生	長周蓋	-	-	(8.3)	コクロナブ→ヘラナブ	コクロナブ 自然焼付着	完全実業	XIV出函山
40	弥生	横鉢	(11.2)	-	(4.9)	コクロナブ ココナブ	コクロナブ ココナブ 自然焼付着	昭和実業	X1-14

第66表 遺構外出土遺物観察表(2)

(cm)

No.	種別	図種	寸法			成形・施装・文様		指定館(○)保存館(△)丸窓●		
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		備考	出土位置
41	灰器部	葉小皿	-	-	-	ヨコナダ	自然縁付書	ヨコナダ 刃先あり	所産実測	V-20
42	灰器部	皿	-	6.5	(5.2)	ヨコナダ		ヨコナダ→底部と底部外周縁ヘラケズリ	完全実測	XVI検出面
43	灰器部	不明	-	-	-	ナダ		ナダ	所産実測	XXE-2
44	青磁	花瓶	-	(5.6)	(4.3)			流釉	昭和実測(みこみ部自然縁付書) 龍泉窯	XVI検出面
45	青磁	面花文	-	-	-	流釉		流釉	所産実測 13C後半 龍泉窯	XVI-6
46	青磁	面花文 (13.8)	-	(2.3)		流釉		流釉	昭和実測 13C前半 龍泉窯	XVI-1
47	青磁	碗	-	(6.0)	(1.6)	流釉		流釉	昭和実測 13C後半→14C前半 龍泉窯	XXI-7
48	青磁	茶倉文 碗	-	-	-	流釉		流釉	鎌倉実測 13C 龍泉窯	XX-11
49	陶器	経筒型	-	-	-	新釉		流釉	所産実測 北朝遺物群以上 12世紀 平定	XVI-16
50	陶器	壺	-	-	-	ナダ		タタキ目	所産実測 中世 常滑	XXI-5
51	陶器	壺	-	-	-	ヨコナダ		タタキ目	所産実測 中世 常滑	XVI-19
52	陶器	控口鉢	-	-	-	ヨコナダ		ヨコナダ	所産実測 内面自然縁付書 常滑	V-20
53	陶器	葉小皿	-	(7.8)	(3.5)	輪縁あり	自然縁付書	保下平切縁ヘラケズリ	昭和実測 常滑	XVI-1
54	陶器	志野丸 皿	(11.3)	(6.5)	2.0	流釉			昭和実測 17C前半 瀬戸実測	Z
55	陶器	志野丸 皿	-	(7.4)	(1.6)	ヨコナダ→流釉		ヨコナダ→流釉	昭和実測 17C前半 瀬戸実測	XXI 暗渠
56	磁器	小杯	(6.7)	-	(2.8)	ヨコナダ→流釉		ヨコナダ→流釉	昭和実測 17C後半 伊万里	XXI-7 暗渠
57	磁器	皿	(12.8)	(6.8)	4.5	ヨコナダ→流釉(染付)		ヨコナダ→流釉(染付)	昭和実測 V期 18C末→19C前半 伊万里	XXI-7
58	磁器	呉彫手 鉢	-	(4.6)	(2.0)	流釉		流釉	昭和実測 17C後半 唐津	XVI-16
59	陶器	龍明皿	(10.7)	(5.0)	2.1	ヨコナダ→流釉		ヨコナダ→流釉ヘラケズリ→白粉彩流釉	昭和実測 19C 前山	XXII-2暗渠
60	陶器	小皿	(7.4)	(4.2)	(2.3)	流釉(流釉ツケムケ)		ヨコナダ→流釉(流釉ツケムケ)	昭和実測 18C末→19C後半 前山	XXI 暗渠
61	陶器	香炉	-	-	-	ヨコナダ→口縁流釉(流釉)		ヨコナダ→流釉	所産実測 18C末→19C前半 前山	VI-22
62	陶器	灰釉碗	-	5.1	(1.8)	流釉(灰釉ツケムケ)		ヨコナダ→灰部切り離し後裏面貼付→流釉(灰釉ツケムケ)+高台付ハケ塗	完全実測 18C末→19C前半 前山	XXI-25
63	陶器	灰釉碗	-	-	-	流釉(灰釉ツケムケ)		ヨコナダ→流釉(灰釉ツケムケ)	所産実測 18C末→19C前半 前山	XXI 暗渠
64	陶器	環り鉢	(30.0)	-	(7.5)	ヨコナダ→環り目(環り目)→流釉(流釉)		ヨコナダ→流釉(流釉)	昭和実測 18C末→19C前半 前山	XX-8
No.	種別	素材	最大径	最大厚	重量	所 見			出土位置	
65	石鏡	黒灰色ナリ	2.4	2.9	0.35	1.16			X-0	
66	石鏡	黒色磨岩 安山岩	3.1	1.8	0.3	1.00		先端欠損	XVI-20	
67	石鏡	黒色磨岩 安山岩	0.20	1.4	0.3	1.03		先端・基部欠損	XVI-20	
68	石鏡	黒曜石	1.7	1.5	0.3	0.99		先端・基部欠損	XVI-25	
69	石鏡	黒曜石	3.0	1.5	1.3	5.75			XXII-8	
70	鏡片	黒曜石	4.0	1.9	0.8	5.00		自然面が残る	XVI-1	
71	原石	結晶質 石英片	3.4	1.5	1.0	4.38			XVI-10	
72	刀鋸	硬質砂岩	7.8	(4.4)	1.5	(28.24)		鏡片利用の刀鋸 刃部磨滅	V-12	
73	打製石斧	硬質砂岩	(11.6)	(6.6)	2.7	(202.08)		下部欠損	XI-1	

第67表 遺構外出土遺物観察表(3)

(cm)

No.	種 類	材 質	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見	出土位置
74	打製石片	輝石安山岩	(12.5)	(8.6)	(2.4)	(353.64)	基部欠損 磨滅部分あり 風化のためか	XⅢ-23
75	打製石片	輝石安山岩	(4.3)	(5.9)	(1.1)	(42.10)	上下欠損	XⅢ-18
76	打製石片	輝石安山岩	(11.3)	(7.7)	(1.8)	(183.67)	片側に磨滅痕	XⅠ-18
77	打製石片	輝石安山岩	(6.4)	(6.4)	(1.6)	(139.15)	下部欠損 両側につぶれ痕	XⅢ-20
78	打製石片	輝石安山岩	(6.0)	(6.0)	(2.6)	(72.60)	右側に片状欠損	V-13
79	石棒	石英片岩	(6.4)	(3.0)	(2.0)	(90.27)	上下欠損	580(177)118
80	磨石	硬質砂岩	(6.0)	(8.1)	(3.2)	(329.50)	下部部一貫出欠損 上部部と正面に磨打痕	XⅢ-18
81	磨石	輝石安山岩	14.7	5.5	4.3	(26.81)	側面に磨打痕	XⅠ-3
82	磨石	安山岩	11.2	5.1	4.1	319.98	上下端部に磨打痕	XⅢ-1
83	磨石	硬質砂岩	(10.8)	(6.0)	(2.7)	(210.70)	上部欠損 下部部に磨打痕	XXⅡ-7
84	磨石	硬質砂岩	8.0	2.5	(1.4)	(36.31)	裏面一部欠損 上下端部に磨打痕	XⅠ-25
85	磨・磨石	砂岩	5.8	2.8	2.3	47.06	上下端部に磨打痕	XⅢ-12
86	磨・磨石	輝石安山岩	(9.6)	(6.4)	(4.7)	(398.12)	裏面あり?裏面磨化 片状欠損 正面にすり面 縁部に磨打痕	XⅠ-10
87	磨・磨石	輝石安山岩	(9.0)	(6.8)	(2.3)	(189.16)	左側→下部欠損 正面にすり面 上部部に磨打痕	XⅢ-2
88	磨石	チャート	2.1	1.7	0.8	2.80	全体にすり 赤色の付着物あり	X-6
89	磨石	花崗岩	4.1	2.4	0.8	10.35	左側にすり面	XⅠ-2
90	磨石	黒色石英質安山岩	9.0	8.3	3.9	219.51	正面にすり面 正面に削り状の使用痕	X-15
91	磨石	硬質砂岩	6.1	3.7	1.4	47.89	正面にすり面 左側に浅い磨痕	XⅠ-5
92	磨石	輝石安山岩	7.1	4.8	2.6	130.22	正面にすり面	XⅢ-1
93	磨石	硬質砂岩	8.9	5.0	3.3	186.74	正面にすり面	X-4
94	磨石	硬質砂岩	(9.8)	(4.3)	(1.8)	(96.85)	裏面欠損 正面にすり面 浅い磨痕あり	XⅡ-17
95	磨石?	砂岩	10.0	6.7	4.4	453.94	全体に滑らか すり面?	XⅢ-5
96	磨石	輝石安山岩	12.6	7.6	4.2	(85.55)	正面にすり面	XⅢ-1
97	磨石	緑石	9.8	11.4	5.8	199.71	直径 6.3×6.1 磨擦 3.2	XⅠ-16
98	磨石	砂岩	(9.8)	(6.6)	(3.5)	(295.41)	片状欠損 正面と上部部に磨擦痕	XⅤ-14
99	磨石	凝灰岩	(10.0)	(6.4)	(3.6)	(253.82)	縦断面4 上下欠損	X-5
100	磨石	砂岩	(6.2)	(8.3)	(4.0)	(205.41)	縦断面5(下部欠損後も使用) 上部欠損	XⅢ-10
101	磨石	凝灰岩	(7.3)	(2.9)	(2.0)	(60.47)	下部欠損 右側縁上に削み状の痕	XⅤ-22
102	磨石製品	緑石	7.8	7.0	4.4	107.64	全体にすり 正面に削り状の使用痕	XⅢ-5
103	台石片	輝石安山岩	(7.1)	(5.0)	(3.5)	(295.87)	金剛欠損 正面が使用面	V-12
104	台石	輝石安山岩	(15.0)	(12.3)	(4.2)	(147.0)	3辺欠損 正面が使用面(すり面)	XⅠ-6
105	磨物石?	輝石安山岩	10.4	5.3	4.2	303.15		XⅢ-5
106	磨物石?	輝石安山岩	14.0	8.4	3.7	289.92		XⅢ-20
107	硯	陶器	(4.2)	(3.9)	(1.2)	(17.03)	1隅を浅し蓋蓋まで欠損	XⅡ
108	硯?	鉄	(3.7)	(3.7)	(0.3)	(7.95)	下辺以外は欠損	XⅠ-16
109	角釘	鉄	(6.3)	(0.7)	(0.6)	(4.63)	上部欠損	XⅢ-18
110	角釘	鉄	(3.4)	(0.7)	(0.6)	(2.62)	上下欠損	XⅢ-9
111	角釘	鉄	(3.8)	(0.5)	(0.3)	(2.86)	上下欠損	XⅢ-1
112	鉄線?	鉄	(3.6)	(0.8)	(0.3)	(1.67)	下部欠損	XⅢ-14
113	煙管	銅	(4.7)	1.5	1.5 器厚 0.2~0.1	0.90	管状欠損	XⅢ-2
114	煙管	銅	(3.6)	0.9	0.9 器厚0.1	0.25	境口短欠損	XⅢ-2
115	鉄線	鉄	(7.4)	(0.8)	0.7	(7.34)	上下欠損	XⅢ-1
116	古銭	銅	2.38	-	0.1	1.45	定形 銅型元宝 1094(北宋)	XⅢ-1
117	古銭	銅	2.33	-	0.13	1.86	定形 銅型元宝 995(北宋)	XⅢ-1
118	古銭	銅	2.38	-	0.12	2.53	定形 銅型元宝(新)	XⅢ-2
119	古銭	銅	2.51	-	0.13	3.29	定形 銅型元宝(新) 背に文「文鏡」	XⅢ-21
120	弥生	人頭土器 (91)	(7.4)	(6.6)			目・耳・鼻・口・頸頸を穿し(耳は貫通) 赤色土器 破片状態	東119 塚-Ⅱ区

第V章 科学分析

第1節 種実・樹種鑑定

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

大豆田遺跡Ⅳ（長野県佐久市長土呂地内）は、浅間火山西南麓に認められる河川の開析等により形成された田切り地形末端付近の台地部に立地する。本遺跡は、これまでに実施された発掘調査により、主に弥生～平安時代の集落であることが明らかとされている。

本報告では、大豆田遺跡Ⅳの発掘調査で確認された土坑の年代、井戸址などから出土した木製品や種実遺体の種類および植物利用の検討を目的として、自然科学分析調査を実施した。

I. 放射性炭素年代測定

1. 試料

試料は、弥生時代後期の箱清水式期とされる土坑（D48, D50）覆土より出土した炭化物2試料（試料番号1, 2）である。炭化物試料は、D48（試料番号1）が炭化材（最大1cm角程度）と土塊、D50（試料番号2）が炭化材細片からなる。

放射性炭素年代測定には、D48（試料番号1）が1cm角程度の炭化材、D50（試料番号2）が板状を呈する炭化材（長さ1cm×幅1cm×厚さ0.5cm程度）をそれぞれ供した。

2. 分析方法

試料に土壌や根などの目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。その後、HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いてδ13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0（Copyright 1986-2013 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの半減期5,730±40年）を較正することである。また、暦年較正に関しては、本来10年単位で表すがが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算や再検討に対応するため、1年単位で表している。

暦年較正結果は、測定誤差σ、2σ（σは統計的に真の値が68%、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲）双方の値を示す。また、表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

3. 結果および考察

炭化材の同位体効果による補正を行った測定結果(補正年代)は、D48(試料番号1)が1,940±20yrBP、D50(試料番号2)が2,030±20yrBPである。また、暦年較正結果(1σ)は、D48がcalAD 27 - calAD 81、D50がcalBC 53 - calAD 4である(表1)。

以上の結果から較正暦年代(1σ)は、D48が紀元1世紀頃、D50が紀元前1世紀中頃から紀元1世紀初頭頃に相当し、小林(2009)を参考とすると、弥生時代後期前葉および弥生時代中期末～後期初頭頃という年代観が想定される。なお、今回の測定に供した炭化材は、いずれも辺材部が残存しない破片であったため、木材の使用(伐採)年代よりも古い値を示している可能性を考慮する必要がある。

II. 樹種同定

1. 試料

試料は、古代の掘立柱建物に伴う柱材、古代および中世の井戸址、近世の溝跡などから出土した木製品133点(試料番号1～133)である。このうち、試料番号84(D63Na14)は、元の形状が不明の木片で、保存状態も悪いことから、同じD63の分析対象外となっている木製品中より状態が良好なNa18-3と差し替えを行っている。また、試料番号122は、肉眼観察時に形状や木取り、樹種が異なる2点(D20Na1-1、Na1-2)が認められたため、双方を分析対象としている。

2. 分析方法

木製品の木取りを観察した後、剃刀を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレバートとする。プレバートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にする。

3. 結果

同定結果を表2に示す。分析に供された木製品は、針葉樹6分類群(カラマツ、マツ属複雑管束亜属、トウヒ属、ヒノキ、サワラ、ヒノキ科)と、広葉樹4分類群(コナラ属コナラ亜属コナラ節、クリ、ケヤキ、カツラ)に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・カラマツ (*Larix kaempferi* (Lamb.) Carriero) マツ科カラマツ属

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急で、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、柔組織、仮導管、水平樹脂道、エビセリウム細胞で構成される。放射柔組織の細胞壁は薄く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に3-5個。放射組織は単列、1-20細胞高。

・マツ属複雑管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxyton*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エビセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-15細胞高。

・トウヒ属 (*Picea*) マツ科

軸方向組織は仮導管と垂直樹脂道で構成される。仮導管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、柔組織、仮導管、水平樹脂道、エビセリウム細胞で構成される。放射柔組織の細胞壁は厚く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。放射仮道管の有縁壁孔のフチは主としてトウヒ型。分野壁孔はトウヒ型で、1分野に3-6個。放射組織は単列、1-20細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか〜やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型〜トウヒ型で、1分野に1-3個。分野壁孔は、孔口の長軸方向が垂直よりやや斜めになるものが多い。放射組織は単列、1-10細胞高。

・サワラ (*Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型〜スギ型で、1分野に1-3個。分野壁孔は、孔口の長軸方向が水平に近いものが多い。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ヒノキ科 (Cupressaceae)

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか〜やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は、スギ型、ヒノキ型、トウヒ型のいずれかであるが、保存が悪く孔口が壊れているため、詳細は不明である。放射組織は単列、1-10細胞高。

上記ヒノキ、サワラを含むヒノキ科のいずれかであるが、分野壁孔が観察できないことからヒノキ科とした。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと同複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.) カツラ科カツラ属

散孔材で、管孔はほぼ単独で散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-30細胞高。

4. 考察

木製品には、カラマツ、マツ属複維管束亜属、トウヒ属、ヒノキ、サワラおよびヒノキ科の針葉樹6分類群と、コナラ属コナラ亜属コナラ節、クリ、ケヤキおよびカツラの広葉樹4分類群の計10分類群が認められた。これらの分類群のうち、ヒノキやサワラは、現在の本遺跡周辺には生育していないものの、群馬県との県境地域には分布するとされる。トウヒ属も遺跡周辺には分布していないものの、浅間山周辺にトウヒ、群馬県との県境の山地にハリモミが分布するとされる。カラマツは、火山災害地などによく生育しており、浅間山周辺は国内でも数少ない自生地の一つである。マツ属複維管束亜属、コナラ節、クリ、ケヤキは人里周辺に普通に見られる種類であり、カツラは谷沿い等に生育する。

また、各分類群の材質的特徴についてみると、針葉樹のカラマツは、やや重硬で強度が高いが、早晚材部の材質差が大きく、加工がやや困難である。マツ属複維管束亜属は、軽軟〜やや重硬で、強度と保存性が比較的高い。トウヒ属は、やや軽軟で強度は高いが、保存性は低い。ヒノキやサワラを含むヒノキ科は、木理が通直で割裂性および耐水性が高い。広葉樹のコナラ節、クリ、ケヤキは、重硬で強度が高く、クリやケヤキでは耐朽性も高いとされる。カツラは、広葉樹としてはやや軽軟で、強度や保存性は低い。

今回の分析に供された木製品は、伊東・山田(2012)の木器分類を参考とすると、容器(曲物、漆碗、椀?)、食器具(折敷)、建築部材(柱)、器種不明に分けられる(表3)。なお、井戸址より出土した板、杭および部材につ

いては、調査所見などからいずれも井戸枠の部材（施設材）と判断されており、出土位置が現位置を保つものについて部材の名称が付されている。

古代の資料は、井戸址（D20）から出土した椀？と、掘立柱建物跡に伴う柱より出土した柱材および器種不明がある。椀？は、破片であり、漆塗の痕跡は認められない。針葉樹のヒノキ科を利用することから、加工性の高い木材が選択されたと考えられる。なお、ヒノキ科は、漆器の木材としての利用例もあるが、多くは広葉樹が利用される（伊東・山田，2012）。また、柱材は、F18のP1、P2がヒノキ（芯去分割材）、P3がヒノキ科（形状不明）であった。この結果から、加工性や耐水性の高い木材の利用が推定される。なお、本地域では、古代の竪穴住居跡から出土した炭化材の調査事例が蓄積されており、聖原遺跡の9世紀後半や10世紀前半とされる竪穴住居跡等でヒノキ属やヒノキ科が確認されていた。今回の結果から、竪穴住居跡の建築材とともに、掘立柱建物跡の柱材としても針葉樹材が利用されていたこと明らかとなった。

中世の資料は、いずれも井戸址から出土しており、井戸枠の部材と考えられる木製品や廃棄されたとみられる木製品（折敷など）から構成される。井戸枠の部材である縦板、椀木および縦杭、部材の可能性のある板、杭、部材等についてみると、5基の井戸址から出土した資料はいずれも多く確認されたサワラをはじめ、ヒノキを含むヒノキ科を主体とする針葉樹材が多数を占める。詳細にみると、D8の芯持（角材）の杭、D63の芯持の縦杭や杭にはマツ属複雑管束亜属やカラマツが利用される。一方、芯去分割材で板状を呈する杭（椀木）や杭（縦杭）にはサワラやヒノキ科が利用されており、形状（木取り）によって樹種が異なるという特徴が認められる。また、D8やD9では、杭状を呈する資料（縦杭、椀木、杭など）にコナラ節等の広葉樹材が認められ、いずれも分割材（ミカン割）であるという共通するという特徴も確認された。

また、井戸枠の部材を除く木製品のうち、曲物の底板や側板にはサワラやヒノキ科が認められた。このような木材の利用は、加工性や耐水性の高いという材質等により選択されたと考えられる。折敷（底板）も基本的にはヒノキやサワラが利用されることから、曲物と同様の木材選択が推定される。なお、D63から出土した折敷（試料番号117；No.50-1）は、やや肉厚の椀目板であり、樹種もケヤキであるなど、上記した木材利用と異なる。上記した特徴やケヤキの利用を考慮すると、農耕土具などの強度を要する器種の可能性がある。

本地域における中世の木材利用についてみると、井戸枠の部材の事例については隣接する道常遺跡においてサワラを主体としてカラマツやヒノキ科等の針葉樹材が確認されている（株式会社アークジオ，2012）。その他、寺添遺跡の井戸出土木材にサワラを含むヒノキ属、西一本柳遺跡の井戸枠材（板材、椀木等）にサワラが確認されており、本遺跡と同様の木材利用が窺える。また、トウヒ属は榛名平遺跡の中世～近世の加工木、カラマツは西一本柳遺跡の中世の用途不明の角材などに認められ（伊東・山田，2012）、調査事例は多くないものの、これらの針葉樹材の利用状況も類似する。

近世の資料は、溝状遺構（M55）から出土した漆椀1点である。漆椀は、木取りが横木板目であり、木材は広葉樹のカツラであった。カツラは、軽軟で癖がなく、加工が容易であることから、利用されたと考えられる。

III. 種実同定

1. 試料

試料は、古代および中世の井戸址から出土した種実遺体12試料（試料番号1～12）である。試料の詳細は結果とともに4に示す。

2. 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。種実遺体の同定は、現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）、清水ほか（2012）等を参考に実施する。結果は、分類群、学名、部位、状態、計測値、特徴等を一覧表で示し、写真を図版に示す。

3. 結果

同定結果を表4に示す。全12試料を通じて、被子植物4分類群（落葉広葉樹のオニグルミ、アンズ、ウメ、モモ）12個が同定された。栽培種は、D40 曲物内から、アンズの核が1個（試料番号8）、ウメの核が1個（試料番号7）、

モモの核が5個(試料番号5, 6, 9~11)の、計7個が確認された。以下に、確認された種実の形態的特徴等を記す。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

検出個体のうち、D20(3層; 試料番号2~4)、D9(井戸枠内; 試料番号12)の4個は、主に頂部を欠損する破片で、D9(井戸枠内; 試料番号12)の表面は、頂部~側面が炭化し黒色を呈す。1本の明瞭な縦の縫合線がある広卵形で、頂部はやや尖る。破片の大きさは1cm以下。核は硬く緻密で断面は平滑。表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。核内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) パラ科サクラ属

核(内果皮)の完形、破片が検出される。一方の側面にのみ縫合線が顕著に見られる。縫合線に沿って半分に分れている個体とそうでない個体がある。また、ネズミ類の食痕がある個体もある。内果皮は厚く硬く、外側表面は縦に流れる不規則な線状のくぼみがあり、全体として粗いしわ状に見える。

・ウメ (*Prunus mume* (Sieb.) Sieb. et Zucc.) パラ科サクラ属

核(内果皮)の完形が検出される。灰頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1本の明瞭な縦の縫合線が発達する。内果皮は厚く硬く、表面には円形の小凹点が分布する。

・アンズ (*Prunus armeniaca* L.) パラ科サクラ属

核(内果皮)の完形が検出される。ネズミ類の食痕がある。内果皮は厚く硬く、表面は粗面で不規則なくぼみがある。スモモに似るが縫合線の両側面が稜のようになるため、縦と横の比が小さく円形に近いことで区別される。

4. 考察

井戸址から出土した種実は、オニグルミと、栽培種のアンズ、ウメ、モモの計4分類群が確認された。

D20(1区, 3層)やD9(井戸枠内)から出土した種実はオニグルミの核に同定された。オニグルミは、川沿い等の湿潤な肥沃地に生育する落葉高木である。堅果類のオニグルミは、子葉が生食可能で栄養価も高く、長期保存可能で収量も多い有用植物であることから、古くから利用され、遺跡出土例も多い。今回確認された出土核には打撃痕と思われる痕跡も認められることから、周辺域の森林より遺跡内に持ち込まれ、利用された可能性も考えられる。

また、中世の井戸埋桶(D40 曲物内)から出土した種実遺体には、栽培種のアンズ、ウメ、モモが確認された。これらの栽培種の種実の出土から、これらの果樹の栽培や利用が推定される。なお、井戸埋桶内から出土している状況から、遺構内への廃棄、または井戸祭祀等の行為も想定されるが、これらの行為の検討にあたっては、井戸址の埋積状況(過程)や種実遺体以外の遺物の出土状況の確認、さらに本地域における井戸祭祀に関わる民俗事例からの検証が望まれる。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所。
石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑, 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p。
伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ, 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181。
伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ, 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176。
伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ, 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201。
伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ, 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166。
伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ, 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216。
伊東隆夫・山田昌久(編), 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース, 海青社, 449p。
株式会社アーキジオ, 2012, 第Ⅷ章 科学分析, 周防畑遺跡群 若宮遺跡Ⅳ 道常遺跡 南近津遺跡Ⅲ 宮の前

遺跡 I・II, 佐久市埋蔵文化財調査報告書 第198集, 佐久市教育委員会, 309-330.

小林謙一, 2009, 近畿地方以東の地域への拡散. 弥生農耕のはじまりとその年代 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第4巻, 雄山閣, 55-82.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.

Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘 (日本語版監修, 海青社, 70p.

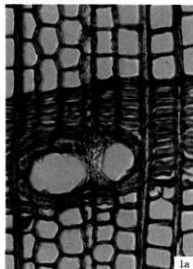
[Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E. (2004) *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].

島地 謙・伊東隆夫, 1982, 岡説木材組織. 地球社, 176p.

鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文, 2012, ネイチャーウォッチングガイドブック 草木の種子と果実—形態や大きさが一目でわかる植物の種子と果実632種—. 誠文堂新光社, 272p.

Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

図版1 木材(1)



1a



1b



1c



2a



2b



2c



3a



3b



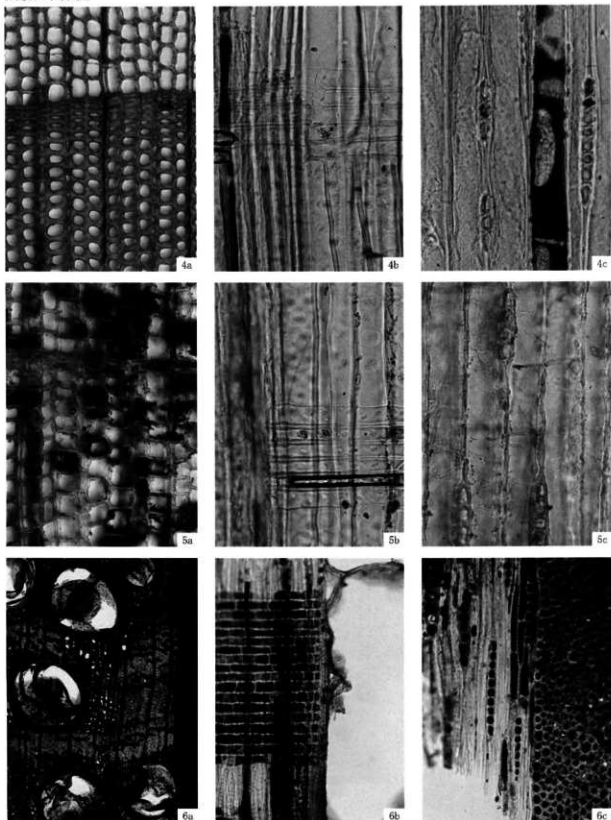
3c

1. カラマツ (D63 No.28;99)
 2. マツ属複維管束亜属 (D63 No.26;97)
 3. トウヒ属 (D40 No.4-3;127)

a: 木口, b: 柾目, c: 板目

100 μ m: a
 100 μ m: b, c

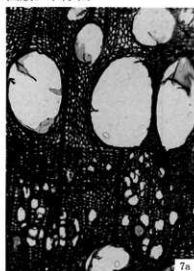
図版2 木材(2)



4. ヒノキ (D8 No.21:46)
 5. サワラ (D6 No.2-2:3)
 6. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (D8 No.10:35)
 a: 木口, b: 柎目, c: 板目

100 μ m: 6a
 100 μ m: 4-5a, 6b, c
 100 μ m: 4-5b, c

図版3 木材(3)



7a



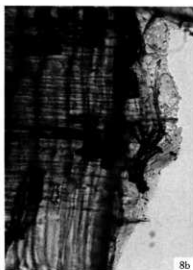
7b



7c



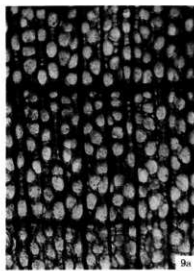
8a



8b



8c



9a



9b

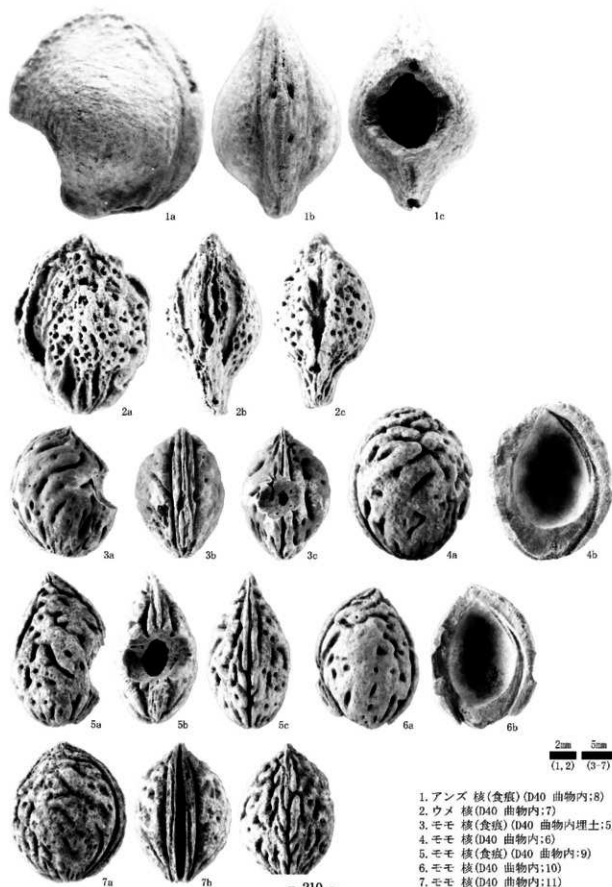


9c

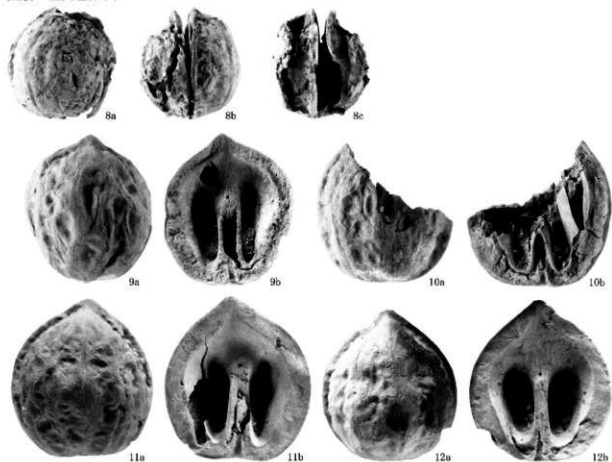
7. クリ (D9 No.42:68)
 8. ケヤキ (D63 No.50-1:117)
 9. カツラ (M55:133)
 a: 木口, b: 径目, c: 板目

100 μ m: a
 100 μ m: b, c

図版4 種実遺体(1)



図版5 種実遺体(2)



8. オニグルミ 核(D20 1区:1)

10. オニグルミ 核(上部欠損)(D20 3層:3)

12. オニグルミ 核(表面炭化・頂部、側部欠損)(D9 井戸枠内:12)

9. オニグルミ 核(D20 3層:2)

11. オニグルミ 核(D20 3層:4)

5mm

表1. 放射性炭素年代測定および暦年校正結果

試料	測定年代 (yrBP)	δ 13C (‰)	補正年代 (暦年校正用) (yrBP)	暦年校正結果						相対比	測定機関 CodeNo.
				σ	cal AD	27 - cal AD	41	cal BP	1,923 - 1,909		
試料番号1 D18 炭化材	1,940±20	-25.04±0.19	1,941±22	σ	cal AD	48 - cal AD	51	cal BP	1,902 - 1,889	0.233	IAAA-131807
					cal AD	48 - cal AD	51	cal BP	1,902 - 1,889	0.267	
				2σ	cal AD	9 - cal AD	12	cal BP	1,941 - 1,938	0.005	
					cal AD	15 - cal AD	90	cal BP	1,935 - 1,857	0.874	
試料番号2 D90 炭化材	2,030±20	-26.07±0.16	2,030±23	σ	cal BC	53 - cal AD	4	cal BP	2,002 - 1,946	1.000	IAAA-131808
					cal BC	103 - cal AD	28	cal BP	2,052 - 1,922	0.987	
				2σ	cal AD	40 - cal AD	48	cal BP	1,910 - 1,902	0.013	
					cal AD	40 - cal AD	48	cal BP	1,910 - 1,902	0.013	

表3. 遺構別・器種別種類構成

分類群	古代(8世紀)												中世(13世紀)											
	D20			F18			F20			D6			D8			D8			D8					
	細?	不明	柱	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺			
計量群																								
カマツ																								
マツ風稚穂菅束風属																								
トウモロコシ																								
ヒノキ																								
サワラ																								
ヒノキ科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
広葉樹																								
コナラ類																								
クリ																								
ケヤキ																								
カツラ																								
合計	1	1	3	1	1	11	1	1	1	1	9	7	6	4	3	3								

分類群	中世(13世紀)												中世(13世紀)												合計
	D9			D63			D63			D63			D63			D63									
	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺	木刺							
計量群																									
カマツ																									
マツ風稚穂菅束風属																									
トウモロコシ																									
ヒノキ																									
サワラ	1	20	1	2	2	4	14	1	4	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
ヒノキ科																									
広葉樹																									
コナラ類																									
クリ																									
ケヤキ																									
カツラ																									
合計	1	22	1	6	2	4	8	17	4	5	3	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1				

表4. 種実同定結果

試料番号	遺構	出土位置	分類群	部位	状態	数量(個)	計測値 ¹⁾		備考(特徴など)	
							長さ(mm)	幅(mm)		
1	D20	床	オニグルミ	核	完形未達	1	20.6 ± 20.0 *	19.6	表面滑く磨耗	
2	D20	3層	オニグルミ	核	破片	1	28.6	24.1	13.6 ± 0.7	わずかに欠損(4層, 6層)
3	D20	3層	オニグルミ	核	破片	1	20.1 ± 20.1 *	26.9	12.2 ± 0.7	欠損(8~2時, 9層)
4	D20	3層	オニグルミ	核	破片	1	31.2	27.9	14.1 ± 0.7	わずかに欠損(7時, 6層)
5	D40	曲物内埋土	モモ	核	完形	1	19.7	18.5 ± 0.7	13.1	表面: 木皮剥食痕
6	D40	曲物内	モモ	核	半分	1	22.7 ± 18.1	8.8	11.2	頂部: わずかに欠損
7	D40	曲物内	ウメ	核	完形	1	13.3	10.1	5.2	断面内の種子の残りの大きき
8	D40	曲物内	アズキ	核	完形	1	15.8	14.3	7.5	断面には円形の小凹点(分室)
9	D40	曲物内	モモ	核	完形	1	23.2	14.0 ± 0.7	12.5	表面は粗面, 背面(下部): 木皮剥食痕
10	D40	曲物内	モモ	核	完形未達(ほぼ半分)	1	20.8	15.6	7.5 ± 0.7	断面は平ら, 断面: 木皮剥食痕
11	D40	曲物内	モモ	核	完形	1	21.1	17.0	14.3	断面は平ら, 断面: 木皮剥食痕
12	D9	井戸内	オニグルミ	核	破片	1	29.5	25.9	13.1 ± 0.7	表面: 炭化(7時, 8~9時)

1: 計測はデジタルノキスを用いた。欠損部に残存値に「」で示す。

*2: オニグルミ核の欠損部位は、半断面を12等分し、時計の指針に準ずる(上部(頂部)が12時、下部(基部)が6時を示す)。

表2-1 樹種掲載(1)

遺構名	No.	樹種	直径 (cm)			木取り	種別・備考 (分組別)	出土地 (区群)	遺構名	No.	樹種	直径 (cm)			木取り	種別 (分組別)	出土地 (区群)
			根	横	深み							根	横	深み			
10	1	杭	37.9	5.2	3.0	分敷材	ヒノキ	No.1	2	不明	34.7	6.3	0.7			No.3	
	2	板	36.0	8	0.3	根目	ヒノキ	No.2-1	3	部材	71.5	5.2	2.7			No.4	
	3	板	34.0	6.3	0.3	根目	サワラ	No.2-2	4	板	21	4	0.5			No.6	
	4	板	37.5	12	0.5	根目	サワラ	No.3	5	板	28.5	3.6	0.3			No.7	
	5	不明	37	15.6	3.2	根目	サワラ	No.4	6	板	35.8	3.7	0.3			No.8	
	6	枕木	93.5	6.3	3.8	根目	ヒノキ	No.5	7	板	22.2	4.8	0.7			No.9	
	7	板	47.7	12	2	根目→根目	サワラ	No.6	8	板	72	7.3	0.9			No.10	
	8	板	33	4.4	0.8	根目	ヒノキ	No.7	9	板	40.3	6.3	0.3			No.11	
	9	板	40	3.6	1	根目	ヒノキ	No.8	10	板	42	5.2	0.8			No.12	
	10	板	46.5	9.8	1.2	根目	サワラ	No.9	11	板	18.5	4.3	1.3			No.13	
	11	板	35.8	10.7	0.8	根目	サワラ	No.10	12	板	40	18.5	3.3			No.15	
	12	枕木	73	7	4.2	分敷材	サワラ	No.11	13	不明	22.2	5.5	0.5			No.17	
	13	不明	20.5	18.2	2.3	根目	サワラ	No.12	14	不明	27.5	2.7	1.8			No.18	
	14	不明	24.7	13	3.2	根目	サワラ	No.13	15	板	64	8.2	2.1			No.21	
	15	不明	24	15.8	4	根目	ヒノキ科	No.14-1	16	板	61.5	6.8	1.8	根目	サワラ	No.22	
	16	不明	23	11.3	10.1	分敷材	サワラ	No.15	17	部材	59	10.5	1	根目	サワラ	No.23	
	17	不明	30.8	13	2.5	根目	サワラ	No.16	18	板	26	15.5	0.5	根目	サワラ	No.24	
	18	不明	31.5	13.2	3.7	根目	サワラ	No.17	19	板	37.8	17	1.5	根目	サワラ	No.25	
	19	板	34.5	17.8	3.5	根目	サワラ	No.18	20	板	65	10	2.3	根目	サワラ	No.26	
	20	板	28.4	12.0	3.5	根目	サワラ	No.19	21	板	33.6	19.5	1.5	根目	サワラ	No.27	
	21	板	54	7.8	1	根目	サワラ 一部炭化	No.20	22	板	94	11	0.8	根目	サワラ	No.28	
	22	不明	26.5	1.6	0.8			一括1	23	板	87.5	13.5	1	根目	サワラ	No.29	
	23	部材	29.5	4.8	2.5			一括2	24	枕	73.7	4.5	2.5	分敷材	コナラ真コナラ産真コナラ産	No.30	
	24	不明	15.4	13.2	2			一括3	25	杭	20.6	4.5	1.8	分敷材	クラ	No.31	
	25	不明	30.8	11.3	3.5			一括4	26	板	31.5	9.2	0.5	根目	サワラ	No.32-1	
	26	杭	24.8	10.6	9			一括5	27	板	43.5	7.5	0.5			No.32-2	
	27	不明	26.7	13.3	3	根目	サワラ	一括6	28	板	29.6	6.5	0.5			No.32-3	
	28	枕	22	4.8	3			一括9	29	板	43	11.2	2.4	根目	サワラ	No.33-1	
	29	枕	19.7	10.3	8.4			一括12	30	不明	42	2.7	2			No.33-2	
	30	枕	18.3	8	1.5			一括2	31	板	37.7	10.6	1.2	根目	ヒノキ科	No.34-1	
	31	不明	23	13.3	3			一括11	32	板	36.5	7	1			No.34-2	
	32	魚付物産	22.5	16.2	0.8	根目	ヒノキ科 漆喰産?	一括9	33	枕	49.5	16.2	1.3	根目	ヒノキ科 一部炭化	No.35-1	
	33	不明	9.3	4	1.2	根目	ヒノキ科	No.14-2	34	部材	51.8	12.9	0.8	根目	サワラ	No.36-1	
34	不明	12.5	1.5	0.2			一括10	35	板	50.4	4.2	1			No.36-2		
10	1	根板	51.5	20.7	2	根目	ヒノキ科 一部に炭化	No.1	36	板	37.5	6.5	0.8			No.36-3	
	2	根板	51.4	31.1	2.8	根目	ヒノキ科	No.2	37	板	54.8	17.2	2.3	根目	サワラ	No.37	
	3	板	52.6	12.9	2.5	根目	ヒノキ	No.3	38	枕	78	8.5	3.2	分敷材	サワラ	No.38	
	4	根柱	44.8	7.8	7.4	分敷材	コナラ真コナラ産真コナラ産	No.4	39	板	68.5	45.5	3.7	根目	サワラ	No.39	
	5	枕木	70	4.2	3.0	根目	コナラ真コナラ産真コナラ産	No.5	40	板	37.5	16.2	1.4	根目	サワラ	No.40	
	6	根柱	52.3	29.5	2.8	根目	サワラ	No.6	41	枕	58.2	5	2.6	分敷材	コナラ真コナラ産真コナラ産	No.41	
	7	板	56.6	40	3.7	根目	サワラ	No.7	42	枕木?	54.5	5.2	3	分敷材	クラ	No.42	
	8	板	53.6	20.5	2.3	根目	サワラ	No.8	43	枕	73.2	4.8	4.1	分敷材	コナラ真コナラ産真コナラ産	No.43	
	9	板	34	9.5	1.7	根目	ヒノキ科	No.9-1	44	板	49.7	32.2	3.6	根目	サワラ	No.44	
	10	板	41	8.9	1.7	根目	ヒノキ	No.9-2	45	板	51.6	4.8	0.6	根目	サワラ	No.45-1	
	11	枕木	76.5	8	3.5	分敷材	コナラ真コナラ産真コナラ産	No.10	46	板	43.5	5.1	0.6	根目	サワラ	No.45-2	
	12	枕	44.0	3	1.5	根目	ヒノキ	No.11	47	枕	38.8	4.7	0.5	根目	サワラ	No.45-3	
	13	根柱	53.1	20.3	2.6	根目	サワラ	No.12	48	枕	74	5.2	2.6	分敷材	コナラ真コナラ産真コナラ産	No.46	
	14	根柱	60.5	26.3	2.8	根目	ヒノキ科	No.13	49	板	67.2	13.5	1	根目	サワラ	No.47	
	15	根柱	44	8	6.5	分敷材	コナラ真コナラ産真コナラ産	No.14	50	板	92.5	11	1.2	根目	サワラ	No.48	
	16	枕木	88.4	6.5	4.5	分敷材	コナラ真コナラ産真コナラ産	No.15	51	板	33.4	8.6	0.3	根目	サワラ	No.49	
	17	根柱	73.3	8.3	2.0	分敷材	コナラ真コナラ産真コナラ産	No.16	52	板	36	8.7	0.6	根目	サワラ	No.51	
	18	根柱	36	8.8	2.4	分敷材	コナラ真コナラ産真コナラ産	No.17	53	板	42.3	7.3	0.3			根下層1	
	19	枕	49.5	8.5	6.8	芯持材	マツ属産管束産	No.18	54	枕	61.7	3.5	2.5			根下層2	
	20	根柱	71.5	27.7	2.2	根目	サワラ	No.19	55	板	47.5	5	6.7			根下層3	
	21	根柱	64.6	34	1.2	根目	サワラ	No.20	56	板	51.8	8.2	1			根下層4	
	22	板	62.5	12.6	1.4	根目	ヒノキ	No.21	57	板	32.7	5.5	1			根下層5	
	23	枕	56.2	9	8.5	芯持材	マツ属産管束産	No.22	58	板	42.2	5	1			根下層6	
	24	不明	20	3.6	1	枕1		枕1	59	板	28.6	4.8	0.7			根下層7	
25	不明	9.6	2.2	1.8			枕2	60	板	46.4	8.8	0.7			根下層8		
26	不明	6.5	1.7	0.4			枕3	61	不明	53.6	2.9	0.7			根下層9		
27	不明	12.8	3.3	0.3			枕4	62	枕	47	9.8	3.6			根下層10		
28	管?	19.5	0.5	0.3			一括-1	63	板	33	8.1	0.6			根下層11		
30	1	不明	31.2	8.9	1.8		No.2	64	部材	35	4.8	1			根下層13		

表2-2 樹種掲載(2)

通称No	樹種	活断面積(m ²)		木取り	種別・名義 (分類群)	出土No (名称)	通称No	樹種	活断面積(m ²)		木取り	種別・名義 (分類群)	出土No (名称)			
		縦	横						縦	横						
65	板	29	9	0.7		最下層14	40	板	68	10.5	1.5	板目	サワラ	No.37		
66	板	25	8.9	0.9		最下層20	41	板板	44	13.9	1.3	板目	サワラ	No.38		
67	板	19	5	0.3		最下層24	42	板板	111	35	3.8	板目	ヒノキ科	No.39		
68	曲げ物割	22.6	9	1	柱目	No.50	43	板	196.2	35	3.8	板目+板目	サワラ	No.40		
69	折敷ウ	18	5.3	0.6		最下層23	44	板	39.6	5.4	0.8			No.41		
70	折敷ウ	17.3	2.9	0.5		最下層26	45	桧木	83.4	5	4.7	分敷材	サワラ	No.42		
71	不明	10.7	6.1	0.3		No.1	46	桧木	83.1	5.8	4.2	分敷材	サワラ	No.43		
72	板	14.3	5.7	0.5		No.5	47	板	83	5.6	3.8	分敷材	ヒノキ科	No.44		
73	板	17.7	3.3	2		No.14	48	板	95.5	12.5	1.3			No.45		
74	板	11.8	2.7	0.5		No.16	49	板	82.7	4.8	4.4			No.46		
75	板	9	2.6	0.2		最下層11	50	新材	33.9	3.3	0.7	板目	ヒノキ	No.47-2		
76	板	14.5	3.2	2.2		最下層15	51	板	38.3	14.1	2			No.48		
77	板	11.3	7	0.8		最下層19	52	板	95.6	12.9	1.2			No.51		
78	板	14	5.7	1		最下層17	53	板	74.7	13.2	1.2	板目	サワラ	No.52		
79	板	16.6	9.3	0.5		最下層19	54	板	74	8.6	0.5	板目	サワラ	No.54		
80	新材	8.4	4.3	1.3		最下層19	55	板	41.7	13.8	0.8			一括-1		
81	新材	12	5	0.8		最下層21	56	板	32.2	5.2	0.6			一括-2		
82	新材	23	6.7	0.8		最下層22	57	不明	28	3.6	0.4			一括-4		
83	新材	12.2	2	0.5		最下層27	58	不明	20.5	1.5	0.5			一括-5		
84	板	13.6	6.7	0.5		未検	59	不明	39.3	4.2	0.6			一括-6		
85	板	15.8	2	0.5		最下層25	60	新材	31.6	4.8	0.5			一括-8		
1	桧木	26.9	4.3	4	分敷材	サワラ	No.7	不明	28.7	5.7	0.6			一括-9		
2	板	81	4.1	3.5		No.8	62	折敷	32.9	11.8	0.7	板目	サワラ	No.47-1		
3	桧木	81	6.3	4.9	分敷材	サワラ	No.10	折敷	20.8	15.8	0.8	板目	クサキ	No.50-1		
4	桧木	82	4	2.5	分敷材	ヒノキ科	No.11	64	折敷	33.7	24.4	0.8	板目	サワラ	No.55	
5	不明	77	18.6	1.3	板目	サワラ	No.13	65	折敷	32.6	14	0.7	板目	ヒノキ	No.58	
6	板	62.3	17	1.6	板目	サワラ	No.15	66	板	7.3	2.8	0.8			No.5	
7	板板	81	18.2	1.5	板目	サワラ	No.16	67	板	16.4	6.2	1			No.6	
8	板	96.8	23.2	3.9	板目	サワラ	No.17	68	板	62.6	7.2	2.2			No.9	
9	板板	110.8	46.2	5.2	板目+板目	サワラ	No.18-1	69	不明	8	1.9	0.8			No.12-1	
10	板	60.3	16.5	1	板目	サワラ	No.19-2	70	不明	8.2	1.7	0.8			No.12-2	
11	不明	46.2	6.8	0.4	板目	サワラ	No.19-3	71	木片	3	1	0.2			No.14	
12	板	80.5	10.8	2.4	板目	サワラ	No.19-1	72	不明	7.3	2.3	0.3			No.19-4	
13	板	64.5	6.1	0.3		No.19-2	73	不明	14.7	1.5	0.8			No.24		
14	板	57.1	5	0.3		No.19-3	74	不明	11.5	2.3	0.6			No.29-3		
15	板	97.3	18.2	2.4	板目	ヒノキ科	No.20	75	不明	6.8	6	0.5			No.50-2	
16	板	69.6	12.9	3.3	板目	サワラ	No.21	76	不明	7.6	7.3	1.2			No.50-3	
17	板	73.8	12.1	0.5	板目	サワラ	No.22-1	77	不明	3.2	8.1	0.9			No.50-4	
18	板	45.5	7.4	0.5	板目	サワラ	No.22-2	78	不明	22.8	2.8	0.7			No.53-1	
19	不明	46.7	5	0.5		No.22-3	79	不明	6.7	4.7	1			No.53-2		
20	板板	101.2	18.5	1.8	板目	サワラ	No.23	80	不明	15	3.5	3			一括-7	
21	板板	71.3	19	8.8	芯持角材	マツ属樹皮管束系属	No.25	81	不明	20.4	3.3	0.4			一括-10	
22	板板	70.7	12.1	9.8	芯持角材	マツ属樹皮管束系属	No.26	1	板ウ	8.2	5.1	6.2	破片	ヒノキ科	No.1-1	
23	板板	78.2	11.5	10.7	芯持角材	マツ属樹皮管束系属	No.27	2	不明	6	3.8	0.3	板目	クサキ	No.1-2	
24	板	119.2	12	10.3	芯持材	カラツク	No.28	3	木片	4.2	1.5	0.1			No.2	
25	板	72.6	14	2.5	板目	ヒノキ科	No.29	1	桧木	82.5	7.5	6.3	分敷材	サワラ	No.1	
26	板	68.2	7.8	1.2	板目	サワラ	No.30	2	桧木	86.7	6	5.3	分敷材	サワラ	No.2	
27	板	44	12.2	1.5	板目	サワラ	No.31	3	桧木	83.6	8.5	4	分敷材	サワラ	No.3	
28	板	74.5	37	3.3	板目	サワラ	No.32-1	4	桧木	86	6.2	5.3	分敷材	サワラ	No.4-1	
29	不明	33.5	4	0.8		No.32-2-1	5	板	40.3	8.2	1.2			No.4-2		
30	不明	37.5	3.3	0.3		No.32-2-2	6	板	38.3	5	0.9	板目	トウヒ属	No.4-3,4		
31	不明	41.1	4.7	1.2		No.32-3-1	7	不明	70	8.3	5.3			一括-1		
32	不明	43.2	6.7	1.3		No.32-3-2	8	曲げ物割	64.2	14	0.5	板目	ヒノキ科 埋木	No.5		
33	板	79.7	37.9	4.1	板目	ヒノキ	No.33	D	1	不明	37	4	3.3		No.1	
34	板板	73	16.2	2.6	板目	ヒノキ	No.34	11	2	不明	27.7	4.3	4		No.2	
35	板板	79.7	34.2	3.2	板目	サワラ	No.35	1	柱	16.2	19.3	4	分敷材	ヒノキ	P1No.1	
36	板	77.3	29.7	3.5	板目	サワラ	No.36-1	F18	3	柱	7	2.8	6.3	分敷材	ヒノキ	P2No.2
37	不明	44.5	9.5	0.7		No.36-2-1	3	柱	11.5	9.6	4.5	破片	ヒノキ科	P4No.2		
38	不明	41.1	4.7	0.6		No.36-2-2	P20	1	不明	6.1	3.2	0.7	破片	ヒノキ科	P1	
39	不明	37.5	3.9	0.3		No.36-2-3	M6	1	漆喰	4	5.5	6.8	板木板板目	サワラ 赤漆		

第2節 大豆田遺跡IV出土蓋型土器残存圧痕のレプリカ法調査

首都大学東京大学院 遠藤英子

土器圧痕にシリコン樹脂を充填してレプリカを採取し、それを走査型電子顕微鏡 (SEM) で観察するレプリカ法は、圧痕を残した様々な原因物質の推定に有効な方法であるが (丑野・田川1991)、なかでも圧痕からそれを残した植物種子を同定できる確実性の高い研究方法として、生業研究の分野で近年急速に普及してきている。中部高地では縄文晩期末から弥生時代前期にかけての資料の調査が数多く実施されており、当該期の地方にアワ・キビの雑穀栽培が広く展開していたことが明らかとなった (中沢ほか2010、遠藤・高瀬2011、中山・佐野2012、遠藤2012など)。今回、本報告書作成中に見いだされた、非常に多くの圧痕を残す蓋型土器について、このレプリカ法調査を実施する機会を得たので、その結果をご報告したい。

この蓋型土器の詳細については本文 (IV章5節) を参照いただきたいが、種子由来と推定される圧痕が土器内面21点、外面29点、つまみ部分7点、断面11点の計68点観察された。土器の遺存はおおよそ全体の半分ぐらいであり、また小さすぎて型取りが難しいと考え採取を見送った圧痕も多いため、本来はこの倍以上の圧痕が存在していた可能性が高い。圧痕は断面を含めた様々な部位に観察され、しかも全てが土器胎土をオーバーハンギングさせて内部に潜り込んでいる圧痕形態であったため、おそらくは粘土の状態での混入したものと推定される (遠藤2014)。またこのような密度の高い圧痕の残存については、これまでの調査でも経験がない非常に稀な資料であり、おそらくは土器製作者が意図的に圧痕を残したものと考える。

調査は、まず肉眼および10倍のルーペにより土器の内外面や断面を観察し、種子由来と推定される圧痕を検出し、圧痕内を柔らかいブタ歯歯ブラシなどでクリーニングしたうえで、①離型剤 (アセトン+パラロイドB-27) の塗布、②シリコン樹脂 (トクヤマデンタル社製トクヤマフィットデスター) の充填、③レプリカの取り出し、④アセトンによる離型剤の除去、⑤レプリカの走査型電子顕微鏡 (KEYENCE VE-8800) による観察、撮影、同定、記録という、福岡市埋蔵文化財センター方式 (比佐・片多2005) に基づく手順で実施した。

また種子の同定は、現生種子との形態的比較により行いが、主な栽培穀物の同定基準は以下の通りである。

- ①イネ *Oryza sativa* : 玄米が内外頤に包まれた粳の状態で見出されることが多い。粳の側面観は紡錘形で、維管束が腹面、両側面、背面に各1本ずつ縦走することから、内外頤組織で凹凸のある表面形態を呈している。内外頤の表皮細胞には顆粒状突起 (直径約50 μ m) が観察される。
- ②アワ *Setaria italica* (L.) P.Beauv. : 内外頤の残存した有ふ果の状態で見出されることが多く、背面観は卵状円形～楕円形で、先端は鈍頭であまり突出しない。側面観は、やや狭い卵状楕円形になり、背面 (外頤) 側が膨らみ、腹面 (内頤) 側がやや平坦な個体が多いが、両方が膨らむ場合もある。内外頤の表皮細胞にはエノコグサ属特有の乳頭状突起が認められ、特に外頤の乳頭状突起の直径が15-20 μ mであることや、それぞれの突起が畝状に連なることなく独立している特徴は、アワの野生種エノコグサ (8-15 μ m) との区分の指標の一つとされる (Nasu et al 2007)。内外頤の境目には乳頭状突起のない滑らかな部位が三日月状に観察される。内外頤の割れた頤果の状態で見出されるレプリカ資料もわずかにみられるが、この場合は粒長の2/3ほどの長さでA字形をした胚がみられる。
- ③キビ *Panicum miliaceum* L. : アワと同じく有ふ果の状態で見出されることが多いが、アワと比べて大型で、背面観は倒広卵形、側面観は内頤側と外頤側の両方が膨らむ個体が多い。内外頤の表皮は平滑で、アワのような乳頭状突起はない。果皮がアワより厚いので、外頤が内頤を包み込む部分で明瞭な段差がつく。頤果の状態で見出される資料もわずかにみられ背面の中央には粒長の1/2ほどの長さの胚がみられる。

68点のレプリカを採取し走査型電子顕微鏡で観察したところ、イネ粳3点、アワ有ふ果18点、頤果1点、キビ有ふ果11点を同定した。

先行研究からは水田稲作の定着が遅れる中部高地においても中期後半の粟林式期には本格的な水田稲作が開始され、それ以降確実に水田稲作が拡大していくと理解されていると思われるが (中山2010、小山2014など)、今回の調査ではイネ3点に対してアワ・キビが30点と、栽培穀物のパッケージは雑穀がおおきく上回る結果となった。とはいえ今回はたった1点の出土資料を対象としたデータであり、この結果から遺跡全体の栽培穀物を推定すること

は早計であろう。土器圧痕は非常に限られたチャンスで形成されると予測されるため本来は出土資料全体を対象とした悉皆調査が望ましい。従って分析は今後の調査に委ねたいが、実は中部高地や関東地方のレプリカ法調査では同様の結果が得られており、たとえば水田や水利施設が検出され埼玉県下における本格的な水田稲作社会の到来と考えられてきた熊谷市北島遺跡や隣接する前中西遺跡、また中期から後期の時間幅を持つ和光市午玉山遺跡でもイネと雑穀が相半する結果を得ている。一方フローテーションによる炭化種子データでも志木市田子山遺跡の弥生時代後期住居1軒からはイネ81,481点にたいしてアワ194,993点が同定されている（高瀬・遠藤2010）。今回の箱清水期の蓋は、本格的な農耕社会成立後は次第に稲作に特化していくと考えられてきた予測とはやや様相の異なる、多様な弥生農耕の展開を想定させる資料となるかもしれない。もちろん佐久地域内においても遺跡立地による栽培形態の差異も予測される。今後のデータの蓄積が望まれる。

引用文献

- 丑野 毅・田川裕美1991「レプリカ法による土器圧痕の観察」『考古学と自然科学』24 日本文化財科学学会13-36頁
- 遠藤英子2012「縄文晩期末の土器棺に残された雑穀」『長野県考古学会誌』140長野県考古学会43-59頁
- 遠藤英子2014「種実由来土器圧痕の解釈について」『考古学研究』60-4考古学研究会62-72頁
- 遠藤英子・高瀬克範2011「伊那盆地における縄文時代晩期の雑穀」『考古学研究』58-2 考古学研究会 74-85頁
- 小山岳夫2014「佐久地方北部の弥生集落の遷一主として粟林期一箱清水期一」『熊谷市前中西遺跡を語る』関東弥生文化研究会/埼玉弥生土器観会263-278頁
- 高瀬克範・遠藤英子 2010「埼玉県志木市田子山遺跡第31地点弥生時代21号住居跡出土炭化種子の分析」『古代学研究所紀要』12明治大学3-13頁
- 中沢道彦・佐々木由香・那須浩郎・米田恭子・竹原 学 2010「長野県松本市石行遺跡出土縄文時代晩期末米I式土器のアワ圧痕とその評価に向けて」『日本考古学協会第76回総会研究発表要旨集』46-47頁
- 中山誠二2010『植物考古学と日本の農耕の起源』同成社
- 中山誠二・佐野 隆2012「縄文時代終末期のアワ・キビ圧痕一山梨県屋敷平遺跡の事例」『山梨県考古学協会誌』21 85-97頁
- 比佐陽一郎・片多雅樹2005『土器圧痕レプリカ法による転写作業の手引き』福岡市埋蔵文化財センター
- Nasu,H.Momohara,A.Yasuda,Y.He,J.2007 The occurrence and identification of *Setaria italica*(L.) P. Beauv. (foxtail millet) grains from the Chengtoushan site (ca.5800cal B.P.) in central China, with reference to the domestication centre in Asia Vegetation history and archaeobotany 16:481-494

第1表 種子同定一覧

番号	部位	検出部	同定	種子の形態	図番	番号	部位	検出部	同定	種子の形態	図番	番号	部位	検出部	同定	種子の形態	図番
0001	つまみ	外面	アワ?	有ふ果		0026	胴部	外面	アワ	有ふ果		0047	胴部	内面	キビ?	加果	
0003	つまみ	外面	アワ	有ふ果	図1-3	0027	胴部	外面	キビ	有ふ果	図2-2	0048	胴部	内面	キビ	有ふ果	図2-5
0007	つまみ	外面	キビ	有ふ果	図1-4	0028	胴部	外面	アワ	有ふ果		0049	胴部	内面	キビ	有ふ果	
0008	胴部	外面	イネ	無	図1-5	0029	胴部	外面	キビ?	不明		0051	胴部	内面	アワ	有ふ果	
0010	胴部	外面	アワ	有ふ果		0030	胴部	外面	アワ	加果	図2-3	0052	胴部	内面	イネ	無	図2-6
0011	胴部	外面	アワ	有ふ果		0031	胴部	外面	キビ	有ふ果	図2-4	0053	胴部	内面	アワ	有ふ果	
0013	胴部	外面	アワ	有ふ果	図1-6	0033	胴部	外面	アワ	有ふ果		0054	胴部	内面	アワ?	有ふ果	
0015	胴部	外面	キビ	有ふ果	図1-7	0034	胴部	外面	アワ	有ふ果		0036	胴部	内面	キビ	有ふ果	
0016	胴部	外面	キビ	有ふ果		0036	胴部	外面	アワ	有ふ果		0038	胴部	断面	キビ	有ふ果	
0018	胴部	外面	アワ	有ふ果	図1-8	0039	胴部	内面	アワ	有ふ果		0059	胴部	断面	キビ?	不明	
0020	胴部	外面	アワ	有ふ果		0040	胴部	内面	キビ?	不明		0063	胴部	断面	アワ	有ふ果	
0021	胴部	外面	イネ	胚乳		0043	胴部	内面	キビ	有ふ果		0065	胴部	断面	アワ	有ふ果	図2-7
0022	胴部	外面	アワ	有ふ果	図2-1	0045	胴部	内面	アワ?	有ふ果		0067	胴部	断面	アワ	有ふ果	図2-8
0025	胴部	外面	キビ	有ふ果													



図 1-1:土器内面の大きなイネ胚(中央)と小さな線粒胚



図 1-2:土器断面にも観察される胚

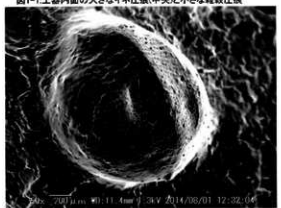


図 1-3:外観表面に乳頭状突起が観察されるアワ有ふ果

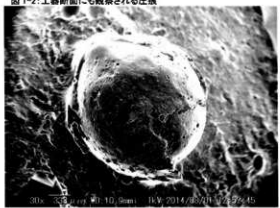


図 1-4:表面が平滑で内外観の境目に段差があるキビ有ふ果



図 1-5:紡錘形で、尾管末による凹凸、表面に顆粒状突起のあるイネ胚

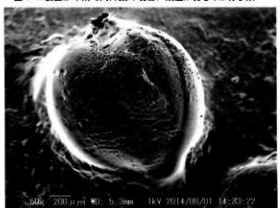


図 1-6:内外観境目に平滑な三日月状部位が観察されるアワ有ふ果

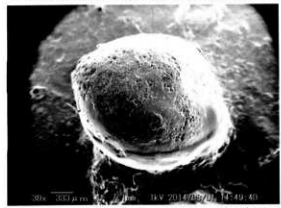


図 1-7:ツンと尖る側広卵形で、内外観の表皮は平滑なキビ有ふ果

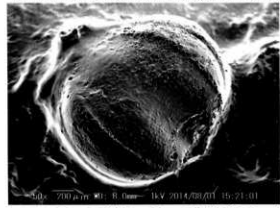


図 1-8:内観側の乳頭状突起と平滑な三日月状部位が見えるアワ有ふ果

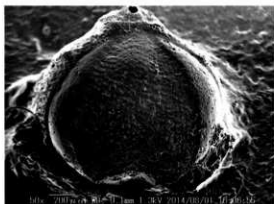


図 2-1: アワ有ふ果内外顔の乳頭状突起とその境目の三日月状部位

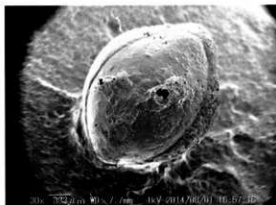


図 2-2: 内外顔の段差と平滑な表面状態が観察されるキビ有ふ果

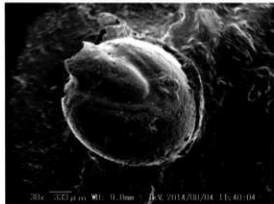


図 2-3: 粒長 $2/3$ ほどの長さの A 字形の胚が観察されるアワ有ふ果

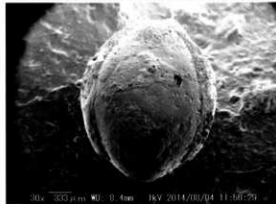


図 2-4: 内外顔の段差と平滑な表面状態が観察されるキビ有ふ果

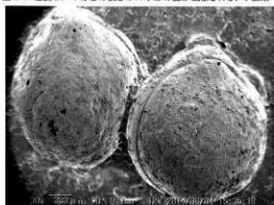


図 2-5: キビ有ふ果が 2 点重なりあって観察された



図 2-6: 基部に小胚軸が観察されるイネ粒

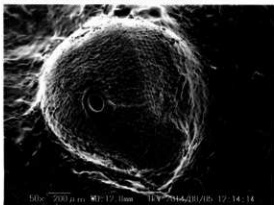


図 2-7: 表皮全面に乳頭状突起が観察されるアワ有ふ果外顔側

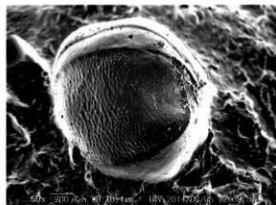


図 2-8: やや平坦な内顔側に乳頭状突起が観察されるアワ有ふ果

第3節 大豆田遺跡から出土した動物遺体

植月 学

はじめに

本稿では佐久市大豆田遺跡IVから出土した動物遺体について報告する。遺構の年代は弥生時代、古代、中世、近世に分かれるが、資料の大部分は中世に属する。

1. 方法

同定は現生標本との比較によった。部位や種の同定に至らなかった標本についても記録し、一覧に記載した。計測はDreisch(1976)の方法を基本とした。ウマ臼歯の歯冠高については植月(2011)に示した方法により、上顎歯については中心と頰側で、下顎歯についてはこれに舌側も加えて計測した。

年齢推定は西中川・松元(1991)の方法によりおこなったが、歯根中心が破損している場合には舌側や頰側(両方の場合は平均)の計測値を用いた。この場合には中心での計測値と比較して若干の誤差が生じる可能性がある。

年齢推定は臼歯1点ごとの推定を集計した結果と、同一個体と思われる標本の推定値を平均した個体ごとの結果の2通りで示した。後者の方が集団の年齢構成を示すにはより正確だが、同一個体が離れて出土した場合には認識できず、重複してカウントしてしまうという問題点がある。前者は残りの良い個体の値が強く反映されることになるが、この条件はどの遺跡でも同じなので、年齢構成を相対的に比較する上ではより公平だと考えられる。なお、同一個体の左右臼歯列が存在し、計測を省略した場合にも年齢推定値は左右両側で集計している。

2. 結果

(1) 組成

約123点の標本が含まれていた(細かく破砕された破片の数はいまいち数えていない)。このうち種の同定に至った標本は96点だった。内訳はウマが93点、ウシが2点、ヒトが1点であった。同定されたのは臼歯の標本が主体である。獣骨も出土しているが、遺存状態が悪く、部位の同定にも至らない標本がほとんどであった。大形の標本が多く、歯の同定結果からウマの骨が主体となる可能性が高い。

時期別にみても、この傾向は変わらない。内訳は下記のとおりである。

古代:ウマ3、中世:ウシ2、ウマ80、近世:ウマ5。なお、弥生時代の遺構からウマ3点、ヒト1点が出土しているが、ウマは混入と考えられている。

(2) 年齢構成(図1)

古代、近世は傾向を論じるには標本が少ない。中世は全標本でみると4歳前後の若い個体が多く、9歳、12歳前後がこれに次ぐ。13歳以上は少ない。個体別でみると9~12歳の割合が増える。

(3) 大きさ

馬歯は加齢による摩耗と共に歯冠長を減じていくので、他の標本との比較の際には歯冠高も考慮する必要がある。そこで、歯冠高が判明した標本について、植月(2011)において集成した東日本の古墳時代~中世遺跡出土馬歯の計測値の散布図へプロットした(図2)。高さ(長さ)の両方を計測できた標本は多くない。最大となる3個体分が計測できた下顎P3、M1、M2で見ると、平均よりも大形の個体2点、平均的な個体が1点みられた(歯種によって異なるが、おおむね3ヶ所遺跡標本を大、塩部遺跡標本を平均、大師東丹保遺跡標本を小とした場合)。

高さ/長さが計測可能であった15点について、中世遺跡の基準3標本の平均的な変化曲線との偏差により求めたLSI(Log Size Index)の平均値は0.0225であった。この値はこれまでに筆者が調査した古墳時代~中世の東日本の馬歯としては最大級の値である。3個体程度の平均なので、この値が遺跡全体を代表しているとは断定できないが、かなり大形の個体が飼育されていたことは間違いない。

3. まとめ

本遺跡で出土した動物遺体は遺存状況が不良で、骨の多くは同定が困難であった。同定可能だったのは主に白

歯であり、得られる情報は限られるが、以下のような特徴が指摘できる。

- (1) 哺乳類（少なくとも大型獣）の中ではウマが主体となる。この傾向は古代から近世まで一貫しているが、中世以外は標本数が少なく、詳細は不明である。
- (2) ウマの年齢は5歳前後を主体とし、半数程度が8歳までに死亡している。類似の傾向は他の古代～中世遺跡でも見られ、近世になるとより高齢の個体に偏るようである。その背景について、今後遺跡の性格を含めて検討していく必要がある。
- (3) 東日本遺跡出土馬の中でも大形の臼歯を持つ個体が存在した。

末筆ながら貴重な資料を分析する機会を与えていただいた佐久市教育委員会および富沢一明氏に深く感謝申し上げます。

引用文献

植月 学 2011 「出土馬歯計測値の比較のための基礎的研究」『動物考古学』28 1-22頁

西中川 駿・松元光春 1991 「遺跡出土骨同定のための基礎的研究」『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』（平成2年度文部科学省科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告書）164-188頁

Driesch, A. 1976 A guide to the measurement of animal bones from archaeological sites. Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University

推定年齢	全標本				個体数
	古代	中世	近世	計	
2	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0
4	0	6	0	6	1
5	4	17	1	22	10
6	2	9	1	12	6
7	0	1	0	1	1
8	2	2	0	4	3
9	2	7	0	9	7
10	0	2	0	2	1
11	0	5	1	6	5
12	0	8	0	8	4
13	0	0	0	0	0
14	0	0	0	0	0
15	0	3	0	3	2
16	0	0	0	0	0

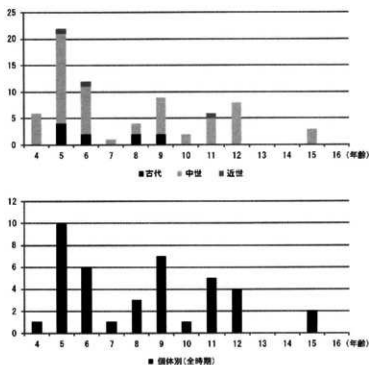


図1 ウマ臼歯による推定年齢の分布

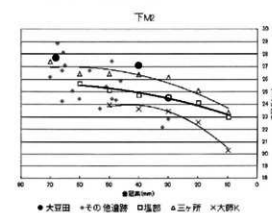
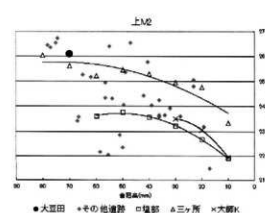
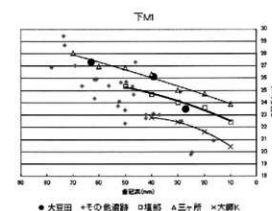
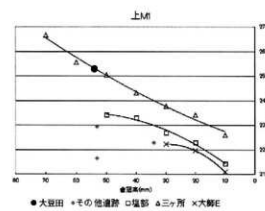
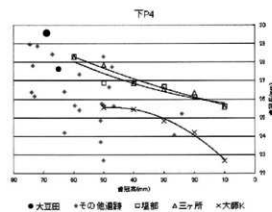
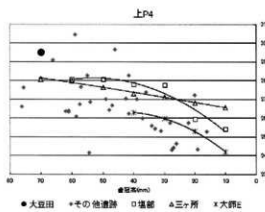
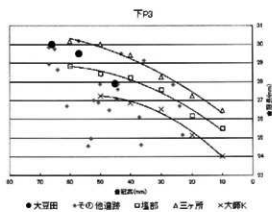
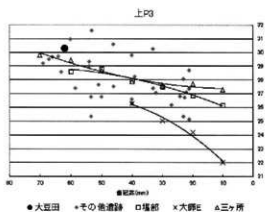
表1 出土動物遺体一覧

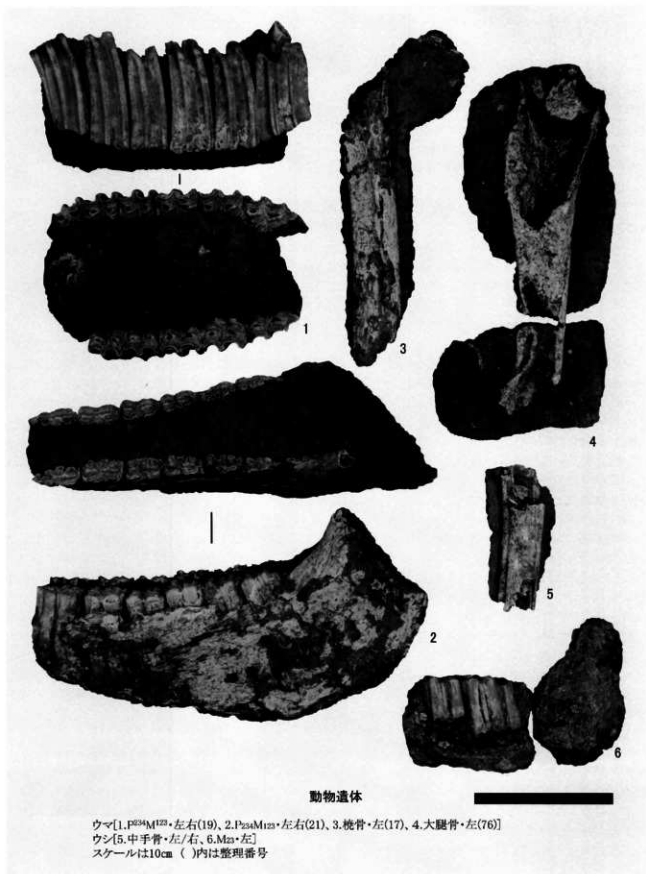
整理番号	遺体	グリッド	区・層	No.	時期	種	部位	位置	左右	数	通し番号 (毎月)	備考	年輪	収蔵	収蔵	備付
1	M1		I区	香	中世	哺乳類	不可				299					
2	M1		I区	香	中世	ウマ	下顎歯	M1	左	1	300-1	300-2と同一個体か				
3	M1		I区	香	中世	ウマ	下顎歯	M2	左	1	300-2	300-1と同一個体か				
4	M1		I区	香	中世	ウマ	上顎歯	M1/2	右	1	302					
4	M15		I区	香	近世	ウマ	臼歯	破片	?	1	309					
5	M1		II区	香	中世	ウシ/ウマ	四肢骨				300					
6	M1		II区	香	中世	ウマ	下顎歯	P2	左	1	303-3					
6	M1		II区	香	中世	ウマ	下顎歯	P2	右	1	303-4					
6	M1		II区	香	中世	ウマ	下顎歯	P3/4	右	1	303-5					
6	M1		II区	香	中世	ウマ	上顎歯	P2	右	1	303-1					
6	M1		II区	香	中世	ウマ	上顎歯	P3/4	右	1	303-2					
6	M1		II区	香	中世	ウマ	臼歯		?	11	303-6					
7	M1		II区	香	中世	ウマ	下顎歯	M3	左	1	304-2	304-3と同一個体				
7	M1		II区	香	中世	ウマ	下顎歯	M3	右	1	304-3	304-2と同一個体				
7	M1		II区	香	中世	ウマ	上顎歯	M1/2	左	1	304-1					
7	M1		II区	香	中世	ウマ	臼歯		?	3	304-4					
8	M1		II区	香	中世	哺乳類	四肢骨				297					
9	M1		II区	香	中世	ウマ	下顎歯	P2	左	1	305-1	305-4と同一個体か				
9	M1		II区	香	中世	ウマ	下顎歯	F47	左	1	305-2	305-4と同一個体か				
9	M1		II区	香	中世	ウマ	下顎歯	M1	左	1	305-3	305-4と同一個体か				
9	M1		II区	香	中世	ウマ	下顎歯	M3	左	1	305-4	305-4と同一個体か				
10	M1		II区	香	中世	ウマ	切歯		?	2	307					
11	M1		II区	香	中世	ウマ	下顎歯	P/3 破片	左	1	308	近心				
12	M1		II区	香	中世	哺乳類	不可				301					
13	M1		II区	香	中世	ウマ	肋骨	骨幹	左	1	375					
14	M1		II区	香	中世	哺乳類	四肢骨				298					
15	M1		II区	香	中世	哺乳類	不可				298					
16	M1		II区	香	中世	ウマ	上顎歯	遠近端	右	1	322					
17	M1		II区	香	中世	ウマ	肋骨	骨幹	左	1	377					
18	M1		II区	香	中世	ウマ?	中子骨?	遠近端?	左	1	329					
19	M1		II区	香	中世	ウマ	上顎歯	P2 M2, 切歯 M2	左/右	1	294	厚板歯、骨質部消失				
20	M1		II区	香	中世	ウマ	肋骨		左右	1	333					
21	M1		II区	香	中世	ウマ	上顎歯	[P2/M2/M2]	左/右	1	293	骨質部はほぼ消失			破	
22	M1		II区	香	中世	ウマ	臼歯		?	6	325				破	
23	M1		II区	香	中世	哺乳類	?	破片	?	?	334					
24	M1		II区	香	中世	哺乳類	?	破片	?	?	331					
25	M1		II区	香	中世	哺乳類	?	破片	?	?	335					
26	M1		II区	香	中世	ウマ	下顎歯	M3	右	1	342	他に骨片あり				
27	M1		II区	香	中世	ウマ	下顎歯	P3/4	左	1	328					
28	M1		II区	香	中世	ウシ/ウマ	四肢骨	破片	?	1	330					
29	M1		II区	香	中世	ウシ/ウマ	四肢骨	破片	?	1	325					
30	M1		II区	香	中世	ウシ/ウマ	四肢骨	破片	?	1	324					
31	M9		II区	香	古代	哺乳類	?	破片	?	1	316					+
32	M9		I区	香	古代	哺乳類	?	破片	?	2	315					+
33	M10		II区	香	古代	ウマ	肋骨		?	1	319					
35	M14			1	近世	ウマ	下顎歯	M1/2	右	1	312					
36	M14			2	近世	ウマ	下顎歯	P/3 破片	?	1	318					
37	M14			3	近世	?	?	破片	?	3	317					
38	M14			4	近世	ウマ	上顎歯	M3	右	1	309					
39	M14			5	近世	ウマ	上顎歯	P3/4	左	1	303					
40	M17			中世	ウシ/ウマ	四肢骨	破片	?	?	1	378					
41	M18			1	中世	ウシ/ウマ	四肢骨	破片	?	1	311					
42	M18			3	中世	ウシ?	肋骨?		?	1	323					
43	M18			4	中世	ウマ	下顎歯	P/3 破片	?	1	314					
44	M18			5(香)	中世	ウマ	下顎歯	P2 M2	右	1	319					若
45	M18			中世	ウマ	上顎歯	P/3 破片	?	?	1	322					
46	M18			香	中世	ウマ	上顎歯	M1/2	左	1	313					
47	M27			中世	哺乳類	?	破片	?	?	1	300					
48	M27	XV II-1		香	中世	ウシ	下顎歯	[M23]	左	1	283	骨質部消失				
49	M27	XV II-5		中世	哺乳類	不可	破片				278					
50	M27	XV I-5		中世	ウマ	上顎歯	M1/2	右	1	284-1						若
50	M27	XV I-5		中世	ウマ	上顎歯	P2	左	1	284-2						
50	M27	XV I-5		中世	ウマ	上顎歯	M1/2	左	1	284-3						
51	M27	XV I-6		中世	ウマ	上顎歯	M3	左	1	282-1						282内に現職獣医氏分
51	M27	XV I-6		中世	ウマ	上顎歯	P3/4	左	1	282-2						
51	M27	XV I-5		中世	ウマ	上顎歯	P3/4	左	1	282-3						

51	927	XV 1-5		中世	ウマ	上顎歯	33	右	1	282-4	歯槽部拡大				
51	927	XV 1-6		中世	ウマ	上顎歯	M1/2	左	1	282-5					
51	927	XV 1-6		中世	ウマ	上顎歯	P3/4	左	1	282-6			老	傷	
52	927	X-21		中世	ウマ	上顎歯	M1/2	右	1	288					
53	927	XV 1-6		中世	ウマ	下顎歯	P3/4	左	1	287					
54	927	XV B-6		中世	ウマ	上顎歯	M2?	右	1	290					近心
55	927	XV B-2		中世	ウマ	上顎歯	破片	?	1	291					
56	927	I X-26	音	中世	ウマ	下顎歯	M1/2	右	1	291-1					
56	927	I X-26	音	中世	ウマ	下顎歯	M1/2	左	1	291-2					
57	927	X-22		中世	ウマ	下顎歯	P1/4	左	1	289					
58	927	XV B-4		中世	ウマ	下顎歯	M1/2	右	1	289					
59	927	XV B-1		中世	ウマ	歯	破片	?	1	292					管理番号、番号確認(抜けていた)
60	927	XV B-4		音	中世	ウマ	下顎歯	M1/2	左	1	285				
61	927	XV 1-5	音	中世	ウマ	歯	m1/2/3	右+上	1	286					管理番号確認(抜けていた)
62	927	XV 1-5		中世	ウマ	上顎歯	M1/2	右	1	279-1					
62	927	XV 1-5		中世	ウマ	切歯	?	?	2	279-2					
63	929			中世	ウマ	下顎歯	M1/2	左	1	372					
64	933		2	中世	ウマ	犬歯骨	歯槽部	右	1	379					
65	933			中世	ウマ	臼歯骨	破片	?	1	376					
66	933			中世	哺乳類	?	破片	?	1	369					
67	933			中世	ウマ	下顎歯	P2,3	右	1	370					
68	933			中世	ウマ	切歯	?	?	1	371					
69	935			古代	哺乳類	?	破片	?	1	374					
70	982			近代	哺乳類	?	破片	?	1	373					*
71	984		2	中世	哺乳類	?	破片	?	1	342					
72	987		1	中世	哺乳類	?	破片	?	1	340					
73	987		2	中世	ウシ	中足骨	骨幹	?	1	339					
74	987		3	中世	ウシ	臼歯骨	破片	?	1	338					
75	987		4	中世	ウマ	上顎歯	P3/4	右	1	341					
76	987		5	中世	ウマ	犬歯骨	歯槽部~歯位部	左	1	368					
77	987		6	中世	哺乳類	?	破片	?	1	337					
80	検出		X B-1		ウマ	下顎歯	M1/2, M3	左	1	365					
80	検出		X B-1		ウマ	上顎歯	P/M 破片	右	1	366					
81	U11		2971	弥生	哺乳類	?	破片	?	1	363					*
82	U11		68	弥生	ウマ	P/M	破片	?	1	347					混入の可能性
83	U11		712	弥生	ウマ	P/M	破片	?	1	346					混入の可能性
84	U11		4338	弥生	哺乳類	?	破片	?	1	358					
85	U2			弥生	ヒト	歯				361					
86	U2			弥生	土器片					362					
87	U9			中世	ウマ	上顎歯	M1/2	左	1	354					
88	U20			古代	ウマ	下顎歯	P2, M3, 切歯類	左右	1	380					
89	D48			弥生	哺乳類	?	破片	?	1	355					*
90	D48			弥生	哺乳類	?	破片	?	1	359					*
91	D48			弥生	哺乳類	?	破片	?	1	360					*
92	D48		4	弥生	哺乳類	?	破片	?	1	348					*
93	D48		7	弥生	哺乳類	?	破片	?	1	357					*
94	D48		14	弥生	哺乳類	?	破片	?	1	358					*
96	D48		72	弥生	哺乳類	?	破片	?	1	350					*
96	D48		85	弥生	哺乳類	?	破片	?	1	351					*
97	D48		107	弥生	哺乳類	?	破片	?	1	352					*
98	D48		119	弥生	哺乳類	?	破片	?	1	353					*
99	D50			弥生	哺乳類	?	破片	?	1	354					*
100	D50			弥生	哺乳類	?	破片	?	1	349					*
101	D50			弥生	ウマ	下顎歯	P/M 破片	?	1	367					時期不確定
?	M1		Ⅱ区	8	中世	哺乳類	?	破片	?	327					
Ta1			Ⅱ区		古代	ウマ	P/M	破片	?	345					
Ta1			Ⅰ区		古代	ウマ?	P/M	破片	?	344					

表2 ウマ歯計測・年齢推定結果

歯種	歯位	上下	左右	歯種	備考	L咬合面	±	咬耗/萌出	HL	±	HC	±	HDI	±	測定年数				
															1	2	平均	標準平均	±
2	306-1	下	左	M1		23.5		24		27		25		14.8		14.0	14.3		
2	306-2	下	左	M2		24.5		29		30		30		14.1		14.1	14.1		
3	302	上	右	M1/2		24.1				X		43		7.8	9.0	8.4	8.4		
6	303-1	上	右	P2		32.5				X		30		39	39	39	11.0		
6	303-2	上	右	P2/4		27				X		26		11.2	12.0	11.6	11.6		
6	303-3	下	右	P2		29.6		23		25		25		11.1		11.1	11.1		
6	303-4	下	右	P2		29.4		23		23		23		11.9		11.9	11.9		
6	303-5	下	右	P2/4		26.5		33		35		35		10.2	10.8	10.5	10.5		
7	304-1	上	左	M1/2		23.6				X		64		3.6	4.9	4.2	4.3		
7	304-2	下	左	M3		X				X									
7	304-3	下	左	M2		X		64		X		X		5.2		5.2	5.2		
7	305-1	下	左	P2		34.1		23		21		24		11.5	11.0	10.4	10.4		
9	305-2	下	左	P1/7		28.9		41		41		40		9.0		9.0	9.0		
9	305-3	下	左	M1		28.1		38		38		38		10.3		10.3	10.3		
9	305-4	下	左	M2		27.1		49		49		42		10.8		10.8	10.8		
19	294	上	右	P2	右側あり、著咬									4.0	4.0	4.0	4.0		
19	294	上	右	P3	右側あり、著咬									4.4	4.4	4.4	4.4		
19	294	上	右	P4	右側あり、著咬									4.0	4.0	4.0	4.0		
19	294	上	右	M1	右側あり、著咬									5.2	5.2	5.2	5.2		
19	294	上	右	M2	右側あり、著咬									4.1	4.1	4.1	4.1		
19	294	上	右	M3	右側あり、著咬									4.3	4.3	4.3	4.3		
19	294	上	右	P2	P2-P4: 9/1, M1-M3: 7/4, P2-M2: 10/5	37.6				X		50		4.0	4.0	4.0	4.0		
19	294	上	右	P3		30.3				X		62		4.4	4.4	4.4	4.4		
19	294	上	右	P4		29.8				X		70		4.0	4.0	4.0	4.0		
19	294	上	右	M1		23.2				64		60		5.2	5.2	5.2	5.2		
19	294	上	右	M2		25.1				X		70		4.1	4.1	4.1	4.1		
19	294	上	右	M3		22.8				X		35		4.3	4.3	4.3	4.3		
21	293	下	左	P2	ハネ根(セメント剥落)	32.2			東京			63		4.3	4.3	4.3	4.3		
21	293	下	左	P3		32.2				X		35		4.8	4.8	4.8	4.8		
21	293	下	左	P4		29.6						69		4.4	4.4	4.4	4.4		
21	293	下	左	M1		26.5						横立							
21	293	下	左	M2		27.3						横立							
21	293	下	左	M3		28.5						横立							
21	293	下	右	P2	左側あり、著咬									4.8	4.8	4.8	4.8		
21	293	下	右	P3	左側あり、著咬									5.1	5.1	5.1	5.1		
21	293	下	右	P4	左側あり、著咬									4.4	4.4	4.4	4.4		
21	293	下	右	M1	左側あり、著咬									5.2	5.2	5.2	5.2		
21	293	下	右	M2	左側あり、著咬									4.1	4.1	4.1	4.1		
21	293	下	右	M3	左側あり、著咬									4.3	4.3	4.3	4.3		
26	343	下	右	M3		30.4			X	X		51		7.9	7.9	7.9	7.9		
27	328	下	左	P2/4		29.9		24		23		32		10.8	11.4	11.1	11.1		
35	312	下	右	M1/2		24.7		27		41		41		10.1	11.1	10.6	10.7		
38	320	上	右	M1	歯根尖形成	24.6				X		60		4.8	4.8	4.8	4.8		
39	323	上	右	P3/4		30.3				X		57		5.3	5.7	5.5	5.5		
44	310	下	右	P2		33.8		43		45		44		4.8	4.8	4.8	4.8		
44	310	下	右	P3		30		64		66		66		3.8	3.8	3.8	3.8		
44	310	下	右	M1	歯根尖形成	28.4						62		4.5	4.5	4.5	4.5		
44	310	下	右	M2	歯根尖形成	27.3			61		63		62	4.6	4.6	4.6	4.6		
44	310	下	右	M3	歯根尖形成	27.7						66		4.4	4.4	4.4	4.4		
44	310	下	右	M3	歯根尖形成	28.5			東京										
46	313	上	左	M1/2		32.4				32		25		11.1	12.1	11.6	11.6		
49	284-1	上	右	M1/2		X				X		61		10	10	10	10		
49	284-2	上	右	P2		X				41		40		6.1	6.1	6.1	6.1		
49	284-3	上	左	M1/2		23.8				X		43		7.8	9.0	8.4	8.4		
51	282-1	上	左	M3		25.8				33		32		11.8		11.6	11.6		
51	282-2	上	左	P2/4		28.5				43		43		8.8	9.3	9.1	9.1		
51	282-3	上	左	P2/4		27.8				X		27		3.6	4.3	4.0	4.0		
51	282-4	上	右	M3		X				44		46		8.3	8.3	8.3	8.3		
51	282-5	上	右	M1/2		24.5				68		51		6.5	7.8	7.2	7.2		
51	282-6	上	右	P2/4		25				25		22		11.2	10.5	11.9	11.9		
53	287	下	右	P2		29		52		53		55		3.4	4.0	3.7	3.7		
56	281-1	下	右	M1/2		26		66		X		65		12	12	12	12		
56	281-2	下	右	M2/2		25.8				X		61		4.7	5.5	5.1	5.1		
57	289	下	右	P2/4		31.3				68		X		3.7	4.5	4.1	4.1		
58	289	下	左	M2/2		25				48		X		7.7	8.5	8.1	8.1		
63	255	下	左	M1/2		33.4				X		45		6.5	9.3	8.9	8.9		
62	279-1	上	右	M1/2		23.3				X		55		8.1	6.4	5.8	5.8		
63	372	下	左	M1/2		23.7		34		35		37		11.6	12.4	12.0	12.0		
75	341	上	右	P3/4		23.6				38		38		9.9	10.6	10.3	10.3		
82	369	下	左	M1/2		25.3				28		28		10.9	11.4	11.0	11.0		
87	369	下	右	P2		30.6				68		68		4.8	4.8	4.8	4.8		
87	364	上	右	M1/2		24.8				59		X		4.1	3.7	5.1	5.1		
88	380	下	左	P2		32.1		29		32		32		9.6	8.6	8.6	8.6		
88	380	下	右	P3		27.9		46		45		48		7.5	7.5	7.5	7.5		
88	380	下	右	P4		27.6						横立		4.7	4.7	4.7	4.7		
88	380	下	右	M1		23.8						横立		5.1	5.1	5.1	5.1		
88	380	下	右	M2		24.2						横立		5.5	5.5	5.5	5.5		
88	380	下	右	M3		29.2				66		横立		6.6	4.8	4.8	4.8		
88	380	下	左	P2	左側あり、著咬									6.6	6.6	6.6	6.6		
88	380	下	左	P3	左側あり、著咬									7.5	7.5	7.5	7.5		
88	380	下	左	P4	左側あり、著咬									4.7	4.7	4.7	4.7		
88	380	下	左	M1	左側あり、著咬									5.5	5.5	5.5	5.5		
88	380	下	左	M2	左側あり、著咬									4.8	4.8	4.8	4.8		





動物遺体

ウマ[1. P²³M¹²³・左右(19), 2. P^{23a}M^{123a}・左右(21), 3. 椎骨・左(17), 4. 大腿骨・左(76)
 ウシ[5. 中手骨・左/右, 6. M^{2a}・左]
 スケールは10cm ()内は整理番号

第VI章 調査の総括

本遺跡の調査では、第IV章調査の成果で述べたとおり、縄文から近世・近代に至る長い時間幅の遺構・遺物が検出された。本章ではこれら今回の発掘調査により明らかとなった成果をまとめ総括としたい。内容はまず1点目として、遺跡の時代別利用状況を縄文、弥生、古代、中世についてまとめてみたい。なお、まとめにあたっては、近年調査報告された周辺遺跡の成果もふまえつつ概観したい。もう一点は、本文中でも触れたが弥生後期の所産と考えられる、縄文施文の土器についてである。外來からの影響と考えられるこのような土器がまとまって出土したのは本遺跡が佐久地域では初めてであろう。その発見意義等に触れてみたい。

第1節 大豆田遺跡Ⅳとその周辺地域の時代的概観

(1) 縄文時代

今回の調査では縄文時代の遺構として落とし穴と考えられる土坑2基と杭列遺構が検出された。調査面積から考えると非常に閑散とした風景であるが、近接する中部横断道分の周防畑遺跡群でも落とし穴が1基、北側に隣接する宮の前遺跡でも集落は発見されず、落とし穴が調査されている。近接する縄文集落は田切を隔てた北西側台地の近津遺跡群に立地すると考えられる。西近津遺跡Ⅲからは縄文後期の土坑群が検出され、石棒や土偶等が出土している。このように、縄文時代の本遺跡周辺は狩猟場として利用されていたと考えられる。

(2) 弥生時代

弥生時代になると中期後半の集落が形成されるが、場所は中部横断道側の調査地点で、尚且つ南側に広がる低地を超えた微高地上である。よって大豆田遺跡や宮の前遺跡が立地する台地上では中期後半の栗林期の集落は発見されていない。台地全体に生活の場が広がるのは弥生時代後期の箱清水期である。後期になると住居や周溝墓が台地上で検出されている。今回の大豆田遺跡Ⅳの調査範囲では住居址と土坑、掘立柱建物址が検出されたが、調査区を接する周防畑B遺跡のA地区とB地区、北に接する宮の前遺跡では、円形周溝墓や方形周溝墓が検出されている。これら集落と墓域はある程度の距離を持ち混在しないようであるが、先に述べた中期後半の集落が調査された中部横断道調査範囲の5区については周溝墓と住居址が近接し、一部重複関係にある。これは低地内の限られた範囲の微高地上に遺跡が立地する為と考えられる。

周辺部で検出されている後期の集落は、田切や低地、或いは墓域に区切られて、各々一つの村落的な立地を示している(第1図参照)。今回の調査範囲である大豆田遺跡Ⅳも微視的にはU7.9.11遺物集中区の範囲は黒色土が堆積し、地形的にはやや低くなる。よって周防畑B遺跡の集落も含め、遺跡内で西側の集落エリアと東側の集落に分かれると考えられる。このように見ていくと、周辺で発見された集落グループは中部横断道2.3区で30軒以上、宮の前遺跡40軒以上、大豆田遺跡西側24軒、大豆田遺跡東側10軒以上となる。各グループはいずれも重複関係があり、一時期の集落数の把握は難しいが、大豆田遺跡西側グループは比較的重複が少なく、住居主軸方向もほぼ一致することから、同時併存を20軒前後と試算してもよいと考える。

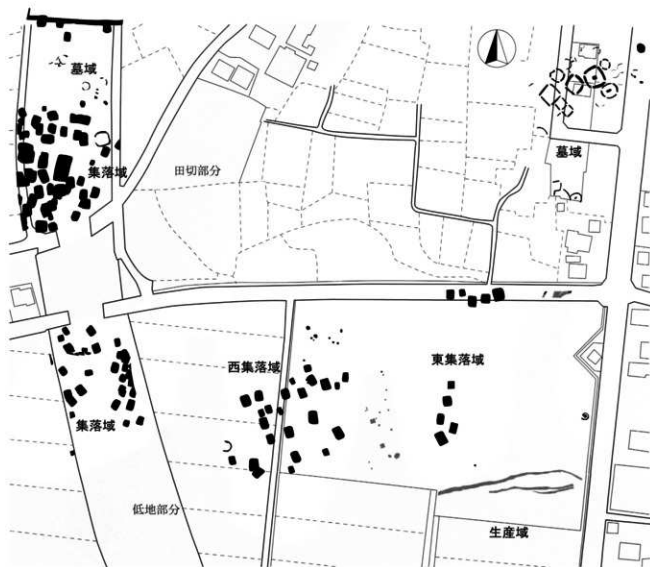
よって、中部横断自動車道に伴う調査の西近津遺跡群部分が未報告であるため、詳細は分からないが、住居規模が18.0×9.5mという超大型住居を含む西近津遺跡群の弥生後期集落を母村的な位置づけと捉えられれば、周辺の台地や微高地に20軒前後で立地する集落は、母村を取り囲む子村的な立地と推定できる。これら集落の集団が目指したものは、眼前に広がる濁川が形成した沖積低地の水田開発であろうことが想定される。

(3) 古墳時代

今回の調査では古墳時代の遺構として弥生末から古墳前期の住居址1軒、後期の住居址1軒、溝状遺構1本しか検出されず、古墳時代については不明な部分が多い。また、中部横断道側の2.3区においても古墳時代の住居址は検出されておらず、宮の前遺跡についても数は少ない。よって大豆田遺跡周辺の台地は古墳時代において積極的な土地利用は無かったと考えられる。ただ、本遺跡のM7号溝状遺構から5.6世紀の土器が出土し、当該期の所産と考えた。溝は東西方向に伸び、台地と沖積低地の境界付近に立地することから、何らかの土地区画を目的とした行為が考えられ、全くの無人の荒野的な情景ではなかったと考えられる。

(4) 古代(奈良・平安時代)

奈良・平安時代になると、弥生時代後期同様に台地全体に活動の場が広がる。検出された遺構としては住居址・掘立柱建物址・土坑・溝状遺構等である。遺跡全体の特徴としては、周防畑B遺跡も含めると住居址16軒に対して、掘立柱建物址が27棟と、掘立柱建物址の比率が高いことが挙げられよう。勿論、両遺構の同時併存の確定は非常に難しいが、累計として見た場合でも西隣りの中部横断自動車道調査地点が住居址41軒、掘立柱建物址11棟であり、比率の差は歴然である。これらの事から、今回調査が行われた大豆田遺跡IV周辺の台地上は集落域というよりも、掘立柱建物址を主に使用する生活域と考えられる。当遺跡の南側前面が沖積低地であり、水田としての生産活動域であろうことが予想されるため、この掘立柱建物址群は集落域と生産域の中間に位置し、水田耕作のための倉庫群と捉えられないだろうか。今一步想像をたくましくすれば、これら倉庫群に収められていたものは、もちろん生産品である「杵」を第一に、耕作にかかわる農具、水田維持の為の資材等が考えられ、主軸方位や形態の差は収蔵物の違いに起因するのではないであろうか。このことは集落内での集団と個人における農具保有・管理の問題を解明しなければもちろん証明できないことであるが、今回記載したことはあくまでも想像であり、何らの考古学的・文献史的な証拠は今のところないが一考の価値はあるように思う。



第1図 弥生後期遺構配置図



第2図 古代遺構配置図



第3図 中世遺構配置図

(5) 中世

今回の調査では中世の遺構として掘立柱建物址や溝状遺構や土坑が検出された。掘立柱建物址については4棟を比定したがいずれも確定的な出土遺物は無く、形態と覆土の状況からの判断である。ただ、掘立柱建物として組みなかった単独ピットが800個以上検出されており、これらの中に建物址となるものも多いと考えられる。土坑については特に井戸址と考えられるものが多かった。中でも木枠の形状が良好に残存しているものとしてD8.9.40.63号土坑があり、特にD40については埋め桶も残存していた。これら井戸址の深さは平均2mの深さで、北側に接する道常遺跡検出の井戸が平均3m以上の深さがあるのに対して浅かった。これは遺跡の立地の差であり、湧水層が低地に近い本遺跡の方が高いことに起因する。

次に、溝状遺構は本文中でも触れたが、南北と東西にそれぞれ伸びる溝が直行することが最大の特徴である。またこれらの溝は位置を少しづつ替えながら掘り直しが行われており、結果何本かの溝状遺構の集合体のような状況であった。本遺跡において古代までの溝状遺構は、北東方向から南西方向に斜めに地形を横切るものがほとんどであった。この中世段階になり、整然とした南北・東西方向を志向する溝状遺構が出現するということは、この時期に新たな地割や水路建設がなされたことを意味し、条理的な風景がこの段階から現れたと考えたい。

これら中世所産の遺構から出土した遺物は青磁類や尾張・常滑系の陶器類、北関東や県内産の須恵質系すり鉢などがあった。これらはいずれも13～14世紀代のもので占められ、本遺跡の井戸や溝状遺構の帰属年代の根拠となっている。中でも特に注目される遺物として遺構外からの出土であるが、輸入陶磁器の緑釉盤がある。長野県内では中央道建設に伴う松本市の北栗遺跡より出土した破片に次ぐもので県内2例目となる。また、近世以降の溝状遺構からの出土であるが龍泉窯系の青磁香炉などもあった。

ただ、佐久地域においては特殊と考えられるこれらの遺物が出土しているが、遺構群の状況としては溝に囲まれた範囲に井戸と小規模な掘立柱建物址がまばらに建つ状態で、館や町屋といった様相は見受けられない。また、道常遺跡のような堅穴状遺構が密集するような一般的な集落域とも異なっている。ただ、形態的にしっかりした井戸はつくられている。これらの状況から本遺跡の性格づけに苦慮する。井戸の使用目的が日々の人々の暮らしにのみ使用されたものなのか、或いは何らかの生産活動と関連するのか、現状では答えを持ち合わせない。この点については今後の課題とした。しかし、佐久地域において発見例の少ない13～14世紀代の中世前期に比定される本遺跡は希少な発見例である。

(6) 近世・近代

近世・近代に属する遺構は溝状遺構が多く、その多くは圃場前の水田畦畔や水路と重なるものが多い。また、南北に伸びる中世の溝状遺構は圃場整備前の道路下に位置し、中世の区割りが道として近世・近代まで踏襲された好例であろう。なお、近世以降は水田として利用されていたと考えられるが、先に述べた水路や地割しか発見されていない。これは、昭和55年以降の大規模圃場整備による掘削や、基本層序で述べた近世の水田耕作土と考えられるIV・V層を表土剥ぎ段階で除去したためである。

注

1. 中部横断道自動車道関連で調査された西近津遺跡群の弥生・古代・中世の遺構配置図は、長野県埋蔵文化財センター 年報 27 に掲載された全体図から現地説明会資料等を参考に再トレースしたもので正確な帰属時期を示すものではない。詳細については長野県埋蔵文化財センター刊行の本報告を参照されたい。
2. 田切地形及び低地を示した範囲は、昭和55年の圃場整備以前の水田形状や水路、周防畑B遺跡の調査成果を参考として作成した。

第2節 弥生後期の縄文施文土器について

今回の調査では箱清水式土器と共に弥生後期所産と考えられる縄文施文の土器が多く出土した。これらは、所謂関東に分布域をもつ「赤井戸式土器」や「吉ヶ谷式土器」と呼ばれる土器群に似る。今日までにこれらの土器が佐久地域において一遺跡からまとまって出土したことはなかった。ここでは、これら資料を今一度精査し、今回の出土資料の位置づけを試みたい。

大豆田遺跡IVから出土した縄文施文の土器は主に土坑やU7やU11といった遺物集中区から出土しており、今回の調査された住居址からは出土していない。しかし、隣接する周防畑B遺跡からはY2号住居址やY16号住居址から全体の器形を知りうるような土器が出土し、また他の住居址からも破片資料であるが出土している。遺物集中区でも述べたが、U7やU11の土器群は西側に展開する集落址から持ち込まれた可能性が指摘できる為、これら縄文施文の土器群は今回の調査範囲でも西側に展開する集落や接する周防畑B遺跡の集落内で使われていたものと推測される。

佐久地域で弥生後期段階のこれら縄文施文土器の出土遺跡としては、管見に触れたものとして下記の表と地図にまとめた。

第1表 縄文施文土器出土遺跡一覧表

遺跡名	遺構名	種別	形状	時期
1 近津遺跡群	遺構外	甕	輪積み底口縁部	折り返し甕
2 西近津遺跡IV	D54	甕	頸部破片 縄文R.	覆土より
3 上大豆塚遺跡	H1	甕	接合後にはぼ完形	甕 弥生後期後半
4 宮の前遺跡I・II	遺構外	甕	胴部破片 単節縄文R.L.	2片出土
	D93 H1109	甕	胴部破片 胴部破片 単節縄文R.L.	弥生井戸 弥生後期
5 大豆田遺跡I・II	M8	甕	破片	
6 辻の前遺跡	H7	甕	輪積み底口縁部	2片出土 弥生後期後半
7 辻の前遺跡II	H1	甕	口縁部破片	2片出土 古墳前期
	H3	壺	口縁部から頸部	弥生後期後半
	H3	甕	胴部破片	2片出土 弥生後期後半
8 周防畑遺跡群	SF55住居	不明	区画線あり、破片	弥生後期
	SB77住居	壺?	破片	4片覆土より出土
	SM509方形集溝墓 SD05号溝址	壺 甕	口縁部破片 口縁部破片	覆土より 覆土より
9 周防畑B遺跡	Y2号	甕	口縁部から頸部	弥生後期前半
	Y16号	壺	頸部から胴部	弥生後期前半?
10 西一本柳遺跡X I	M1	甕	輪積み底口縁部	十玉台式出土 弥生後期
11 西一本柳遺跡X	H27	壺	赤彩壺の頸部破片	弥生後期前半



第4図 縄文施文土器出土遺跡位置図

これらの分布図から解することは、明らかに佐久地域内の弥生後期集落の中で縄文施文土器を出土する遺跡が偏るということである。一番の中心は今回調査が行われた大豆田遺跡周辺で、今一步微細にみると土器器形が解るようなものを出土するのは、低地に近い或いは低地内微高地に立地する遺跡であり、台地上に展開する大規模集落内からは今のところ出土報告がない。今一つの位置は西一本柳遺跡周辺である。ただ、こちらの範囲からはいずれも小片の出土に止まっている。このように、佐久地域における縄文施文土器を出土する遺跡は極めて限定された遺跡からの出土であり、尚且つその中心は今回調査が行われた大豆田遺跡Ⅳの西側を含む周防畑B遺跡で検出された集落であることが予想される。

では、現在までに当地域においてどのような土器が出土しているか整理してみたい。先に掲載した表でも解るように、その主体は甕であり、少量の壺が含まれる。赤井戸並びに吉ヶ谷土器系譜と考えられる高坏や吉ヶ谷式で特徴的な壺口縁部の突帯状粘土帯に刻みを施した飾りの壺などは見られない。ただし、本遺跡のM10号溝状遺構出土の高坏脚部(第106-31)などは坏部と脚部の接合部に吉ヶ谷式に見られる突帯状の粘土帯が巡る。このような形状は箱清水式には見られず、或いは赤井戸・吉ヶ谷式の影響とも考えられる。まず壺については第5図に示した1~3が壺と考えられる。しかし、1と2は器形が箱清水式と考えられ、施文のみが影響を受けている。3は赤彩が施された壺で、縄文施文が段状になる赤井戸・吉ヶ谷式に近い。甕は今回多くの形態が出土している。ただし、全容を把握できる土器は少ない。4は壺か甕か判断に苦むが、器形と縄文施文は赤井戸・吉ヶ谷式に近い。しかし、両形式が行わない沈線による区画を施す点は箱清水式的である。7はほぼ完形の甕で、口唇部に刻みを持ち、胎土も在地とは異なる感じがある。11~13は赤井戸・吉ヶ谷式に特徴的な輪箱み底を残す縄文施文の壺口縁部である。7と11~13は搬入品の可能性がある。他のものは器形が箱清水式的なものが多く、輪箱を縄文に置き換えたようなものも多い。また14のように赤井戸・吉ヶ谷式ではあまり見られない口縁部に無文帯を持つ土器がある。胎土も在地としてはやや異なる感がある。箱清水式の甕でも口縁部に無文帯を付資料はあまり見受けられない。このような文様構成は信州にあって中期栗林的な要素であり、関東側では後期の樽式や岩鼻式に見られる文様構成と理解している。14のような土器は在地化と考えるべきなのか、或いは群馬県前橋市荒砥北三木堂遺跡31号住居址から出土している中期後半の縄文系土器に似ていると思うのは無理があるだろうか。

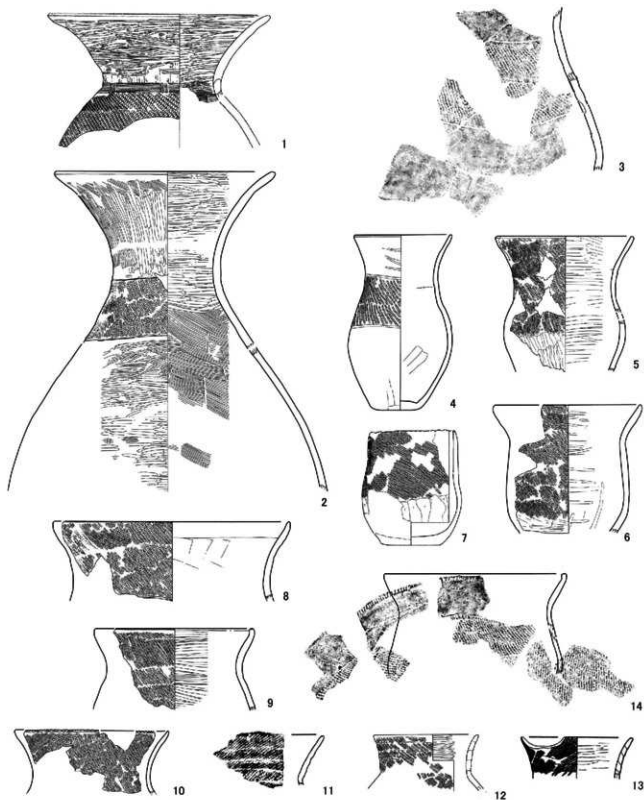
このように、今回の大豆田遺跡からの出土資料の多くは縄文施文土器と一概に言っても、赤井戸・吉ヶ谷式がストレートに地域内に搬入されているというのではなさそうである。佐久地域で変容し、在地化とまでは言わなくともオリジナルからだいぶかけ離れた土器群と捉えられよう。では、なぜこのような土器が一遺跡からまとまって出土するのであるのか、住居址内から出土する多くの土器は在地箱清水式である。そこに混在するように縄文施文土器が出土するということは、集落全体での人々の移入ということは考えずらい。とすれば婚姻や少人数の移動などが考えられるが現況の考古学的資料ではここまでである。ただ、今一度確認したいのは、大小さまざまな後期箱清水期の集落が展開するこの地域で、大豆田遺跡のみにこのような土器が集中して出土する理由は、今後考えていかなければならない大きな課題の一つである。

最後に今回の資料は、並行関係が追えれば赤井戸・吉ヶ谷式成立の問題にも一助となるのかも知れない。ただし、今回は縄文施文土器しか取り上げなかったが、この問題をもとめるにあたって、輪箱土器である樽式や岩鼻式の土器の搬入について考えていかなければならない事に気づいた。従来より弥生中期栗林段階から北陸や北関東からの外来系土器については注視がされてきた。しかし、中期・後期段階における関東側からの竜見町式・樽式の地域内への搬入がどのような様相であるのか把握はされていない。この問題を扱うことが今回の縄文施文土器の位置づけをより一層深化させることにつながる。佐久地域はその立地から特に取り組まなければならないと考える。今回は紙面の都合上ここまでとして、改めて別稿としたい。

参考文献

- 大木紳一郎 1991 「赤井戸式の祖型について」『研究紀要』8 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
2007 「岩鼻式と樽式土器」『埼玉の弥生時代』埼玉弥生土器観会
柿沼幹夫 1982 「吉ヶ谷式土器について」『土曜考古』第5号 土曜考古学研究会

なお、大木紳一郎氏と柿沼幹夫氏には本資料の貸借と教示を頂いたが、本報告書でご意見を反映出来なかった。筆してお詫びと御礼を申し上げます。

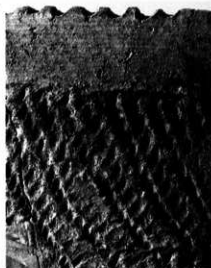


1.辻の前II 7.上大豆塚 11.西一本神X I 12.近津遺跡群 13.辻の前 その他は大豆田IV

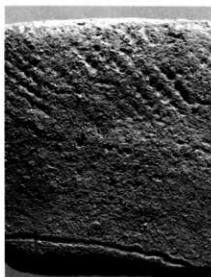
第5図 佐久地域出土の関東系縄文施文土器



D22-5(口縁部)



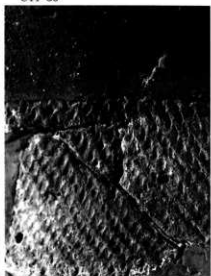
U11-85



U11-57



D22-5(胴部下半)



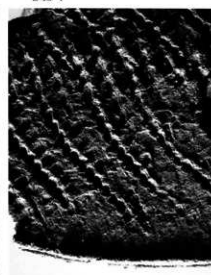
D48-7



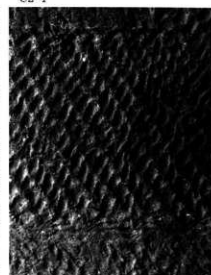
U2-4



D104-1



U11-29



Gr-25

第1表 選情計測表(1)

(重複開票は新しい選挙のみ記載)

選挙区	候補者	得票数	得票率	重複開票	選挙区	候補者	得票数	得票率	重複開票	選挙区	候補者	得票数	得票率	重複開票
01	XV-10-18-2P-23	K-7 #1 (297F)	6,80 東北	0.29	0.39	0.59	0.29	0.39	0.59	0.59	0.29	0.39	0.59	0.59
02	XV-10-20-2P-22	X-27 #4 (50)	8,78 東北	0.36	0.36	0.36	0.36	0.36	0.36	0.36	0.36	0.36	0.36	0.36
03	XIV-9-17 (17F)	(9-17 #4) (開票)	6,880 東北	0.87	0.87	0.87	0.87	0.87	0.87	0.87	0.87	0.87	0.87	0.87
04	XV-9-1 (15F)	X-27 #4 (開票)	11,800 東北	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11
05	XIV-9 (16F)	X-20 # (開票)	1,680 東北	0.83	0.83	0.83	0.83	0.83	0.83	0.83	0.83	0.83	0.83	0.83
06	XV-14-11-19	X-10 #4 (開票)	4,69 東北	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
07	XV-17 (17F)	X-6 #4 (297F)	11,800 東北	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22
08	XV-17-18	X-17 # (開票)	2,210 東北	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21
09	XV-17-18-2P-23	X-27 #4 (開票)	6,28 東北	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21
10	XV-9-13	-	0.820 東北	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81
11	XV-17-18-2P-23	X-27 #4 (開票)	6,28 東北	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21
12	XV-9-13	-	0.820 東北	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81
13	XV-4-5	(5-4 #) (56)	0.620 東北	0.54	0.54	0.54	0.54	0.54	0.54	0.54	0.54	0.54	0.54	0.54
14	XIV-9 (15F)	(9-17 #4) (297F)	0.720 東北	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22
15	XV-9-9-9-18 (18F)	(9-9 #4) (8,88)	0.820 東北	0.820	0.820	0.820	0.820	0.820	0.820	0.820	0.820	0.820	0.820	0.820
16	XV-9-13	-	0.820 東北	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81	0.81
17	XV-10-25	X-27 # (開票)	1,180 東北	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20

第5表 遺構計測表(5)

(前後関係は新しい遺構のみ記載)

遺構番号	検出位置	平面形状	積層			出土遺物	埋没関係	備考
			最高方位	最低方位	埋没深			
B1	XV-17-9-23	長方形	N-67°E	2.80	1.31	0.32		
B2	XV-22	長方形	N-57°E	2.83	1.38	0.19		瓦器類,赤土層
B3	XV-1-2-9	長方形	N-77°E	1.36	1.17	0.42		赤土層,木履
B4	XV-20	扇形	N-37°E	0.86	0.67	0.34		
B5	XV-21	扇形	N-37°E	1.89	1.76	1.18		埋没部片一,土師器片,赤土層
B6	XV-1	方形	N-35°E	2.07	1.87	1.29		アラス瓦葺き-109
B7	XV-20-20	-	-	1.83	0.70	0.19		アラス瓦葺き-115 棟上,9
B8	XV-11	扇形	N-17°E	2.52	2.20	1.93		アラス瓦葺き-120
B9	XV-10-20	不規則	N-85°E	3.46	3.10	2.38		アラス瓦葺き-146
B10	XV-3	円形	N-17°E	1.79	1.65	0.71		
B11	XV-12-10	-	N-97°E	1.89	1.30	0.48		101-999
B12	XV-15 XV-14	-	-	1.82	0.67	0.42		102
B13	XV-14	扇形	N-9°E	2.11	1.90	0.12		103
B14	XV-4-5	不規則	N-87°E	2.15	1.10	0.22		埋没部片一,瓦葺部,赤土層,赤土層下
B15	XV-4	扇形	N-37°E	1.31	0.84	0.69		埋没部片一,土師器片,土師器片,土師器片,土師器片
B16	XV-5	不規則	N-2°E	0.77	0.76	0.28		埋没部片一,土師器片
B17	XV-5	不規則	N-79°E	0.92	0.45	0.21		埋没部片一,土師器片,赤土層
B18	XV-1	不規則	N-77°E	1.22	0.77	0.20		埋没部片一,赤土層
B19	XV-1	不規則	N-80°E	0.97	0.28	0.29		埋没部片一,土師器片,赤土層,土師器片
B20	XV-3-9-4-9-9	円形	N-17°E	3.27	2.28	1.28		104
B21	XV-1	不規則	N-37°E	1.30	0.69	0.34		赤土層
B22	XV-1	円形	N-9°E	1.03	0.57	0.33		赤土層,瓦葺部,土師器片,土師器片,赤土層,土師器片
B23	XV-8	不規則	N-67°E	1.87	1.41	0.66		赤土層,瓦葺部,土師器片,土師器片,赤土層,土師器片,赤土層,土師器片,赤土層,土師器片
B24	XV-12-17	円形	N-17°E	0.91	0.79	0.11		赤土層
B25	X-1-5	-	-	0.04	0.77	0.45		107
B26	XV-10	-	N-9°E	1.25	1.65	0.26		埋没部片一,赤土層,赤土層,瓦葺部
B27	XV-10	-	-	1.79	0.94	0.14		
B28	XV-10	円形	N-69°E	0.96	0.98	0.20		
B29	XV-13	方形	N-30°E	1.15	1.08	0.60		赤土層
B30	XV-12	円形	N-80°E	0.84	0.75	0.21		赤土層
B31	XV-2	-	-	0.03	0.40	0.11		
B32	XV-2	-	-	0.51	0.47	0.22		
B33	XV-1	不規則	N-55°E	1.86	0.70	0.40		104-175
B34	XV-9	扇形	N-57°E	2.01	1.47	1.02		105
B35	XV-1	扇形	N-17°E	1.41	0.67	0.24		

第6表 遊轉計劃表 (6)

(産出額は新しい部材のみ記す)

機名	機出設備	平定設備	價			出上運物	原料設備	備 考
			機出力別	機時数	原価			
007 XV 8								
008 XV 8								
009 XV 8-1								
010 XV 8-1								
011 XV 8-2								
012 XV 8-3								
013 XV 8-7								
014 XV 8-12								
015 XV 8-7								
016 XV 9								
017 XV 10-10								
018 XV 11								
019 XV 8								
020 XV 10								
021 XV 5								
022 XV 10								
023 XV 11								
024 XV 18								
025 XV 17-18								
026 XV 20								
027 XV 11-15-20								
028 V-17								
029 V-17								
030 V-17								
031 V-12								
032 V-24								
033 V-4								
034 V-20								
035 V-17								
036 V-17								
037 V-17								
038 V-17								
039 V-17								
040 V-17								
041 V-17								
042 V-17								
043 V-17								
044 V-17								
045 V-17								
046 V-17								
047 V-17								
048 V-17								
049 V-17								
050 V-17								
051 V-17								
052 V-17								
053 V-17								
054 V-17								
055 V-17								
056 V-17								
057 V-17								
058 V-17								
059 V-17								
060 V-17								
061 V-17								
062 V-17								
063 V-17								
064 V-17								
065 V-17								
066 V-17								
067 V-17								
068 V-17								
069 V-17								
070 V-17								
071 V-17								
072 V-17								
073 V-17								
074 V-17								
075 V-17								
076 V-17								
077 V-17								
078 V-17								
079 V-17								
080 V-17								
081 V-17								
082 V-17								
083 V-17								
084 V-17								
085 V-17								
086 V-17								
087 V-17								
088 V-17								
089 V-17								
090 V-17								
091 V-17								
092 V-17								
093 V-17								
094 V-17								
095 V-17								
096 V-17								
097 V-17								
098 V-17								
099 V-17								
100 V-17								

第7表 遺構計測表(7)

(産物関係は新しい遺構のみ記載)

遺構名	検出位置	平面図		縦断面		出土遺物		遺物種別	備考
		長方形	方形	長方形	方形	出土遺物	遺物種別		
E077	V-11-25	長方形	3×10 ⁺ ・4	1.52	0.49	0.30	弥生瓦	F1	F1 片-0.31 高さ-0.14
E078	V-22	不規則	3×2 ⁺ ・4	(1.95)	0.75	0.16		F200-F160	
E079	X-3	円形	-	0.65	-	0.20		F30-F40	
E080	X-10	-	-	0.06	0.40	0.17		M65	
E081	X1-1-5	不規則	3×10 ⁺ ・4	3.23	1.82	0.10	須賀野中、土師器片・瓦		
E082	X-15	方形	3×4 ⁺	1.16	0.56	0.22	弥生土層		
E083	X-20	-	-	10.01	0.60	0.19			
E084	X-20	-	3×11 ⁺ ・E	1.00	0.80	0.37	須賀野中・瓦、弥生土層	F20-F40-M65	テラス境線-0.31
E085	X-25	-	-	1.25	0.20	0.36	弥生土層	34-F40	テラス境線-0.32 テラス境線-0.32
E086	X-01	-	-	2.67	0.00	0.14	弥生土層		
E087	X-03	-	3×12 ⁺ ・4	2.83	2.09	0.53	弥生土層	M77	
E088	X-04	方形	3×10 ⁺ ・E	1.86	1.21	0.26	弥生土層、小形瓦片		
E089	X-04	方形	3×10 ⁺ ・E	2.57	1.16	0.08	弥生土層	F19-F18	F1 0.20-0.25 75-F44-0.21 73 0.20-0.26
E090	X-04	不規則	-	0.80	-	0.16	弥生土層		
E091	X-23	-	-	3.19	0.70	0.37	弥生土層	M79	
E092	X-23-23	不規則	-	7.96	(1.79)	0.66	弥生土層	M79	
E093	V-15	不規則	-	0.73	-	0.38			
E094	X1-10	不規則	3×13 ⁺ ・E	1.56	1.29	0.09	須賀野中・瓦片		テラス境線-0.61
E095	X1-17-22	方形	3×10 ⁺ ・E	2.16	1.75	1.25	須賀野中・瓦、土師器片・瓦片	M79	テラス境線-0.64
E096	X-17-22	不規則	-	3.21	-	0.34		M79-M80-M81	
E097	X1-19	不規則	3×12 ⁺ ・E	1.33	0.69	0.29	弥生土層	M77	テラス境線-0.18 境線-0.26
E098	X1-18	不規則	3×13 ⁺ ・E	1.61	0.76	0.35		M77	
E099	X-18-19	-	-	3.03	-	0.14	弥生土層	M82	
E100	X-07-11	M15	3×10 ⁺ ・4	1.39	1.57	0.78			
E101	X-01	-	-	1.09	(0.62)	0.28			
E102	X1-3	-	-	1.00	(0.80)	0.26		M73	
E103	X1-4	-	-	1.28	(1.02)	0.22			
E104	X1-4	M15	3×12 ⁺ ・E	1.53	1.10	0.29	弥生土層	M82	
E105	X1-4-5	方形	3×20 ⁺ ・4	1.32	1.22	0.28	円形 7×1 弥生土層		
E106	V-25-04	不規則	3×7 ⁺ ・E	(1.85)	1.81	0.22	弥生土層		
E107	X1-3	-	-	2.91	(0.67)	0.18		M81	
E108	X1-10	長方形	3×18 ⁺ ・4	1.21	0.65	0.18	須賀野中、土師器片		
E109	X-04	-	-	1.06	(0.81)	0.16		M79	
E110	X-01	不規則	3×10 ⁺ ・E	(1.85)	0.65	0.16			
E111	X-21	長方形	3×20 ⁺ ・E	1.77	0.75	0.16		M80-M86	
E112	X1-3	方形	3×17 ⁺ ・4	0.68	0.61	0.20			

第6表 造構計別表(8)

(※数値関係は新しい造構のみ記載)

連号	連号名	種別位置	標準位置	造 構				出土遺物	遺物関係	備 考
				長短方位	長短度	短軸度	深さ			
0112	X1-3		円形	3-90°-#	1.03	0.91	0.18			
0114	V-10-23		円形	3-5°-#	0.245	1.38	0.16			
0115	V-10		楕円形	3-30°-#	2.48	1.19	0.20			
0116	V-10		-	1.40	0.057	0.17				
0117	V-20		不詳	3-6°-#	0.180	1.25	0.18			
0118	IV-25 X1-6		円形	3-9°-#	0.130	1.38	0.27	粘土層		
0119	V-12		方形	3-20°-#	1.49	1.27	0.51			ガラス片遺物 6枚 銅 0.12
0120	X1-2		楕円形	3-5°-#	1.12	0.96	0.17			ガラス片遺物 0.15
0121	V-22		楕円形	3-27°-#	1.03	1.21	0.12			
0122	X1-1		不詳	-	0.100	0.980	0.10			900°-P103-P113
0123	V-10		-	-	1.04	0.477	0.20			
0124	IV-16		円形	3-30°-#	1.24	1.08	0.29			ガラス片遺物-0.25
0129	IV-24 X1-4		楕円形	3-30°-#	2.71	1.58	0.21			M17
0129	IV-15		楕円形	3-2°-#	1.27	0.82	0.09			
0130	IV-25		楕円形	3-2°-#	1.24	0.77	0.09			
0131	IV-24 X1-4		楕円形	3-01°-#	1.24	0.98	0.21			M12
0132	X1-1		楕円形	3-01°-#	0.96	0.64	0.15			
0133	X1-3		-	1.47	0.93	0.19				M66
0134	X1-4		方形	3-50°-#	1.23	1.45	0.22			M12
0135	IV-14		-	-	0.030	-	0.11			910°-M17
0136	X1-3		方形	3-71°-#	1.29	1.10	0.25	粘土層		M14
0137	X1-9-11		楕円形	3-37°-#	0.96	0.23	0.17			
0138	X1-6 X1-11		楕円形	3-11°-#	0.245	1.00	0.07			
0139	X1-10-21		楕円形	3-70°-#	1.22	0.83	0.15			M62
0140	X1-19		楕円形	3-60°-#	2.18	0.19	0.17			M60
0141	V-13-14		楕円形	3-31°-#	1.41	1.06	0.15			
0142	V-14		円形	3-41°-#	1.20	1.22	0.12			
0143	X1-20 X1-10		長方形	3-47°-#	0.233	0.85	0.20			910°-M14 P1-21-P14 P1-21-P13
0144	X1-21		円形	-	0.107	0.83	0.48			910°-M17
0145	X1-22		円形	3-2°-#	0.230	2.08	0.66			M20-M12
0146	X1-20-21		円形	3-62°-#	2.08	0.100	0.24			M14

第9表 建構計画表(9)

(本表関係は新しい遺構のみ記載)

遺構名	築山位置		周 壁		築山遺物	調査時期	備 考
	部位置	長さ	厚	高さ			
M1	XV-22 XI 1-5-6-7-10-12-16-17-21-22	0.61-0.75	1.49-2.28	0.61-0.75	瓦器類,赤土塗・赤土,土製人焼,941-617		階 0.60m以下 階 0.27-0.29 階 0.48-0.73
M2	XV-17-22 XI 1-5-7-10-17-22	(0.612)	0.41-1.21	0.33-0.33	瓦器類赤土,土製器類・赤土塗,赤土塗		階 0.23m以下
M3	XI 1-20-20-24	(0.174)	0.38-0.68	0.15-0.16		M1	
M4	XI 1-17-18	(0.140)	0.12-0.11	0.08-0.08			
M5	XI 1 19-24	(7.22)	0.31-0.64	0.08-0.11	赤土塗・赤土		階 0.03m以下 階 0.74m以下(西側2面から2.5mほど 狭く含む)
M6	XV-9-10 XV-8-10-14-16 XI 1-6-7-11-15-19-20 XI 8-10-16	0.72-0	0.92-1.05	0.67-0.74	赤土塗・赤土	M1-20-40-810	
M7	XV-25 XV-21 XI 1-1-3-9-10 XIX 4-6-12-12 XXE 4	0.87-0	1.29-1.39	0.38-0.80	瓦器類,土製器類,赤土塗	M1-20-34(0-850-72)	
M8	XV-10 XV-9-11-13-17-19-24-25 XV-5	0.63-0	0.69-1.55	0.38-0.73		M1	階 0.66m以下
M9	XV-9-10-13 XV-11-12-16-19-20-24 XV-4	0.24-0	0.79-1.32	0.32-0.47		M1	階 0.77m以下
M10	XV-9-10-14-15-16-20 XV 11-16-17-21-24	(1.123)	3.11-4.52	0.25-0.71		M1-20-109	階 0.32m以下
M11	XE-51 XV-4	0.60-0	0.49-0.66	0.29-0.30	瓦土	M15	階 0.60m以下
M12	V-45-50-53 XI 1-5-10-12-20-25 XI 1-1-10-14 II 1-1-20-25 XW 1-1 XAE 9-10	(11.816)	0.38-0.26	0.27-0.64	瓦器類,土製,赤土,土製器類,赤土,赤土,赤土	M2-87-880-900	階 1.60m以下
M13	XW-10-21 XW-20-25 XAE 5-10	(0.323)	(0.92) - 3.40	0.48-0.87	M1,瓦器類,土製器類,赤土塗,中層土,土製刀 皿	M12-805-860-900	階 1.00m以下
M14	XE-24	(3.87)	0.37-0.63	0.05-0.13		M2-808	階 0.61m以下
M15	XV-23 XV 1-5-9-9-10	0.24-0	0.66-0.84	0.14-0.25	赤土塗・赤土付覆		階 0.17m以下
M16	V-45-50-53 W-11-10-21 XI 1-5-10-15-20-25 XAE 9-10 XAE 1-4	(12.089)	(0.45) - 0.45	0.25-0.30	瓦器類,赤土塗,赤土,赤土,赤土,赤土	M12-813-815-820-860-900	階 1.70m以下
M18	V-20-25 W-10-10-21 XI 1-5-10-15-20-25 X XAE 1-4	(11.085)	0.59-0.27	0.13-0.73		M12-813-817-820-860-900	階 1.70m以下
M19	XW-10-21 XW 1	(12.160)	0.12-0.06	0.12-0.12		M17-810	階 0.90m以下
M20	XW 1-4-25 XAE-5	(11.710)	0.54-1.18	0.18-0.48		900	階 0.60m以下
M21	XAE 9-10	(3.77)	(0.17) - 0.60	0.12-0.37			階 0.77m以下
M22	XAE 14-15 XI 1-1-15	0.62-0	0.99-0.26	0.16-0.05	赤土塗	10-10-10-10-10-10	階壁と土製土器類が互い 中央に位置し互いが
M23	XAE 14-15 XI 1-1-15-17	0.75-0	0.33-1.14	0.08-0.05	赤土塗・赤土	M1-20-310	階 0.10m以下
M24	XV 25 XAE 5	(1.57)	0.28-0.31	0.08-0.10	瓦器類,土製器類,赤土塗		赤土 0.03m以下

第10表 遺構計測表(10)

(表層部分は新しい遺構のみ記載)

遺構名	棟出位置	規模		高さ	出土遺物	遺物数	備考
		幅	長さ				
85	XIV-4-9-14-10-14-25 XIII-2-2	08.80	0.40-1.71	0.10-0.16	瓦葺部・瓦葺・土葺部内瓦葺・片・土	020-200-800-802-842	東西 0.90m以内(200122)
86	XIV-10-21-25 XIII-4-5-10	08.50	0.02-0.89	0.10-0.16	瓦葺部	742	西 0.10m以内
87	IX-25 X-11-23 X I 21-24 XV 4-5 X 足 1-3 X 8-1	90.82	1.63-2.61	0.52-0.81	瓦葺部内・瓦・土葺部内片・瓦・片・土	817	西 0.72m以内
88	X I 17-22-23 X I 21-24	07.07	0.27-0.87	0.11-0.38	瓦葺部内・片・瓦・土葺部内・赤土高平・瓦	609-808	西 0.51m以内
89	IX-5-10 X-21-25 X I 21-25	07.07	0.28-1.86	0.12-0.69	瓦葺部内・片・瓦・土葺部内・瓦・赤土	020-800-800-802	西 0.83m以内
90	XIV-1-6-11 XIV 4-5 X 8-1	07.17	0.33-1.89	0.08-0.43	瓦葺部内・瓦	812	東西 0.60m以内
91	XIV-1-6-11	07.30	0.22-0.94	0.09-0.11	瓦葺部内・瓦・土葺部内・瓦		西 0.18m以内
92	XIV-1-6-11-16	07.20	0.17-0.61	0.05-0.18	瓦葺部内・土葺部内・瓦	811	西 0.13m以内
93	X I 12-12-17	06.97	0.28-0.56	0.08-0.08	瓦葺部	F110-F110-10-10	西 0.11m以内
94	XIV-1-5-9-10 X 3-6	04.80	0.52-2.47	0.07-0.22	瓦葺部内・瓦・赤土高平・片・瓦	803-802-911	東 0.05m以内
95	X-10-17-21-22 XV 4-9-10 IX-10-17-22-24 XIII 4-9-10-21	011.50	0.26-2.23	0.16-0.49	瓦葺部内・瓦・土葺・土葺部内・赤土		西 1.26m以内
97	X 8-2-3	04.80	0.70-1.26	0.27-0.37	瓦葺部内・瓦・赤土高平	808	東西1.17m以内
99	X 8-2-3	07.41	0.25-0.53	0.17	瓦葺部・瓦葺部内・瓦・土葺部内・赤土高平	102-303-800-802	西 0.06m以内
99	X 8-1-5-5	04.10	0.52-1.89	0.18-0.42	瓦葺部・瓦葺部内・瓦・土葺部内・赤土高平	017-818	北西 0.04m以内
99	X 8-1-1	07.70	0.17-0.22	0.03-0.05			南東 0.04m以内
99	XIV 4-5-9	07.10	0.28-0.86	0.18-0.28	瓦葺部内・瓦・土葺部内	805	南東 0.04m以内
99	IX-24 X-4-9-14-10-21 XIV 4-9	03.00	0.21-1.25	0.12-0.14	瓦葺部内・片・瓦・土葺部内・赤土高平・瓦・赤土高平	820-827-820-820-820-821-806	西 0.06m以内
99	X I 25 X 8-5	01.25	0.19-0.38	0.17-0.22	赤土	817	西 0.11m以内
99	X I 25 X 8-5	01.50	0.13-0.35	0.11			西 0.04m以内
99	X I 23	01.80	-	0.27	赤土高平・瓦	811-47	
99	X I 23	02.40	-	0.24	赤土高平・瓦	811	
97	IX-24-25 X-4-9-14-10-21 X I 4-9	06.00	0.41-0.68	0.07-0.18	瓦葺部内・瓦・赤土	827-820-820-810-851-800-F91	西 1.30m以内
99	X 25 X 4	01.11	0.13-0.29	0.09-0.19	瓦葺部	820-827-820-820	西 0.06m以内
99	IX-20-25 X-6-10-10-20-26 X I 1-1	07.62	0.22-1.81	0.15-0.47	瓦葺部内・片・瓦・土葺部内・赤土高平・瓦・赤土高平・片・瓦	063-7216-F100-F91-F1518-827-820-820-820	西 1.17m以内 北西0.20m以内 西 0.18-0.13
99	XIV-24	04.82	0.23-0.38	0.05-0.11	瓦葺部内・赤土		西 0.06m以内
99	X-2-3	01.00	0.04-1.18	0.14-0.28	赤土		西 0.05m以内

第11表 遺構計測表 (11)

(遺構計測は新しい遺構のみ記載)

遺構名	縮尺位置	傾 幅			遺構関係	備 考
		最大値	傾 幅	傾 度		
954	V-2+1-5	0.641	0.64-0.77	0.10-0.25	M3	西 0.25m以内
966	XI-5 XE-1+2	0.930	0.18-0.22	0.04-0.30		西 0.25m以内
967	XI-10+20 XE-9+1+16	0.241	0.07-0.80	0.00-0.39		西 0.14m以内
961	X-13	0.060	0.18-0.49	0.10-0.12		西 0.06m以内
962	X-10+15 XI-9+11+10+31	0.331	0.18-1.82	0.07-0.13		西 0.25m以内
963	X-11+22	0.570	0.280-0.56	0.11-0.24		西 0.25m以内
965	V-21 XI-1+4+11+16 X-20	0.440	0.38-1.55	0.17-0.23		西東 0.04m以内
966	0+0+0-5 V-31 X-3+4+8+12+18 XI-1+2	0.233	0.32-0.86	0.08-0.28		西東 0.04m以内
967	V-11+0-21 V-25 XI-5+10+15+20 XE-1+11+16	0.620	0.37-1.24	0.20-0.65		西 0.25m以内
968	V-9+1	2.30	0.28-0.47	0.12-0.28		西 0.04m以内
970	X-20	0.67	0.31-0.49	0.04-0.17		西 0.16m以内
971	V-10+31	0.60	0.30-0.56	0.09-0.18		西 0.16m以内
972	V-10+20+25	0.246	0.200-0.60	0.12-0.64		西 0.25m以内
973	V-1+15 V-11	0.760	0.45-0.62	0.19-0.24		西 0.16m以内
974	V-10+15 V-11	0.540	2.44-4.35	0.27-0.28		西 0.21m以内
975	V-18	0.20	0.82-0.91	0.14-0.22		西 0.06m以内
977	X-18	0.340	0.35-0.98	0.17-0.38		西 0.06m以内
978	V-1+16	0.440	0.72-0.90	0.20-0.26		西 0.06m以内
979	X-19	0.17	0.29-0.66	0.04-0.08		西 0.05m以内
980	XE-1	0.59	0.38-0.83	0.01-0.06		西 0.06m以内
981	V-18	0.37	0.64-0.91	0.10-0.23		西 0.06m以内
986	X-10+10+20	0.760	0.21-0.48	0.08-0.11		西 0.25m以内
987	XE-1+15	0.19	0.27-0.43	0.12		北東 0.06m以内
988	XE-1+2	0.233	0.21-0.54	0.08-0.13		西 0.06m以内
989	XE-10+20+21	0.139	0.29-1.21	0.12-0.38		西 0.06m以内
990	XE-21+22+23+24+25	0.630	0.37-0.88	0.14-0.54		西 0.16m以内
991	XE-1+2+3	0.193	0.09-1.64	0.22-0.46		西 0.06m以内